

恵庭市

西島松5遺跡

— 柏木川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

第2分冊

- V 縄文時代の遺構と遺物
- VI 包含層出土の遺物
- VII 自然科学的手法による分析結果
- VIII 成果と問題点
まとめ

平成12・13・14年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

恵庭市

西島松5遺跡

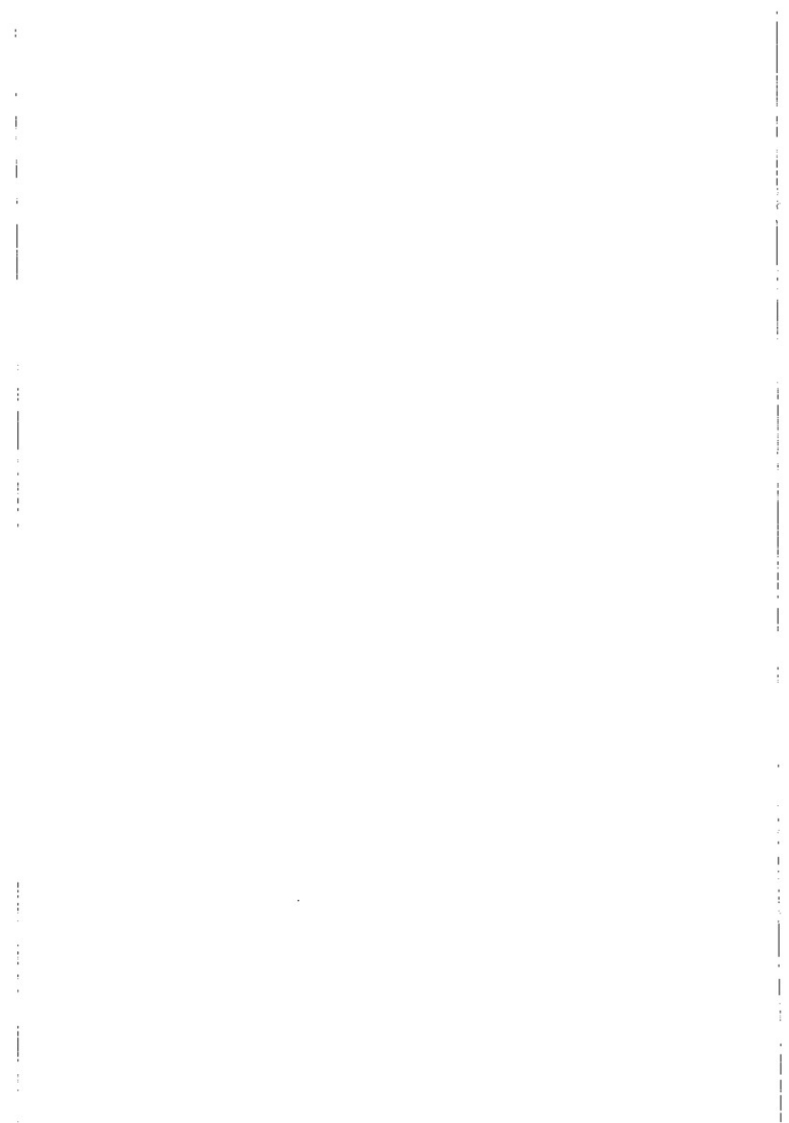
— 柏木川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

第2分冊

- V 縄文時代の遺構と遺物
- VI 包含層出土の遺物
- VII 自然科学的手法による分析結果
- VIII 成果と問題点
まとめ

平成12・13・14年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



第2分冊目次

挿図目次

表目次

V 縄文時代の遺構と遺物	363
1. 概要	363
2. 住居跡	365
3. 土壌	391
4. Tピット	429
5. 焼土	438
6. 小ピット	444
7. その他(沢1・沢2・X)	478
VI 包含層出土の遺物	499
1. 概要	499
2. 土器・土製品	504
3. 石器・石製品	532
一覧表	564
VII 自然科学的手法による分析結果	591
1. 放射性炭素年代測定	591
2. 西島松5遺跡から出土した土壌・土器に残存する脂肪の分析	604
3. 恵庭市西島松5遺跡から出土した縄文時代人骨	623
4. 西島松5遺跡出土の人歯	628
5. 西島松5遺跡出土動物遺存体	629
6. 恵庭市西島松5遺跡出土動物遺存体(平成12年度)	643
7. 西島松5遺跡から出土した木材の樹種	652
8. 西島松5遺跡から出土した炭化植物種子	655
9. 西島松5遺跡出土須恵器の胎土について	658
10. 西島松5遺跡 墓壇出土の非鉄金属の分析	660
VIII 成果と問題点	675
1. 遺構	675
2. 遺物と遺構	691
まとめ	699
引用参考文献	701

挿 図 目 次

図V-1	縄文時代の遺構位置図	363	図V-38	土壇出土の石器②	427
図V-2	住居跡の位置図	364	図V-39	Tピットの位置図	430
図V-3	H1	366	図V-40	Tピット①	433
図V-4	H1出土の土器	366	図V-41	Tピット②	434
図V-5	H2	367	図V-42	Tピット③	435
図V-6	H2出土の土器	368	図V-43	Tピット④	436
図V-7	H3	369	図V-44	Tピット出土遺物	437
図V-8	H3出土の土器	370	図V-45	焼土の位置図	438
図V-9	H4	371	図V-46	焼土①	441
図V-10	遺物出土状況図	372	図V-47	焼土②	442
図V-11	H4出土の石器	372	図V-48	焼土出土の遺物	443
図V-12	H4出土の土器①	373	図V-49	小ピットの位置図	444
図V-13	H4出土の土器②	374	図V-50	D-15、E-14・15の小ピット	462
図V-14	H5	376	図V-51	C-17、D-15・16・17、E-15・16 ・17の小ピット	463
図V-15	H5出土の遺物	377	図V-52	C-18・19・20、D-18・19・20、 E-18・19・20の小ピット	464
図V-16	H6	378	図V-53	B-22、C-20・21・22、D-20・ 21・22、E-20・21・22の小ピット	465
図V-17	H7	379	図V-54	F-14・15、G-13・14の小ピット	466
図V-18	炭化物と遺物の出土状況図	380	図V-55	E-15・16・17、F-15・16・17、G -15・16・17、H-16・17、I-17の小ピット	467
図V-19	H7出土の遺物	381	図V-56	E-17・18・19・20、F-17・18・19 ・20、G-18・19・20、H-18・19・20の小ピ ット	468
図V-20	H8	383	図V-57	E-20・21・22、F-20・21・22、 G-20・21・22、H-21・22の小ピット	469
図V-21	H8出土の遺物	385	図V-58	I-14、J-14・15の小ピット	470
図V-22	H9	386	図V-59	H-17、I-16の小ピット	471
図V-23	H9出土の遺物	387	図V-60	M-14、N-14の小ピット	472
図V-24	土壇の位置図	389	図V-61	小ピットの土層断面図①	473
図V-25	土壇①	414	図V-62	小ピットの土層断面図②	474
図V-26	土壇②	415	図V-63	小ピットの土層断面図③	475
図V-27	土壇③	416	図V-64	小ピットの土層断面図④	476
図V-28	土壇④	417	図V-65	小ピット出土の土器	477
図V-29	土壇⑤	418			
図V-30	土壇⑥	419			
図V-31	土壇⑦	420			
図V-32	土壇⑧	421			
図V-33	土壇⑨	422			
図V-34	土壇⑩	423			
図V-35	土壇出土の土器①	424			
図V-36	土壇出土の土器②	425			
図V-37	土壇出土の石器①	426			

図V-66	沢1の位置図	479	図VI-25	包含層出土の石器(2)	石鏃(2)	534
図V-67	沢1	480	図VI-26	包含層出土の石器(3)	石鏃(3)	535
図V-68	沢1の土層断面図	481	図VI-27	包含層出土の石器(4)	石鏃(4)	536
図V-69	沢1 II層上層遺物出土状況図	482	図VI-28	包含層出土の石器(5)	石槍	537
図V-70	沢1 II層中層遺物出土状況図	483	図VI-29	包含層出土の石器(6)	石鏃(1)	538
図V-71	沢1出土の石器(1)	485	図VI-30	包含層出土の石器(7)	石鏃(2)	539
図V-72	沢1出土の石器(2)	486	図VI-31	包含層出土の石器(8)	石鏃(3)	540
図V-73	沢1出土の石器(3)	487	図VI-32	包含層出土の石器(9)	つまみ付きナイフ(1)	541
図V-74	沢1出土の石器(4)	488	図VI-33	包含層出土の石器(10)	つまみ付きナイフ(2)	542
図V-75	沢2の位置図	490	図VI-34	包含層出土の石器(11)	つまみ付きナイフ(3)	543
図V-76	沢2の土層断面図	491	図VI-35	包含層出土の石器(12)	スクレイパー(1)	543
図V-77	沢2出土土器の分布図	492	図VI-36	包含層出土の石器(13)	スクレイパー(2)	544
図V-78	沢2出土の土器	493	図VI-37	包含層出土の石器(14)	石斧(1)	545
図V-79	沢2出土土器の分布図	494	図VI-38	包含層出土の石器(15)	石斧(2)	546
図V-80	沢2出土の石器	495	図VI-39	包含層出土の石器(16)	すり石(1)	547
図V-81	X 1	498	図VI-40	包含層出土の石器(17)	すり石(2)	548
図VI-1	出土土器・石器分布図(1)	500	図VI-41	包含層出土の石器(18)	たたき石(1)	549
図VI-2	出土土器分布図(1)	501	図VI-42	包含層出土の石器(19)	たたき石(2)	550
図VI-3	出土土器・石器分布図(2)	502	図VI-43	包含層出土の石器(20)	砥石	550
図VI-4	出土土器分布図(1)	503	図VI-44	包含層出土の石器(21)	石皿	551
図VI-5	包含層出土の土器(1)	506	図VI-45	包含層出土の石製品(1)		553
図VI-6	包含層出土の土器(2)	507	図VI-46	包含層出土の石製品(2)		553
図VI-7	包含層出土の土器(3)	508	図VI-47	包含層出土の石製品(3)		553
図VI-8	包含層出土の土器(4)	509	図VI-48	包含層出土の礫		554
図VI-9	包含層出土の土器(5)	510	Ⅶ	自然科学的方法による分析結果		591
図VI-10	包含層出土の土器(6)	511	図1	土壤資料と炭化物試料採取地点		616
図VI-11	包含層出土の土器(7)	512	図2-1	試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成		617
図VI-12	包含層出土の土器(8)	513	図2-2	試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成		618
図VI-13	包含層出土の土器(9)	514	図3	試料中に残存する脂肪のステロール組成		619
図VI-14	包含層出土の土器(10)	515	図4-1	試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成		619
図VI-15	包含層出土の土器(11)	516				
図VI-16	包含層出土の土器(12)	517				
図VI-17	包含層出土の土器(13)	518				
図VI-18	包含層出土の土器(14)	519				
図VI-19	包含層出土の土器(15)	520				
図VI-20	包含層出土の土器(16)	521				
図VI-21	包含層出土の土製品(1)	522				
図VI-22	包含層出土の土製品(2)	523				
図VI-23	包含層出土の須恵器・玉	524				
図VI-24	包含層出土の石器(1)	石鏃(1)	533			

樹状構造図	620	図VII-10	副葬品(置き石)	684
図4-2 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成 樹状構造図	621	図VII-11	袋状ビットと木椀	685
図5 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成によ る種特異性相関	622	図VII-12	墓の変遷	686
図1 両指数図	659	図VII-13	長軸方向と副葬品	686
図1・2 P-23出土非鉄金属など	661	図VII-14	口径から予測する土器の容量	692
図VII-1 平面形	680	図VII-15	層位別土器容量(推定)ヒストグラム	692
図VII-2 長軸方向	680	図VII-16	土壌墓分類模式図	693
図VII-3 長軸長と短軸長	681	図VII-17	墓墳の規模及び形態的特徴	693
図VII-4 深さ	681	図VII-18	北大Ⅲ式期～據文前期の土壌墓分布 図	695
図VII-5 覆土	682	図VII-19	土壌墓出土土器	696
図VII-6 袋状ビット	682	図VII-20	各属性の変化と墓墳群との関係	697
図VII-7 墳底の小ビット	683	図VII-21	北大Ⅲ式土器及び土壌墓の変遷概念 図	698
図VII-8 木椀と貼床	683			
図VII-9 副葬品(鉄製品)	684			

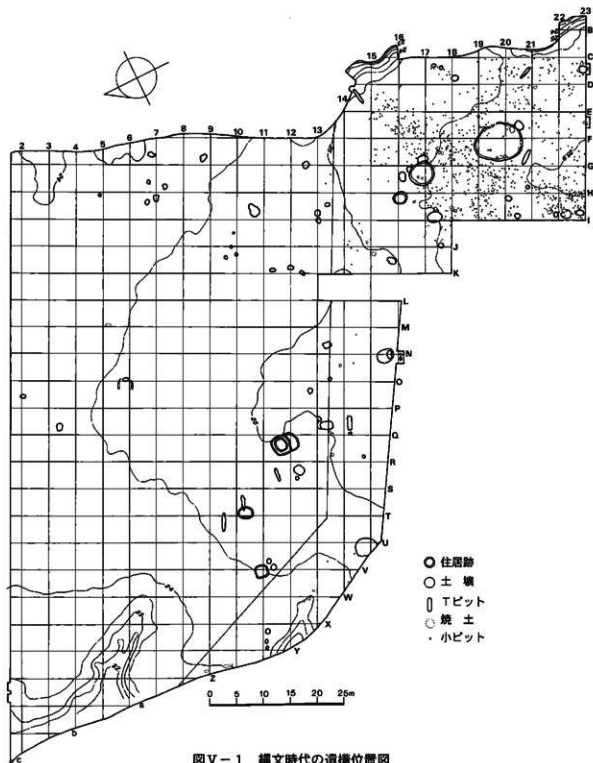
表 目 次

表V-1 住居跡掲載土器一覽	387	表3 遺構別出土鉄製品一覽	583
表V-2 住居跡掲載石器など一覽	388	表4 包含層出土遺物一覽	585
表V-3 土壌掲載土器一覽	428	VII 自然科学的手法による分析結果	591
表V-4 土壌掲載石器など一覽	429	表1 試料の残存脂肪抽出量	612
表V-5 Tビット掲載土器一覽	437	表2 試料中に分布するステロールの割合	612
表V-6 Tビット掲載石器など一覽	437	表3-1 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成 から算出した動植物脂肪の分布割合	613
表V-7 焼土一覽	439	表3-2 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成 から算出した動植物脂肪の分布割合	614
表V-8 焼土掲載土器一覽	440	表4 試料中に残存する動植物脂肪の分布割合 (%)	615
表V-9 焼土掲載石器など一覽	440	表1 西島松5遺跡出土P179号人骨の歯冠計測 値	625
表V-10 小ビット掲載土器一覽	445	表2 西島松P179号人骨の歯冠径にもとづく性 判別結果	625
表V-11 小ビット一覽	446	表3 歯冠径に基づく和人(古墳人)とアイヌの 判別関数と西島松P179号人骨に対する判別結 果	626
表V-12 沢1掲載石器など一覽	482	西島松5遺跡炭化種子出土表	657
表V-13 沢2掲載土器一覽	496	表1 須恵器の分析データ	659
表V-14 沢2掲載土器一覽(VII群)	496	表VII-1 土壌墓一覽	687
表V-15 沢2掲載石器など一覽	496		
表VI-1 包含層掲載土器一覽	525		
表VI-2 包含層掲載土器一覽(VII群)	529		
表VI-3 包含層掲載土製品一覽	530		
表VI-4 包含層掲載石器など一覽	555		
一覽表	564		
表1 遺構別出土土器一覽	564		
表2 遺構別出土石器など一覽	574		

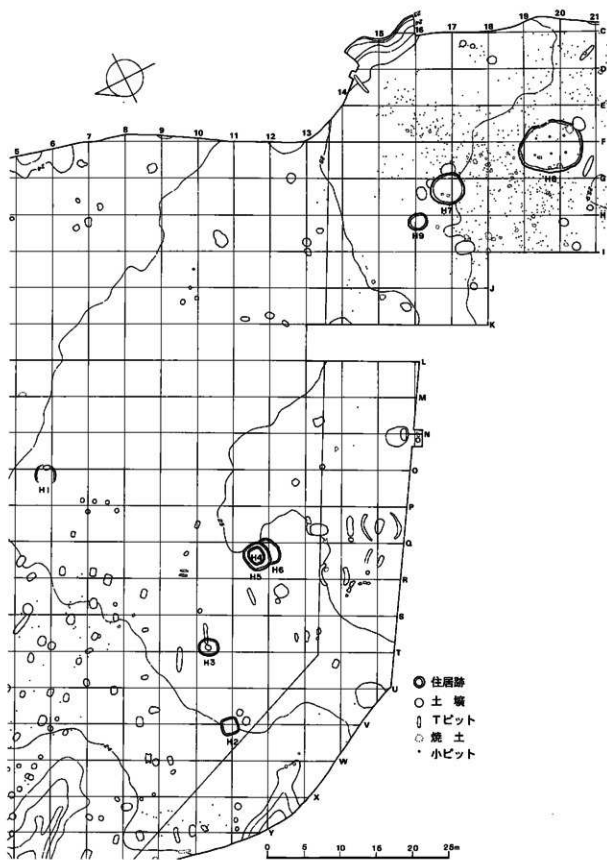
V 縄文時代の遺構と遺物

1. 概要

本章では、縄文時代の遺構・遺物を取り扱い、住居跡9軒、土壇59基、Tピット8基、焼土56カ所、小ピット1,013カ所、沢2カ所、その他1個とその出土遺物について掲載し、説明している。



図V-1 縄文時代の遺構位置図



図V-2 住居跡の位置図

遺構は、住居跡、土壌、Tピット、焼土、小ピット、沢、その他の順に記載し、基本的には遺構番号順に説明している。住居跡、土壌、Tピット、沢、その他は遺構毎に説明し、土壌、Tピットは事実記載のあとに遺構図などを掲載している。また焼土、小ピットは、規模、平面形、土層注記などについて一覧表にし、遺構図、土層断面図の前に掲載している。

住居跡、土壌、Tピットはおおよそ位置、規模、確認・調査・土層、床面(壊底)、壁、付属構築物、遺物出土状況、出土遺物、重複・新旧関係、性格、時期の順でそれぞれ説明しており、住居跡の最後には簡略なコメントを付記している。

出土遺物は、土壌、Tピット、焼土、小ピットのものはそれぞれ事実記載、一覧表、遺構図などのあとに土器、石器などの順にまとめて掲載し、住居跡、沢、その他は各遺構毎にまとめて土器、石器などの順に掲載している。また掲載土器、石器などは一覧表にして各項の最後にそれぞれまとめて掲載し、各遺構別、包含層出土の遺物はⅦ章の最後にまとめて一覧表にして掲載している。

2. 住居跡

住居跡は、A-1地区(調査区の北～北西側)で6軒、A-2地区(調査区の南側)で3軒検出された。A-1地区の6軒は、南から北へゆるやかに傾斜する標高25.00m～24.50m、A-2地区の3基は西から東へゆるやかに傾斜する標高25.80m～25.40mの緩斜面に作られている。H1は床面付近しか残っておらず、南東側先端部に小ピットを有するもの、H2の壁際には内傾する杭状の小ピットが等間隔にめぐる。H4はH5の中央部を壊し、掘り込んでいて、H4・5・6にはH4←H5→H6という新旧関係がある。H7は焼失家屋と思われる、H8は6本柱の大型住居跡である。覆土、床面付近から縄文時代中期、後期、晩期の土器が出土しているが、共伴土器などから見て、H9が縄文時代晩期の住居跡と考えられ、その他のものは、縄文時代中期に属する住居跡と思われる。

H1(図V-3・4 表V-1 表1・2 図版87・124)

位置：N・O-5・6 標高24.50m付近 規模：(2.43m)/(2.32m)×2.72m/2.57m×(0.12m)

平面形：楕円形 床面積：3.916㎡(P133含まない) 長軸方向：N-115° -E

確認・調査・土層：P133の調査中、これに隣接してさらに広い落ち込みが認められた。この付近で直交するようにベルトを設定し、掘り進めたところ、壁の立ち上がり、広く平坦な床を確認した。四分割した時点で土層断面を記録し、ベルトを掘り下げ床面全体を検出した。西側部分は削平されており、壁や床面を確認できなかった。H1の平面が、P133を取り込むような形状を呈することや、覆土が同質であることから、P133は、本住居跡の付属構築物であると考えられる。土層は、IV層主体の覆土1層が部分的にみられ、II層主体の2層が床面直上に堆積している。この土はP133にも連続的に堆積している。柱穴の確認調査も行ったが、後述するもの以外は確認できなかった。

床面：概して平坦である。

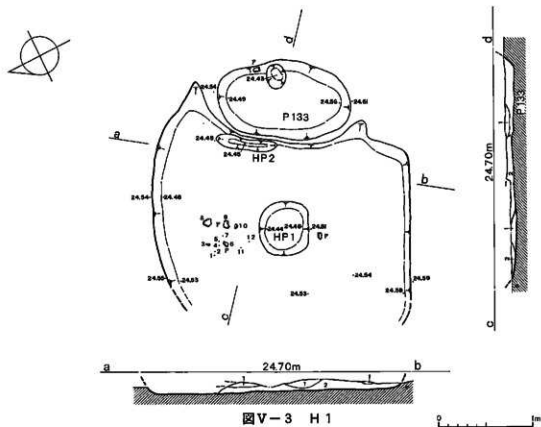
壁：浅いが、明瞭に立ち上がる。西側部分は削平をされ、確認できなかった。

付属構築物：付属ピットが3基ある。

P133は土壌のところで記載してあるが、先端部ピットであると考えられる。また、本付属ピットが有する柱穴について、ここで記載する。

P133柱穴

位置：中央付近、東側の壁際 規模：0.26m/0.14m×0.21m/0.12m×(0.09m) 平面形：円形



図V-3 H1

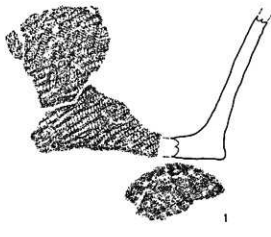
H1の土層

1. IV層にIII層40%程度まじる。すこぶる堅い、中
2. II層にIV層軽石2%程度まじる。軟、中

確認・調査・土層：P133の墳底で確認された。覆土はP133と同じである。これとHP1を結んだ線が、本住居跡の長軸であると考えられる。覆土はP133の覆土と同質のものである。墳底・壁：墳底は概して平坦、壁は緩やかに立ち上がる。 性格：柱穴

HP1

位置：長軸上の東側寄り 規模：0.57m/0.44m×0.42m/0.40m×(0.05m) 平面形：円形
 確認・調査・土層：床面を検出した時点で確認された。浅いもので、覆土は住居跡の覆土2層と同質の土である。墳底・壁：墳底は概して平坦、壁は緩やかに立ち上がる。 性格：不明



図V-4 H1出土の土器

HP2

位置：東側の壁際で、中央よりもやや北寄り 規模：0.65m/0.43m×0.14m/0.05m×(0.07m)
 平面形：長楕円形 確認・調査・土層：床面を検出した時点で確認された。覆土は住居跡の覆土2

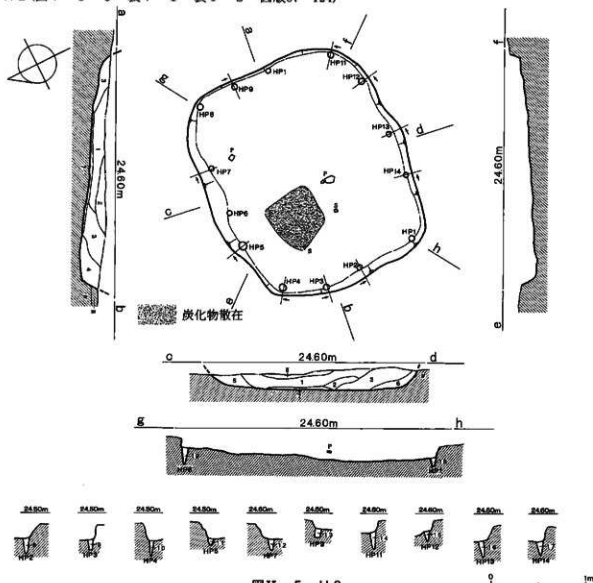
層と同質であった。 竪壁・壁：竪壁は概して平坦、壁はゆるやかに立ち上がる。 性格：不明
遺物出土状況：HP 1 付近、特に北側から土器が出土した。

出土遺物：覆土 2 層からの床面よりやや上でⅢ群の土器片など 18 点、フレイク 40 点が出土している。
1 はⅢ群土器の底部である。

時期：住居構造から、縄文時代中期末から後期初頭であると推測される。

本遺構は、先端部ピットを有する住居跡で、炉との関係で規則的な増改築がなされる類のものであると考えられる。炉や別の先端部ピットについて存在位置を予想し、確認調査を行ったが、認められなかった。出土土器はⅢ群のものであり、住居跡構造から推測した時代と矛盾しない。(末光正卓)

H2 (図V-5・6 表V-1 表1・2 図版87・124)



図V-5 H2

H2の土層

1. 暗褐色土>黄色土(灰色粘土塊) 2. 灰色粘土塊>3 3. 与1(より黄色土多く、灰色粘土小塊多い) 4. 与3(3より灰色粘土は大きい) 5. 暗褐色土>黄色含む 6. = 5 7. 暗褐色土(粘質で炭化物を多く含む) 8. 褐色土>黄色土(ボソボソ) 9. 褐色土<黄色土(砂質) 10. 暗褐色土>黄色土(ボソボソ) 11. 暗褐色土 12. 褐色土>黄色土(軟質) 13. 黒褐色土(黄色土がブロック状に混入) 14. 褐色土+黄色土(ボソボソ) 15. 黒褐色土>黄色土 16. 黒褐色土>黄色土 17. 黄色土>褐色土 18. 暗褐色土>黄色土(軟質) 19. 黒褐色土>黄色土(ボソボソ)

位置：U-10・11 V-10・11 標高24.40m～24.55m
南から北へゆるやかに傾斜するところに位置する。規
模：2.46m×2.32m/2.20m×2.00m/0.22m 平面
形：隅丸長方形 床面積：4.20㎡ 長軸方向：W-
E

確認・調査・土層：I層を除去し、IV層中で長方形の広
がりをもつ暗褐色土>黄色土の落ち込みを検出する。ほ
ぼ東西・南北に土層観察用の土手を設定し、II層、覆土を
順次掘り下げ、調査を行う。覆土を14～24cmほど掘り下げ、
暗黄灰色土の堅い面と壁の立ち上がりを検出したことから、
この面を床面と判断する。床面北西寄りには炭化物を
多く混入する粘質土が見られ、これを除去し床面を検出す
る。また壁際に暗褐色や黒褐色土の丸い小さなビットがめくつてい
るのを確認する。覆土はほぼ一層
で、暗褐色土、黄色土、灰色粘土のまじり合った埋め戻し状の土である。なお、中央部から北西寄りの
床面直上に炭化物を多く混入する暗褐色粘質土が薄く見られた。

床面：IV層を掘り込んで構築されている。南東から北西へ傾斜する。凹凸がはなはだしく、堅い。
壁：壁の立ち上がりは北壁がややゆるやかであるが、他は急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁
が11cm、東壁が8cm、南・西壁が18cmである。

付属構築物：炉跡～焼土や炉跡は検出されていない。床面北西寄りに50cm×50cmほどの範囲に炭化
物を多く混入する土が見られたが、炉跡と関係するものかどうかははっきりしない。

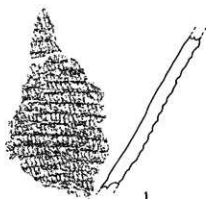
付属ビット～小ビットは14個検出されている。すべて壁際(下場ライン付近)をめぐるものである。H
P1・5・9は先端部が平らであるが、他は杭状で、すべて直立している。覆土は暗褐色土、黒褐色
土に黄色土が混入する土である。

遺物出土状況：出土遺物総数は13点である。この内訳は土器2点、石器など11点である。覆土中出土
の遺物は覆土に混入したもので、まとまった出土状態ではない。石器では石錐片などが出土している。
出土遺物：1は網文式の胴部片である。

重複・新旧関係：他遺構と重複していない。

時期：縄文時代中期の住居跡と思われる。

本遺構は、床面などのつくりは粗雑であるが、柱穴状小ビットは規則的に作られている。



図V-6 H2出土の土器

H3(図V-7・8 表V-1 表1・2 図版88・89・124)

位置：S-10 T-10 南から北へゆるやかに傾斜する標高24.70m付近の緩斜面上に位置する。
規模：2.82m×2.52m/2.27m×2.14m/0.18m 平面形：楕円形状 床面積：4.28㎡
長軸方向：N-40° -E

確認・調査・土層：I層を除去し、IV層中で楕円形状の広がりをもつ暗褐色土>黄色土の落ち込みを
検出する。北東-南西、南東-北西に土層観察用の土手を設定し、覆土を掘り下げ、調査を行う。P
201と重複しており、P201を先に調査する。覆土を4cm～13cmほど掘り下げ、黄灰色土の堅い面と壁
の立ち上がりを検出したことから、この面を床面と判断する。覆土はほぼ二層に分層出来る。上層は
暗褐色土、黄色土、灰色粘土がまじり合った土、下層は軟質の黒褐色土で灰色粘土粒を少量混入する。
床面：IV層を浅く掘り込んで構築している。東から西へゆるやかに傾斜する。やや凹凸があり、堅い。

壁：壁の立ち上がりは全体的にゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、東壁が約4cm、南壁が約13cm、西壁が約11cm、北壁が約5cmである。

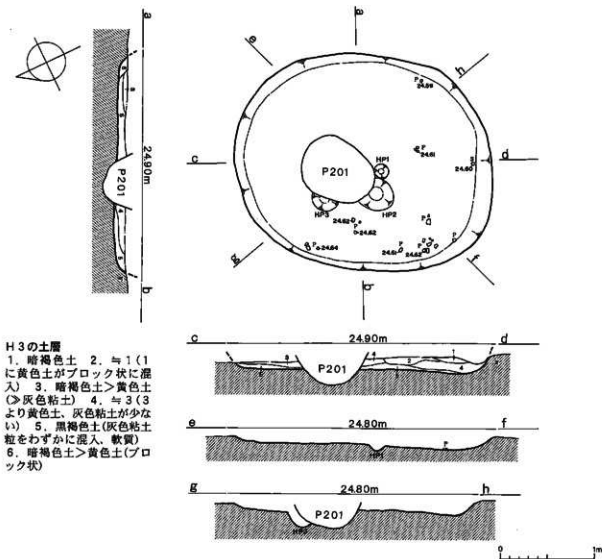
付属構築物：炉跡や灰跡は検出されていない。

柱穴状小ピット～P201と重複する形で3個の小ピットが見られる。HP 1は15cm×15cm×7cm、HP 2は40cm×34cm×21cm、HP 3は30cm×30cm×17cmで、覆土はHP 1が黒褐色土>黄色土(>灰色粘土)、HP 2・3は黒褐色土>黄色土(>灰色粘土)であるが、位置関係から見てHP 1が主柱穴ではないかと考えられる。

遺物出土状況：出土遺物総数は65点である。この内訳は土器48点、石器など17点である。北西側床面直上からは、内面を上にした皿群土器が18点出土している。まとまった出土状況ではないが、床面直上に貼り付いた状態で出土していることから見て、本遺構に伴うものと思われる。石器は覆土中からフレイク、礫片が出土している。

出土遺物：土器～1、2はIV群a類の胴部片である。1は2本の横走沈線が引かれる。

重複・新旧関係：本遺構は、P201、TP3と重複している。P201より古く、TP3より新しいもの



図V-7 H3



図V-8 H3出土の土器

である。

時期：床面直上出土の土器から見て、Ⅲ群土器を伴う縄文時代中期のものであろう。

本遺構は、床面などのつくりは粗雑である。一本柱の住居跡と思われる。

H4 (図V-9・10・11・12・13 表V-1・2 表1・2 図版88・89・124・125・147)

位置：Q-11 南から北へゆるやかに傾斜する標高24.92m～25.00mの緩斜面上に位置する。

規模：2.60m×2.08m/2.52m×2.20m/0.50m 平面形：隅丸方形 床面積：3.74㎡

長軸方向：N-30° -W

確認・調査・土層：I層を除去し、Ⅲ～Ⅳ層中でX1、H6を検出する。このためX1、H6共通の土層観察用の土手をほぼ東西、南北に設定する。土手の南・東側に小トレンチを設定しその土層断面観察により、H6を切るH5、H5を切るH4という重複関係が明らかとなり、X1の覆土がH4の覆土中に深く堆積していることも明らかとなった。このためX1調査後H4の覆土を掘り下げ、調査を行う。覆土はほぼ一層で、わずかに褐色土を混入するやや汚れた黄色土(土層図5)で、床面直上付近まで堆積している。非常に堅く、しまった土である。床面直上には2cm～5cmほどの厚さの炭化物、フレイクチップを多量に混入するやや粘質の黒褐色土(土層図10)が見られる。北壁際には器表面を上にした一括土器が床面に貼りついた状態で出土し、一括土器の上下に黒褐色土は見られない。なお黒褐色土の上面付近には、特に炭化物・フレイクチップが多く、北東壁の中程までこの黒褐色土が広がっていた。

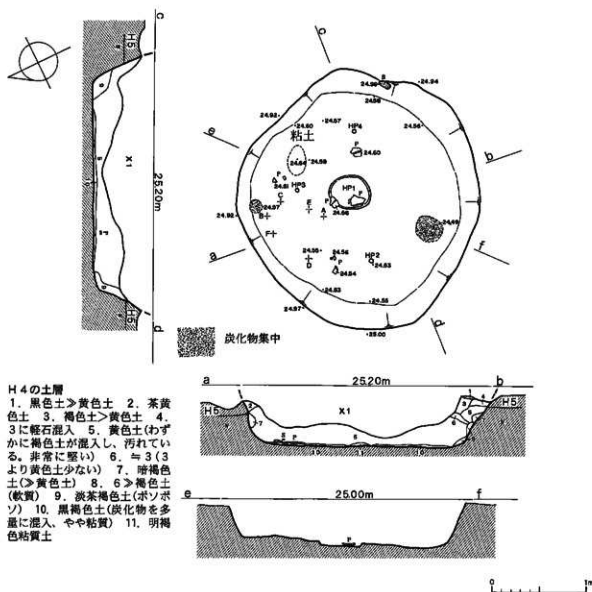
床面：Ⅳ層を深く掘り込んで構築している。ほぼ平坦で、堅い。東壁寄りには30cm×20cm、厚さ2～4cm(被褥)で粘土の高まりが見られた。

壁：壁の立ち上がりは全体に急傾斜で、丁寧に作られている。検出面からの壁高は、北東壁が32cm、北西壁が44cm、南西壁が45cm、南東壁が38cmである。

付属構築物：炉跡～焼土や炉跡は明確に検出されなかった。ただ、床面中央部に46cm×36cm、深さ4cmの楕円形状の浅いくぼみが見出されている(HP1)。これは人工的なもので、中には炭化物が多量に混入し、上面付近には明褐色粘質土(土層図11)が見られたことから考え、このくぼみ(HP1)が炉跡ではないかと思われる。

付属ビット～柱穴状小ビットは3個(HP2～4)検出されている。これらはHP1をかこむように径4cm～5cm、深約2cm～3cmの浅い小ビットで覆土は褐色土+黄色土である。杭状の細い材であろうと思われる。

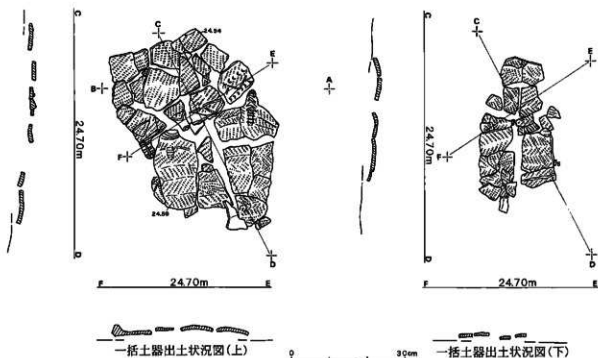
遺物出土状況：出土遺物総数は8,223点である。この内訳は土器260点、石器など7,963点である。床面土からは土器が109点、床直上からは土器14点、石器などは7,327点、HP1覆土中から石器などが



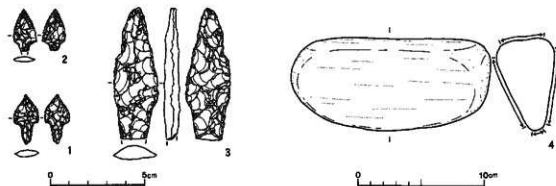
図V-9 H4

13点出土している。北壁際、床面上で出土した一括土器は器表面を上にし、床に貼り付くように三段に重なっていた。Ⅲ群土器である。一括土器以外の床・床直上出土の土器片はすべて内面を上にしていた。床面直上の黒褐色土を採取し、フローテーションによってフレイク・チップ(黒曜石)が6,849点出土している。これらは黒褐色土上面付近で出土したものが大半を占めている。土器ではⅡ群土器片も見られるが、ほとんどがⅢ群土器である。石器ではフレイクの他石槍、石鏃、石斧片などが出土している。

出土遺物：土器～1は天神山式に位置づけられる個体で、胴部中位までは丸みをもちながら立ち上がり、そこから口縁部まではほぼ垂直に直線的に立ち上がる。口縁部には棒状の突起が1箇所残存しており、粘土紐が貼り付けられる。口縁部は粘土紐を2本貼り付ける。胴部上半には山形の貼り付けがなされ、貼り付けに沿って竹管状の工具で連続する刺突が施される。地紋はLRの縄文である。2は

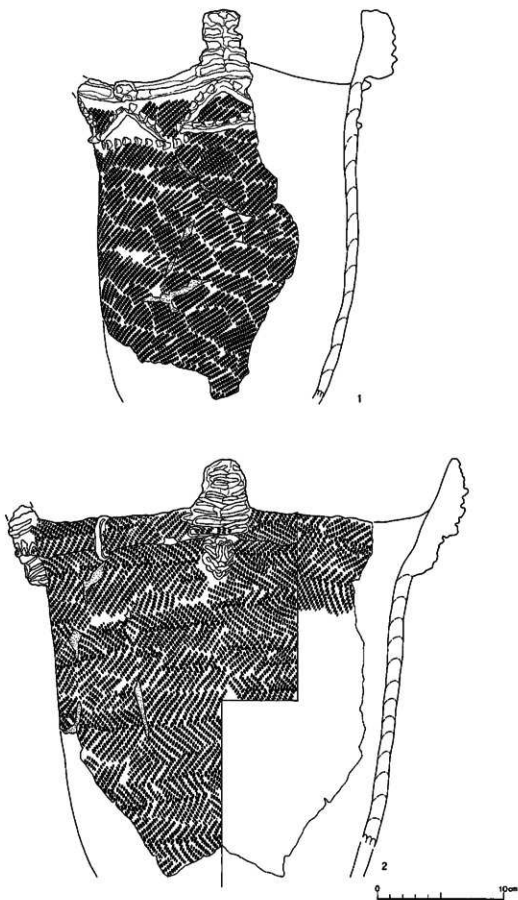


図V-10 遺物出土状況図

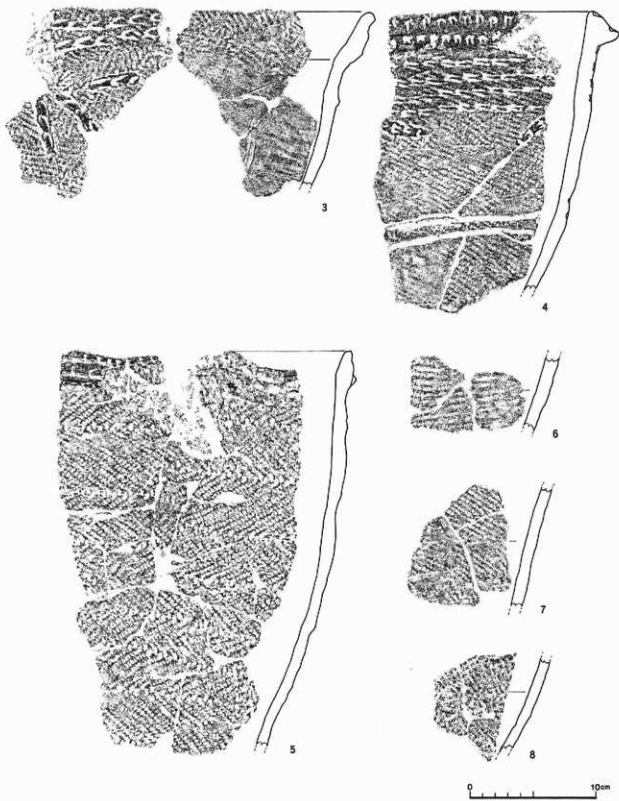


図V-11 H4出土の石器

天神山式に位置づけられる。器形は胴部下半でやや丸みをもち、その後は口縁部付近で若干すばまりながら垂直に立ち上がる。口縁部は貼り付けにより肥厚し、断面は三角形になる。棒状の突起が2箇所を確認できる。突起は貼り付けと押し引きにより施文される。突起と突起の間には垂下する貼り付けが施される。地紋は結東羽状縄文で、口縁部の貼り付けや、内面にも施される。3は天神山式の口縁部から胴部上半の破片である。口縁部は貼り付により肥厚し、断面は三角形になる。貼り付けには2条の押し引き文が加えられる。口縁部の突起は破損しているが、突起の下と思われる部分から、押し引きを施した貼り付けによるY字状の文様が施文される。地紋はRL縄文である。4は天神山式に位置づけられ、口縁部は貼り付けにより肥厚し、断面は三角形になる。貼り付けの上には口縁と直行する2列の押し引きがめぐる。口縁部の直下には4本の押し引き文が施される。胴部中位には2本の幅広い沈線がめぐる。器形はやや内湾しながらもほぼ垂直に立ち上がる。地紋はRL縄文である。5は天神山式で、口縁部は貼り付けにより若干肥厚し、断面は三角形になる。貼り付けの上には2列の押し引き文が



図V-12 H4出土の土器(1)



図V-13 H4出土の土器(2)

施文される。器形は胴部下半まで内湾気味に立ち上がり、胴部中で屈曲したのち、口縁部に向かってやや内傾気味に立ち上がる。地紋は結束羽状縄文である。6、7、8はⅢ群土器の胴部片である。

石器～1は一括土器中で出土した有茎平基の石鏃。左右のかえしは丸い。2は床面直上出土の有茎凸基の石鏃。ともに石材は黒曜石。3は覆土Ⅰ層出土の有茎の石槍で基部下半は欠損する。石材は黒曜石。4は壁付近で出土のすり石。石材は安山岩。

重複・新旧関係：本遺構はX1、H5と重複しており、X1よりも古く、H5より新しいものである。

時期：一括出土土器などから見て、Ⅲ群土器を伴う縄文時代中期のものであろう。

本遺構の覆土は黄色土で、ほぼ一層である。いっきに埋められた事を示している。全体に非常に堅く、しまっているが、これはX1使用によるものと思われる。明褐色土や灰状集中、あるいはフレイクの出土状況などを考慮すると、黒褐色土上面が最終生活面であろうか。床面上の黒褐色土中には炭化物、フレイク・チップが大量に混入していたことは注目されるが、焼失によるものか、石器製作にかかわるものか、またその両方を考えるべきなのか、はっきり断言できない。

H5(図V-14・15 表V-1・2 表1・2 図版89・126・147)

位置：Q-11・12 南から北へわずかに傾斜する標高24.95m～25.00mのところに位置する。

規模：3.52m×3.10m/3.46m×3.24m/0.20m 平面形：隅丸形状 床面積：9.14㎡

長軸方向：N-85°-E

確認・調査・土層：Ⅰ層を除去し、Ⅲ～Ⅳ層中でX1、H5、H6を検出する。このためX1、H6共通の土層観察用の土手をはば東西、南北に設定する。土手の南、西側に小トレンチを設定し、その土層断面観察によりH6を切るH5、H5を切るH4という重複関係が明らかとなり、X1、H4の調査終了後、H5の覆土を掘り下げ調査を行う。覆土を約20cmほど掘り下げ、黄灰色土のやや堅い床面と壁の立ち上がりを検出する。覆土は暗褐色土に黄色土が混じり合った土で、ほぼ一層である。土層図3、4には炭化物が少量混入する。東壁際中央部覆土中でフレイクの集中が見られた。

床面：Ⅳ層を浅く掘り込んで構築している。H4の構築により中央部付近は大きく破壊されているため全体は不明である。中央部に向ってゆるやかに傾斜している。平坦で非常に堅い。

壁：壁の立ち上がりは東壁は垂直的であるが、他はゆるやかである。検出面からの壁高は、北壁が10cm、東壁が16cm、南壁が19cm、西壁が18cmである。

付属構築物：炉跡～残存部分で検出されていない。柱穴状小ピット～残存部分で検出されていない。

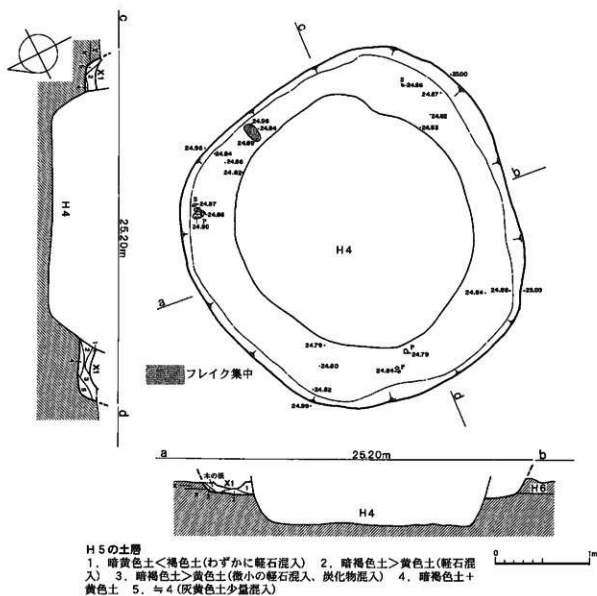
遺物出土状況：出土遺物総数は94点である。この内訳は土器15点、石器など79点である。床面からはⅢ群土器片が1点出土しているのみである。東壁際中央部付近の覆土中で20cm×10cm、厚さ7cmほどの範囲でフレイク集中が見られた。フレイク75点が出土しており、流れ込み状である。出土した土器片はすべてⅢ群土器で、石器では石鏃、フレイクなどである。

出土遺物：1はH4の3と同一個体で天神山式に位置づけられる。口縁部は貼り付けにより肥厚し、断面は三角形になる。貼り付け部分には2本の押しき文が施文される。突起部分は欠損する。突起部分から下に向かって、押しきを施した貼付文がY字状に垂下する。地紋は結束羽状縄文である。

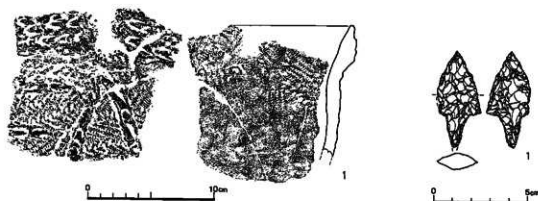
石器～1は覆土中出土の有茎凸基の石鏃である。左かえしは欠損する。石材は黒曜石。

重複・新旧関係：本遺構はX1、H4、H6と重複していて、H6より新しく、X1、H4より古いものである。

時期：覆土、周辺出土遺物や重複関係から見て、Ⅲ群土器を伴う縄文時代中期の遺構であらう。



図V-14 H5



図V-15 H5出土の遺物

H6 (図V-16 表1・2 図版89)

位置：P-11・12 Q-11・12 南から北へわずかに傾斜する標高24.94m～24.99mのところの位置する。規模：3.64m×3.50m/—×—/(0.13m) 平面形・床面積・長軸方向：不明

確認・調査・土層：I層を除去し、Ⅲ層中でX1、H5と重複する暗褐色土の落ち込みを検出する。X1、H5に共通するように設定された土層観察用の土手の断面観察によってH5に切られている本遺構を確認する。覆土を約13cmほど掘り下げ、暗黄灰色土の床面と壁の立ち上がりを検出する。覆土はほぼ二層で、覆土1層は黄色土と軽石をわずかに混入する暗褐色土、覆土2層は床面上にある土で、褐色土、黄色土、灰色粘土がまじり合った土である。

床面：IV層を浅く掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅い。

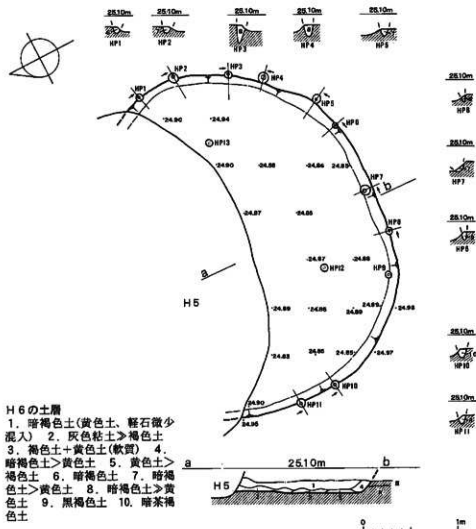
壁：壁の立ち上がりは全体的にゆるやかなものである。検出面からの壁高は5cm～9cmである。

付属構築物：炉跡～残存部分で焼土や炉跡などは検出されていない。柱穴状小ピット～柱穴状小ピットは13ヶ検出されている。HP1～11は壁面付近をめぐるもので径5cm～20cm、深さ3cm～20cmで、ほぼ直立し、HP7・10以外は先端部が細くなっている。HP12・13は床面で検出されたもので、径8cmほど、深さ3cm～5cmの浅いもの。覆土は黒褐色土で、直立する。位置的に見て、主柱穴かと思われる。

遺物出土状況：出土遺物総数は4点。この内訳は土器3点、礫1点である。ともに覆土中出土で、土器はⅢ群のものである。

重複・新旧関係：本遺構はX1、H4・5と重複しており、これらより古いものである。

時期：重複関係、覆土、周辺出土の遺物などから見て、Ⅲ群土器を伴う縄文時代中期の時期のものと思われる。



図V-16 H6

H7(図V-17・18・19 表V-1・2 表1・2 図版90・126・147)

位置：G、H-16 規模：4.22m/3.95m/0.23m 平面形：円形 床面積：14.76㎡

確認・調査・土層：Ⅲ層で検出した。本遺構の北側と東側にP191・192があり、これらと重複していた。切り合い関係を確認した後、グリッドとほぼ平行するように十字のセクションベルトを設定し、それぞれのセクションベルトの南側と西側にトレンチを設定して、断面の観察を行った。

覆土は①パミスを少量しか含まない黒色土層(土層図1、2)、②パミスを多く含む黒褐色土層(土層図3～7)、③焼土、炭化材を多く含む黒色土層(土層図8)に大別した。③は床面に接して広がっており、焼土、炭化材を多く含むことから、火災により焼失した住居の建材や天井部分の崩落土である可能性が高いと判断した。②は遺構内全面に広がるのではなく、南側を中心に弧を描くように分布する。②の起源は、竪穴式住居廃絶後の埋め戻し土、土葺き屋根からの崩落土などが考えられる。①は竪穴式住居廃絶後のくぼみに堆積した自然堆積層であろう。

トレンチ調査により遺構の基本的な堆積構造を把握し、断面図の作成、写真撮影の後、掘り下げを開始した。①を掘り下げ、②の範囲を確認し平面図を作成した。その後、②を除去し、③の焼土、炭化材の検出作業を行った。焼土の平面図を作成した後、焼土を除去し、炭化材の検出作業を引き続き

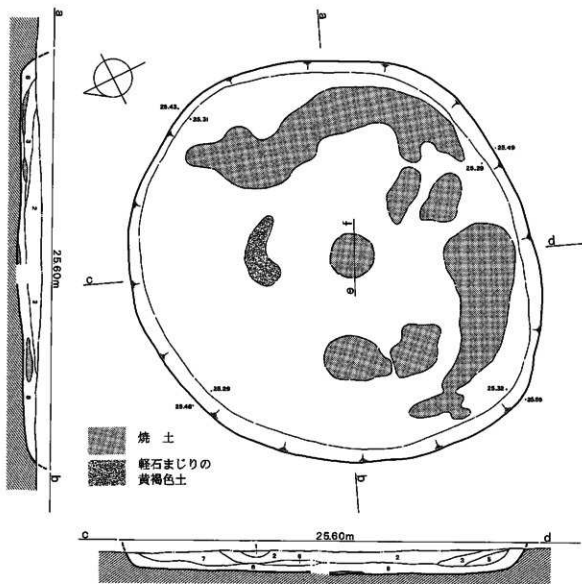
行った。また、床面の検出作業を同時に行った。その際床面近くの土壌はフローテーション用の試料として採取した。床面検出中にほぼ完形のⅢ群土器が出土し、これらの土器と炭化材の平面図を同時に作成し、写真撮影の後、取り上げた。炭化材はC14年代測定試料として、3点を採取した以外は廃棄した。

床面：平らである。

壁：開き気味に立ち上がる。

付属構築物：床面ほぼ中央で、炉跡が考えられる焼土を検出した。柱穴は検出していない。

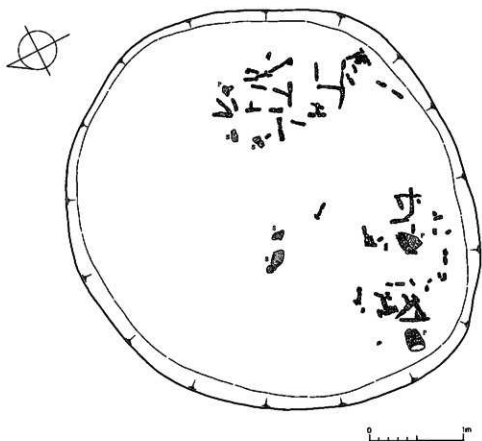
遺物出土状況：床面で天神山式の深鉢土器が2個体出土した。1つはほぼ完形で、もう1つは底部か



H7・P191・P192の土層

1. 10YR 2/3 黒褐色土 砂壤土 パミス(径5~10mm)7%含む
2. 10YR 1.7/1 黒色土 砂壤土 軟 II層土主体でパミス(径3~5mm)少量含む
3. 10YR 2/2 黒褐色土 砂壤土 III層土主体でパミス(径5~10mm)7%含む
4. 10YR 2/1 黒色土 砂壤土 パミス(径2~4mm)3%含む
5. 10YR 2/2 黒褐色土 砂壤土 II層土主体でパミス(径1~2mm)5%含む
6. 10YR 2/2 黒褐色土 砂壤土 軟 パミス(径3~7mm)3%含む
7. 10YR 2/1 黒色土 砂壤土 パミス(径2~5mm)2%含む
8. 10YR 2/1 黒色土 砂壤土 パミス(径2mm)1%含む(フローテーション用試料採取)

図V-17 H7



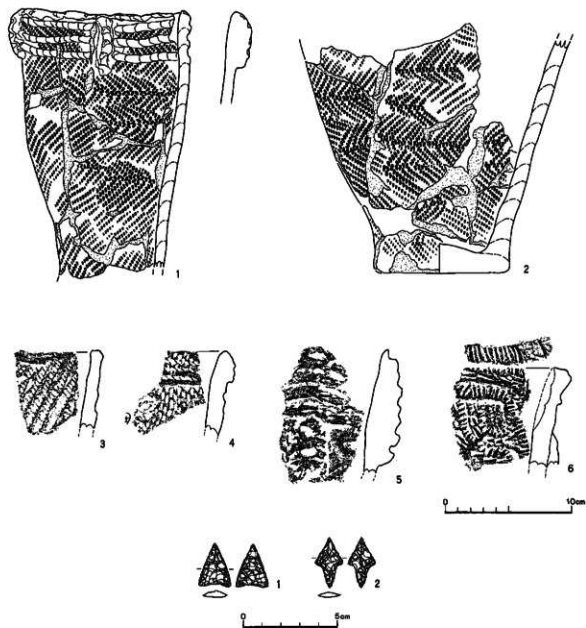
図V-18 炭化物と遺物の出土状況図

ら胴部半ばまでが残存する。住居の廃絶に伴い、廃棄されたものであろう。その他、I群土器4点、II群土器2点、III群b類土器457点、IV群c類土器49点、石鏃8点、Rフレイク3点、フレイク6,403点、石斧1点、砥石2点が出土している。

出土遺物：土器～1は底部を欠損する以外はほぼ完形に近い小型の深鉢で、天神山式に位置づけられる。器形は、底部から胴部中位までは外傾気味に立ち上がり、胴部中位でわずかに屈曲し、口縁部までほぼ垂直に立ち上がる。口縁部付近には3本の押しきりがめぐり、口縁部にも押しきりがなされる。口縁部から垂下する貼り付けが4箇所存在し、貼り付けの上には竹管状工具による刺突がなされる。地紋は結束羽状縄文である。2は胴部上半を欠くが、出土層位が1と同様床面であることから、1とほぼ同時期であろう。地紋は結束羽状縄文である。3は胴内中野式に位置づけられる深鉢の口縁部片である。地紋はLR縄文である。4は天神山式に位置づけられる。口縁部は貼り付けにより肥厚する。貼り付けも含めてRL縄文が施される。5は天神山式の口縁部片である。棒状の突起がつけられ、口縁部下には貼り付けが垂下する。突起は貼り付けと沈線により施文される。口縁部は貼り付けにより肥厚する。6は萩ヶ岡1式に位置づけられ、突起部分が残存する。口縁下には山形の貼り付けがなされる。口縁部と山形の貼り付けには刻みが施される。さらにその下には「Y字」を重ねたような貼り付けが施され、竹管状工具による連続する刺突が行われる。

石器～1・2は塚土中出土の石鏃である。1は三角形の凹基のもの、2は有茎凸基のもので、石材とともに黒曜石である。

重複・新旧関係：P191、192を切る。



図V-19 H7出土の遺物

時期：床面出土土器から、縄文時代中期後葉に位置づけられる。また、炭化材のC14年代はそれぞれ 4210 ± 40 (y B P)、 4150 ± 50 (y B P)、 4050 ± 40 (y B P) という結果が算出されている。(石井淳平)

H8(図V-20・21 表V-1・2 表1・2 図版91・126・147)

位置：E、F-18・19・20 規模：8.80m×7.00m/8.32m×6.46m/0.23m 平面形：不整な楕円形状

床面積：48.01㎡ 長軸方向：N-70° -W

確認・調査・土層：Ⅲ層で検出した。南側にP198があり、切り合い関係はH8が古いことを確認した。また、周辺ではSP群を検出しているが、断面図A-Bが示すようにH8が古い。グリットと平行にセクションベルトを設定し、トレンチ調査で覆土の堆積を確認しながら、層ごとに除去作業を行った。床面に、6本の明瞭な柱穴を検出した。柱穴は床面から60cm～80cm程度の深さで、壊壁、壊底ともに堅く締まっていた。住居跡に伴うと判断できる炉跡、焼土は検出できなかった。

覆土は住居跡本体については、4分層できた。①はⅡ層の自然堆積と考えられるが、S、P群の覆土と差異無く、区別できなかった。②は、Ⅲ層上部の色調に近似する。③はⅢ層下部の色調に近似するが、②～③で漸移はしない。④はごく一部の検出である。

床面：床面は平坦に作られているが、あまり堅く締まらない。

柱穴：6本の柱穴の土層は、それぞれ混入が若干異なるが、概ね同一の傾向を示す。柱穴は開口部から中位程度まで、若干広く掘られており、柱を挿入した後に土で埋めていると考えられる。HP5については、住居跡本体埋没の初期の覆土③が柱穴壊底部にまで及んでおり、柱が抜かれた可能性もある。6本の柱穴は2m程度と2.3m程度の、2種の間隔で配置されている。

壁：立ち上がりは緩やかで、整然としない。

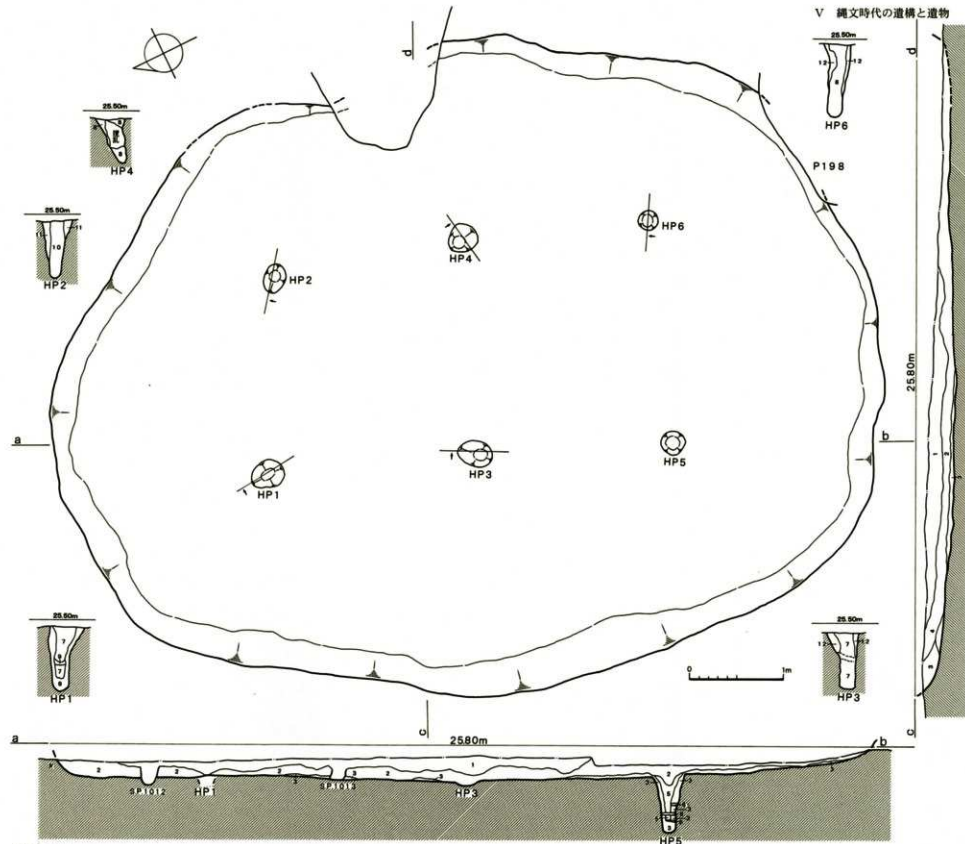
遺物出土状況：I群土器6点、II群土器34点、III群土器23点、IV群c類土器120点、VI群土器1点、未分類土器7点、石鏃4点、つまみ付きナイフ3点、スクレイパー1点、Rフレイク9点、フレイク410点、すり石1点が出土した。

出土遺物：土器～1、2、3、4、6、7、10はⅢ群に位置づけられる土器片である。5、9は静内中野式、8は網文式に位置づけられる。

石器～1～3は覆土Ⅰ層出土の石鏃で、三点とも三角形の凹基で、石材は黒曜石。4は覆土Ⅱ層出土の石鏃である。棒状の素材の一部に刺突部を作り出したもので、石材は頁岩である。

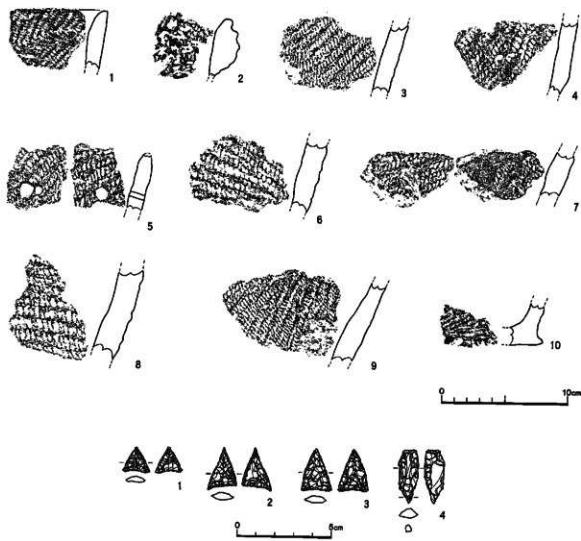
重複・新旧関係：P198、SP群に切られている。

時期：IV群c類土器が最も多く出土しているが、周辺の包含層からの流れ込みである。六本の主柱穴をもつこと、平面形が楕円形であることから、縄文時代中期の可能性もある。(石井淳平)



H8の土層 図V-20 H8

1. 10 YR 1.7/1 埴壇土 中軟 II層相等するが、少量の軽石と、4を
 細粒状に混入している 2. 10 YR 2/2 埴土 弱 堅 色調はIIの上部
 に近似しているが漸移せず1と4の混土である 3. 10 YR 3/3 埴土 弱 堅 2に比し明るい色調を示す。2主体で4を多く混入したものをわけた 3'。10 YR 3/4
 埴土 弱 堅 3主体でほとんどかわらないが5を少量まぜや混入しているためわけた 4. 10 YR 4/6 埴壇土 中 堅 IV主体であるが3をまだら状に少量混入して
 いる。1よりゆかとしてはゆるい 5. 10 YR 2/2 埴土 中 弱 3'をまだら状少量混入している 6. 10 YR 2/2 埴土 中 弱 5と同等であるが、しま状に層をな
 しているためわけた 7. 10 YR 1.7/1 埴壇土 弱 軟 少量のIV相等を細粒状混入 8. 10 YR 2/3 埴壇土 中 軟 少量の小軽石および炭火物を含む
 9. 10 YR 2/3 埴土 弱 堅 8主体でIVをブロック状混入 10. 10 YR 2/2 埴壇土 中 軟 8主体でIVをブロック状混入 10. 10 YR 2/2 埴壇土 中 軟 少量の小軽石および炭火物を含む
 11. 10 YR 3/4 埴土 中 堅 IV主体
 であるが、10を少量混入している 12. 10 YR 4/3 埴土 中 弱 7をまだら状少量混入



図V-21 H8出土の遺物

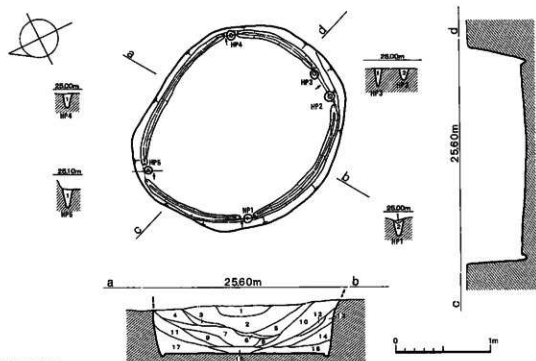
H9(図V-22・23 表V-1・2 表1・2 図版91・127・145)

位置：H-15・16 規模：2.26m/2.08m/0.52m 平面形：円形 床面積：3.65㎡ 長軸方向：N-20°-W

確認・調査・土層：周囲は耕作による削平のためⅡ～Ⅲ層が存在せず、Ⅰ層除去後のⅣ層で検出した。南北方向にセクションベルトを設定し、南側を半載した。当初は墓塚、竪穴式住居の両方の可能性を想定していた。断面の観察では埋め戻された痕跡が確認できなかったこと、墳底面で周溝、小柱穴を検出したことから、竪穴式住居と判断した。断面図の作成、写真撮影の後、反対側を掘り下げて完掘した。墳底面から厚さ5cmほどの土壌をフローテーション用の試料として採取した。また、C14年代測定試料を墳底と土層7付近で採取した。

土層1～9は黒褐色土主体、土層10～17はⅣ層起源のロームが主体である。いずれも黒褐色土とロームが交互に堆積しており、自然堆積層であると判断した。土層10～17は壁面の崩落土や周囲の掘り上げ土に由来し、比較的速やかに堆積したものとする。これに対し、土層1～9は掘り上げ土や新たに形成したⅡ層土、周囲のⅡ層土の流れ込みによって由来し、時間をかけて堆積したものとする。

床面：平らである。床面壁際を幅10cmの周溝がめぐる。また、同じく壁際の五ヶ所で小柱穴を検出し



H9の土層

1. ta-a火山灰の自然堆積層
2. 10YR1.7/1 黒色土 壤土 粘性弱 軟 パミス(径5~10mm)1%含む
3. 10YR2/1.5 黒褐色土 砂壤土 粘性弱 軟 パミス(径3~5mm)1%含む
4. 10YR2/2 黒褐色土 壤土 粘性弱 軟 III層土とII層土が50%ずつ混ざる パミス(径3~5mm)3%含む
5. 10YR2/1 黒色土 壤土 粘性弱 軟 パミス(径2~5mm)3%含む
6. 10YR1.7/1 黒褐色土 砂壤土 粘性弱 しょう パミス(径5mm)少量含む
7. 7.5YR3/2 黒褐色土 壤土 粘性弱 しょう III層土主体でパミス(径10~15mm)7%含む
8. 10YR1.7/1 黒色土 壤土 粘性弱 軟 ローム少量含む
9. 10YR2/1 黒色土 砂壤土 粘性弱 しょう ローム粒(径10~20mm)1%含む
10. 10YR3/1 黒褐色土 壤土 粘性弱 しょう ローム主体で黒色土40%、パミス(径7mm)1%含む
11. 10YR2/2 黒褐色土 砂壤土 粘性弱 しょう ローム粒(径10~20mm)2%含む
12. 10YR4/6 褐色土 壤土 粘性弱 しょう IV層土主体
13. 10YR1.7/1 黒色土 砂壤土 粘性弱 軟 パミス(径3~5mm)少量含む
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 壤土 粘性弱 軟 白色ローム主体でパミス(径5mm)少量、黒褐色土粒(径10mm)3%含む
15. 10YR1.7/1 黒色土 壤土 粘性弱 軟 混入物のほとんどは黒色土
16. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 壤土 粘性弱 堅 白色ローム主体でパミス(径10mm)2%、黒色土粒(径5~10mm)1%含む
17. 10YR2/3 黒褐色土 砂壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径20~30mm)10%、パミス(径5~10mm)1%含む

図V-22 H9

た。

壁：ほぼ垂直に立ち上がる。

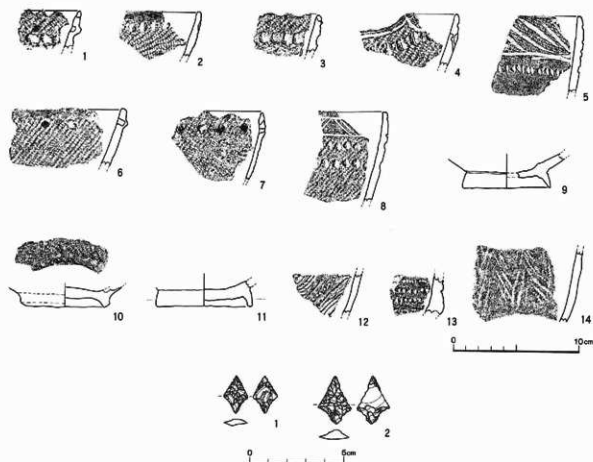
遺物出土状況：III群土器9点、IV群c類土器496点、未分類土器7点、石鏃3点、フレイク135点、礫・礫片7点が出土している。床面から時期のわかる遺物は出土していない。出土遺物の多くは縄文時代後期後葉で、出土層位は土層1~9が多い。

出土遺物：土器~1~8は爪形文や付き瘤がつけられる口縁部片で御殿山式に位置づけられる。9~11は高台をもつ底部片で御殿山式に位置づけられる。12、13は後北C2-D式の胴部片である。14は縦走する縞系文をもち、赤六式に比定できる。

石器~1は覆土1層、2は覆土2層出土の有茎凸基の石鏃。ともに基部は三角形で、石材は1が黒曜石、2は珪質頁岩である。

重複・新旧関係：なし

時期：床面付近と、土層7付近で採取した土壌のC14年代測定結果はそれぞれ、 2520 ± 40 と 1620 ± 40 (yBP)となっている。床面で採取した土壌で算出された年代からは縄文時代晩期に位置づけられる。測定値が正しければ、最も多く出土したIV群c類土器は埋没時に流れ込んだものであると考えることができる。(石井淳平)



図V-23 H9出土の遺物

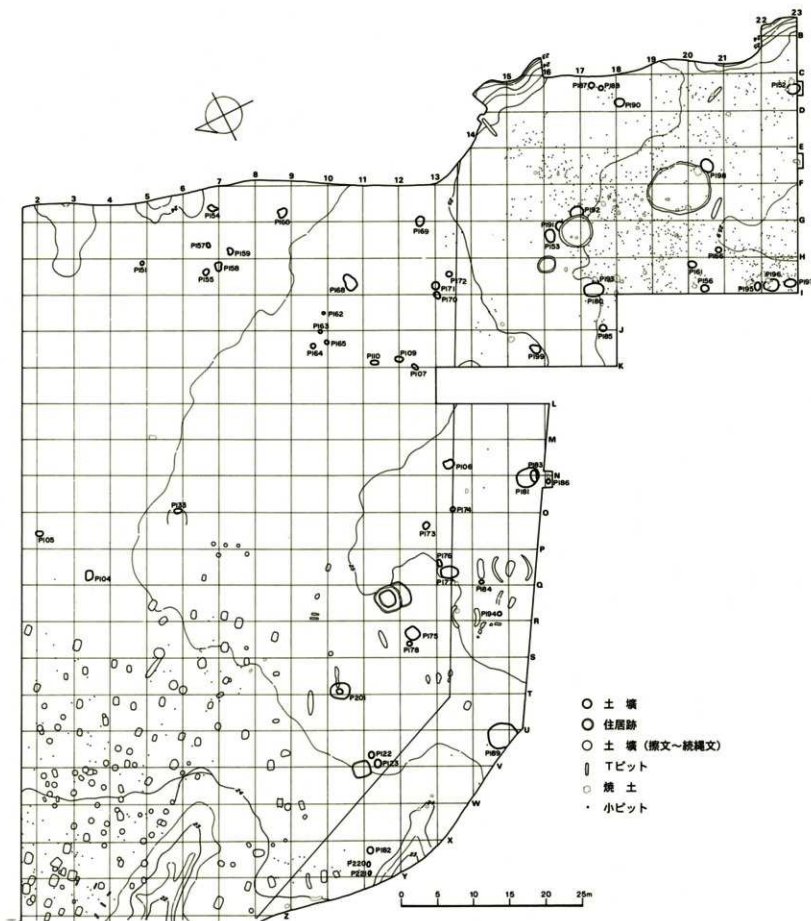
表V-1 住居跡掘載土器一覧

遺構(測位)	図番号	図版番号	口径 (cm)	胴高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地文	備考
H1(覆土2)	V-4-1	124			11.0	深鉢	Ⅲ群	L R 縄文	
H2(床)	V-6-1	124					Ⅱ群a-1類	R L 縄文	網文式
H3(覆土)	V-8-1	124					Ⅳ群a類	L R 縄文	2と同一個体
H3(覆土)	" - 2	"					Ⅳ群a類	L R 縄文	1と同一個体
H4(床)	V-12-1	124					Ⅲ群b-1類	L R 縄文	天神山式
H4(床)	" - 2	"	25.3				Ⅲ群b-1類	結束羽状縄文	"
H4(床)	" - 3	125	36.3				Ⅲ群b-1類	R L 縄文	"
H4(床、覆土中層、検出面)	" - 4	"					Ⅲ群b-1類	R L 縄文	天神山式 H5-1と同一個体
H4(床面)	" - 5	"	26.0				Ⅲ群b-1類	羽状縄文	天神山式
H4(トレン)	" - 6	"					Ⅲ群	L R 縄文	
H4(床)	" - 7	"					Ⅲ群	R L 縄文	
H4(検出面)	" - 8	"					Ⅲ群	R L 縄文	
H5(覆土中)	V-15-1	126	23.0				Ⅲ群b-1類	羽状縄文	天神山式 H4-4と同一個体
H7(床)	V-19-1	126	14.2				Ⅲ群b-2類	結束羽状縄文	天神山式
H7(床)	" - 2	"			10.7		Ⅲ群	結束羽状縄文	

遺構(層位)	図番号	図版番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地文	備考
H7(覆土)	V-19-3	126				深鉢	II群a-2類	L R 縄文	静内中野式
H7(覆土)	" - 4	"				深鉢	III群b-1類	R L 縄文	天神山式
H7(覆土)	" - 5	"				深鉢	III群b-1類		"
H7(覆土)	" - 6	"				深鉢	III群a類		秋ヶ岡1式
H8(覆土1)	V-21-1	126				深鉢	II群	L R 縄文	
H8(覆土1)	" - 2	"				深鉢	III群b-1類		天神山式
H8(覆土2)	" - 3	"				深鉢	III群	L R 縄文	
H8(覆土1)	" - 4	"				深鉢	III群	L R 縄文	
H8(覆土1)	" - 5	"				深鉢	II群a-2類	L R 縄文	静内中野式
H8(覆土2)	" - 6	"				深鉢	III群	R L 縄文	
H8(覆土1)	" - 7	"				深鉢	III群	L R 縄文	
H8(覆土2)	" - 8	"				深鉢	II群a-1類	R L 縄文	網文式
H8(覆土2)	" - 9	"				深鉢	II群a-2類	L R 縄文	静内中野式
H8(覆土1)	" - 10	"			8.0	深鉢	III群	L R 縄文	
H9(覆土1)	V-23-1	127				深鉢	IV群c類	L R 縄文	御殿山式
H9(覆土1)	" - 2	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	御殿山式
H9(覆土1)	" - 3	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	御殿山式
H9(覆土2)	" - 4	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	御殿山式
H9(覆土2)	" - 5	"				深鉢	IV群c類		御殿山式
H9(覆土2)	" - 6	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	御殿山式
H9(覆土2)	" - 7	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	御殿山式
H9(覆土2)	" - 8	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	御殿山式
H9(覆土2)	" - 9	"			8.7	深鉢	IV群c類		御殿山式
H9(覆土2)	" - 10	"			7.3	深鉢	IV群c類		御殿山式
H9(覆土2)	" - 11	"			6.9	深鉢	IV群c類		御殿山式
H9(覆土2)	" - 12	"				不明	VI群		後北C2-D式
H9(覆土1)	" - 13	"				不明	VI群		後北C2-D式
H9(覆土2)	" - 14	"				深鉢		掘糸文	赤穴式

表V-2 住居跡掘載石器など一覧

遺構番号	図番号	名称	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ(g)	石材	備考
H4	図V-11-1	石 鏃	一括土層の土の中	2.65	1.3	0.35	0.8	黒曜石	図版147
"	" - 2	"	床面直上	2.2	1.25	0.35	0.7	"	"
"	" - 3	石 槍	覆土1層	6.95	2.4	0.85	11.9	"	"
"	" - 4	すり石	覆土壁	7.35	15.8	5.05	853.7	安山岩	"
H5	図V-15-1	石 鏃	覆土中層	5.1	2.3	0.85	6.1	黒曜石	図版147
H7	図V-19-1	石 鏃	覆土	2.2	1.7	0.3	0.8	"	図版147
"	" - 2	"	"	2.6	1.4	0.3	0.6	"	"
H8	図V-21-1	石 鏃	覆土1層	2.2	1.6	0.4	1.0	"	図版147
"	" - 2	"	"	2.3	1.6	0.4	0.7	"	"
"	" - 3	"	"	1.4	1.4	0.3	0.4	"	"
"	" - 4	石 鏃	覆土2層	2.8	1.0	0.5	1.5	頁岩	"
H9	図V-23-1	石 鏃	覆土1層	2.0	1.25	0.35	0.6	黒曜石	図版147
"	" - 2	"	覆土2層	2.55	1.75	0.6	1.2	珪質頁岩	"



図V-24 土壌の位置図

3. 土壌

土壌は、調査区のほぼ全体で59基が検出されているが、縄文期の土壌墓や土壌が分布する地域には作られていない。またまとまりなどははっきりしない。平面形はほぼ楕円形状のものが多く、直径1m前後、深さ30cm程度の浅いものが多い。P18・176・189・193のように長径3m以上のものもある。P199では礫石器がまとも出土しており埋納遺構の可能性がある。またP152では土器が一體体出土している。土壌の性格や用途などは不明のものが多く、時期も明確でない。その中でも共存する土器などによって時期を特定できるのは18基で、縄文時代中期が8基、縄文時代後期のものが10基である。恐らく大半が中期～後期に含まれると思われる。次年度以降の調査区に広がって行く模様であり、それらを踏えて、用途・性格・時期について改めて検討する必要があるだろう。

P104(図V-25 表1・2 図版92)

位置：P-3 規模：1.64m×1.44m/1.11m×0.83m/0.17m 平面形：楕円形 長軸方向：N-79°-W

確認・調査・土層：遺構確認調査中、IV層軽石を含む黒色土の堆積がみられ、短軸方向で半載したところ、明瞭な壁の立ち上がりとはほぼ平坦な墳底が確認された。覆土の各層は、II層にIV層軽石が含まれる土で構成される。

墳底・壁：墳底は概して平坦で、東側が若干低い。壁はいずれも明瞭に立ち上がる。

遺物出土状況：東側部分の覆土2層から、土器2点、円礫1点が出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器1点、未分類土器1点、礫・礫片1点が出土した。

性格：不明。 時期：縄文時代中期後半と推測される。 (末光正卓)

P104の土層 1. II層にIV層軽石1%程度まじる。しまり堅 2. II層にIV層、軽石25%程度まじる。しまり堅 3. Ⅲ層、II層の二次堆積?(IV層、軽石1%程度まじる)しまり堅

P105(図V-25 表1 図版92)

位置：O-1・2 規模：0.94m×0.85m/0.66m×0.46m/0.35m 平面形：楕円形 長軸方向：N-50°-E

確認・調査・土層：遺構確認調査中、IV層軽石を含む黒色土の堆積がみられ、短軸方向で半載したところ、明瞭な壁の立ち上がりとはほぼ平坦な墳底が確認された。覆土はII層にIV層軽石が含まれる土が主体である。

墳底・壁：墳底は中央部が若干凹み、壁はいずれも明瞭に立ち上がる。

遺物出土状況：遺構の中央付近とそこから南側部分の覆土2層から、土器4点が出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器2点、未分類土器2点が出土した。

性格：不明。 時期：不明。 (末光正卓)

P105の土層 1. IV層にII層がブロック状に30%程度まじる。しまり堅 2. II層にIV層が3%程度まじる。しまり軟 3. II層にIV層(軽石と砂)が30%程度まじる。しまり軟

P106(図V-25・35 表V-3 表1 図版92・128)

位置：M-12 規模：1.34m×1.03m/1.05m×0.88m/0.23m 平面形：不整形 長軸方向：N-53.5°-W

確認・調査・土層：遺構確認調査中、やや暗色を呈する土の堆積がみられ、短軸方向で半載したところ

ろ、明瞭な壁の立ち上がりとはほぼ平坦な墳底が確認された。覆土はIV層主体のものである。
墳底・壁：墳底は若干凹凸があり、南西側へ傾斜する。壁はいずれもほぼ明瞭に立ち上がる。

遺物出土状況：北東部分の覆土2層から、土器が3点出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器2点、未分類土器1点が出土した。1はⅢ群土器の胴部片で、結束羽状縄文が施される。

性格：不明。 時期：不明。

(末光正卓)

P106の土層 1. 表土(I層)が90%以上を占める。しまり軟、粘質性中 2. II層にⅢ層(パミス含まない)20%程度、IV層軽石3%程度まじる。軟～堅、中 3. IV層とⅢ層が同量にまじるもの主体、II層3%程度まじる。しまり堅、粘性弱 4. IV層主体、IV層にII層5%程度、Ⅲ層8%程度まじる。しまり堅、粘性弱 5. Ⅲ層(パミス含まない)に、IV層10%、II層10%程度まじる。しまり軟、粘性中 6. 軽石(φ1cm程度)を含む。Ⅲ～IV、二次堆積? 堅、弱 7. IV層主体、二次堆積、堅、弱 8. Ⅲ層(パミス含まない)主体、二次堆積、軟、中

P107(図V-25・35 表V-3 表1 図版92・128)

位置：K・L-12 規模：1.23m×0.82m/0.81m×0.46m/0.48m 平面形：楕円形
確認・調査・土層：周囲をIV層まで下げたところで覆土1層を確認。実際の掘り込み面はII層中であろう。墳底でも遺体は検出できなかったが、形状と、埋め戻しと思われる覆土の状態から墓壇と判断した。II層とIV層が入り混じった土。

墳底・壁：ほぼ水平。壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土上位と中位からIV群の土器片が計4点出土。小片がまばらに出土したあり方から非共伴遺物と思われる。

出土遺物：2は北筒式の口縁部片で、円形刺突文が施される。

性格：不明

時期：少なくとも出土遺物より後、縄文中期以降のものである。周囲にあるP109、110と時期を同じくするものと思われる。

(中山昭大)

P107の土層

1. 10YR 2/1 SL 弱 堅 15% IV+Ⅲ
2. 10YR 4.5/4 SL 弱 堅 90% IV>Ⅱ
3. 10YR 2/1 SL 中～弱 軟 3% Ⅱ
4. 10YR 2/1 SL 弱 軟～堅 3% Ⅱ>IV
5. 10YR 4.5/3 SL 弱 軟～堅 70% IV>Ⅱ
6. 10YR 2/1 SL 中～弱 軟 2% ≒Ⅱ
7. 10YR 1.7/1 SL 中～弱 軟～堅 2% ≒Ⅱ

P109(図V-25・37 表V-4 表1・2 図版92・148)

位置：J-11-12 規模：1.38m×0.97m/1.07m×0.64m/0.40m 平面形：楕円形 長軸方向：N-44°-E

確認・調査・土層：遺構確認調査中、IV層軽石を含む黒色土の堆積がみられ、短軸方向で半截したところ、明瞭な壁の立ち上がりとはほぼ平坦な墳底が確認された。覆土は、II、IV層主体のものである。

墳底・壁：墳底は概して平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況：北側から台石1点、南側からは土器1点が、覆土1層から出土した。
 出土遺物：Ⅲ群土器1点、石皿・台石1点が出土した。1は、覆土出土の台石である。
 性格：不明。 時期：不明。

(末光正卓)

P110(図V-25 表1・2 図版92)

位置：J-11 規模：1.10m×0.87m/0.71m×0.42m/0.47m 平面形：楕円形 長軸方向：N-18°-E

確認・調査・土層：遺構確認調査中、IV層軽石を含む黒色土の堆積がみられ、短軸方向で半載したところ、明瞭な壁の立ち上がりとはほぼ平坦な墳底が確認された。覆土はII層主体のものが多く、

墳底・壁：墳底面は若干の凹凸を有し、壁はいずれも垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況：中央よりもやや北側よりで、覆土2～4層から土器が合計4点出土した。

出土遺物：IV群c類土器1点、VII群土器1点、未分類土器1点、礫・礫片1点が出土した。

性格：不明。 時期：不明。

(末光正卓)

P122(図V-26・35・37 表V-3・4 表1・2 図版93・128・148)

位置：U-11 標高24.60m付近 規模：1.07m×0.89m/1.06m×0.83m/0.33m 平面形：円形状

確認・調査・土層：IV層中で黒褐色土の落ち込みを検出する。半載し、覆土を約33cm程掘り下げ、暗灰色土の墳底面と壁の立ち上がりを検出する。覆土は軽石、粘土粒がわずかに混入する黒褐色土である。ほぼ一層である。

墳底・壁：IV層中に構築され、平坦で堅い。中央部がわずかに高くなる。立ち上がりは西壁が垂直、他は急傾斜である。

遺物出土状況：出土遺物総数は48点である。この内訳は土器39点、石器など9点である。検出面から2点、覆土中から46点出土している。まとまった出土状態ではない。出土土器はすべてⅢ群のもので、石器では石鏃、石斧などが出土している。

出土遺物：土器～3は萩ヶ岡1式の口縁部片で口縁部下に口縁部と平行して貼り付けがなされ、その上と口縁端部に刻みが施される。石器～2は、泥岩の石斧で、部分的に磨かれ、刃部は両面丁寧に磨いている。

性格：不明。 時期：出土遺物などから見て縄文時代中期のものと思われる。

P123(図V-26・35 表V-3 表1・2 図版93・128)

位置：U-11 標高24.60m付近 規模：1.28m×1.15m/1.16m×1.10m/0.28m 平面形：長円形 長軸方向：N-35°-W

確認・調査・土層：I層を除去し、IV層中で黒褐色土の落ち込みを検出する。半載し、覆土を約28cm程掘り下げ、暗黄灰色土の墳底と壁の立ち上がりを検出する。覆土は、中央部に褐色土と灰色土の混合土であり、壁側には軽石、粘土粒がまじる黒褐色土が見られる。

墳底・壁：IV層中に構築され、平坦で、堅い。立ち上がりは北壁が急傾斜で、他は垂直的である。

遺物出土状況：出土遺物総数は113点である。この内訳は土器108点、石器など5点である。墳底面からは礫が1点出土しただけで、他は検出面、覆土中から出土したものである。まとまった出土状態ではない。出土土器はⅢ群とⅡ群の土器片が、石器ではRフレイクなどが出土している。

出土遺物：土器～6は網文式の口縁部で、2個の補修孔をもつ。

性格：不明。 時期：出土遺物などから見て、Ⅲ群土器を伴う縄文時代中期のものと思われる。

P133(図V-26・35表V-3表1 図版87・128)

位置：N・O-5 規模：1.43m×1.23m/0.84m×0.70m/0.10m 平面形：楕円形 長軸方向：N-32°-E

確認・調査・土層：遺構確認調査中、黒色土の堆積がみられた。短軸方向で半載して掘り進めたが、西側の壁が低くさらに、そこから落ち込んでいる状況(住居跡H1)が確認された。作業上の必要性から本土壇に番号を付したが、結論として、H1の付属構築物であると考えられる。覆土はⅡ層主体で、H1の主体的な覆土と同質である。

墳底・壁：墳底は概して平坦で、壁は低いが明瞭に立ち上がる。中央付近、東側の壁際に柱穴(P133柱穴)が1か所ある。

遺物出土状況：中央付近東側の覆土2層から、土器が1点出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器1点が出土した。7はⅢ群土器の胴部片である。

性格：住居跡H1の先端部ピットであると考えられる。

時期：住居構造から縄文時代中期末から後期初頭頃と推測される。

(末光正卓)

P151(図V-26表1 図版93)

位置：H-4 規模：0.58m/0.50m/0.18m 平面形：円形

確認・調査・土層：周辺は耕作によりⅣ層まで削平されており、Ⅰ層除去後のⅣ層上面で検出した。覆土はバミスを多く含み、埋め戻しによる堆積の可能性が高い。ただし土層Ⅰはバミスを含まない黒色土で、自然堆積の可能性もある。おそらく、土圧でくぼんだ遺構の上面にⅡ層が堆積したものである。

墳底・壁：墳底はやや丸みを持つがほぼ平らである。壁は開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中で土器1点が出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器1点が出土した。

性格：不明。

時期：出土した土器は1点のみの出土であるため時期を決定する根拠には出来ない。

(石井淳平)

P152(図V-26・35表V-3表1 図版93・128)

位置：C-22 規模：1.96m×1.36m/1.62m×0.92m/0.07m 平面形：楕円形 長軸方向：N-32°-W

確認・調査・土層：平成12年度調査区の南端で検出した。Ⅱ層を掘り下げ中に完形に近い注口土器を検出したため遺構の存在を予測し、Ⅱ層の掘り下げを進めた。Ⅲ層上面で、遺構と思われる楕円形のプランを確認した。先の注口土器は楕円形のプランの南よりに位置していた。プランの南側は調査区外へ広がっていたため、調査区を1mほど拡張し、全体を確認した。東西方向にベルトを残し、南北両側を掘り下げた。断面観察の結果、覆土はバミス、ロームの混入度合いが周辺のⅡ層土と違うことから自然堆積により埋没しているものと判断した。また、注口土器は墳底面より、10cmほど上のレベルで出土していることから、遺構の掘削と注口土器の廃棄は直接の関わりを持たないと推測する。

墳底・壁：墳底は丸みを持つ。立ち上がりは不明瞭で、墳底と壁の区別は判然としない。

遺物出土状況：覆土中で完形土器 1 個体と、細かい土器片が出土した。

出土遺物：IV群c類土器44点が出土した。うち1点は先述した完形土器である。10は堂林式の壺である。肩部は胴部の上1/3ほどのところにあり、屈曲は比較的強い。頸部は無文で口縁部は沈線が引かれ、沈線と口縁部の間には半円形の沈線文が2重に引かれる。胴部の文様は肩部から上に限られ、肩部からはミガキが施される。文様帯は沈線により2段に分けられ、下段は鋸歯状の沈線文、上段は裏、表で文様が異なっており、片側は木葉形の沈線文、反対側は入組文風の沈線文が施される。

性格：不明。人為的な掘り込みではない可能性もある。

時期：出土遺物からは縄文時代後期後葉に属する可能性が高いが、出土遺物と遺構掘削の時期が異なる可能性もある。

(石井淳平)

P153(図V-26 表1・2 図版93)

位置：G-16 規模：1.82m/1.77m/0.08m 平面形：円形

確認調査・土層：周辺は耕作のため、IV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。規模の小さい堅穴住居の可能性を想定して調査を進めた。東西方向にベルトを残し、南北両側を掘り下げた。数10cm程度の深さを予想していたが、検出面からの深さは10cmに満たない浅いものであった。

覆土はバミスを若干多く含む黒褐色土が主体で、周囲からの流れ込みにより埋没している。

境底・壁：境底はほぼ平らで、壁は垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中で土器片、フレイク、礫が出土した。

出土遺物：未分類土器6点、フレイク1点、礫1点が出土した。

性格：不明。 時期：出土遺物からは特定できない。

(石井淳平)

P154(図V-27 表1・2 図版93)

位置：F・G-7 規模：1.44m×0.89m/0.76m×0.41m/0.93m 平面形：不整形

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層上面で黒色土の充填された楕円形のプランを確認した。長軸方向で半截し断面を観察したが、壁にいくつもの細かいオーバーハングがみられた。底面は平らであるが、南側では大きくオーバーハングする。検出時にはプランを楕円形と考えていたが、再度精査すると不整形な楕円形であることが判明した。

土層3~13はバミスを多量に含む黒色~黒褐色土で、埋め戻しの際に生じる堆積構造に類似する。

境底・壁：境底は凹凸があるがほぼ平らである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、一部オーバーハング気味になる。

遺物出土状況：覆土中で土器片、フレイクが少量出土した。

出土遺物：IV群土器3点、フレイク1点が出土した。

性格：堆積構造は埋め戻しによる人為堆積層のそれと類似するが、平面形や断面形がいびつであることから、人為的に掘り込まれたものではないとの印象を受けた。自然現象が要因で本遺構が形成されたとすれば、立ち枯れた木の痕跡である可能性が高い。立ち枯れた木が腐植し、空洞化した穴の内部に崩落土が堆積したため、埋め戻し土によく似た堆積状況が生じたのではないかと考える。

時期：不明。

(石井淳平)

P 155(図V-27 図版94)

位置：H-6 規模：0.88m×0.68m/0.80m×0.63m/0.10m 平面形：楕円形 長軸方向：N-24°-W

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で楕円形のプランを確認した。長軸方向で半載した。掘り込みは浅いが、地山と覆土の境界は明瞭であることから、人為的な掘り込みであると判断した。

覆土は単層である。大粒のバミスを含む汚れた暗褐色土で、埋め戻しによる堆積であろう。

墳底・壁：平らであるが、東側が高い。壁はやや閉き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：出土していない。

性格：不明。 時期：不明。

(石井淳平)

P 156(図V-27 表1・2 図版94)

位置：H-20 規模：1.13m×0.95m/1.12m×0.98m/0.20m 平面形：楕円形 長軸方向：N-83°-E

確認・調査・土層：Ⅲ層中で検出した。当初はプランを円形と考えていたため、グリッドと平行に半載した。

覆土は全体的にバミスを多く含む。特に土層2はバミスを多く含む。バミスの混入量から考えて、土層2、3は埋め戻しによる堆積である可能性が高い。

墳底・壁：墳底はほぼ平らで、壁はほぼ垂直に立ち上がり、一部オーバーハングする。

遺物出土状況：覆土中から土器片やフレイク類を中心に多量の遺物が出土した。

出土遺物：IV群c類土器379点の他、IV群a類土器1点、VI群土器1点、石錐1点、スクレイパー2点、フレイク類64点、石斧1点、すり石1点、砥石1点、礫・礫片4点、土製品1点が出土した。

性格：墓の可能性と、ゴミ捨て穴の可能性があるが判断できない。

時期：IV群c類土器が多量に出土していることから、縄文時代後期後葉の可能性が高い。1点のみ出土しているVI群土器は周囲からの流れ込みによる混入であろう。

(石井淳平)

P 157(図V-27 図版94)

位置：G-6 規模：0.95m×0.66m/1.16m×0.85m/0.34m 平面形：不整楕円形 長軸方向：N-86°-E

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。黒褐色土が落ち込んだ楕円形のプランで、小型の墓墳の可能性があると予測して調査を開始した。長軸方向の南西-北東方向で半載した。

覆土はバミスを多く含む黒褐色土を主体とし、埋め戻しによる堆積に類似する。ただし、後述するように人為的な堆積ではなく、壁面の崩落土を含む自然堆積層の可能性が高い。

墳底・壁：墳底・壁ともに不整形で、凹凸多数。

遺物出土状況：出土していない。

性格：底面、壁面に細かい凹凸が多数見られ、人為的な掘り込みである可能性は低い。覆土はバミスを多く含んでおり、一見人為的な埋め戻しによる堆積に見えるが、穴の埋没過程で壁面の崩落などが起きたため、黒褐色土とバミスが混じり合った土層が形成されたものとする。P 154同様、立ち枯れた木の痕跡ではないかと考える。

時期：不明。

(石井淳平)

P158(図V-27 表1 図版94)

位置：H-6 規模：1.22m×0.79m/1.06m×0.62m/0.14m 平面形：隅丸長方形 長軸方向：N-59° -W

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。プランは東西方向に長い隅丸の長方形で、長軸に沿って東西方向に半載した。プランが調査区西側で検出された北大式期の土墳墓のそれと似ていることから、墓墳の可能性を考えたが、副葬品と考えられる遺物などは出土していない。

覆土はバミスが混入した黒褐色～暗褐色土を主体とする。埋め戻しによる堆積と判断した。

墳底・壁：墳底は平らで、壁は開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中で土器片3点が出土した。

出土遺物：IV群c類土器1点、VII群土器2点が出土した。

性格：不明。 時期：出土遺物からは特定できない。

(石井淳平)

P159(図V-27・35 表V-3 表1・2 図版94・128)

位置：H-7 規模：1.11m×0.76m/0.96m×0.57m/0.14m 平面形：楕円形 長軸方向：N-71° -W

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。長軸方向で半載した。墳底付近で土器が一括出土したため、出土状況を図化した後、取り上げた。墳底の形状から、当初は二つの遺構が切り合っているものかと考えたが、断面では確認できなかった。掘削当初から墳底面が二段であったと判断した。

覆土はバミスを多量に含む黒褐色土が主体で、埋め戻しによる堆積であろう。

墳底・壁：墳底は西側が一段低くなっている。壁は開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：墳底付近で堂林式の深鉢が出土した。出土レベルは墳底面ではなく、墳底から約5cmほど上である。その他土器片、フレイク類が少量出土した。

出土遺物：IV群c類土器が18点、フレイク2点が出土した。9・11は堂林式の口縁部片と胴部片で、同一個体の可能性が高い。胴部が丸く、頸部は短い。頸部との境界は強く屈曲する。こうした器形はホッケマ式のような後期中葉の土器に多くみられることから、堂林式の中でも古手に位置づけられる。口縁部には突瘤があり、頸部は横走沈線の上に鋸歯状の沈線文を施す。頸部と胴部の境界には幅の狭い無文帯が存在する。胴部は横走沈線によりいくつかの文様帯に区画され、上段は頸部の文様とよく似た鋸歯状の沈線文、下段は木葉形の沈線文を施す。

性格：不明。

時期：墳底付近で堂林式土器が出土していること、IV群c類土器が多く出土していることから縄文時代後期後葉である。

(石井淳平)

P160(図V-28・35 表V-3 表1・2 図版94・128)

位置：F-8 規模：1.36m×1.23m/0.93m×0.74m/1.18m 平面形：円形

確認・調査・土層：周辺は耕作のためIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。東西方向にセクションベルトを設定し、南側を半載した。断面図の作成、写真撮影の後、北側も掘り下げ

完掘した。

土層1、2は黒みが非常に強い黒色土で、それより下層ではローム、バミスが主体となる。埋め戻しによる堆積に似る。土層3以下は主に壁面の崩落により堆積したもので、土層1、2は周辺からの土砂の流入による堆積と考える。

墳底・壁：墳底、壁ともに不整形

遺物出土状況：覆土の上層で土器片、石斧、フレイク類が少量出土した。これらは周囲から流れ込んだものと考えられる。

出土遺物：Ⅲ群b類土器9点、石斧片1点、フレイク2点が出土した。12は東側路Ⅲ式～コックロ式の胴部片で、組紐圧痕文が押捺される。

性格：壁面墳底ともに細かい凹凸や横穴が無秩序に存在し、人為的に掘削された遺構の可能性は低いと考える。P154などと同じく、立ち枯れた木の痕跡ではないかと推測する。

時期：不明。

(石井淳平)

P161(図V-28・35 表V-3 表1・2 図版95・128・129)

位置：H-19・20 規模：1.34m×1.10m/0.90m×0.83m/0.15m 平面形：楕円形 長軸方向：N-9°-E

確認・調査・土層：Ⅱ層除去後のⅢ層中で検出した。遺構の中央を通るようにセクションベルトを設定し、掘り下げた。覆土の中位でⅢ群土器が出土したため、出土状況を図化し、写真撮影を行った後、取り上げを行い、完掘した。

覆土はバミスを多く含み、土質は均質である。埋め戻しによる堆積と判断した。遺物が墳底面ではなく覆土の中位から出土していることを考慮すると、埋め戻しの途中で土器が廃棄された可能性が高い。墳底・壁：墳底はほぼ平らで、壁は開きながら立ち上がる。

遺物出土状況：覆土の中位で、Ⅲ群土器の底部が出土した。その他、Ⅲ群土器の破片が多量に出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器110点、石鏃1点が出土した。13は静内中野式の口縁部片、14はⅢ群土器の胴部片である。15は萩ヶ岡2式の口縁部片で、突起部分は沈線と刺突が施される。突起の下には貼り付けと押し引きによる×字の文様が施文される。さらに下には半截竹管による沈線をはさみ、Y字状の貼り付けと押し引きが施される。16はⅢ群土器の底部で、結束羽状縄文が施される。18、19、17はⅢ群土器片である。

性格：不明。

時期：Ⅲ群土器が多量に出土していることから縄文時代中期である。

(石井淳平)

P162(図V-28 図版95)

位置：H-9 規模：0.37m×0.29m/0.25m×0.22m/0.06m 平面形：楕円形 長軸方向：N-63°-W

確認・調査・土層：周辺は耕作のためⅣ層まで削平されており、Ⅰ層除去後のⅣ層で検出した。東西方向にベルトを設定し、南側を半載した。断面図の作成、写真撮影の後、完掘した。周辺には規模や覆土の状況がよく似たP163～165が存在したため、完掘後の平面図作成、写真撮影はこれらと同時に行った。

覆土はバミスを少量含む黒褐色土が主体で、堅くしまっている。

墳底・壁：墳底はやや丸みをもち、壁は開きながら立ち上がる。

遺物出土状況：出土していない。

性格：不明。 時期：不明。

(石井淳平)

P 163(図V-28 図版95)

位置：I-9 規模：5.4m/0.44m/0.18m 平面形：円形

調査状況：周辺は耕作により削平されており、I層除去後のIV層で検出した。東西方向にセクションベルトを残し、南側を半載した。断面図の作成、写真撮影の後、完掘した。平面図作成、完掘写真の撮影はP 162、164、165と同時に行った。

覆土はバミスを多く含む黒色～黒褐色土主体で、埋め戻しによる堆積であろう。

墳底・壁：墳底はほぼ平らで、壁は開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：出土していない。

時期：不明。

(石井淳平)

P 164(図V-28 図版95)

位置：I-9 規模：0.69m×0.61m/0.47m×0.43m/0.10m 平面形：楕円形 長軸方向：N-24°-W

確認・調査・土層：周辺は耕作により削平されており、I層除去後のIV層で検出した。東西方向にセクションベルトを残し、南側を半載した。断面図の作成、写真撮影の後完掘した。平面図作成、完掘写真の撮影はP 162、163、165と同時に行った。

覆土はバミスを多く含む黒色～黒褐色土主体で、埋め戻しによる堆積であろう。

墳底・壁：墳底はほぼ平らで、壁は開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：出土していない。

性格：不明。

時期：不明。

(石井淳平)

P 165(図V-28 図版95)

位置：I-9 規模：0.75m×0.64m/0.48m×0.41m/0.16m 平面形：楕円形 長軸方向：N-84°-E

確認・調査・土層：周辺は耕作により削平されており、I層除去後のIV層で検出した。東西方向にセクションベルトを残し、南側を半載した。平面図作成、完掘写真の撮影はP 162～164と同時に行った。

覆土はバミスを多く含む黒色～黒褐色土主体で、埋め戻しによる堆積であろう。

墳底・壁：墳底は丸みをもち、壁は墳底との区別が判然としない。

遺物出土状況：出土していない。

性格：不明。

時期：不明。

(石井淳平)

P 166(図V-28・35 表V-3 表1・2 図版129)

位置：G-20 規模：1.12m×0.86m/1.04m×0.78m 平面形：楕円形 長軸方向：N-53°-E

確認・調査・土層：Ⅲ層調査中に遺構のプランを検出した。覆土中にⅡ群土器が一括廃棄されていたため、断面図の作成を断念し、土器を完全に確認できる深さまで遺構全体を掘り下げた。土器の出土状況の図化、写真撮影を行った後、取り上げを行い、完掘した。

覆土は暗褐色土を主体とし、パミスの混入は少ない。

墳底・壁：墳底はほぼ平らで、壁は開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：Ⅳ群 a 類土器が一括出土した。これらはすべて覆土の中位から出土しており、墳底で出土したものはない。遺構がある程度埋没した後に廃棄されたものであろう。

出土遺物：Ⅲ群土器 9 点、Ⅳ群 a 類土器 130 点、Ⅳ群 c 類土器 4 点、未分類土器片 4 点、フレイク 1 点が出土した。20はⅡ群土器の胴部片で、胎土に繊維を多く含む。

性格：不明である。出土した土器は遺構が埋没しなかったくぼみを利用して廃棄された可能性が高く、本遺構に直接伴うものではない。

時期：Ⅳ群 a 類土器が多量に出土していることから、後期前葉である。

(石井淳平)

P168(図V-29)

位置：H-10 規模：2.34m×1.78m/1.48m×0.97m/0.16m 平面形：不整楕円形 長軸方向：N-77° -E

確認・調査・土層：周辺は耕作のためⅣ層まで削平されており、Ⅰ層除去後のⅣ層で検出した。北東-南西方向にセクションベルトを残し、両側を掘り下げた。断面図、平面図の作成、および写真撮影の後、完掘した。

覆土は上層に黒色土、下層に明るい黒褐色土が堆積する。地山面と覆土との境界は明瞭で、人為的な掘り込みの可能性もあるが、平面形、断面形ともに不整形であることから、自然のくぼみである可能性もある。

墳底・壁：墳底は不整形で、墳底と立ち上がりの境界は判然とししない。

遺物出土状況：出土していない。

性格：自然のくぼみの可能性もある。

時期：不明。

(石井淳平)

P169(図V-29 表1・2 図版96)

位置：F-12 規模：1.50m×1.17m/1.56m×0.82m/0.76m 平面形：不整楕円形 長軸方向：N-85° -E

確認・調査・土層：周辺は耕作によりⅣ層まで削平されており、Ⅰ層除去後のⅣ層で検出した。東西方向にセクションベルトを設定し、南側を半截した。断面図の作成、写真撮影の後、反対側も掘り下げ完掘した。

土層 1・3は黒褐色土主体で、Ⅱ層起源の、周辺からの流れ込みによる堆積層である。土層 5～9はⅢ、Ⅳ層土主体のしまりのない層で、壁面の崩落土である可能性が高い。

墳底・壁：墳底は不整形で、壁には細かい凹凸が多数存在する。西側がオーバーハングする。

遺物出土状況：覆土上層で土器片、フレイク類が出土した。周囲からの流れ込みであろう。

出土遺物：Ⅳ群 c 類土器 15 点、Ⅶ群土器 17 点、フレイク 14 点が出土した。

性格：P154同様、立ち枯れた木の痕跡ではないかと考える。

時期：不明。

(石井淳平)

P170(図V-29・36・37 表V-3・4 表1・2 図版96・129・148)

位置：I-13 規模：1.26m×0.86m/1.06m×0.72m/0.10m 平面形：楕円形 長軸方向：N-89°-E

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。検出時のプランおよび、覆土の状況から、北大式期の土壌墓の可能性を想定し、調査を進めた。南北方向にセクションベルトを設定し、両側を掘り下げた。検出面からの深さは約10cmと浅く、副葬品と見られる遺物は出土しなかった。断面図の作成、写真撮影の後、ベルトを除去して完掘した。また、墳底近くで炭化物が出土したため、周囲の土壌ごと採取し、水洗選別を行った。

覆土は黒色～黒褐色土主体で、バミスを少量含む。埋め戻しによる堆積である可能性が高い。

墳底・壁：墳底はほぼ平らで、壁は開きながら立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中で土器片、フレイクを中心とした石器類が少量出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器21点、石鏃1点、フレイク20点が出土した。また墳底付近で炭化物を検出した。21は堂林式～御殿山式の胴部片、23はⅢ群土器の胴部片である。

石器～4は覆土中出土の石鏃で、有茎平基のものである。石材は黒曜石。

性格：不明

時期：Ⅲ群土器が最も多く出土しているが、時期を特定する根拠には出来ないと判断した。

(石井淳平)

P171(図V-29・36 表V-3 表1 図版96・129)

位置：H-13 規模：1.29m×1.07m/1.14m×1.08m/0.68m 平面形：楕円形 長軸方向：N-68°-W

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。検出時のプランおよび、覆土の状況から、北大式期の土壌墓の可能性を想定し、調査を進めた。東西方向にセクションベルトを設定し、南側を掘り下げた。墳底や壁には細かい凹凸が無秩序に存在し、墓壕である可能性は低いと判断した。断面図の作成、写真撮影の後、反対側を掘り下げて完掘した。

覆土は上層ほど黒色土に近く、最下層の土層7はほぼ純粋なロームである。土層2～6はバミスを多く含むIV層土主体の層で、壁面の崩落土に由来する。

墳底・壁：墳底は不整形で、壁には細かい凹凸が多数存在する。

遺物出土状況：覆土の中層から上層で土器片が出土した。周囲からの流れ込みの可能性が高い。

出土遺物：Ⅲ群土器16点、Ⅲ群c類土器7点が出土した。22、24は堂林式～御殿山式の胴部片である。

性格：P154などと同様、立ち枯れた木の痕跡ではないかと考える。

時期：不明。

(石井淳平)

P172(図V-29 表1・2 図版96)

位置：H-12 規模：1.00m/0.96m/0.43m 平面形：円形

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。東西方向にセクションベルトを設定し、南側を掘り下げた。断面図の作成、写真撮影の後、反対側を掘り下げ完掘した。

土層1は壁面の崩落土で、ほぼ純粋なIV層土である。土層3、4はローム主体の層で、壁面の崩落土である。土層2はくぼみに周囲のII層土が流れ込んだことにより形成された土層である。

墳底・壁：墳底はやや丸みをもち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：出土遺物の多くは土層2から出土しており、周辺から流れ込んだものと考え。

出土遺物：Ⅲ群土器20点、Ⅳ群c類土器1点、Ⅳ群土器1点、フレイク2点が出土している。

性格：P154同様、立ち枯れた木の痕跡ではないかと考える。

時期：不明。

(石井淳平)

P173(図V-29 表1 図版96)

位置：O-12 規模：1.03m×0.73m/0.88m×0.66m/0.16m 平面形：楕円形 長軸方向：N-39° -W

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。東側を半截し、土層の確認を行った。深さが10cmと浅かったため、幅約5cmのベルトを残し、反対側も墳底面まで掘り下げた。平面図、断面図の作成、写真撮影の後、ベルトを除去し完掘した。

覆土は炭化物やバミスを含む黒褐色土が主体で、埋め戻しによる堆積の可能性が高い。土器片も含まれていたが、多くは小片である。

墳底・壁：墳底はほぼ平らで、壁はやや開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中で土器片、フレイク類が少量出土した。

出土遺物：未分類土器4点、フレイク1点が出土した。土器片は焼成不良のため風化が著しいものが多い。時期は特定しにくい。Ⅲ群の可能性が高い。

性格：不明。墳底に幅2～3cm、長さ3～10cmの細かくばみが無数に存在する。掘り具の痕跡ではないかと推測する。

時期：出土遺物からは特定できない。

(石井淳平)

P174(図V-30 表1・2 図版96)

位置：N-13 規模：0.85m/0.71m/0.23m 平面形：円形

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。南側を半截し、断面の観察を行った。

覆土はバミスを含む黒褐色土が主体で、埋め戻しによる堆積と判断した。黄褐色土主体の土層3は周囲からの流れ込みまたは、壁面の崩落に由来する可能性もある。

墳底・壁：墳底は平らで、壁はやや開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土の上層で土器片、フレイク類が少量出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器2点、未分類土器1点、フレイク1点が出土した。

性格：不明。

時期：墳底付近で採取した土壌によるC14年代測定では、4190±40(yBP)という年代が算出されている。出土したⅢ群土器の年代とも矛盾せず、縄文時代中期後葉の年代が与えられる。(石井淳平)

P175(図V-30・36・37 表V-3・4 表1・2 図版97・129・148)

位置：N-13 規模：2.25m/1.66m/0.23m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上面を調査中に検出した。I層を除去した時点で、台石と思われる扁平な礫を確認しており、また、付近のⅡ層を掘り下げ中にもフレイクや縄文時代中期の土器片が出土していたことから遺構の存在を予想した。グリッドと平行するように十字のベルトを残して四分割し、掘り

下げた。覆土からは縄文時代中期と思われる土器片やフレイク類、少量の石器が含まれていた。自然の落ち込みと判断したため、セクション図は作成せず標高の測定のみにとどめた。

覆土は上下2層からなり、上層はバミスをはほとんど含まない黒色土、下層はローム主体で暗褐色土を含む。遺物は全て上層から出土している。

墳底・壁：墳底は丸みを持ち、立ち上がりは不明瞭で墳底と壁の区別は判然としなない。

遺物出土状況：土器片を中心に比較的多くの遺物が出土した。ほとんどが上層の黒色土からの出土である。

出土遺物：Ⅲ群土器64点、Ⅳ群c類土器15点、未分類土器26点、石鏃1点、フレイク171点、石皿・台石2点、礫・礫片2点が出土している。

土器～25はⅡ群土器の胴部片、26は糸市式の口縁部片である。

石器～3は覆土中出土の石皿片、石材は安山岩である。

性格：土壇の形状は不整形で、人為的な掘り込みの可能性は低いと考える。出土遺物が床面から一定の高さを保って出土していることから、本遺構がある程度埋没した後これら遺物が廃棄されたものとする。

時期：出土土器の中ではⅢ群土器が最も古いことから、遺構の掘削は縄文時代中期以前である。

(石井淳平)

P176(図V-30 表1 図版97)

位置：P-13 規模：0.89m×0.63m/0.74m×0.45m/0.19m 平面形：不整形円形 長軸方向：N-79° -E

調査状況：周辺は耕作のためⅣ層まで削平されており、1層除去後のⅣ層で検出した。短軸方向に幅5cmのセクションベルトを設定し、両側を半載した。断面図作成、写真撮影の後、完掘した。

覆土は上下2層に分層した。上層の土層1はⅡ層が落ち込んだ自然堆積層である。下層の土層2は粒の細かいロームを含み、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性はある。

墳底・壁：墳底はほぼ平らで、壁はやや開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中で土器片が少量出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器6点が出土している。

性格：不明。

時期：出土遺物からは特定できない。

(石井淳平)

P177(図V-30 表1・2 図版97)

位置：P-13 規模：2.24m×1.66m/1.39m×0.89m/0.17m 平面形：楕円形 長軸方向：N-35° -E

確認・調査・土層：Ⅱ層の調査中に土器片が集中的に出土したため、遺構の存在を予測した。周辺を精査し、遺構のプランを確認した。長軸方向にトレンチを設定し、断面観察を行った。その後、幅10cmのベルトを残して全体を掘り下げた。

覆土は黒色土主体で、周辺のⅡ層土と同じ土質である。自然堆積であろう。

墳底・壁：墳底は全体的に丸みを持ち、凹凸がある。立ち上がりは不明瞭で、墳底と壁の区別は判然としなない。

遺物出土状況：Ⅲ群土器片を中心に、多量の遺物が出土した。これらは墳底から数cm浮いた状態で出

土している。

出土遺物：Ⅲ群土器93点、未分類土器2点、フレイク2点、礫・礫片1点が出土している。

性格：平面、断面の形状からは人為的な掘り込みである可能性は低い。出土遺物が墳底面ではなく、若干上層から出土していることから、自然のくぼみを利用して遺物が廃棄されたものと考える。

時期：Ⅲ群土器がまとまって出土しており、掘削は中期後葉かそれ以前である。（石井淳平）

P178(図V-30 図版97)

位置：R-12 規模：0.82m×0.67m/0.62m×0.53m/0.09m 平面形：不整形円形 長軸方向：N-73° -W

確認・調査・土層：周辺は耕作によりIV層まで削平されており、I層除去後のIV層で検出した。検出時には長径2m以上の不整形のプランとして確認したため、複数の遺構が切り合っているものと予測した。遺構の斬り合い関係を平面で確認するため、全体を削って精査したところ、覆土と予想していた大部分は上面を浅く覆っているのみで、これを取り除くと長径1m弱の楕円形のプランが残った。東西方向に幅約5cmのベルトを残し、両側を掘り下げた。断面図、平面図作成、写真撮影の後、セクションベルトを除去し完掘した。また、セクションベルト内墳底付近の土壌をC14年代測定試料として採取した。

覆土はバミスを多く含む、堅くしまっている。覆土にバミスを多く含むことから、埋め戻しによる堆積であると判断した。

墳底・壁：墳底はほぼ平らで、壁はやや開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：出土していない。

性格：不明。

時期：墳底付近で採取した土壌によるC14年代測定の結果では、4210±40(yBP)という値が算出されており、縄文時代中期後葉に位置づけられる。（石井淳平）

P180(図V-30 表1・2 図版97)

位置：H-16 規模：2.55m×1.68m/2.36m×1.41m/0.25m 平面形：楕円形 長軸方向：N-64° -W

確認・調査・土層：Ⅲ層調査中に検出した。大型の墓墳または、小型の竪穴式住居である可能性を予想し、調査を開始した。長軸がグリッドにはほぼ平行するため、グリッドに沿って十字にセクションベルトを設定し掘り下げた。南北方向の壁面で、断面図の作成、写真撮影を行った後、セクションベルトを除去した。

覆土は土層1～4が黒色土主体、土層5、6がⅢ、IV層土を起源とする暗褐色～黄褐色土主体で、全体的にバミスを多く含む。薄い層が幾層も重なって堆積していることから、自然堆積によるものと考えられる。

墳底・壁：墳底は平らで、壁は開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中から土器片、フレイクが少量出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器5点、IV群c類土器3点、フレイク2点が出土した。

性格：不明。

時期：Ⅲ群土器、IV群c類土器がそれぞれ7点ずつ出土しているが、これらの出土遺物からは判断できない。（石井淳平）

P 181(図V-31・37 表V-4 表1・2 図版98・148)

位置：N-15 規模：3.14m×2.39m/2.98m×2.24m/0.12m 平面形：楕円形 長軸方向：N-5°-E

確認・調査・土層：I層除去中に縄文時代中期中葉の土器片が集中的に出土した。I層除去後、土器の分布範囲を精査したところ、長径約3mの楕円形のプランを確認した。長軸に沿ってセクションベルトを設定し、西側にサブトレンチを掘削し断面の観察を行った。断面観察の結果、本遺構を切ってP183が掘り込まれていることが判明したため、P183の調査を先行して行い、その後P181の調査を行った。覆土中でやや大きな破片の土器が出土したため、主なものは地点を計測し、取り上げた。

覆土はバミスの混入が少なく、II層土に似る。人為的な埋め戻しによる堆積ではなく、自然堆積によるものであろう。

竪底・壁：竪底はほぼ平らで、壁は開き気味に立ち上がる。

重複・新旧関係：P183に切られる。

遺物出土状況：土器片、フレイク類を中心に多量の遺物が出土した。土器片は破片の大きなものが多い。竪底付近から出土したものはわずかで、多くの遺物は竪底から10cmほど高い位置で出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器が95点、石鏃1点、Rフレイク1点、フレイク類106点、礫・礫片1点が出土した。石器～5は三角形形状平基の石鏃。石材は黒曜石である。

性格：人為的な掘り込みか自然のくぼみかは判断できない。出土遺物が竪底面ではなく、若干上層から出土していることから、本遺構の埋没がある程度進んだ時点で、遺物が廃棄されたものと考えられる。

時期：Ⅲ群土器が大量に出土しているが、遺構の構築時期は出土遺物の時期より若干さかのぼる可能性がある。(石井淳平)

P182(図V-31 表1 図版97)

位置：X-11 規模：0.97m/0.86m/0.20m 平面形：円形

確認・調査・土層：沢2の落ち込み際で検出した。東側を半載し、断面の観察を行った。断面図の作成、写真撮影の後、西側も掘り下げて完掘した。

覆土は黒色土主体で、しまりが無い。バミスが少量混入していること、堆積が互層になっていないことから埋め戻しによる堆積の可能性がたかい。

竪底・壁：竪底は平らで、壁はやや開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中で少量の土器片が出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器9点、IV群c類土器2点が出土した。

性格：不明。

時期：Ⅲ群土器が最も多く出土しているが、IV群c類土器も2点出土していることから、これらの出土遺物からは判断できない。(石井淳平)

P183(図V-31・36 表V-3 表1・2 図版98・129)

位置：M・N-15 規模：1.44m×0.88m/0.98m×0.62m/0.22m 平面形：不整楕円形 長軸方向：N-70°-W

確認・調査・土層：P181竪底面の南側で検出した。断面の観察からP181を切って掘り込まれていると判断した。P181と完全に重複するため、検出時にはその存在に気づかなかったが、P181のために設定したセクションベルトが、本遺構のほぼ中央を通っており、このセクションベルトの観察により

本遺構の存在を確認した。主な出土遺物は地点を計測して取り上げを行い、まとめて出土した土器片は出土状況図を作成した。断面図の作成、写真撮影はP181と同時にいった。

覆土はバミスの混入が少なく、自然堆積による可能性が高い。

墳底・壁：墳底は丸みをもち、壁は開きながら立ち上がる。

重複・新旧関係：P181を切る。

遺物出土状況：Ⅲ群土器、フレイク類が多量に出土した。墳底より5～10cm程度浮いた状態で出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器134点、未分類土器29点土器、Rフレイク1点、フレイク44点出土した。27はⅢ群土器の胴部片、28は天神山式で、突起から垂下する貼り付けをもつ。貼り付けの両側には竹管状工具による刺突が連続的に押される。口縁に沿って押し引き文がめぐる。

性格：出土遺物が墳底面ではなく、若干上層から出土していることから、これらの遺物は本遺構に直接伴うものではないと考える。遺構の埋没がある程度進んだ時点で、遺物が廃棄されたものであろう。

時期：時期のわかる遺物は全て縄文時代中期後葉のⅢ群b類土器であるが、遺物の出土状況から、掘削の時期はこれよりさかのぼる可能性がある。
(石井淳平)

P184(図V-31 表1・2 図版98)

位置：Q-14 規模：0.82m/0.75m/0.25m 平面形：円形か隅丸正方形

確認・調査・土層：TP5の北側に検出した。新旧関係は、TP5がP184の墳壁の一部を切っており、TP5より古いと判断した。墳底面に直径0.37m、深さ0.04mの円形土壇を検出した。断面から、付属する小ピットであると判断した。

土壇覆土は概ね自然な堆積を示すが、小ピットの覆土は保水性の強い黒色を呈している。

墳底・壁：墳底面は中央から墳壁に向かって緩やかに上がる。壁はやや不整形であるが概ね急な立ち上がりである。

重複・新旧関係：TP5に切られる。

遺物出土状況：墳底および覆土中で土器片、フレイク類が出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器3点、フレイク2点が出土した。

性格：不明。

時期：出土遺物からは判断できず、TP5の構築時期も不明であることから遺構の新旧関係により時期を特定することは出来ない。
(石井淳平)

P185(図V-31・37 表V-4 表1・2 図版148)

位置：I-17 規模：1.03m/0.83m/0.22m 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅲ層掘り下げ中に検出した。南北方向にセクションベルトを残し、両側を掘り下げた。断面図の作成、写真撮影の後、セクションベルトを除去し、完掘した。

覆土はバミスを多く含む黒色～暗褐色土である。土層2～3は埋め戻しによる堆積の可能性が高い。

土層1は遺構が埋め戻された後、くぼみにⅡ層土が堆積したものである。

墳底・壁：墳底は平らで、壁は開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中で土器片、フレイクなどが少量出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器2点、石鏃1点、フレイク7点が出土した。

石器～6は覆土中出土の有茎平基の石鏃で、石材は黒曜石。被熱している。

性格：不明。

時期：不明。

(石井淳平)

P 186(図V-31 表1・2)

位置：N-16 規模：0.69m/0.63m/0.21m 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅲ層上面で検出した。プランはほぼ円形で、東西方向にセクションベルトを設定し、半載した。墳底面付近で、直径約20cmの円礫を検出した。周辺の包含層にはこのような円礫が存在しないことから、意図的に埋納された可能性が高い。

覆土は軟質で黒色土を主体とする。Ⅱ層起源の土が流入した自然堆積層の可能性もあるが、断面の観察ではⅡ層土が流入した状況が確認できなかったこと、円礫が埋納されていることなどから、埋め戻しによる堆積の可能性が高い。

墳底・壁：墳底は平らで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中位で円礫が出土したほか、土器片、フレイクが少量出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器1点、Ⅳ群c類土器12点、未分類土器9点、フレイク5点、礫・礫片1点が出土した。

性格：不明。

時期：時期のわかる遺物のうちⅢ群b類土器1点を除き、全てⅣ群c類土器であることから縄文時代後期後葉の可能性が高い。

(石井淳平)

P 187(図V-32 表1・2)

位置：C-17 規模：0.84m/0.82m/0.29m 平面形：円形

確認・調査・土層：周辺は耕作のためⅣ層まで削平されており、Ⅰ層除去後のⅣ層で検出した。東西方向にセクションベルトを設定し、南側を半載した。断面図の作成、写真撮影の後、完掘した。

覆土は砂粒を多く含む黒褐色土が主体で、埋め戻しによる堆積である。

墳底・壁：墳底は平らで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中から土器片、フレイクが少量出土した。

出土遺物：Ⅳ群c類土器8点、フレイク8点が出土した。

性格：覆土と地山の境界が明瞭で、鉄製の鋸などの鋭い刃をもつ道具で掘られた可能性が高い。近現代の土壌である可能性も高いが、出土した遺物に新しい時期のものは含まれていない。

時期：出土遺物からは縄文時代後期後葉の時期が考えられるが、砂粒を多く含む覆土は他の縄文時代の遺構にはみられないもので、近現代に構築された可能性もある。

(石井淳平)

P 188(図V-32・36 表V-3 表1・2 図版130)

位置：C-17 規模：0.75m/0.69m/0.27m 平面形：円形

確認・調査・土層：周辺は耕作のためⅣ層まで削平されており、Ⅰ層除去後のⅣ層で検出した。東西方向にセクションベルトを設定し、南側を半載した。断面図の作成、写真撮影の後、完掘した。

覆土は砂粒を多く含む黒褐色土が主体で、埋め戻しによる堆積である。

墳底・壁：墳底は平らで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中から土器片、フレイクが少量出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器1点、Ⅳ群c類土器23点、フレイク1点が出土した。29は御殿山式の口縁部片で、爪形文をもつ。

性格：覆土と地山の境界が明瞭で、鉄製の鋤などの鋭い刃をもつ道具で掘られた可能性が高い。近現代の土壌である可能性が高いが、出土した遺物に新しい時期のものは含まれていない。P187と覆土の状況、平面形が似ており、近い時期に構築された同種の遺構の可能性が高い。

時期：出土遺物からは縄文時代後期後葉の時期が考えられるが、砂粒を多く含む覆土は他の縄文時代の遺構にはみられないもので、近現代に構築された可能性もある。（石井淳平）

P189(図V-32・36 表V-3 表1・2 図版98・130)

位置：U-14・15 規模：(4.12m)×3.41m/(3.73m)×2.91m/0.29m 平面形：不整楕円形 長軸方向：N-35°-W

調査状況：調査区東壁付近のⅢ層中で検出した。当初はキトウシュメンナイ川に流れ込む小規模な沢頭と考えていた。長軸方向に沿ってトレンチを設定し、サブトレンチを設け土層の観察を行った。その結果、地山と覆土の境界が明瞭であることから、遺構であると判断した。幅10cmのベルトを残して掘り下げた。覆土は自然堆積層の可能性が高いと上層と、埋め戻しによる堆積の可能性が高い下層からなり、出土遺物の取り上げはこの2層を区別して行った。床面を精査したところいくつかの柱穴を検出したが、本遺構にともなうものかどうかは不明である。

土層1～4は本遺構を切って掘り込まれる別の遺構の覆土である。土層5～8が本遺構の覆土で、土層5は自然堆積層、それ以下は埋め戻しによる堆積である。

竪底・壁：竪底は丸みをもち、細かい凹凸が存在する。壁は開きながら立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中から土器片、石器類が少量出土した。

出土遺物：Ⅱ群土器3点、Ⅲ群土器28点、未分類土器2点、スクレイパー2点、フレイク14点、石斧1点、石皿・台石1点、礫・礫片1点が出土した。土器～30は静内中野式の口縁部片で、内面にも縄文が施される。

性格：本遺構は竪穴式住居の可能性も考えられるが、床面が平らでないこと、支柱と認定できる柱穴を検出できなかったことなどから、竪穴式住居とは認定せず土壌として扱った。

時期：出土土器の主体がⅢ群土器であることから、縄文時代中期の可能性が高い。（石井淳平）

P190(図V-32 表1・2)

位置：C-18 規模：1.15m×0.98m/1.10m×0.88m/0.08m 平面形：楕円形 長軸方向：N-11°-E

確認・調査・土層：Ⅲ層上面で楕円形のプランを確認した。長軸方向に沿って、幅5cmのセクションベルトを設定し、両側を掘り下げた。断面図の作成、写真撮影の後、完掘した。

覆土はバミスを少量含む黒色土が主体である。埋め戻しによる堆積か、自然堆積かは判断できなかった。

竪底・壁：竪底は平らで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中から土器片、フレイクを中心とした石器類が少量出土した。

出土遺物：Ⅳ群c類土器17点、石錐1点、フレイク15点が出土した。

性格：不明。

時期：出土土器が全てⅣ群c類土器であることから縄文時代後期後葉の可能性が高い。（石井淳平）

P193(図V-32・36 表V-3 表1・2 図版130)

位置：H-17 規模：0.78m/0.72m/0.30m 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅲ層調査中に検出した。東西方向にセクションベルトを設定し、南側を半載した。断面図の作成、写真撮影の後、完掘した。北側を掘り下げ中に、長径約20cmの長方形の礫を検出した。石皿または台石の可能性があったが、取り下げ後の観察では加工痕、使用痕は確認できなかった。出土状況図作成後、廃棄した。

覆土はバミスをほとんど含まない黒色土で、埋め戻しによる堆積か、自然堆積かは判断できなかった。墳底・壁：墳底は平らで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中で長径約20cmの長方形の礫が出土したほか、土器片、石器類、礫が出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器1点、Ⅳ群c類土器32点、Ⅵ群土器1点、石鏃2点、Rフレイク1点、フレイク11点、礫・礫片9点が出土した。土器～31・32・33・34は堂林式～御殿山式の破片で、33は口縁端部に爪形文をもつ。34は爪形文と突瘤をもつ。

性格：不明。

時期：1点だけ出土しているⅥ群土器を周囲からの流れ込みによる混入と理解すると、Ⅳ群c類土器が多く出土していることから、縄文時代後期後葉である。

(石井淳平)

P194(図V-32 表1)

位置：R-14 規模：0.67m/0.51m/0.31m 平面形：円形

確認・調査・土層：X4の周溝範囲内に検出したが、切り合う部分が無く新旧関係等は不明である。確認面はX4が不明瞭であるのに対し、P194は明瞭な円形を呈す。周囲の周溝のある墓が、周溝と墓墳の底面レベルが大差ないことから同時の遺構ではないと推測する。

覆土は部分的に木根攪乱されているが、土層1、2は自然堆積と判断できる。土層5は砂質が強い。

墳底・壁：墳底は平坦で、壁はやや不整であるが、概ね急な立ち上がりである。

遺物出土状況：覆土中から土器片が少量出土した。

出土遺物：未分類土器2点が出土した。

性格：不明。時期：不明。

(石井淳平)

P195(図V-33・36 表V-3 表1・2 図版99・130)

位置：H-21 規模：1.12m×0.86m/1.04m×0.78m/0.17m 平面形：楕円形 長軸方向：N-30° - W

確認・調査・土層：Ⅳ層上面で検出した。短軸方向に幅約5cmのセクションベルトを設定し、両側を掘り下げた。断面図、平面図の作成、写真撮影の後、完掘した。

覆土はバミスを多く含む黒色土である。多量のバミスを均質に含むことから、埋め戻しによる堆積であろう。

墳底・壁：墳底は平らで、壁は開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中から細かく破砕された土器片が多量に出土した。

出土遺物：Ⅱ群土器1点、Ⅲ群b類土器2点、Ⅳ群c類土器218点、Ⅵ群土器1点、石鏃1点、フレイク29点が出土している。Ⅳ群c類土器は細かく破砕された状態で出土している。土器～35、36、37、38、39は堂林式～大洞B C式並行で、35は堂林式～御殿山式、36は御殿山式～大洞B C式並行の鉢又は蓋・注口である。37、38、39は御殿山式の口縁部片で、爪形文や突瘤が施される。37は突起が残存

し、突起部分は刻みが施される。

性格：細かく破砕された土器片が多量に出土していること、埋め戻されていることからゴミ捨て穴であると考えられる。

時期：IV群c類土器が多量に出土していることから、縄文時代後期後葉である。1点だけ出土しているVI群土器を流れ込みによる混入であろう。(石井淳平)

P196(図V-33・36 表V-3 表1・2 図版99・130)

位置：H-22 規模：2.06m×1.64m/1.86m×1.48m/0.07m 平面形：楕円形 長軸方向：N-18° -W

確認・調査・土層：IV層で検出した。短軸方向に幅約10cmのセクションベルトを設定し、両側を掘り下げた。断面図、平面図の作成、写真撮影の後、セクションベルトを除去し、完掘した。

覆土は黒色土主体でパミスをやや多く含むが、周囲のII層土と土質がよく似ることから、自然堆積である可能性が高い。

墳底・壁：墳底は平らで、壁は開きながら立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中で土器片、石器類が少量出土した。周辺の包含層からの流れ込んだものである。

出土遺物：III群土器4点、IV群c類土器15点、石鏃1点、フレイク2点、礫・礫片2点が出土した。土器～40は静内中野式の胴部片で、内面にも縄文が施文される。41は堂林式～御殿山式の胴部片で突瘤をもつ。

性格：不明。

時期：IV群c類土器が最も多く出土しているが、土壌の埋没が自然堆積であるとするところこれらの遺物は時期を決定する根拠にはできない。(石井淳平)

P197(図V-33・36 表V-3 表1 図版99・130)

位置：I-22 規模：1.57m×1.10m/1.29m×0.78m/0.22m 平面形：楕円形 長軸方向：N-27° -W

確認・調査・土層：IV層で検出した。短軸方向にセクションベルトを設定し、両側を掘り下げた。断面図、平面図の作成、写真撮影の後、セクションベルトを除去し、完掘した。

覆土はパミスを多く含む黒褐色土主体で埋め戻しによる堆積と考える。

墳底・壁：墳底は丸みをもち、壁は開きながら立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中から土器片が少量出土した。

出土遺物：IV群c類土器10点が出土した。土器～42、43は御殿山式で、42は爪形文をもち、43は口縁端部に爪形文、外面に突瘤をもつ。

性格：不明。

時期：出土遺物からは縄文時代後期後葉の可能性が高い。(石井淳平)

P198(図V-33・36 表V-3 表1・2 図版99・130)

位置：E-20 規模：1.97m×1.49m/1.92m×1.43m/0.17m 平面形：楕円形 長軸方向：N-23° -W

確認・調査・土層：III層調査中に検出した。II層の掘り下げを行っている時点で、直径約30cmの扁平

な礫を確認しており、遺構の存在が予測できた。短軸方向にセクションベルトを設定し、両側を掘り下げた。墳底付近から遺物は出土せず、断面図、平面図の作成、写真撮影の後、セクションベルトを除去し、完掘した。

覆土は黒褐色土主体で、バミスを多く含む。

墳底・壁：墳底は平らで、壁は開き気味に立ち上がる。

重複・新旧関係：H8に切られる。

遺物出土状況：覆土の上層で偏平な礫が出土したが、加工痕、使用痕は見られない。遺構の埋没がある程度進んだ段階で廃棄されたもので、本遺構とは直接的な関係はないものとする。他に、土器片、フレイクが少量出土した。

出土遺物：Ⅲ群土器11点、Ⅳ群c類土器1点、フレイク2点、礫・礫片1点が出土した。

土器～44はⅢ群土器の胴部片で、結束羽状縄文が施される。45は網文式の胴部片である。

性格：不明。

時期：出土土器の主体をⅢ群土器がしめることから、縄文時代中期である。 (石井淳平)

P199(図V-33・38 表V-4 表2 図版99・149)

位置：J-15 規模：1.52m×1.18m/1.33m×0.92m/0.26m 平面形：不整楕円形 長軸方向：N-50° -E

確認・調査・土層：H10の検出作業中に確認した。周辺のⅡ層からは、石斧・石鏃、スクレイパー類がまとまって出土していた。これらの石器はH10に伴うものと考えていたが、H10の黒色土を除去し、暗褐色の覆土の上面を精査中に、黒色土を主体とする落ち込みを確認した。上面で出土していた石器類の出土状況を図化した後、短軸方向で半載した。墳底は平らで、壁面の立ち上がりも明瞭であったため、遺構と認定した。幅約10cmのセクションベルトを残し、反対側の掘り下げも行った。石器類の出土状況を図化した後、取り上げを行った。断面図、平面図の作成、写真撮影の後、セクションベルトを除去し、完掘した。

覆土は黒色土を主体とする。バミス、ロームを多量に含むことから埋め戻しによる堆積であろう。

墳底・壁：墳底は平らで、壁はやや開き気味に立ち上がる。

重複・新旧関係：H10を切って掘り込まれる。

遺物出土状況：石器のみがまとまって出土した。特に石斧が集中して出土しており、意図的に埋納された可能性が高い。

出土遺物：石槌又はナイフ2点、石鏃1点、つまみ付きナイフ3点、スクレイパー1点、Rフレイク3点、フレイク8点、原石2点、石斧10点、礫・礫片2点が出土した。

石器～7は長身の石鏃で、石材は黒曜石。8・9は有茎の石槌で、8の突頭部は欠損する。石材はともに頁岩である。10・11はつまみ付きナイフである。10は片面全面加工のもので、11は破損品である。石材はともに頁岩である。12～19は全面磨製の石斧で、石材はすべて緑色泥岩である。7～19は覆土中からの出土である。

性格：定型的な石器がまとまって出土し、破損していないものも多いことから、不要になった石器類を廃棄したものではないようである。埋納遺構の一種と考える。

時期：時期のわかる遺物は出土していないため、不明である。 (石井淳平)

P191(図V-34 表1・2 図版98)

位置：G-16 規模：1.06m/0.91m 平面形：楕円形 長軸方向：N-43° -W

確認・調査・土層：H7上面を精査中に検出した。平面の観察ではH7に切られており、H7の調査を先行して行った。

覆土はバミスを少量含む黒色土が主体で、埋め戻しによる堆積か、自然堆積かは判断できなかった。

城底・壁：城底はほぼ平らで、壁は開きながら立ち上がる。

重複・新旧関係：H7に切られる。

遺物出土状況：覆土中から土器片、フレイクが出土した。

出土遺物：Ⅱ群土器2点、Ⅲ群土器1点、Ⅳ群c類土器6点、Rフレイク1点、フレイク1点が出土した。

性格：不明。

時期：H7に切られることから縄文時代中期以前である。

(石井淳平)

P192(図V-34 図版98)

位置：F-16 規模：2.50m/2.26m/0.19m 平面形口：楕円形 長軸方向：N-40° -E

確認・調査・土層：H7上面を精査中に検出した。平面の観察ではH7に切られており、H7の調査を先行して行った。H7に設定した十字のセクションベルトを延長し、断面の観察、切り合いの確認を行った。覆土はバミスを少量含む黒色土が主体で、埋め戻しによる堆積か、自然堆積かは判断できなかった。

城底・壁：城底はほぼ平らで、壁は開きながら立ち上がる。

重複・新旧関係：H7に切られる。

遺物出土状況：出土していない。

性格：不明。

時期：H7に切られることから縄文時代中期以前である。

(石井淳平)

P201(図V-34 表1 図版88)

位置：S-10 標高24.70m付近 規模：1.00m×0.34m/0.65m×0.30m/0.30m 平面形：楕円形 長軸方向：N-59° -E

確認・調査・土層：H3の土層観察用土手の断面によってH3を切っている黒褐色土の落ち込みを検出する。覆土は上層が黄色土と灰色粘土を少量混入する黒褐色土、下層は暗褐色土と黄色土がまじり合ったもので、埋め戻し状の土である。

城底・壁：城底はIV層中にあり、断面は碗状である。

遺物出土状況：覆土中から土器片が6点出土している。

性格：不明。

時期：H3を切って構築しており、縄文時代の遺構と思われる。

P220(図V-34 表1 図版100)

位置：X-11 標高24.45m付近 規模：0.76m×0.62m/0.55m×0.40m/0.10m 平面形：楕円形 長軸方向：N-37° -W

確認・調査・土層：I層を除去し、IV層上面付近で暗褐色土の落ち込みを検出する。半載し、覆土を

約10cm程掘り下げ、暗灰黄色土の壙底面と壁の立ち上がりを検出する。覆土は黄色土まじりの暗褐色土である。

壙底・壁：IV層を浅く掘り込んでいる。平坦であるが北西側へやや傾き、軟質。立ち上がりはゆるやかである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：不明。

時期：縄文時代。

P 221(図V-34 表1・2 図版100)

位置：X-11 標高24.50m付近 規模：0.96m×0.75m/0.68m×0.51m/0.26m 平面形：楕円形状 長軸方向：N-45° -W

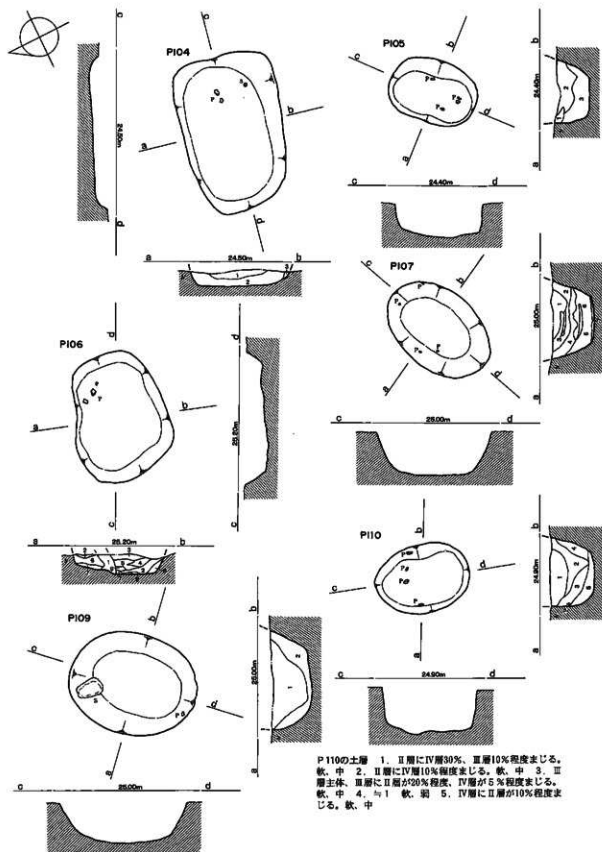
確認・調査・土層：Ⅲ層上面付近で暗褐色土の落ち込みを検出する。半截し調査を行う。覆土を約26cm程掘り下げ暗灰黄色土の壙底面と壁の立ち上がりを検出する。覆土は上層が暗褐色土、下層は褐色土と黄色土のまじり合った軟質の土である。

壙底・壁：IV層中にあり、北西へゆるやかに傾斜し、平坦で軟質である。立ち上がりは全体的に急傾斜である。

遺物出土状況：出土遺物総数は64点である。この内訳は土器が7点、石器などは57点である。遺物は覆土上層から出土したものである。出土土器はⅢ群土器3点、石器はフレイク57点出土している。

性格：不明。

時期：出土遺物などから見てⅢ群土器を伴う縄文時代中期のものと思われる。

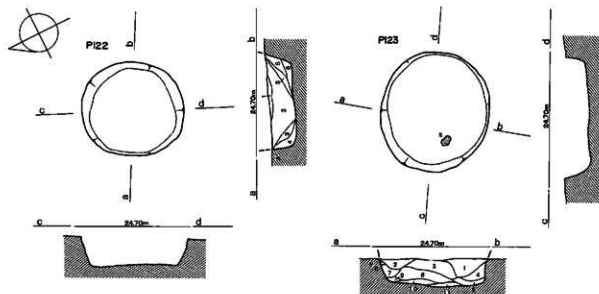


P110の土層 1. II層にIV層30%、III層10%程度まじる。軟、中 2. II層にIV層10%程度まじる。軟、中 3. III層主体、II層にII層が20%程度、IV層が5%程度まじる。軟、中 4. 弱 5. IV層にII層が10%程度まじる。軟、中

P109の土層 1. II層にIV層軽石40%程度まじる。軟、弱 2. IV層主体(軽石含む) 堅、中

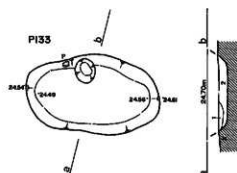
図V-25 土壌(1)



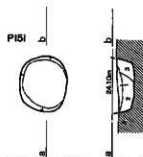


P122の土層 1. 暗褐色土(礫石微量混入、堅い) 2. 黒褐色土(礫石、粘土粒微量混入) 3. 2より黄色土 4. 4より3より黄色土多く、ボソボソ) 5. 黄灰色砂質土 6. 黒褐色土(軟質)

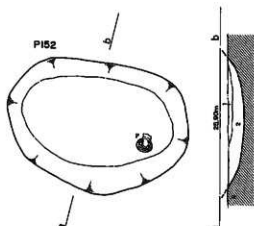
P123の土層 1. 黒褐色土(礫石、灰色粘土粒少量混入) 2. 4より1より軟質で、礫石、粘土粒少ない) 3. 褐色土より灰色土 4. 明褐色土より礫石(1より黒っぽく、軟質) 5. 4より1より黒っぽく、軟質) 6. 2より7. 4より3より灰色土多い) 8. 4より7より灰色土多い) 9. 黒褐色土より7. 10. 7より5



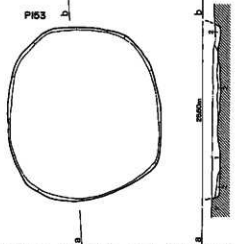
P133の土層 1. IVまたはII層主体(IV層に互層40%程度まじる) 堅、中 2. II層主体、IIにIV層礫石2%程度まじる。軟、中



P151の土層 1. 10YR1.7/1 黒褐色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)少量含む 2. 10YR2/2 黒褐色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径10~20mm)20~30%含む 3. 10YR1.7/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)10%含む



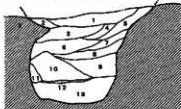
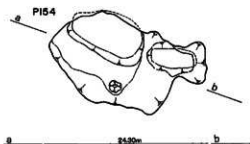
P152の土層 1. 10YR2/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径1~3mm)1%含む 2. 10YR2/2 黒褐色土 堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径1mm)1%、ローム粒(径10mm)少量含む



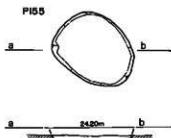
P153の土層 1. 10YR1.7/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径3mm)2%含む 2. 10YR3/3 暗褐色土 堆積土 粘性弱 堅 II層土主体でパミス(径3mm)3%含む



図V-26 土坑(2)



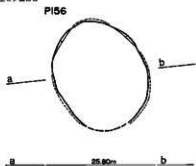
P154の土層 1. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)少量含む 2. 10YR3/4 暗褐色土 埴壤土 粘性弱 堅 暗褐色土を含む厚層土主体 3. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径4~10mm)10%含む 4. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)少量含む 5. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)10~20%含む 6. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)10~20%含む 7. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)1%含む 8. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)10~20%含む 9. 10YR3/4 暗褐色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10~20mm)30%含む 10. 10YR5/4 褐色土 埴壤土 粘性弱 堅 暗褐色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10~20mm)30%含む 11. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10~20mm)5%含む 12. 10YR2/3 暗褐色土 埴壤土 粘性弱 堅 13. 10YR4/4 褐色土 埴壤土 粘性弱 堅 暗褐色土主体で暗褐色土を少量含む



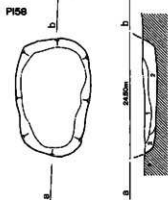
P155の土層 1. 10YR3/2 黒褐色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(粒形保たない)20~30%



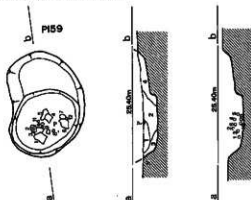
P157の土層 1. 10YR3/4 暗褐色土 埴壤土 粘性弱 堅 重層土主体でパミス(径2~3mm)少量含む 2. 10YR3/4 暗褐色土 埴壤土 粘性弱 堅 重層土主体でパミス(径3~5mm)1%含む 3. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5~15mm)30%含む 4. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)1%含む 5. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性中 堅 パミス含まない 6. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)5~7%含む 7. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(粒形保たないもの多い)30~40%含む 8. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス、ロームのブロック(径30~50mm)50%含む



P156の土層 1. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)1%含む 2. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10~15mm)10%含む 3. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径2mm)2%含む

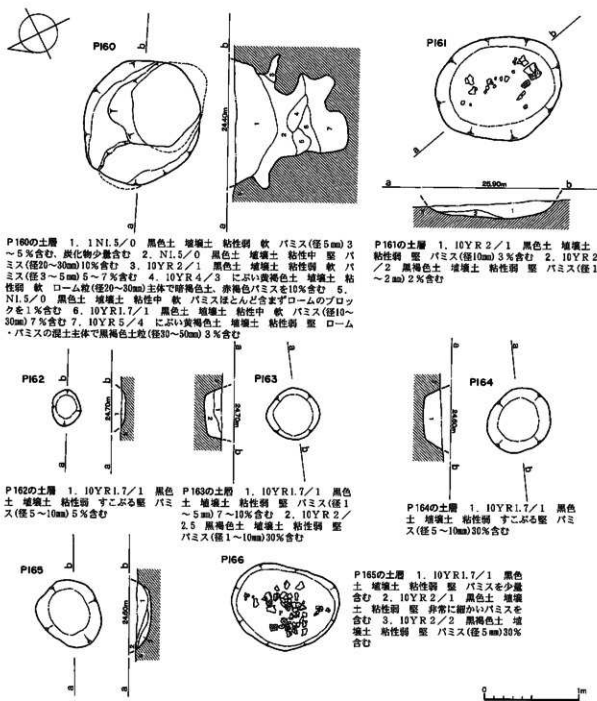


P158の土層 1. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径<1mm)少量含む 2. 10YR2/2 黒褐色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3~10mm)5~10%含む 3. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1~3mm)1~2%含む

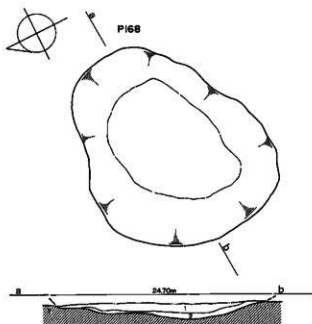


P159の土層 1. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径<1mm)少量含む 2. 10YR2/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5~20mm)25~30%含む 3. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10~20mm)5~10%含む 4. 10YR1.7/1 黒色土 埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)5%含む

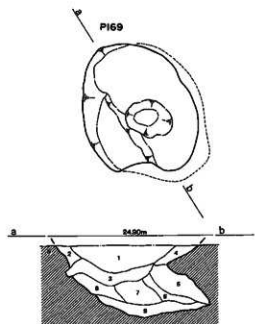
図V-27 土坑(3)



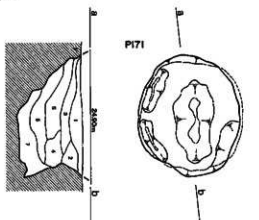
図V-28 土坑(4)



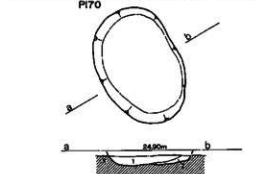
P168の土層 1. 10Y R1.7/1 黒色土 埴埴土 粘性情 質 腐入物を含む500円程度の土。 2. 10Y R2/2 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 パリス(径5~10mm)1~2%を含む



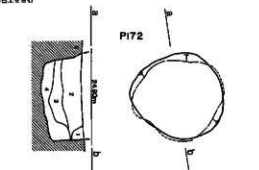
P169の土層 1. 10Y R1.7/1 黒色土 埴埴土 粘性情 質 赤褐色パリスを(径2~5mm)1~2%含む 2. 10Y R2/2.3 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 黒腐土主体でパリス(径5~10mm)5%含む 3. 10Y R2.5/1 黒色土 埴埴土 粘性情 質 パリス(径3~7mm)1~2%含む。50円程度 4. 10Y R3/3 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 黒腐土主体で50円パリス(径5~7mm)1~2%含む 5. 10Y R1.7/1 黒色土 埴埴土 粘性情 質 しょう 50円パリスのブロックを含む 6. 10Y R3/2.5 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 黒腐土主体でパリス(径5~10mm)2~3%含む 7. 10Y R3/3 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 黒腐土主体で黒褐色土を含有する。パリス(径3mm)を1~2%含む 8. 10Y R4/6 褐色土 埴埴土 粘性情 質 しょう 丹土主体で黒褐色土1%含む 9. 10Y R6/6 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 しょう。ほぼ純粋な50円パリス



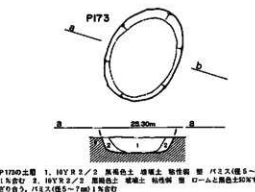
P171の土層 1. 10Y R1.7/1 黒色土 埴埴土 粘性情 質 パリス(径3~5mm)1%含む 2. 10Y R4/6 黒色土 埴埴土 粘性情 質 ローム主体でパリス(径3mm)1%含む 3. 10Y R2/1 黒色土 埴埴土 粘性情 質 パリス(径3~5mm)10~15%。腐化物少量含む 4. 10Y R2/1 黒色土 埴埴土 粘性情 質 しょう パリス(径5~10mm)30%。ローム少量含む 5. 10Y R1.7/1 黒色土 埴埴土 粘性情 質 パリス(径3~6mm)1%。黒腐土少量含む 6. 10Y R3/2.3 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 しょう 黒腐土主体で黒褐色土を断面状に2~3%含む。パリスを少量含む 7. 10Y R5/4 比較的黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 しょう。ローム主体で、その断面に黒褐色土を含有



P170の土層 1. 10Y R2/2.5 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 しょう。50円 50円パリス、黒褐色パリス(径1~5mm)1~2%含む 2. 10Y R1.7/1 黒色土 埴埴土 粘性情 質 黒褐色パリス1%を含む(径<1mm)腐化物少量含む



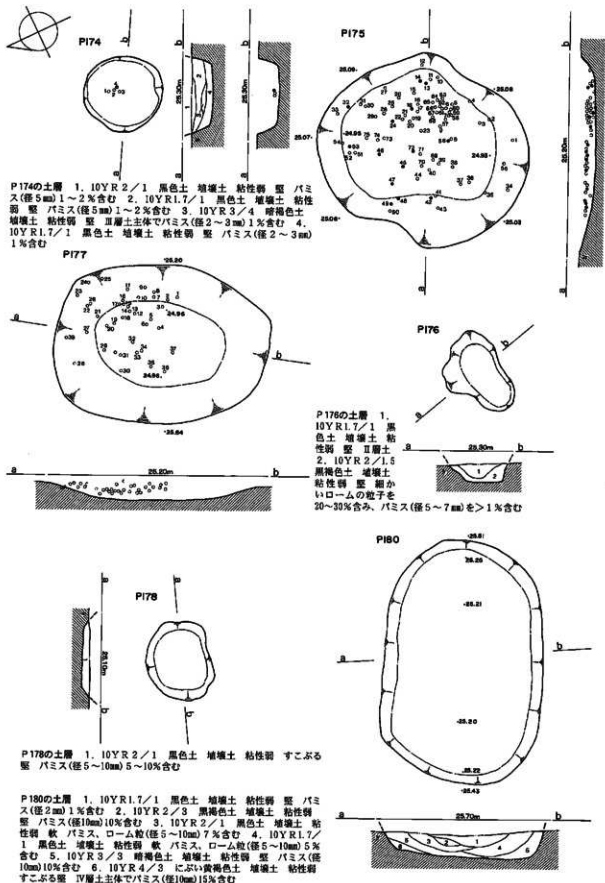
P172の土層 1. 10Y R4/4 褐色土 埴埴土 粘性情 質 しょう。黒腐土主体でパリス(径5~7mm)1%含む 2. 10Y R1.7/1 黒色土 埴埴土 粘性情 質 パリスを径1mm程度含む黒褐色土 土層を含む 3. 10Y R3/3 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 黒腐土主体でパリス少量含む。黒色土が網目状に入り込む 土層片少量含む 4. 10Y R6/6 比較的黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 しょう。ロームのブロック主体で断面に黒色土を含む



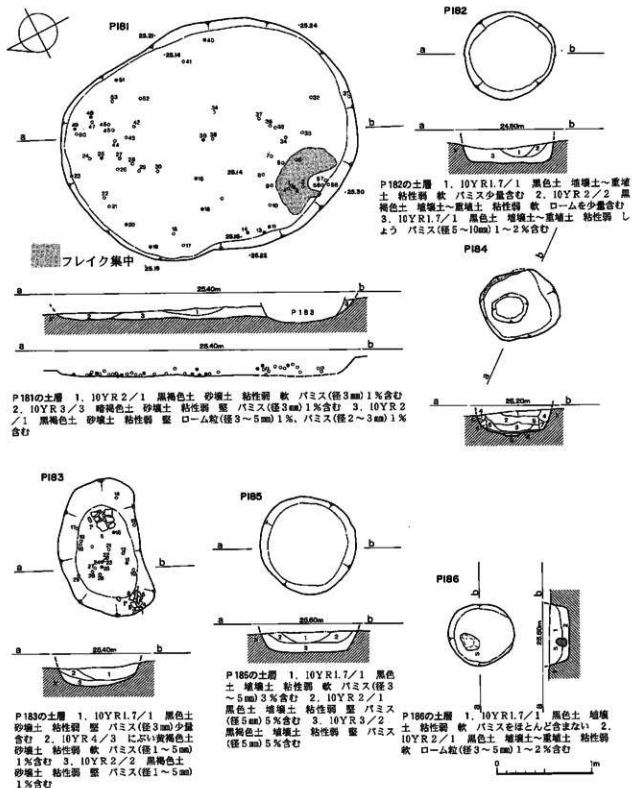
P173の土層 1. 10Y R2/2 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 パリス(径5~10mm)1%含む 2. 10Y R4/2 黒褐色土 埴埴土 粘性情 質 ロームと黒色土50%未満あり。パリス(径5~7mm)1%含む



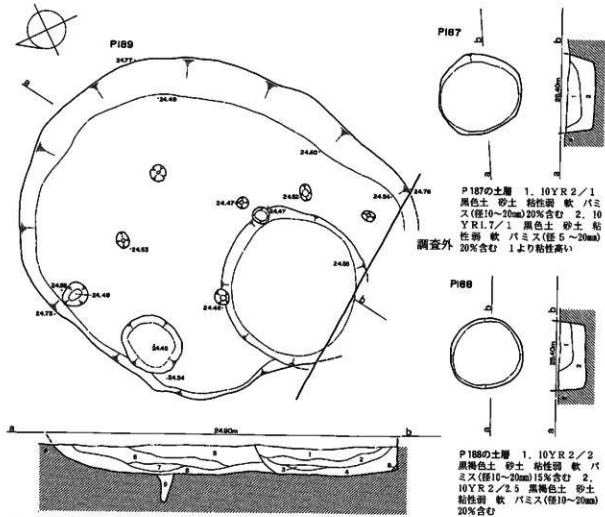
図V-29 土壌(5)



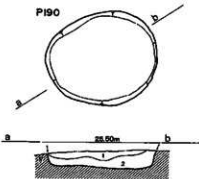
図V-30 土坑(6)



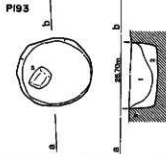
図V-31 土坑(7)



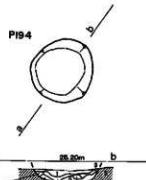
P189の土層 1. 10YR 1.7/1 黒色土 埴埴土 堅 パミス少量含む 2層土の自然埋積 2. 10YR 2/3 黒褐色土 埴埴土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)5%, ローム1%含む 3. 10YR 1.7/1 黒色土 埴埴土 堅 堅 パミス(径3~5mm)5%含む 4. 10YR 2/2 黒褐色土 埴埴土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)7%, 炭化物少量含む 5. 10YR 1.7/1 黒色土 埴埴土 粘性弱 堅 パミス少量含む 3層土の自然埋積 1よりやや中硬から中硬 6. 10YR 2/3 黒褐色土 埴埴土 粘性弱 軟 パミス(径3~10mm)10%, 炭化物少量含む 7. 10YR 4/4 黒色土 埴埴土 粘性弱 堅 ローム土層でパミス(径3~7mm)10%, 黒褐色土5%含む 8. 10YR 2/2 黒褐色土 埴埴土 粘性弱 軟 パミス(径3mm)3%, 炭化物少量含む 9. 10YR 2/1 黒色土 埴埴土 粘性弱 軟



P190の土層 1. 10YR 1.7/1 黒色土 埴埴土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)少量含む 2. 10YR 2.5/3 暗褐色土 埴埴土 粘性弱 堅 ローム殻(径10mm)5%含む

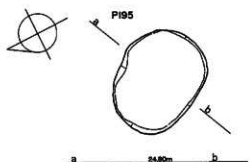


P193の土層 1. 10YR 2/1 黒色土 埴埴土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)1%含む 2. 10YR 1.7/1 黒色土

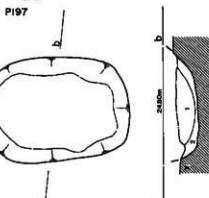


P194の土層 1. 10YR 1.1/1 黒色土 埴埴土 粘性弱 軟 3層土以下部を5%程度炭化物混入 2. 10YR 2/1.5 黒褐色土 埴埴土 粘性弱 軟 6%程度炭化物混入一層入り部が1に比し硬い 3. 10YR 2/2 黒褐色土 埴埴土 粘性弱 2に比し、3%程度炭化物混入 4. 10YR 3/3 暗褐色土 埴埴土 堅 少量の硬質を混入し黒褐色土層で3%程度混入 5. 10YR 6/2 黒褐色土 砂埴土 粘性弱 4に混入する砂中硬から中硬を混入 6. 7.5YR 4/4 黒色土 埴埴土 粘性弱 堅 炭物のブロック

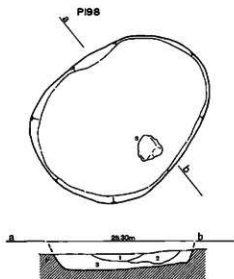
図V-32 土壇(8)



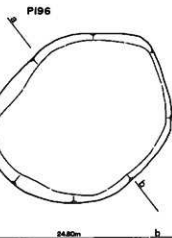
P195の土層 1. 10Y R1.7/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)5%含む 2. 10Y R1.7/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)3%含む



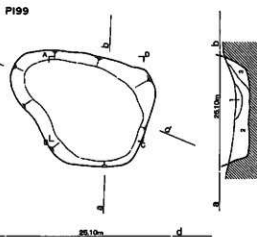
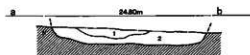
P197の土層 1. 10Y R 2/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径2~3mm)1%含む 2. 10Y R 2/2 黒褐色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)2%含む



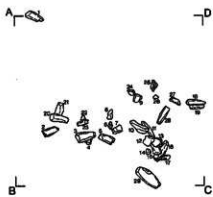
P198の土層 1. 10Y R1.7/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)2%含む 2. 10Y R 2/2 黒褐色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)3%含む 3. 10Y R 2/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径2~5mm)3%含む



P196の土層 1. 10Y R1.7/1 黒色土 堆積土 粘性弱 軟 パミス(径3~5mm)1%含む 2. 10Y R 2/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径2~3mm)3%含む



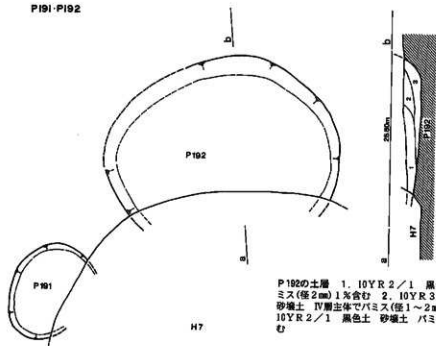
P199の土層 1. 10Y R1.7/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)2%含む 2. 10Y R 2/1 黒色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス、ローム粒(径5~15mm)15%含む 3. 10Y R 2/3 黒褐色土 堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)20%含む



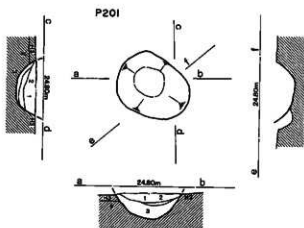
図V-33 土坑(9)



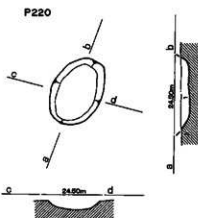
P191-P192



P192の土層 1. 10YR 2/1 黒色土 砂壤土 パミス(径2mm)1%含む 2. 10YR 3/4 黒褐色土 砂壤土 IV層主体でパミス(径1~2mm)2%含む 3. 10YR 2/1 黒色土 砂壤土 パミス(径3mm)2%含む

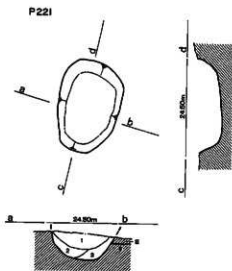


P201



P220

P220の土層 1. 暗褐色土>黄色土(やや粘質土)



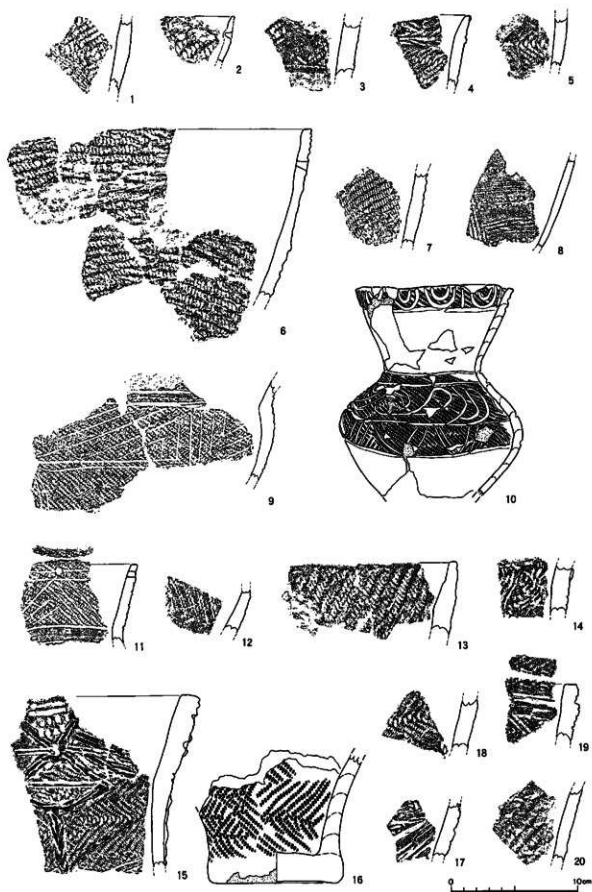
P221

P201の土層 1. 黒褐色土>黄色土(わずかに灰色粘土混入) 2. 黒褐色土(軟質) 3. 暗褐色土>黄色土(灰色粘土)

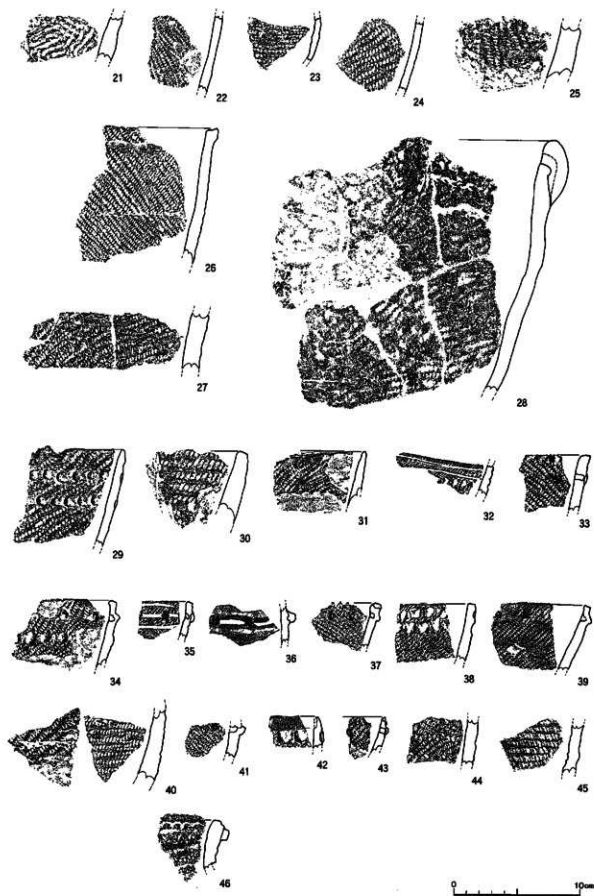
P221の土層 1. 暗褐色土 2. 褐色土+黄色土(軟質) 3. 褐色土>黄色土(軟質)



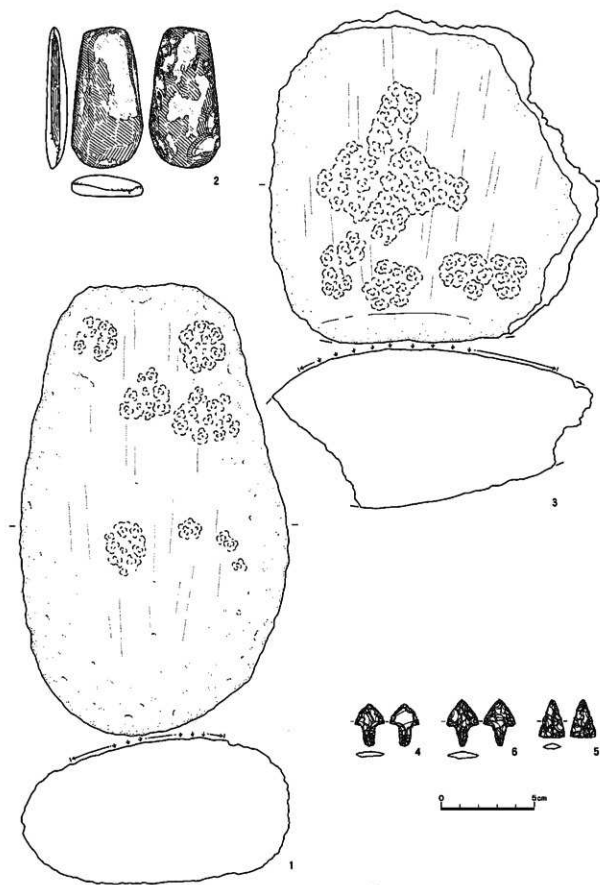
図V-34 土坑00



図V-35 土壇出土の土器(1)



図V-36 土壙出土の土器(2)



図V-37 土壇出土の石器(1)

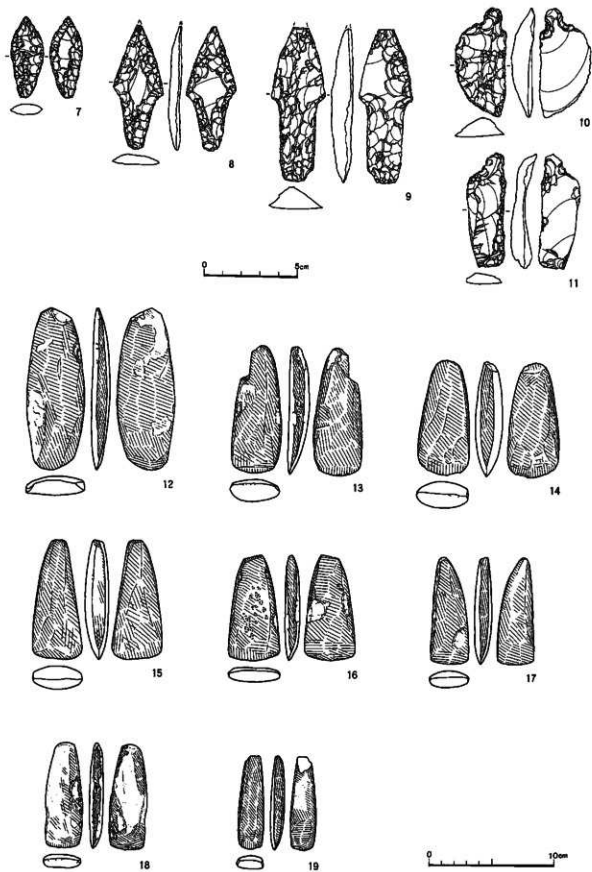


図 V-38 土城出土の石器(2)

表V-3 土城出土掘削土器一覽

遺構(層位)	図番号	図版番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地文	備考
P78(覆土1層)		128				深鉢	Ⅱ群a-1類	R L縄文	縄文式
P106(覆土2層)	図V-3-1	128				深鉢	Ⅲ群	L R縄文	
P107(覆土1層)	" - 3-2	128				深鉢	Ⅲ群b-3類	L R縄文	北筒式
P122(検出面)	" - 3-3	128				深鉢	Ⅲ群	L R縄文	
P123(覆土)	" - 3-4	128				深鉢	Ⅲ群a類	L R縄文	萩ヶ岡1式
P123(覆土)	" - 5	"				深鉢	Ⅲ群	結束羽状縄文	
P123(覆土)	" - 6	"				深鉢	Ⅱ群a-1類	R L縄文	縄文式
P133(覆土2層)	図V-3-7	128				深鉢	Ⅲ群	L R縄文	
P152(覆土)	図V-3-10	128	12.3			壺	Ⅳ群c類	R L縄文	堂林式
P159(覆土3層)	図V-3-9	128				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	堂林式
P159(覆土1層)	" - 11	"				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	堂林式
P160(覆土)	図V-3-12	128				深鉢	Ⅰ群b類	組紐圧痕文	黒陶5式~コックロ式
P161(覆土)	図V-3-13	128				深鉢	Ⅱ群a-2類	L R縄文	静内中野式
P161(覆土)	" - 14	"				深鉢	Ⅲ群		
P161(覆土)	" - 15	129				深鉢	Ⅲ群a類	結束羽状縄文	萩ヶ岡2式
P161(覆土)	" - 16	"			9.8	深鉢	Ⅲ群	結束羽状縄文	
P161(覆土)	" - 17	"				深鉢	Ⅲ群	結束羽状	
P161(覆土)	" - 18	"				深鉢	Ⅲ群		
P161(覆土)	" - 19	"				深鉢	Ⅲ群		
P166(覆土)	図V-3-20	129				深鉢	Ⅱ群	L R縄文	
P170(覆土)	図V-4-21	129				深鉢	Ⅳ群c類	R L縄文	
P170(覆土)	" - 22	"				深鉢	Ⅲ群	結束羽状縄文	
P171(覆土)	図V-4-23	129				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	堂林式~御殿山式
P171(覆土)	" - 24	"				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	堂林式~御殿山式
P175(覆土)	図V-4-25	129				深鉢	Ⅱ群	不明	取り上げ番号28
P175(覆土)	" - 26	"				深鉢	Ⅳ群a類	R L縄文	余市式
P183(覆土)	図V-4-27	129				深鉢	Ⅲ群	L R縄文	
P183(覆土)	" - 28	"				深鉢	Ⅲ群b-1類	L R縄文	天神山式 取り上げ番号15
P188(覆土)	図V-4-29	130				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	御殿山式
P189(覆土2層)	図V-4-30	130				深鉢	Ⅱ群a-2類	L R縄文	静内中野式
P193(覆土)	図V-4-31	130				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	御殿山式
P193(覆土)	" - 32	"				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	御殿山式
P193(覆土)	" - 33	"				深鉢	Ⅳ群c類	R L縄文	堂林式~御殿山式
P193(覆土)	" - 34	"				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	御殿山式
P195(覆土)	図V-4-35	130				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	堂林式~御殿山式
P195(覆土)	" - 36	"				鉢・注口	Ⅳ群c類~Ⅴ群a類		御殿山式~大洞B C式並行
P195(覆土)	" - 37	"				深鉢	Ⅳ群c類	R L縄文	御殿山式
P195(覆土)	" - 38	"				深鉢	"	L R縄文	御殿山式
P195(覆土)	" - 39	"				深鉢	"	L R縄文	御殿山式
P196(覆土)	図V-4-40	130				深鉢	Ⅱ群a-2類	L R縄文	静内中野式
P196(覆土)	" - 41	"				深鉢	Ⅳ群c類	R L縄文	堂林式~御殿山式
P197(覆土)	図V-4-42	130				深鉢	Ⅳ群c類		御殿山式
P197(覆土)	" - 43	"				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	御殿山式
P198(覆土)	図V-4-44	130				深鉢	Ⅲ群	結束羽状縄文	
P198(覆土)	" - 45	"				深鉢	Ⅱ群a-1類	R L縄文	縄文式
P212(覆土)	図V-4-46	130				深鉢	Ⅲ群b-1類		天神山式

表V-4 土壌掲載石器など一覧

遺構番号	図番号	名称	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
P109	図V-37-1	台石	覆土	35.65	21.3	11.5	12,000.0	安山岩	図版148
P122	" - 2	石斧	"	11.1	5.6	1.7	144.8	泥岩	"
P175	" - 3	石皿	"	26.2	26.0	12.9	10,500.0	安山岩	"
P170	" - 4	石鏃	"	2.2	1.55	0.3	0.8	黒曜石	"
P185	" - 6	"	"	2.5	1.7	0.4	0.8	"	図版148 被熱
P181	" - 5	"	"	2.0	1.35	0.3	0.6	"	図版148
P199	図V-38-7	"	"	4.3	1.75	0.65	4.5	"	図版149
"	" - 8	石槍	"	6.55	2.65	0.7	7.84	頁岩	"
"	" - 9	"	"	(8.15)	2.85	1.15	22.6	"	"
"	" - 10	つまみ付きナイフ	"	5.75	2.7	1.25	13.7	"	"
"	" - 11	"	"	6.05	2.1	1.25	10.5	"	"
"	" - 12	石斧	"	12.7	4.65	1.5	130.0	緑色泥岩	"
"	" - 13	"	"	10.05	3.9	1.7	94.7	"	"
"	" - 14	"	"	9.05	4.05	2.1	126.7	"	"
"	" - 15	"	"	9.4	3.95	1.85	100.6	"	"
"	" - 16	"	"	8.3	4.05	1.15	70.5	"	"
"	" - 17	"	"	8.45	3.0	1.35	53.2	"	"
"	" - 18	"	"	8.4	2.95	1.1	47.9	"	"
"	" - 19	"	"	7.45	2.05	1.05	23.8	"	"

4. Tピット

Tピットは8基検出された。調査区の北西～北に分布するものと、南側に分布するものがある。規模は、墳底面の長軸で見ると、3.50m前後のもの(TP1・2・6・7)と2.50m前後のもの(TP3・5・8)に分かれるが、長軸方向には関連性は見られない。長軸方向が南東-北西のもの(TP2～5・7・8)はおおむね等高線に平行し、南-北のもの(TP1)、東-西のもの(P8)は等高線に直している。またTP2～5はそれぞれ並列している。形状はすべて溝状で、墳底直上には黒褐色、あるいは褐色の粘質土が薄く堆積している。遺物は皿群土器が出土するものもあるが、これらは埋まる途中で混入したものと思われる。TP7の墳底では9個の枕状小ピットが検出されている。掘り込み面は確認されていないため時期は明確でない。TP1とTP3はP1、H3にそれぞれ切られていることから、土壌墓、住居跡より古い時期のものと思われる。

TP1(図V-40 表1・2 図版100)

位置: R-5 S-4・5 標高24.35m~24.40m 規模: (3.03m)×(2.91m)/(0.84m)×(0.35m)/0.95m 平面形: 溝状 長軸方向: N-25° -W

墳底: 凹凸があり、平坦。壁: 中程(50cm前後)までほぼ垂直、上方は外傾し開口する。覆土最下層には黒褐色粘質土と灰色粘土+黄色砂質土が薄く互層に堆積している。

遺物出土状況: 覆土2層で皿群の土器片や石斧片などが出土している。

時期: P1と重複し、P1より古い遺構。縄文時代。

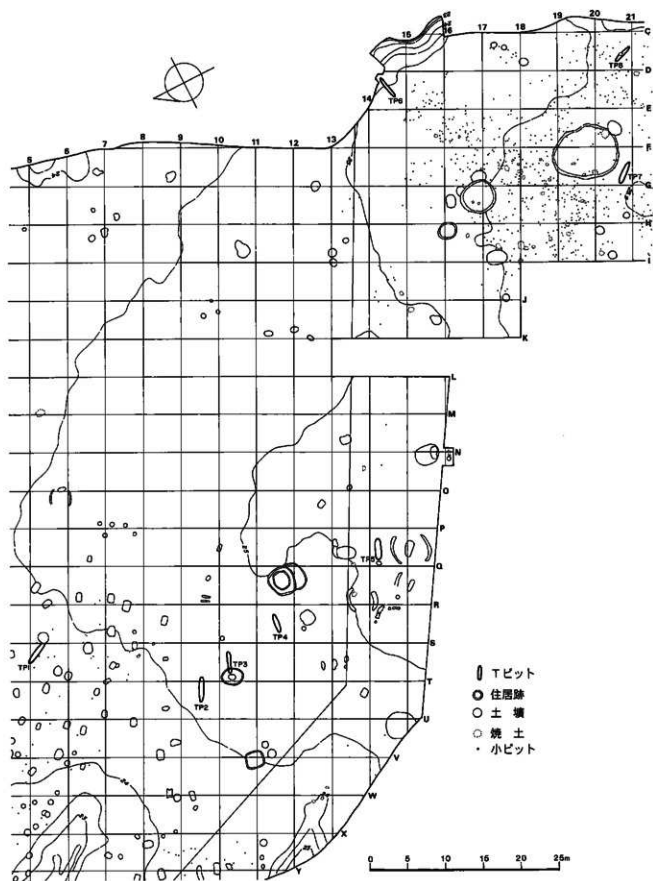
TP2(図V-40 表1・2 図版100)

位置: S-9 T-10 標高23.60m付近 規模: 3.68m×3.76m/0.53m×0.28m/0.10m 平面形: 溝状 長軸方向: N-58° -W

墳底: 平坦 壁: 長軸方向は中程(約50cm)までオーバーハングし、上方はほぼ垂直。短軸方向はほぼ垂直的に立ち上がる。覆土最下層には黒褐色粘質土と灰色粘質土が薄く互層に堆積し、墳底直上には褐色粘質土が薄く堆積する。

遺物出土状況: 覆土上層で皿群の土器片や礫片が出土している。

時期: 縄文時代



図V-39 Tピットの位置図

TP3 (図V-41 表1・2 図版100)

位置：S-10 標高24.75m付近 規模：2.91m×2.80m/0.51m×0.10m/0.84m 平面形：溝状
長軸方向：N-71° -W

墳底：ほぼ平坦 壁：長軸方向は墳底直上付近でオーバーハンギ、上方は外傾する。短軸方向はほぼ垂直的に立ち上がる。覆土最下層の墳底直上約20cmには淡褐色砂質土がある。

遺物出土状況：覆土上層から土器片と礎片が出土している。

時期：H3と重複し、H3より古い遺構。縄文時代。

TP4 (図V-41 表1 図版101)

位置：R-11 標高24.85m～24.95m 規模：2.68m×2.13m/0.60m×0.25m/0.86m 平面形：溝状
長軸方向：N-82° -W

墳底：平坦 壁：長軸方向は急傾斜、短軸方向は中程(40cmほど)上方まで垂直、上方は急傾斜で外傾する。覆土最下層は褐色土>灰色砂質土に黒色土が混入するやや砂質の土。

遺物出土状況：覆土上層から土器片が1点出土している。

時期：縄文時代。

TP5 (図V-42・44 表V-5・6 表1・2 図版101・131・149)

規模：2.99m×0.66m/2.50m×0.13m/1.15m 平面形：細長形。底部は一段と細くなっている。

調査状況：確認面は周囲の周溝のある墓と同じIV層。当初は周溝の一部の疑いもあったが半壊するとTピットであることが明らかになった。覆土堆積状況をしっかり把握するために長軸方向に断ち割って調査した。覆土18層から、更に下の19～22層は幅が一回り細くなり、二段の作りになっている。作り替えの可能性もあるが、明確な答えは見いだし得なかった。

遺物出土状況：Ⅲ群土器35点、石槍またはナイフ1点、石錐1点、フレイク3点が出土した。いずれも周囲からの流れ込みと思われる。土器～1は見晴町式並行の口縁部片で、2本の貼り付けの間に波状の貼り付けを施す。2～5はⅢ群土器片である。

土器～1は覆土1層出土の石槍で、有茎のものである。石材は黒曜石。

重複・新旧関係：長軸西側でP184と重複しているが、P184が本遺構を削って作られているので本遺構の方が古い。

時期：他のTピットと同時期であろう。

(中山昭大)

TP6 (図V-42 図版101)

位置：D-14 平坦面から河岸段丘への傾斜変換点。遺構のほぼ1/3のところまで平坦面から斜面へと地形が変わっている。

規模：3.30m×0.36m/3.24m×0.11m/(1.00m) 平面形：細長形。

調査状況：IV層面で確認、周囲は後世の擾乱でデコボコが激しいところであった。非常に幅が狭く、確認面が大変荒れていたため、実際の構築面は数十センチ上であろう。傾斜変換点から斜面に掛けてのところがより幅狭になっているのは遺構構築以降に地形が変わり斜面になったためか。

遺物：出土していない。

時期：他のTピットと同時期であろう。

(中山昭大)

TP7 (図V-43・44 表V-5 表1・2 図版102・131)

位置：F-20 規模：3.62m×0.63m/3.20m×0.11m/1.05m 長軸方向：N-41° -W

調査状況：Ⅲ層掘り下げ中に検出した。短軸方向に幅20cmのセクションベルトを設定し、両側を掘り下げた。断面図作成、写真撮影の後、セクションベルトを除去し完掘した。壕底で杭の痕跡と思われる小柱穴と、掘り具の痕跡を検出した。

土層：土層4～6はしまりのない黒色土とローム層が交互に堆積している。周囲に存在した掘り上げ土が降水などにより流入したものと考える。土層3はほぼ純粋なローム層で比較的しまっている。北側の壁面が大きく広がっていることから、土層3は壁面の大規模な崩落によって堆積したものと考える。土層2はロームを多く含む混入物の多い土で、周辺の掘り上げ土が流れ込んだものであろう。土層1はピットの埋没速度が緩やかになった後にⅡ層が堆積したものである。

壕底：ほぼ平らである。9カ所で杭跡を検出した。掘り具の痕跡と考えられる段差を3カ所で検出した。

壁：ほぼ垂直に立ち上がるが、上部は崩落のため広がっている。

遺物出土状況：Ⅱ群土器4点、Ⅲ群土器48点、Rフレイク1点、フレイク5点、すり石1点、礫・礫片2点が出土している。いずれも周辺の包含層から流れ込んだものである。土器～7、6は北筒式で、両者は同一個体であろう。口縁端部は刻まれ、口縁部外面には押し引きと円形刺突文が施される。体部には綾結文が施される。内面にも縄文と綾結文がみられる。8、9は静内中野式の胴部片である。

時期：不明。

(石井淳平)

TP8 (図V-43 図版102)

位置：C-20 規模：2.83m×0.68m/2.66m×0.22m/1.08m 長軸方向：N-16° -W

調査状況：柏木川へ続く段丘崖付近で検出した。周囲は近現代のゴミ捨て穴と思われる土壌が何方所か存在し、本遺構はこれらによって上面を破壊されていた。短軸方向に幅20cmのセクションベルトを設定し、両側を掘り下げた。覆土の上層で直径約20cmの円礫を検出した。本遺構に直接伴うものではなく、埋没が進んだ時点で自然に落ち込んだか廃棄されたものと判断した。断面図作成、写真撮影の後ベルトを除去して完掘した。

土層：土層2～5は壁面の崩落土、土層1は埋没速度が緩やかになった後の自然堆積層、土層6は壁面崩落以前の自然堆積層である。

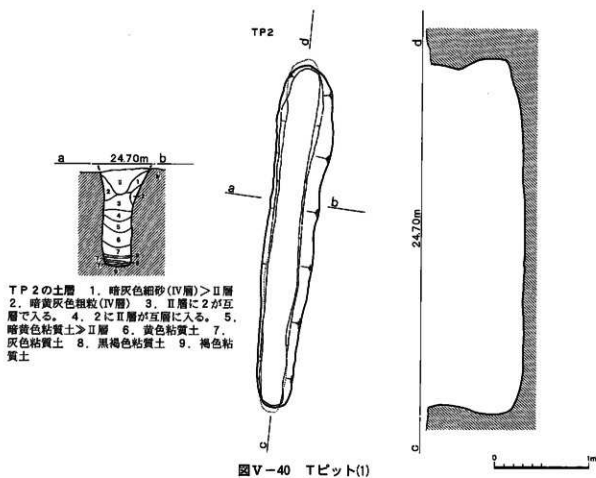
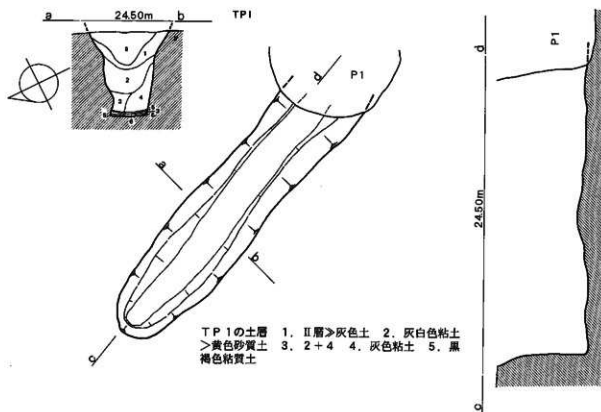
壕底：ほぼ平らである。

壁：ほぼ垂直に立ち上がるが、上部では崩落のため広がっている。

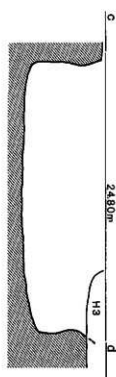
遺物出土状況：覆土の上部で自然礫が出土した。

時期：不明。

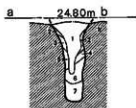
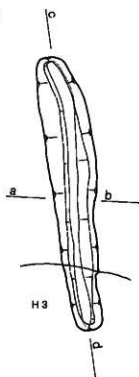
(石井淳平)



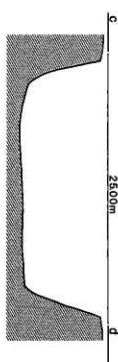
図V-40 Tピット(1)



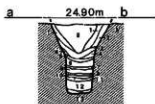
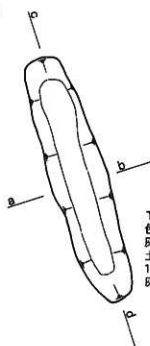
TP3



TP3の土層 1. 黒褐色土(軽石混入) 2. 灰黄色土>1(砂質土) 3. 灰黄色砂質土 4. 灰色砂質土>2 5. 灰色砂質土<褐色土 6. 黄灰色粘質土(堅い) 7. 淡褐色砂質土(>6)



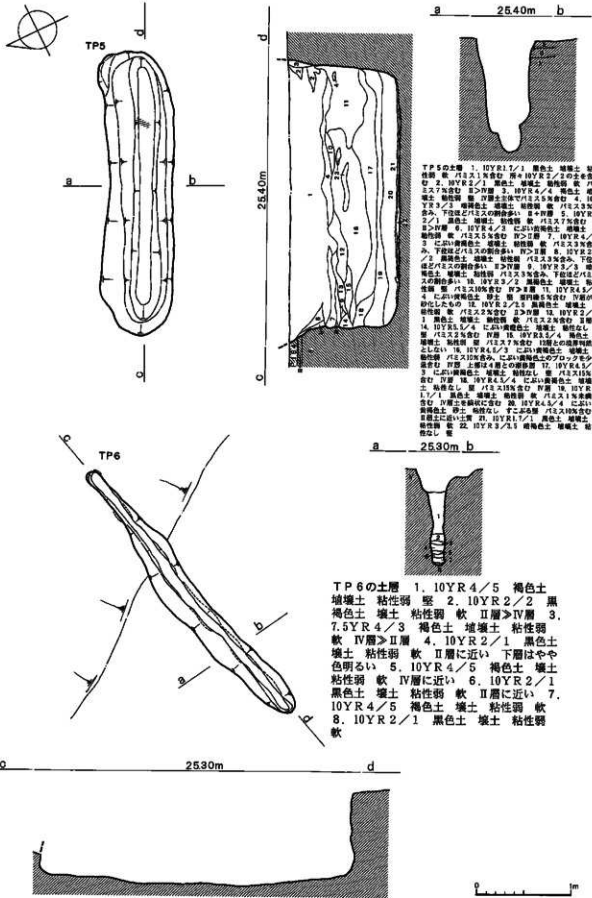
TP4



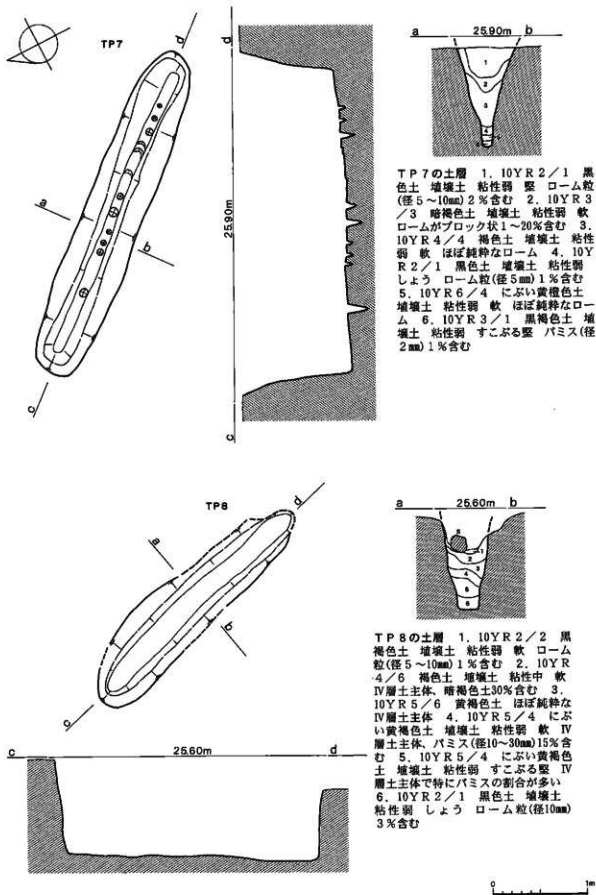
TP4の土層 1. III層<II層 2. 明黄褐色土(III層) 3. III層<灰色土(IV層) 4. 灰色粘土(IV層) 5. 暗褐色土 6. 灰色粘土(IV層) 7. =5 8. 6>5 9. =6 10. 黒色土 11. 褐色粘質土 12. 褐色土>灰色砂質土 13. 12>黒色土

図V-41 Tビット②

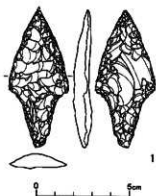
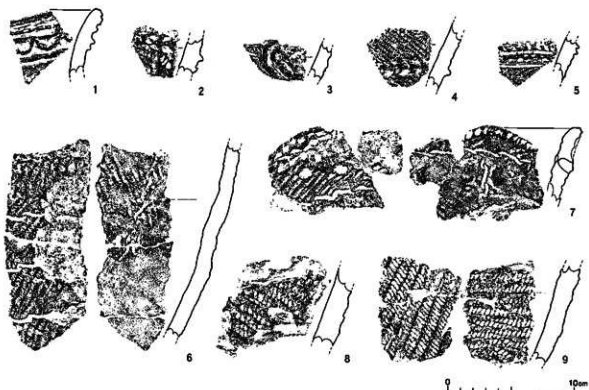




図V-42 Tピット(3)



図V-43 Tピット(4)



図V-44 Tビット出土の遺物

表V-5 Tビット掲載土器一覽

遺構(層位)	図番号	図版番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地文	備考
TP5(覆土1層)	図V-44-1	131				深鉢	Ⅲ群a類		見崎町式並行
TP5(覆土1層)	" "	2				深鉢	Ⅲ群		
TP5(覆土1層)	" "	3				深鉢	Ⅲ群		
TP5(覆土)	" "	4				深鉢	Ⅲ群	LR・RL縄文	
TP5(覆土)	" "	5				深鉢	Ⅲ群	RL縄文	
TP7(覆土)	" "	6	131			深鉢	Ⅲ群b-3類	LR縄文	北筒式・と同一器体
TP7(覆土)	" "	7				深鉢	Ⅲ群b-3類	"	北筒式・と同一器体
TP7(覆土)	" "	8				深鉢	Ⅲ群a-2類	RL縄文	静内中野式
TP7(覆土)	" "	9				深鉢	Ⅲ群a-2類	LR縄文	静内中野式

表V-6 Tビット掲載石器など一覽

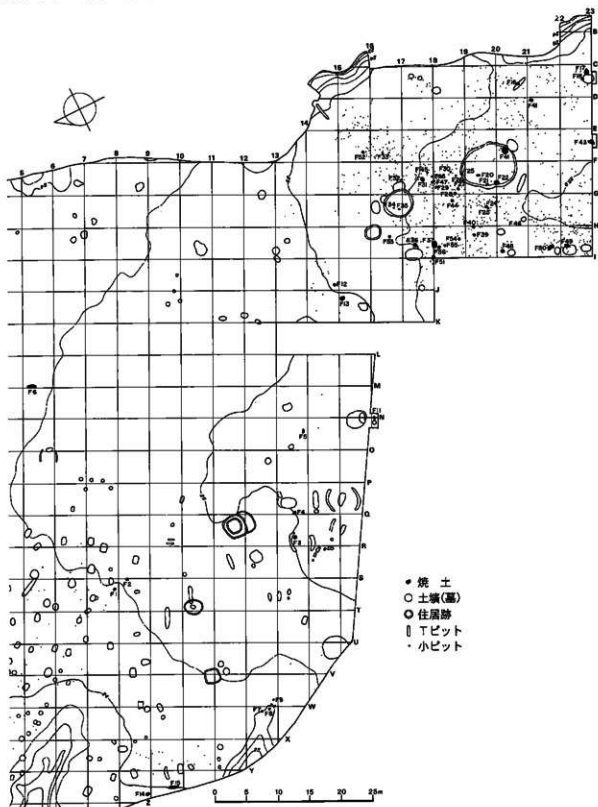
遺構番号	図番号	名称	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
TP5	図V-44-1	石楯	覆土1層	(7.3)	3.2	1.0	12.8	黒曜石	図版149

5. 焼土(図V-46・47・48 表V-7・8・9 表1・2 図版102・103・132・149)

総数: 56カ所

位置と分布: 調査区の南東側、15ライン以南にほとんどが分布する。この範囲のⅡ層の残存状況がよいため検出数が増えた可能性が高く、本来の分布状況を反映していないと考える。

構造: 全てⅡ層中で検出した。規模は直径50cm程度の不整形のものが多い。断面の観察では周囲のⅡ



図V-45 焼土の位置図

表V-7 焼土一覽

遺構番号	位 置	規模(m)			検出層位	平面形	色 調	備考
		長径	短径	厚さ				
F 1	S-7	0.70	0.42	0.05	Ⅱ層中	楕円形	暗黄褐色焼土	
F 2	S-7, 8	0.36	0.30	0.04	Ⅱ層中	楕円形	暗赤褐色焼土	
F 3	Q, R-13	0.80	0.60	0.12	Ⅱ層	円形	7.5YR 4/6 にぶい褐色焼土 粘性中 堅	
F 4	P, Q-13	0.54	0.40	0.08	Ⅱ層	楕円形	7.5YR 3/2 黒褐色焼土 粘性中 堅	
F 5	N-13, 15	0.52	0.38	0.08	Ⅱ層	楕円形	7.5YR 3/3.5 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F 6	L-5	2.90	1.60	0.10	Ⅱ層	不整形	2.5YR 3/3 暗赤褐色焼土 粘性弱 軟	
F 7	W-12	0.38	0.32	0.02	Ⅱ層	円形	7.5YR 3/4 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F 8	W-12	0.28	0.22	0.04	Ⅱ層	楕円形	7.5YR 3/4 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F 9	V-12	0.24	0.22	0.02	Ⅱ層	円形	7.5YR 3/4 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F11	M, N-16	0.54	0.36	0.02	Ⅱ層	楕円形	7.5YR 2/2 黒褐色焼土 粘性弱 軟	
F12	I-14	0.56	0.46	0.04	Ⅱ層	円形	7.5YR 2/2 黒褐色焼土 粘性弱 軟	
F13	J-15	0.80	0.60	0.08	Ⅱ層	楕円形	7.5YR 3/4 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F14	Y-8, 9	1.84	0.90	0.12	Ⅱ層	楕円形状	1 Ⅱ層>2 2 明黄褐色焼土	フレイク252点出土
F15	Y-9, 10	2.80	0.76	0.08	Ⅱ層	不整形	1 明黄褐色焼土 2 Ⅱ層>1	フレイク120点出土
F16	C-20	0.50	0.46	0.04	Ⅱ層	円形	7.5YR 4/4 褐色焼土 粘性弱 堅	
F17	C-22	0.90	0.72	0.06	Ⅱ層	楕円形	10YR 5/6 黄褐色焼土 粘性弱 堅	
F18	*	0.48	0.30	0.04	Ⅱ層	不整形	5YR 3/6 暗赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F20	F-19	0.48	0.24	0.04	Ⅱ層	楕円形	7.5YR 3/4 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F21	*	0.48	0.38	0.06	Ⅱ層	円形	5YR 3/6 暗赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F22	F-19, 20	1.10	0.90	0.08	Ⅱ層	楕円形	7.5YR 3/4 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F23	G-19	0.40	0.36	0.08	Ⅱ層	円形	7.5YR 3/4 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F24	*	0.44	0.30	0.06	Ⅱ層	不整形	6YR 3/6 暗赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F25	F-18	0.86	0.50	0.10	Ⅱ層	不整形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F26	*	0.42	0.38	0.04	Ⅱ層	不整形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F27	*	0.60	0.38	0.06	Ⅱ層	楕円形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F28	F, G-18	0.62	0.28	0.04	Ⅱ層	長円形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F29	F-18	0.44	0.32	0.06	Ⅱ層	楕円形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F30	*	0.32	0.30	0.04	Ⅱ層	円形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F31	F-17	1.02	0.88	0.10	Ⅱ層	円形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F32	F-16	0.50	0.22	0.02	Ⅱ層	不整形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F33	E-16	0.38	0.40	0.06	Ⅱ層	円形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F34	G-16	0.18	0.12	0.02	Ⅱ層	楕円形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F35	*	0.84	0.70	0.10	Ⅱ層	円形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F36	H-17	0.90	0.36	0.02	Ⅱ層	不整形	5YR 4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F37	H-17, 18	1.38	1.06	0.14	Ⅱ層	不整形	5YR 3/4 暗赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F39	H-19	0.80	0.50	0.06	Ⅱ層	不整形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F40	G, H-19	0.86	0.56	0.06	Ⅱ層	円形	7.5YR 5/6 明褐色焼土 粘性弱 堅	
F41	C, D-21	0.74	0.70	0.08	Ⅱ層	円形	7.5YR 4/6 褐色焼土 粘性弱 堅	
F42	E-20	1.30	0.94	0.10	Ⅱ層	不整形	7.5YR 4/6 褐色焼土 粘性弱 堅	
F43	E-22, 23	1.70	1.04	0.18	Ⅱ層	楕円形	1 5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅 2 10YR 1.7/1 黒色焼土 粘性弱 堅	
F44	C-18	0.80	0.80	0.04	Ⅱ層	不整形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F45	F-17	0.54	0.48	0.04	Ⅱ層	不整形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F46	*	0.30	0.30	0.04	Ⅱ層	円形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F47	F-17, 18	0.98	0.38	0.06	Ⅱ層	不整形	5YR 4/6 赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F48	H-20	0.64	0.56	0.06	Ⅱ層	不整形	5YR 3/2 暗赤褐色焼土 粘性弱 堅 骨片(径<1mm)3%含む	
F49	H-22	0.68	0.60	0.08	Ⅱ層	円形	7.5YR 4/4 褐色焼土 粘性弱 堅	
F50	H-21	1.18	0.52	0.20	Ⅱ層	不整形	7.5YR 4/4 褐色焼土 粘性弱 堅	
F51	H, I-17, 18	0.90	0.48	0.04	Ⅱ層	不明	5YR 3/4 暗赤褐色焼土 粘性弱 堅	
F52	E-15	0.48	0.48	0.04	Ⅱ層	円形	7.5YR 2/3 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F53	H-18	0.74	0.62	0.08	Ⅱ層	楕円形	7.5YR 3/3 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F54	H-18	0.52	0.40	0.08	Ⅱ層	楕円形	7.5YR 3/4 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F55	*	0.44	0.34	0.08	Ⅱ層	円形	7.5YR 3/3 暗褐色焼土 粘性弱 堅	
F56	*	0.60	0.38	0.04	Ⅱ層	不整形	7.5YR 3/4 暗褐色焼土 粘性弱 堅	

層との境界は漸移的で、その場で焼成されたものと考えられる。

色調：暗褐色～暗赤褐色のものが多く、大型のものは赤みが強く、酸化の度合いが高いものが多い。
 遺物出土状況：確実に焼土に伴うと判断できるものは少ないが、IV群c類が最も多く出土している。
 性格：不明。周辺には住居の支柱と思われる小柱穴が多数存在することから、住居に伴う炉跡の可能性もある。

時期：周囲の遺物出土状況から、縄文時代後期後葉～晩期前葉の可能性が高い。（石井淳平）

焼土出土の土器

1はⅢ群土器の口縁部片で、口縁部は若干肥厚し、波状の貼り付けがなされる。口縁部下には二列の押しきりがみられる。2は北大Ⅲ式の口縁部片である。外側には円形刺突文がみられ、内外面ともよく磨かれる。3は御殿山式～大洞B式並行の鉢の口縁部片である。口縁部は刻みが施され、内外面ともよく磨かれる。4は御殿山式の鉢で、口縁部に小突起をもつ。胴部は3本の横走沈線が引かれ、上から2本目と3本目の間は縄文が磨り消され、無文帯となる。5はⅢ群土器の口縁部片である。口縁部は刻まれ、口縁下には縄文痕文の施された貼り付けがめぐる。6は御殿山式～大洞B式並行で、口縁部外面にA状突起が加えられる。7は堂林式～御殿山式の注口又は壺である。8は堂林式～御殿山式の口縁部片である。9、10は堂林式～御殿山式で9は口縁下に突瘤をもち、3本の沈線を施す。11は後北C2-D式である。口縁部は刻まれ、口縁と平行して刻みを加えた貼り付けを施す。胴部には列点文と微隆起線による弧状の文様が描かれる。12は入江式又は白坂3式並行である。クランク状と思われる沈線文が施され、沈線の間は磨り消される。口縁部下に補修孔があげられる。

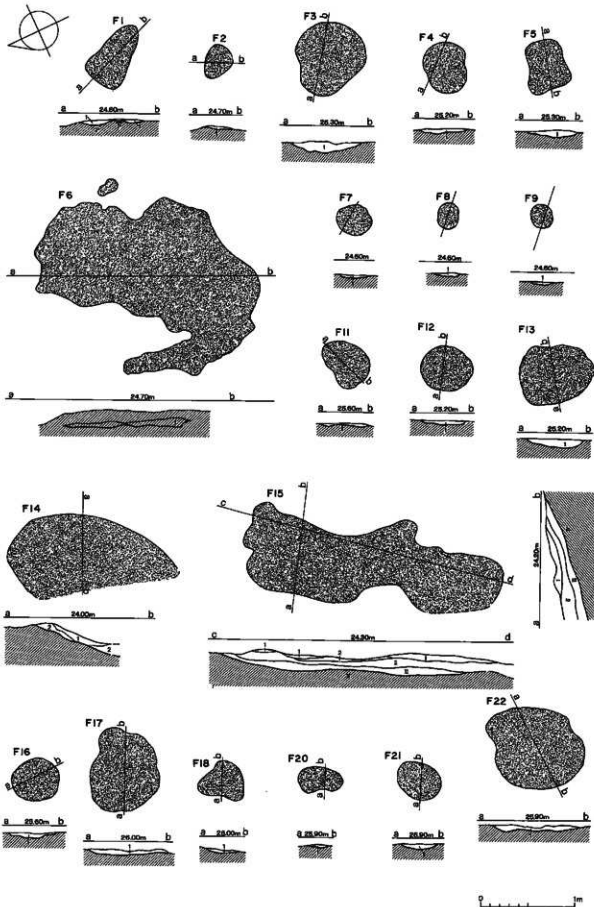
焼土出土の石器 1は扁平礫を素材とするすり石である。石材は安山岩。2は扁平礫を素材とするすり石片で、稜の一部にすり痕がある。石材は安山岩。3は有茎の石槍で、石材は黒曜石である。4は全面磨製の石斧で、石材は緑色泥岩である。

表V-8 焼土掲載土器一覧

遺構(層位)	図番号	図版番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地文	備考
F12(覆土)	図V-48-1	132				深鉢	Ⅲ群b類		
F15(覆土)	図V-48-2	132	19.0			壺	V群		北大Ⅲ式
F16(覆土)	図V-48-3	132	11.0			鉢	IV群c類～ V群a類		御殿山式～大洞B式 並行
F20(覆土)	図V-48-4	132	22.0			鉢	IV群c類	L.R縄文	御殿山式
F37(覆土)	図V-48-5	132				深鉢	Ⅲ群b類		R.L縄文
F37(覆土)	* * -6	*				深鉢	IV群c類～ V群a類		L.R縄文
F37(覆土)	* * -7	*				注口・壺	IV群c類	L.R縄文	堂林式～御殿山式
F39(覆土)	図V-48-8	132				深鉢	IV群c類	L.R縄文	堂林式～御殿山式
F48(覆土)	図V-48-9	132	23.0			深鉢	IV群c類	L.R縄文	堂林式～御殿山式
F50(覆土)	図V-48-10	132				深鉢	VI群		後北C2-D式
F48(覆土)	図V-48-11	132				深鉢	IV群c類	L.R縄文	堂林式～御殿山式
F54(覆土)	図V-48-12	132	28.0			深鉢	IV群a類	L.R縄文	入江式又は白坂3式

表V-9 焼土掲載石器一覧

遺構番号	図番号	名称	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
F37	図V-48-3	石槍	焼土中	(7.8)	1.9	1.0	9.1	黒曜石	図版149
F12	図V-48-1	すり石	焼土中	8.4	8.9	3.7	476.2	安山岩	図版149
F15	図V-48-2	すり石	焼土中	10.0	(8.5)	(8.5)	312.6	*	図版149
F48	図V-48-4	石斧	焼土中	6.1	3.85	1.35	55.2	緑色泥岩	図版149



図V-46 焼土(1)

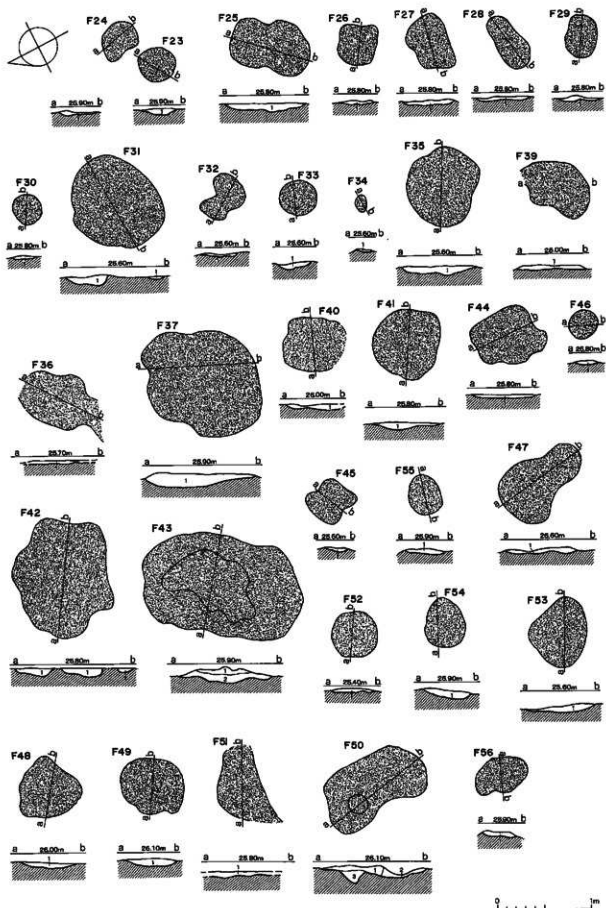
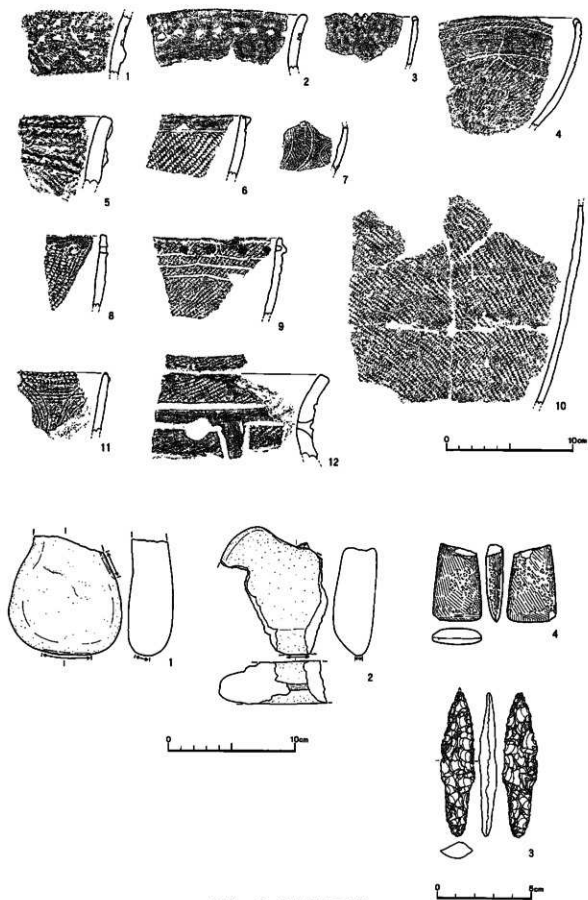
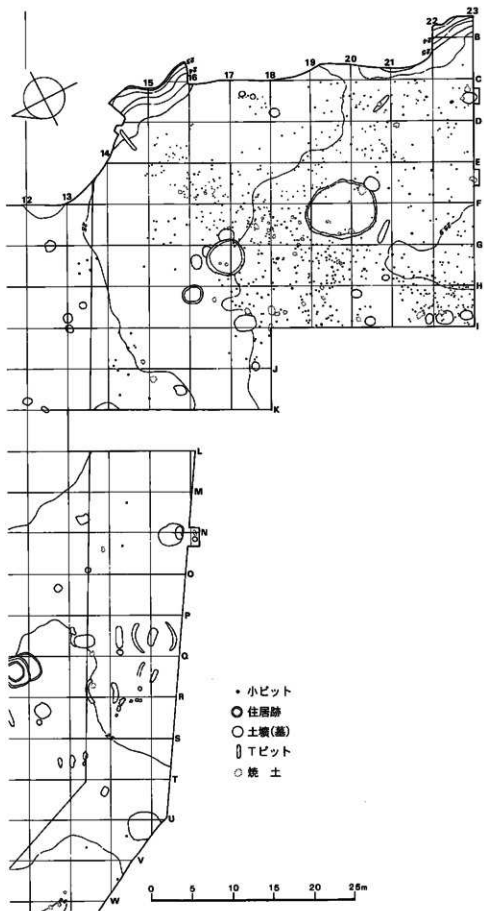


図 V-47 焼土(2)



図V-48 焼土出土の遺物

6, 小ピット



図V-49 小ピットの位置図

小ピット(図V-50~65 表V-10・11 表1・2 図版133)

総数: 1013カ所

位置と分布: 分布は焼土と同様、調査区の南東側、15ライン以南に密集して存在する。分布域はさらに南側や西側に広がるようである。

構造: 平面は円形で、底部は平らまたはやや丸みをもち、壁はほぼ垂直に立ち上がるものが多い。覆土はバミスを多く含む黒色~黒褐色土が主体である。壘形を持つものが多いが、まれに打ち込まれたものも存在する。

遺物出土状況: 土器、石器はいずれも小片である。出土土器はIV群c類が最も多い。周囲の包含層からも多量のIV群c類土器が出土しているため、埋め戻しの際に混入したものがほとんどであろう。

性格: 住居の支柱と考えられるが、配列は確認できない。

時期: 周囲の遺物出土状況から、縄文時代後期後葉~晩期前葉のものが大半を占めると推測する。

(石井淳平)

小ピット出土の土器

1は御殿山式で、爪形文と弧状の沈線文が施される。2は堂林式~御殿山式の口縁部片である。口縁部は波状口縁で、口縁部下に突瘤が施される。3は余市式で、2条のバンドがめぐる。4は堂林式の口縁部片で、波状口縁の波頂部が残る。口縁下には沈線が引かれる。波頂部の下に瘤が存在するが、内面に刺突の痕跡はなく、器壁をつまみ上げて作り出される。5は堂林式~御殿山式の注口又は壘で、胴部には曲線的な沈線文が施される。沈線に囲まれた部分は縄文が充填され、それ以外は磨かれる。6は堂林式での口縁部片である。口縁端部は小波状で口縁下に突瘤が施される。7は御殿山式の口縁部片で、口縁部下には突瘤と爪形文が施される。8は御殿山式の口縁部片で、爪形文、横走沈線、竹管状工具による押し引きが施される。9~11は堂林式~御殿山式の口縁部片で、9、10は口縁部が小波状となる。12は堂林式の口縁部片である。13は御殿山式の口縁部片で、口縁部付近は無文帯が存在しその下に爪形文が施される。14は堂林式~御殿山式の口縁部片、15は後北C2-D式である。16、17は堂林式~御殿山式で、17は縦長の同心円上の沈線文が施される。18は堂林式の口縁部片である。

表V-10 小ピット掘り土器一覧

遺構(層位)	図番号	図版番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地文	備考
S P 173(覆土)	図V-65-1	133				深鉢	IV群c類	R L 縄文	御殿山式
S P 187(覆土)	" - 2	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式
S P 405(覆土)	" - 3	"				深鉢	IV群a類	羽状縄文	余市式
S P 423(覆土)	" - 4	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式
S P 465(覆土)	" - 5	"				壘・注口	IV群c類		堂林式~御殿山式
S P 500(覆土)	" - 6	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式
S P 703(覆土2層)	" - 7	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	御殿山式
S P 735(覆土)	" - 8	"				深鉢	IV群c類		御殿山式
S P 786(覆土)	" - 9	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式
S P 789(覆土)	" - 10	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式
S P 790(覆土)	" - 11	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式
S P 800(覆土)	" - 12	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式
S P 840(覆土)	" - 13	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	御殿山式
S P 853(覆土)	" - 14	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式
S P 853(覆土)	" - 15	"				深鉢	VI群		後北C2D式
S P 893(覆土)	" - 16	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式
S P 926(覆土)	" - 17	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式
S P 929(覆土)	" - 18	"				深鉢	IV群c類	L R 縄文	堂林式

表V-11 小ピット一覧

遺構番号	位置	規模(m)			土	備考
		長径	短径	深さ		
1	G-13	0.19	0.17	0.25	10YR 2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 5%含む	
2	G-13	0.18	0.14	0.25	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 2%含む	
3	G-13	0.14	0.14	0.20	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 軟 ローム粒(径15mm) 7%含む	
4	G-13	0.18	0.15	0.14	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅	
5	N-14	0.22	0.22	0.44	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 2%含む	
8	N-14	0.18	0.13	0.17	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅	
7	M-14	0.20	0.15	0.20	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径3mm) 3%含む	
8	M-14	0.21	0.19	0.07	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) 10%含む	
9	U-13	0.17	0.15	0.06	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅	
10	U-13	0.21	0.21	0.19	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅	
11	U-14	0.45	0.40	0.17	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)少量含む	
12	V-14	0.20	0.18	0.17	1 10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径2~3mm) 1%含む 2 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅	
13	V-14	0.20	0.19	0.09	3 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm) 1%含む	
14	G-14	0.17	0.16	0.08	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) 1%含む	
15	F-15	0.26	0.21	0.17	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径mm) 15%含む、炭化物少量含む	
18	F-15	0.18	0.16	0.12	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm) 3%含む	
17				0.08	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) 1%含む	新掘りあり
18	F-15	0.18	0.16	0.06	1 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) 1%含む	
19	C-18	0.17	0.15	0.10	2 10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径2~3mm) 1%含む	
20	C-19	0.18	0.14	0.09	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm) 3%含む	
21	C-19	0.17	0.13	0.13	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) %含む	
22	C-19	0.18	0.12	0.14	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 炭化物少量	
23	C-19	0.18	0.14	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm) 7%含む	
24	C-19	0.16	0.11	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟	
25	C-19	0.15	0.12	0.09	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) 15%含む、炭化物少量含む	
26	C-19	0.13	0.11	0.12	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 15%含む	
27	C-19	0.15	0.12	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm) 2%、ローム粒(径5mm) 2%含む	
28	C-19	0.18	0.15	0.16	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径7mm) 1%含む	
29	C-19	0.13	0.10	0.10	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 5%含む、炭化物少量含む	
30	C-19	0.15	0.13	0.05	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm) 1%含む	
31	C-19	0.18	0.13	0.09	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 5%含む	
32	D-19	0.20	0.12	0.18	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm) 3%含む	
33	D-19	0.14	0.12	0.09	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm) 1%含む	
34	D-19	0.15	0.10	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径15~20mm) 5%含む	
35	D-19	0.12	0.11	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス、ローム粒(径3~5mm) 1%含む	
36	D-19	0.21	0.13	0.07	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径3~5mm) 1%含む	
37	D-19	0.16	0.11	0.14	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径2mm) 1%含む	
38	D-19	0.15	0.12	0.13	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 炭化物含む	
39	D-19	0.15	0.15	0.15	10YR 2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 黒褐色土粒(径10~15mm) 5%、パミス(径10mm) 1%含む	
40	D-19	0.13	0.11	0.11	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径2~10mm) 3%、炭化物少量含む	
41	D-19	0.16	0.14	0.19	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm) 3%含む	
42	D-19	0.18	0.14	0.11	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径3mm) 1%含む	
43	D-19	0.19	0.13	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム3%含む	
44	D-19	0.18	0.15	0.11	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径20mm) 5%含む	
45	D-18	0.18	0.14	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径20mm) 3%含む	
46	D-18	0.17	0.13	0.14	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径20mm) 5%、パミス(径5mm) 1%含む	
47	D-18	0.15	0.12	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒、パミス(径3mm) 3%含む	
48	D-18	0.19	0.15	0.07	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) 3%、炭化物少量含む	
49	D-18	0.22	0.14	0.18	1 10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径20mm) 5%含む 2 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm) 1%含む	

遺構 番号	位置	規模(m)			土	備 考
		長さ	短径	深さ		
50	D-18	0.30	0.25	0.20	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 軟	
51	I-14	0.25	0.13	0.15	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径5mm)1%含む
52	I-14	0.16	0.15	0.11	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径10~20mm)5%含む
53	I-14	0.15	0.11	0.17	1 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)2%含む
54	I-14	0.13	0.12	0.17	2 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)3%含む
55	I-14	0.13	0.10	0.15	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)1%含む
56	I-14	0.14	0.14	0.08	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 軟	
57	J-14	0.18	0.17	0.08	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径5~10mm)2%含む
58	J-14	0.22	0.20	0.14	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 軟	
59	J-15	0.18	0.13	0.18	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 軟	
60	I-14	0.14	0.13	0.18	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス少量含む
61	J-14	0.18	0.15	0.11	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 軟	
62	D-19	0.23	0.17	0.18	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 軟	パミス(径1mm)1%含む
63	E-19	0.15	0.12	0.10	1 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 しょう 柱痕 2 10YR 2/3 黒褐色堆積土 粘性弱 堅	黒土主体
64	E-19	0.13	0.13	0.08	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径2mm)1%含む
65	E-19	0.19	0.15	0.19	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径3mm)2%、炭化物(径3mm)1%含む
66	E-19	0.16	0.12	0.09	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)1%含む
67	E-19	0.16	0.12	0.18	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 2 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径20~30mm)30%含む、抜き取り層 ローム粒(径4mm)3%含む
68	E-19	0.20	0.14	0.15	1 10YR 2/3 黒褐色堆積土 粘性弱 すこぶる堅 2 10YR 2/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)2%含む
69	E-19	0.14	0.14	0.10	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)1%含む
70	E-19	0.15	0.12	0.15	1 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 2 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径2mm)1%含む パミス(径3~5mm)1%含む
71	E-19	0.15	0.14	0.20	1 10YR 2/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅 1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)1%含む 2 10YR 1.7/1 ローム粒(径5mm)1%含む
72	E-19	0.16	0.15	0.22	1 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径20~30mm)7%含む
73	E-19	0.15	0.13	0.17	2 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)2%、ローム粒(径10~20mm)3%含む
74	E-19	0.20	0.23	0.05	3 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)3%含む
75	E-19	0.20	0.15	0.15	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径20~30mm)5%含む、炭化物少量含む
76	E-19	0.16	0.10	0.19	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)2%、炭化物少量含む
77	E-19	0.16	0.13	0.12	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径3mm)1%、炭化物少量含む
78	C-17	0.13	0.12	0.13	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)1%含む
79	C-17	0.13	0.13	0.07	10YR 2/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅	ローム20~30%含む
80	C-17	0.20	0.17	0.05	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径3mm)1%含む
81	C-17	0.22	0.20	0.23	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径10mm)1%、炭化物(径5mm)少量含む
82	C-17	0.16	0.15	0.06	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒、炭化物少量含む
83	C-17	0.12	0.10	0.10	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 しょう	
84	C-17	0.16	0.15	0.12	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径3mm)少量含む
85	C-17	0.16	0.14	0.13	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径5~10mm)5%含む
86	C-17	0.14	0.13	0.12	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)7%含む
87	C-17	0.13	0.12	0.11	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径10~20mm)5%含む
88	D-17	0.20	0.17	0.17	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 しょう 炭化物、ローム少量含む 2 10YR 2/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径3mm)7%含む
89	D-17	0.19	0.18	0.18	10YR 3/3 暗褐色堆積土 粘性弱 堅	黒土主体でパミス(径10mm)3%、炭化物(径3mm)1%含む
90	E-17	0.15	0.13	0.14	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 すこぶる堅	ローム7%含む
91	E-17	0.18	0.15	0.24	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 軟	パミス(径1mm)2%含む
92	E-17	0.20	0.15	0.14	10YR 2/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅	パミス(径10mm)5%、炭化物(径5mm)1%含む
93	E-17	0.15	0.14	0.09	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	ローム10%含む
94	E-17	0.15	0.15	0.08	10YR 2/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅	ローム粒(径3mm)15%、炭化物少量含む

遺構番号	位置	規模(m)			種 土	備 考
		長さ	幅	深さ		
95	E-17	0.13	0.10	0.08	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径1mm)3%含む	
96	E-17	0.17	0.15	0.15	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径1mm)少量含む	
97	E-17	0.17	0.15	0.16	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)2%含む	
98	E-17	0.14	0.12	0.14	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)7%含む	
99	E-17	0.20	0.15	0.10	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)少量含む	
100	D-16	0.14	0.13	0.06	1 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)3%含む	
101	D-16	0.13	0.11	0.15	2 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム3%含む	
102	D-18	0.20	0.16	0.20	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)2%含む	
103	E-15	0.28	0.19	0.09	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径3mm)少量含む	
104	E-18	0.19	0.16	0.08	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)3%含む	
105	E-18	0.13	0.12	0.08	10YR 2/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム15%含む	
106	E-18	0.15	0.15	0.10	10YR 2/3 黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~20mm)15%含む	
107	E-18	0.18	0.14	0.18	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径20mm)15%含む	
108	E-18	0.24	0.23	0.20	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム1%含む	
109	E-18	0.18	0.16	0.21	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~20mm)10%含む	
110	E-18	0.16	0.15	0.14	10YR 3/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅 黒土主体	
111	B-18	0.20	0.17	0.08	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径1mm)3%含む	
112	E-17	0.16	0.13	0.08		
113	C-20	0.21	0.12	0.08	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)5%含む	
114	C-20	0.13	0.12	0.16	1 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)少量含む 2 10YR 3/3 黒褐色堆積土 粘性弱 軟	
115	C-20	0.14	0.11	0.09	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 黒土粒(径5~10mm)2%含む	
116	C-20	0.21	0.17	0.11	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)1%含む	
117	C-20	0.20	0.17	0.11	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径3~10mm)5%含む	
118	C-20	0.13	0.10	0.08	2 10YR 3/3 暗褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径1~3mm)2%含む	
119	C-20	0.13	0.11	0.10	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 軟 ローム粒(径2mm)3%含む	
120	C-20	0.16	0.12	0.11	2 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径2mm)2%含む	
121	C-20	0.14	0.12	0.09	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径 mm)1%、炭化物少量含む	
122	C-20	0.13	0.12	0.11	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 軟	
123	C-20	0.27	0.20	0.10	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 軟 ローム粒(径10mm)1%含む	
124	C-20	0.10	0.09	0.20	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 しょう ローム粒(径10~20mm)少量含む	
125	C-20	0.15	0.14	0.14	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	
126	D-20	0.15	0.14	0.16	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)2%含む	
127	D-20	0.16	0.12	0.10	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)10%含む	
128	C-20	0.24	0.22	0.22	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径3~5mm)3%含む(柱状) 2 10YR 3/3 暗褐色堆積土 粘性弱 堅 黒土主体(掘方)	
129	D-20	0.22	0.17	0.07	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム1%含む	
130	D-20	0.19	0.17	0.18	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)少量含む	
131	D-20	0.14	0.14	0.18	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径1mm)1%含む	
132	D-20	0.11	0.10	0.05	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)2%含む	
133	D-20	0.16	0.12	0.11	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm)7%含む	
134	D-20	0.15	0.11	0.09	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径2mm)5%含む	
135	D-20	0.20	0.18	0.07	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	
138	D-20	0.23	0.20	0.18	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 しょう パミス少量 2 10YR 2/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) %含む	
139	D-20	0.13	0.10	0.09	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~20mm)1~2%含む	
140	D-20	0.11	0.09	0.12	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 軟 ローム粒(径5mm)少量含む	
141	D-20	0.10	0.09	0.14	2 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径3mm)1%含む	
142	D-20	0.18	0.13	0.10	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒、炭化物少量含む	
143	D-20	0.20	0.15	0.15	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)5%含む	
144	D-20	0.15	0.13	0.18	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径1mm)3%含む	
145	D-20	0.20	0.14	0.07	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス、炭化物少量含む	
146	D-20	0.14	0.12	0.12	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	

遺構番号	位置	規模(m)			土	備考
		長さ	短径	深さ		
147	D-20	0.14	0.12	0.06	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%含む	
148	D-20	0.13	0.11	0.10	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径2mm)10%含む	
149	D-20	0.13	0.12	0.12	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径2mm)10%含む	
150	D-20	0.18	0.15	0.14	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%、ローム粒(径15mm)5%含む	
151	D-20	0.20	0.10	0.12	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム5%含む	
152	C-21	0.16	0.15	0.10	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)2%、炭化物少量含む	
153	C-21	0.14	0.13	0.06	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm)3%、炭化物(径5mm)1%含む	
154	C-21	0.26	0.22	0.16	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 軟 ローム粒(径1mm)1%含む	
155	C-21	0.13	0.12	0.07	1 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)5%、炭化物(径3mm)1%含む	
156	C-21	0.14	0.13	0.09	2 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)3%、炭化物(径3mm)1%含む	
157	C-21	0.17	0.15	0.13	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)2%含む	
158	C-21	0.19	0.18	0.21	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径7~10mm)2%、炭化物少量含む	
159	C-21	0.16	0.12	0.23	2 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 しょう ローム粒(径7mm)2%含む	
160	C-21	0.25	0.22	0.12	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)5%含む	
161	C-21	0.34	0.32	0.10	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%含む	
162	C-21	0.15	0.14	0.08	1 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径4mm)2%含む	
163	C-21	0.16	0.11	0.08	2 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	
164	C-21	0.14	0.13	0.06	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径1mm)少量含む	
165	C-21	0.20	0.14	0.24	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~20mm)2%、炭化物(径5mm)1%含む	
166	C-21	0.19	0.10	0.23	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径3~5mm)1%、炭化物少量含む	
167	C-21	0.21	0.19	0.22	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)1%含む	
168	C-21	0.18	0.16	0.04	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径3mm)1%含む	
169	C-21	0.11	0.10	0.08	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	
170	C-22	0.12	0.11	0.20	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm)7%含む	
171	C-22	0.22	0.19	0.11	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒少量含む	
172	C-22	0.20	0.17	0.23	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)2%、炭化物(径5mm)1%含む 2 10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 しょう ローム10%含む	
173	C-22	0.57	0.42	0.29	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 軟 ローム粒(径7mm)1%含む	
174	C-22	0.14	0.12	0.05	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	
175	C-22	0.23	0.20	0.06	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	
176	C-22	0.15	0.14	0.11	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	
177	C-22	0.20	0.15	0.08	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 珪石土粒(径3mm)少量含む	
178	C-22	0.19	0.10	0.11	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	
179	C-22	0.18	0.18	0.14	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅	
180	D-22	0.18	0.17	0.14	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)2%含む	
181	B-22	0.15	0.14	0.14	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~15mm)3%含む	
182	D-22	0.30	0.24	0.32	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 2 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 しょう 柱痕 3 10YR 2/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)5%含む	
183	D-22	0.17	0.14	0.14	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 2 10YR 2/2 黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)1%含む	
184	D-22	0.15	0.14	0.20	1 10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 炭化物(径5mm)1~2%含む 柱痕 2 10YR 2/3 黒褐色堆積土 粘性弱 堅 珪石土主体	
185	D-22	0.14	0.12	0.26	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)1%含む	
186	D-22	0.16	0.15	0.15	10YR 2/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)1%含む	
187	D-22	0.17	0.16	0.13	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm)3%含む	
188	D-22	0.17	0.15	0.08	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1~2mm)少量含む	
189	D-21	0.18	0.17	0.08	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 炭化物(径5mm)1%含む	
190	D-21	0.18	0.14	0.08	10YR 1.7/1 黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)1%含む	

遺構番号	位置	規模(m)			備 考
		長さ	幅	深さ	
191	D-22	0.11	0.10	0.05	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)3%含む
192	D-22	0.16	0.15	0.20	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)1~2%含む
193	E-22	0.28	0.17	0.18	1 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 2 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)10%含む
194	E-22	0.22	0.18	0.14	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅
195	E-22	0.20	0.14	0.22	1 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟 柱根 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒 (径5~10mm)20%含む
196	E-22	0.13	0.10	0.08	10YR3/4暗褐色土 粘性弱 堅 Ⅲ層土主体
197	E-22	0.16	0.16	0.24	1 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%含む 2 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(径4mm)3%含む
198	E-21	0.16	0.14	0.17	10YR3/3暗褐色堆積土 粘性弱 堅
199	D-21	0.17	0.14	0.08	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)1%含む
200	D-21	0.11	0.10	0.16	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)7%含む
331	D-21	0.15	0.14	0.10	10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)1%、炭化物(径3mm)1%含 む
332	D-21	0.24	0.19	0.08	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)2%含む
333	D-21	0.11	0.11	0.12	1 10YR2/2黒褐色土
334	D-21	0.15	0.14	0.06	2 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)3%含む
335	D-21	0.16	0.15	0.13	10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅
336	E-21	0.48	0.21	0.21	1 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 2 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)1%含む
337	E-21	0.25	0.18	0.20	1 10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)2%含む 柱根 2 10 YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)1%含む 3 10YR4/4褐色堆 積土 粘性弱 堅 Ⅲ層土主体でパミス(径5mm)1%含む
338	E-21	0.13	0.13	0.09	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅
339	E-21	0.15	0.13	0.20	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟 ローム粒(径3mm)少量含む
340	E-21	0.20	0.15	0.14	10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 黒色土粒(径5mm)3%含む
341	E-21	0.32	0.18	0.17	1 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 炭化物(径1mm)1%含む 2 10YR3/2黒 褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム主体でパミス(径10~20mm)3%含む
342	E-21	0.18	0.16	0.08	10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)1%含む
343	E-20	0.25	0.22	0.24	1 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟 ローム粒(径4mm)少量含む(柱根) 2 10Y R2/3黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)10%含む
344	E-20	0.15	0.15	0.10	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 炭化物(径3mm)少量含む
345	E-20	0.22	0.18	0.21	1 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 炭化物(径2mm)少量含む 2 10YR3/3黒褐 色堆積土 粘性弱 堅 ローム主体
346	E-20	0.19	0.17	0.09	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅
347	F-22	0.12	0.12	0.09	10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径2mm)5%含む
348	F-22	0.14	0.13	0.08	10YR3/3暗褐色堆積土 粘性弱 堅 Ⅲ層土主体でローム粒(径2mm)5%、黒色土粒 (径5mm)3%含む
349	F-22	0.17	0.14	0.10	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟 ローム粒(径3mm)1%含む
350	F-22	0.20	0.17	0.27	1 10YR3/3暗褐色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径7mm)2%含む 2 10YR4/4 褐色堆積土 粘性弱 軟 ローム主体でパミス(径3mm)3%含む
351	F-22	0.12	0.11	0.25	10YR3/3暗褐色堆積土 粘性弱 堅 Ⅲ層土主体で黒色土粒(径10mm)2%、ローム粒 (径10mm)5%含む
352	F-22	0.15	0.15	0.10	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径3mm)少量含む
353	F-22	0.13	0.12	0.12	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径3mm)2%含む
354	F-22	0.19	0.16	0.27	10YR4/4褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム主体でパミス(径5~7mm)2%、炭化物(径 5mm)1%含む
355	F-22	0.14	0.12	0.05	
356	G-22	0.20	0.18	0.12	
357	G-22	0.26	0.20	0.21	
358	G-22	0.19	0.17	0.11	

遺構 番号	位置	規模(m)			土	備考
		長さ	幅	高さ		
359	G-22	0.16	0.16	0.08		
360	G-22	0.18	0.17	0.14		
361	G-22	0.22	0.20	0.12		
362	G-22	0.12	0.11	0.12		
363	G-22	0.12	0.12	0.12		
364	G-22	0.16	0.16	0.12		
365	G-22	0.11	0.10	0.08		
366	G-22	0.12	0.10	0.09		
367	G-22	0.19	0.16	0.09		
368	G-22	0.21	0.18	0.10		
369	G-22	0.16	0.16	0.09		
370	G-22	0.13	0.11	0.10		
371	G-22	0.19	0.17	0.12		
372	F-21	0.15	0.14	0.09		
373	F-21	0.11	0.11	0.08		
374	F-21	0.11	0.10	0.15		
375	F-21	0.27	0.22	0.05		
376	F-21	0.17	0.13	0.05		
377	G-22	0.17	0.13	0.08	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	
378	G-22	0.24	0.21	0.09	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	
379	H-22	0.17	0.14	0.07	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
380	H-22	0.10	0.10	0.18	10YR2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)2%含む	
381	H-22	0.15	0.14	0.15	1 10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 しょう 2 10YR2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)3%含む	
382	H-22	0.16	0.14	0.17	10YR2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)1%含む	
383	H-22	0.17	0.15	0.18	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径5mm)1%含む	
384	H-22	0.18	0.16	0.08	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)1%含む	
385	H-22	0.14	0.11	0.10	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
386	H-22	0.28	0.22	0.25	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)1%含む	
387	H-22	0.22	0.18	0.13	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%含む	
388	H-22	0.15	0.11	0.10	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径7mm)1%含む	
389	H-22	0.13	0.12	0.09	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)少量含む	
390	H-22	0.19	0.15	0.16	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
391	H-22	0.17	0.16	0.07	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径1mm)1%含む	
392	H-22	0.17	0.15	0.16	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)少量含む	
393	H-22	0.16	0.16	0.15	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径7mm)2%含む	
394	H-22	0.12	0.10	0.19	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 しょう	
395	H-22	0.22	0.22	0.36	1 10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径2~10mm)3%含む 2 10YR2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)5%含む	
396	H-22	0.18	0.14	0.15	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)3%含む	
397	H-22	0.18	0.17	0.20	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)1%含む	
398	H-22	0.15	0.13	0.08	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
399	H-22	0.17	0.15	0.15	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径5mm)1%含む	
400	H-22	0.15	0.14	0.10	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)2%含む	
401	H-22	0.19	0.15	0.16	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
402	G-21	0.18	0.15	0.09	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
403	G-21	0.18	0.15	0.12	10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)1%含む	
404	G-21	0.19	0.18	0.13	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
405	G-21	0.19	0.17	0.16	10YR1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径1mm)3%含む	
406	G-21	0.18	0.15	0.26	10YR2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)3%、炭化物(径10mm)1%含む	
407	G-21	0.24	0.21	0.34	1 10YR2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)2%含む 2 10YR4/6 褐色埴壤土 粘性弱 堅 IV層土主体、パミス(径10mm)10%含む 3 10YR5/3 褐色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径5mm)5%含む	

遺構番号	位置	規模(m)			土	備考
		長さ	短径	深さ		
408	G-21	0.32	0.30	0.34	1 10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10~15mm)2%含む 2 10YR 4/4 褐色埴土 粘性弱 堅 ローム主体、パミス(径5~10mm)2%含む	
409	G-20	0.28	0.33	0.08	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟 ローム粒(径10mm)1%含む	
410	G-21	0.30	0.18	0.08	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅	
411	G-21	0.15	0.13	0.08	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)1%含む	
412	G-21	0.14	0.13	0.08	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅	
413	G-21	0.29	0.26	0.30	1 10YR 2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~7mm)1%含む 2 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)1%含む	
414	G-21	0.19	0.18	0.18	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟 ローム粒(径10~20mm)2%含む	
415	H-21	0.24	0.21	0.31	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径2~5mm)1%含む	
416	H-21	0.11	0.10	0.18	10YR 2/3 黒褐色埴土 粘性弱 しょう	
417	H-21	0.17	0.16	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟 パミス(径1mm)少量含む	
418	H-21	0.18	0.18	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)少量含む	
419	H-21	0.18	0.13	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%含む	
420	H-21	0.25	0.19	0.26	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 軟 パミス(径20mm)1%含む	
421	H-21	0.23	0.20	0.23	1 10YR 2/2 黒褐色埴土 粘性弱 軟 パミス(径10mm)2%含む 2 10YR 2/3 黒褐色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)7%含む	
422	H-21	0.17	0.16	0.15	1 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟 パミス(径7~10mm)3%含む	
423	H-21	0.13	0.13	0.30	2 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)2%含む	
424	H-17	0.25	0.22	0.40	1 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟 ローム粒(径5mm)2%含む 2 10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~15mm)3%含む	
425	H-17	0.24	0.23	0.28	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)3%含む	
426	H-17	0.18	0.14	0.17	1 10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径2mm)5%含む 2 10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 しょう ローム粒(径3mm)10%含む	
427	H-17	0.17	0.16	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟	
428	H-17	0.24	0.15	0.20	1 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟 2 10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径20mm)7%含む	
429	H-17	0.15	0.14	0.18	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)1%含む	
430	H-17	0.13	0.11	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)2%含む	
431	H-17	0.17	0.17	0.11	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅	
432	H-17	0.18	0.14	0.14	1 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径4mm)1%含む 2 10YR 2/3 黒褐色埴土 粘性弱 軟 パミス(径13mm)3%含む	
433	H-17	0.24	0.20	0.19	10YR 2/3 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)2%、炭化物(径10mm)2%含む	
434	H-17	0.20	0.19	0.18	1 10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 軟 炭化物20%含む 2 10YR 2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)10%含む	
435	H-17	0.21	0.15	0.09	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径4mm)3%含む	
436	H-17	0.16	0.15	0.12	10YR 3/3 暗褐色埴土 粘性弱 堅 珪層土主体、パミス(径15mm)1%含む	
437	H-17	0.15	0.13	0.06	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟 パミス(径5mm)1%含む	
438	H-17	0.22	0.22	0.43	10YR 3/3 暗褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)10%含む	
439	H-17	0.30	0.29	0.30	1 10YR 2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)5%含む 2 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)1%含む	
440	H-17	0.15	0.14	0.06	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 軟 パミス(径1mm)2%含む	
441	I-17	0.27	0.24	0.19	1 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径15mm)15%含む 柱痕 2 10YR 2/3 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)15%含む	
442	I-17	0.30	0.27	0.15	1 10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)7%含む	
443	I-17	0.21	0.20	0.13	2 10YR 3/3 暗褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)15%含む	
444	I-17	0.10	0.09	0.11	10YR 1.7/1 黒色埴土 粘性弱 しょう ローム粒(径5mm)2%含む	
445	I-17	0.28	0.20	0.12	10YR 2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)15%含む	
446	I-17	0.20	0.19	0.12	10YR 2/3 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径15mm)10%含む	
447	I-17	0.23	0.19	0.37	1 10YR 2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)7%含む 2 10YR 3/3 暗褐色埴土 粘性弱 堅 珪層土主体でパミス(径7mm)10%含む	
448	I-17	0.30	0.24	0.18	10YR 2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)7%、炭化物(径5mm)1%含む	
449	I-17	0.21	0.18	0.16	10YR 2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)10%含む	

遺構 番号	位置	規模(m)			土	備考
		長さ	幅	高さ		
450	I-16	0.17	0.14	0.09	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)2%含む
451	I-17	0.10	0.10	0.08	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)5%、炭化物(径3mm)少量含む
452	E-17	0.13	0.12	0.10	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)1%含む
453	E-17	0.13	0.13	0.19	10Y R 2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径2~3mm)3%含む
454	E-17	0.16	0.16	0.09	1 10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)少量、炭化物1%含む
455	E-17	0.21	0.20	0.11	2 10Y R 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径10~20mm)1%含む
456	E-17	0.15	0.13	0.05	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
457	E-17	0.15	0.12	0.15	2 10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径2~4mm)3%含む
458	E-17	0.16	0.14	0.05	1 10Y R 2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	
459	E-17	0.16	0.14	0.18	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)1%含む
460	F-17	0.19	0.18	0.16	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	パミス(径4mm)2%含む
461	F-17	0.28	0.14	0.18	1 10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)2%含む
462	F-17	0.15	0.13	0.11	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)2%含む
463	F-17	0.12	0.11	0.16	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径3mm)2%含む
464	F-17	0.11	0.10	0.08	10Y R 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	
465	F-17	0.14	0.12	0.20	10Y R 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 軟	ローム粒(径10mm)2%、パミス(径1~2mm)1%含む
466	次					
467	F-17	0.18	0.13	0.06	1 10Y R 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 軟	パミス(径2mm)5%含む
468	F-17	0.14	0.13	0.10	2 10Y R 3/1 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径5~7mm)3%含む
469	F-17	0.13	0.12	0.11	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)1%含む
470	F-17	0.15	0.15	0.15	1 10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	柱礎
471	F-17	0.17	0.15	0.24	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径10~15mm)2%含む
472	F-17	0.15	0.14	0.20	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径15mm)1%含む
473	F-17	0.22	0.16	0.13	1 10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	パミス(径2~3mm)1%含む
474	F-17	0.20	0.15	0.09	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径2mm)3%含む
475	F-17	0.13	0.12	0.15	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
476	F-17	0.11	0.11	0.09	2 10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
477	F-17	0.17	0.13	0.19	1 10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径10mm)1%含む
478	F-17	0.10	0.10	0.18	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	ローム粒(径10mm)2%含む
479	F-17	0.12	0.10	0.16	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	パミス(径1mm)2%含む
480	F-17	0.18	0.18	0.17	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)2%含む
481	F-17	0.18	0.15	0.20	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径5~15mm)5%含む
482	F-17	0.13	0.13	0.10	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)5%含む
483	F-17	0.18	0.14	0.12	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)1%、ローム粒(径10mm)7%含む
484	F-17	0.20	0.12	0.13	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)2%含む
485	F-17	0.24	0.18	0.23	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	ローム粒(径10mm)2%含む
486	F-17	0.13	0.12	0.10	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)3%含む
487	F-17	0.16	0.15	0.18	1 10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)2%含む
488	F-17	0.13	0.10	0.12	2 10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径2mm)1%含む
489	F-17	0.17	0.14	0.13	1 10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	パミス(径1mm)2%含む
490	F-17	0.18	0.15	0.22	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)10%含む
491	F-17	0.14	0.13	0.20	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径20mm)5%含む
492	F-17	0.18	0.15	0.19	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径7mm)1%含む
493	F-17	0.15	0.15	0.16	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径4mm)1%含む
494	F-17	0.15	0.15	0.08	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径2mm)2%含む
495	F-17	0.11	0.10	0.13	10Y R 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)10%含む
496	F-17	0.15	0.15	0.19	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	ローム粒(径10mm)1%含む
497	F-17	0.14	0.12	0.20	10Y R 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径5~10mm)3%含む

遺構番号	位置	規模(m)			土	備考
		長さ	幅	高さ		
498	F-17	0.13	0.10	0.12	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	
499	F-17	0.24	0.23	0.14	1 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径3mm)1%含む	
500	F-17	0.12	0.10	0.25	2 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1~2mm)1%含む	
5						
621	G-17	0.14	0.13	0.12	1 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径5mm)10%含む 2 10YR 4/4 褐色埴壤土 粘性弱 すこぶる堅	
622	G-17	0.09	0.08	0.10	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)2%含む	
623	G-17	0.15	0.14	0.07	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)3%含む	
624	G-17	0.17	0.15	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2~3mm)3%含む	
625	G-17	0.14	0.13	0.13	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	
626	G-17	0.21	0.19	0.22	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)3%含む	
627	G-17	0.12	0.11	0.10	10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)1%含む	
628	G-17	0.14	0.12	0.22	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径5~15mm)3%含む	
629	D-15	0.19	0.16	0.10	1 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)7%含む 2 10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒20%含む	
630	D-15	0.12	0.11	0.06	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)3%含む	
631	D-16	0.13	0.13	0.09	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
632	D-16	0.23	0.21	0.05	10YR 3/3 暗褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)30%含む	
633	E-16	0.18	0.17	0.14	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)3%含む	
634	E-16	0.15	0.13	0.12	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)2%含む	
635	E-16	0.19	0.18	0.17	1 10YR 2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径1mm)20%含む	
636	E-16	0.20	0.19	0.18	10YR 2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)10%含む	
637	E-16	0.19	0.17	0.11	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2~3mm)2%含む	
638	E-16	0.14	0.13	0.19	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%含む	
639	E-16	0.12	0.12	0.16	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径1mm)2%含む	
640	E-16	0.11	0.10	0.32	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)1%含む	
641	E-16	0.22	0.19	0.19	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径15mm)7%含む	
642	E-16	0.14	0.12	0.20	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm)2%含む	
643	E-16	0.13	0.12	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)3%含む	
644	E-16	0.20	0.18	0.12	1 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2~3mm)1%含む	
645	E-16	0.12	0.12	0.10	2 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)1%含む	
646	E-16	0.16	0.15	0.08	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
647	E-16	0.12	0.12	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径3mm)5%含む	
648	E-16	0.27	0.24	0.11	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)5%含む	
649	E-16	0.15	0.14	0.11	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)1%含む	
650	E-16	0.11	0.10	0.15	1 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)3%含む	
651	E-16	0.12	0.12	0.08	2 10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)5%含む	
652	E-16	0.13	0.11	0.20	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	
653	E-16	0.15	0.13	0.15	2 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1~3mm)1%含む	
654	E-16	0.16	0.15	0.08	1 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)3%含む	
655	E-16	0.25	0.22	0.13	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1~5mm)3%含む	
656	E-16	0.10	0.10	0.24	1 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)7%含む	
657	E-16	0.12	0.12	0.10	2 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2~4mm)5%含む	
658	E-16	0.14	0.14	0.25	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)5%含む	
659	E-16	0.12	0.12	0.20	3 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径20mm)3%含む	
990	E-16	0.14	0.13	0.21	1 10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)5%含む 2 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	
991	E-16	0.21	0.18	0.14	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~7mm)3%含む	
992	E-16	0.15	0.12	0.18	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径2~5mm)1%含む	
993	E-16	0.14	0.13	0.14	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1~5mm)5%含む	
994	E-16	0.13	0.12	0.13	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径5mm)2%含む	
995	E-16	0.23	0.13	0.21	10YR 3/3 黒色埴壤土 粘性弱 堅 IV層土主体	
996	E-16	0.11	0.11	0.08	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	

遺構番号	位置	規模(m)			土	備考
		長径	短径	深さ		
667	E-16	0.14	0.12	0.12	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	ローム粒(径5mm)2%含む
668	D-15	0.12	0.11	0.07	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1~2mm)3%含む
669	D-15	0.18	0.16	0.14	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5~10mm)5%含む
670	D-15	0.17	0.17	0.07	1 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径3~5mm)5%含む
671	D-15	0.15	0.15	0.13	2 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径5mm)10%含む
672	D-15	0.14	0.13	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径4mm)3%含む
673	D-15	0.16	0.15	0.16	1 10YR 1.7/1 黒色土 2 10YR 2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 軟	ローム粒(径10~20mm)5%含む
674	D-15	0.11	0.10	0.15	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径2~4mm)3%含む
675	D-15	0.13	0.13	0.11	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)5%含む
676	D-15	0.13	0.12	0.09	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径1~3mm)2%含む
677	D-15	0.13	0.12	0.06	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)2%含む
678	D-15	0.12	0.11	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径2~4mm)2%含む
679	D-15	0.14	0.13	0.14	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)1%含む
680	D-15	0.16	0.14	0.06	1 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径3mm)3%含む
681	D-15	0.10	0.10	0.10	2 10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)5%含む
682	D-15	0.12	0.11	0.16	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)5%含む
683	D-15	0.12	0.12	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1~3mm)2%含む
684	D-15	0.12	0.11	0.20	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱	しょう
685	E-15	0.10	0.10	0.10	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)1%含む
686	E-15	0.10	0.08	0.14	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径3mm)1%含む
687	E-14	0.17	0.17	0.11	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)1%含む
688	E-14	0.14	0.14	0.07	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1~2mm)2%含む
689	E-15	0.17	0.16	0.13	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)3%含む
690	E-15	0.11	0.11	0.09	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径5~10mm)5%含む
691	E-15	0.12	0.11	0.13	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)2%含む
692	E-15	0.15	0.13	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径2~3mm)2%含む
693	E-15	0.15	0.12	0.06	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)2%含む
694	D-15	0.10	0.10	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)1%含む
695	E-15	0.13	0.12	0.16	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	パミス(径3mm)1%含む
696	E-16	0.13	0.12	0.14	10YR 2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径10mm)7%含む
697	E-15	0.15	0.14	0.08	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1mm)少量含む
698	E-16	0.18	0.15	0.10	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)3%含む
699	E-15	0.12	0.12	0.12	1 10YR 1.7/1 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	
700	E-15	0.15	0.14	0.07	2 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
701	E-15	0.15	0.14	0.10	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)3%含む
702	B-16	0.14	0.13	0.16	10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5~7mm)2%含む
703	E-16	0.15	0.13	0.17	1 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 2 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5~15mm)7%含む
704	E-15	0.17	0.14	0.07	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)2%含む
705	E-16	0.14	0.14	0.14	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径2~3mm)3%含む
706	E-15	0.11	0.10	0.09	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱	しょう
707	E-15	0.12	0.11	0.08	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)3%含む
708	F-15	0.38	0.32	0.15	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)3%含む
709	F-15	0.19	0.19	0.19	10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)3%含む
710	F-15	0.14	0.11	0.06	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1~2mm)3%含む
711	F-15	0.12	0.11	0.05	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)3%含む
712	F-14	0.12	0.10	0.04	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)2%含む
713	F-15	0.15	0.14	0.07	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1~3mm)2%含む
714	F-15	0.16	0.18	0.06	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径5mm)1%含む
715	F-13	0.15	0.13	0.07	10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径1~2mm)5%含む
716	F-15	0.15	0.13	0.11	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	パミス(径3mm)5%含む
717	G-16	0.22	0.16	0.12	10YR 2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅	ローム粒(径3~5mm)10%含む

遺構 番号	位置	規模(m)			層位	土質	備考
		長さ	幅	高さ			
718	E-18	0.18	0.18	0.14	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径2~3mm)2%含む
719	E-18	0.27	0.24	0.28	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径3~10mm)2%含む
720	E-18	0.14	0.13	0.10	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	ローム粒(径2mm)1%含む
721	E-18	0.15	0.13	0.15	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)7%含む
722	E-18	0.12	0.10	0.14	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	
723	E-18	0.19	0.17	0.27	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)1%含む
724	F-18	0.21	0.17	0.28	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径4mm)2%含む
725	F-18	0.20	0.16	0.09	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	
726	F-18	0.20	0.18	0.05	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	
727	F-18	0.14	0.12	0.07	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	
728	F-18	0.23	0.22	0.14	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	
729	F-18	0.19	0.18	0.20	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径3mm)3%含む
730	F-18	0.29	0.20	0.25	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径2mm)2%含む
731	F-18	0.16	0.14	0.16	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 軟	パミス(径1mm)1%含む
732	F-18	0.15	0.13	0.11	1 10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 軟	
733	F-18	0.18	0.13	0.21	2 10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	ローム粒(径5mm)1%含む
734	F-18	0.15	0.14	0.10	1 10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 軟	
735	F-18	0.19	0.17	0.19	2 10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	ローム粒(径5~15mm)1%含む
736	F-18	0.17	0.17	0.13	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 軟	
737	F-18	0.15	0.14	0.10	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径2mm)1%含む
738	F-18	0.16	0.14	0.12	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 軟	パミス(径1~2mm)3%含む
739	F-18	0.16	0.12	0.12	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	
740	F-18	0.38	0.35	0.25	1 10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	ローム粒(径10~20mm)3%含む
					2 10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	
741	F-18	0.21	0.20	0.13	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径3~10mm)1%含む
742	F-18	0.38	0.35	0.15	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス、ローム粒(径3~7mm)3%含む
743	F-18	0.13	0.11	0.15	1 10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)2%含む
744	F-18	0.16	0.15	0.23	2 10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)2%含む
745	F-18	0.21	0.16	0.06	3 10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 軟	
746	F-18	0.16	0.14	0.23	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 軟	ローム粒(径10~15mm)1%含む
747	F-18	0.13	0.12	0.16	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	ローム粒(径15mm)7%含む
748	F-18	0.17	0.15	0.13	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径1mm)1%含む
749	F-18	0.14	0.11	0.18	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 軟	ローム粒(径10~20mm)2%含む
750	F-17	0.19	0.19	0.14	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	ローム粒(径10~20mm)2%含む
751	F-17	0.19	0.15	0.18	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径5~10mm)5%含む
752	F-17	0.14	0.13	0.17	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)3%含む
753	G-18	0.16	0.11	0.09	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 軟	
754	G-18	0.18	0.15	0.07	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径5mm)1%含む
755	G-18	0.12	0.10	0.16	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径5mm)1%含む
756	G-18	0.15	0.14	0.20	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	ローム粒(径10~20mm)3%含む
757	G-18	0.14	0.13	0.13	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	
758	G-18	0.43	0.30	0.16	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)1%含む
759	G-18	0.20	0.18	0.31	1 10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径10~20mm)2%含む
					2 10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 軟	パミス(径10mm)3%含む
760	G-18	0.13	0.13	0.35	10Y R 2/2 黒褐色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径5~10mm)5%含む
761	G-18	0.20	0.18	0.28	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径2~3mm)3%含む
762	G-18	0.18	0.16	0.28	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径3~10mm)1%含む
763	G-18	0.12	0.10	0.10	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径1mm)3%含む
764	G-18	0.14	0.12	0.24	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径5~7mm)2%含む
765	G-18	0.18	0.16	0.11	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)2%含む
766	G-22	0.10	0.10	0.13	10Y R 1.7/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径1mm)1%含む
767	G-22	0.14	0.14	0.21	10Y R 2/2 黒褐色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径5mm)5%含む
768	G-22	0.19	0.18	0.07	10Y R 2/1 黒色埴壌土	粘性弱 堅	パミス(径3~5mm)2%含む

遺構番号	位置	規模(m)			土	備考
		長さ	短径	深さ		
769	G-22	0.14	0.13	0.10	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)2%含む	
770	G-22	0.16	0.15	0.08	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟	
771	H-22	0.08	0.08	0.10	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%含む	
772	G-22	0.14	0.14	0.08	1 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)1%含む	
773	G-22	0.12	0.11	0.12	2 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 軟 パミス(径3~5mm)2%含む	
774	H-22	0.09	0.09	0.08	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス・ローム粒(径2~4mm)5%含む	
775	H-22	0.13	0.13	0.17	10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%含む	
776	H-22	0.14	0.14	0.06	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅	
777	H-22	0.13	0.12	0.10	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟 パミス(径1mm)2%含む	
778	H-22	0.19	0.18	0.20	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)10%含む	
779	H-22	0.11	0.10	0.11	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径1~2mm)1%含む	
780	H-22	0.13	0.13	0.25	1 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟 2 10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)10%含む	
781	H-22	0.15	0.15	0.14	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 軟 パミス(径1~2mm)2%含む	
782	H-22	0.20	0.18	0.18	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟	
783	H-22	0.15	0.13	0.18	10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径2~4mm)3%含む	
784	H-22	0.25	0.20	0.19	1 10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5~7mm)3%含む	
785	H-22	0.13	0.06	0.25	2 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3~7mm)5%含む	
786	H-22	0.15	0.14	0.10	2 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)1%含む	
787	H-22	0.09	0.09	0.18	1 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟	
788	H-22	0.11	0.11	0.15	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 軟 パミス(径5mm)1%含む	
789	H-22	0.23	0.18	0.20	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 軟	
790	H-22	0.17	0.14	0.15	1 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径15mm)3%含む	
791	H-22	0.15	0.15	0.06	2 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径7mm)1%含む	
792	H-22	0.15	0.14	0.07	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅	
793	H-22	0.12	0.11	0.09	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム30%含む	
794	H-22	0.14	0.14	0.07	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm)1%含む	
795	H-21	0.17	0.15	0.10	2 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)2%含む	
796	H-21	0.13	0.11	0.15	1 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)1%含む	
797	H-21	0.15	0.10	0.10	3 10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)7%含む	
798	H-21	0.14	0.11	0.19	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟 パミス(径3mm)3%含む	
799	H-21	0.17	0.16	0.11	1 10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径2~4mm)3%含む	
800	H-21	0.18	0.16	0.15	2 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%含む	
801	H-21	0.13	0.09	0.20	3 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1~3mm)5%含む	
802	H-21	0.20	0.20	0.20	1 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5~7mm)3%含む 柱礎 2 10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径7~10mm)10%含む	
803	H-21	0.19	0.18	0.19	10YR2/2黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径7~10mm)5%含む	
804	H-21	0.10	0.09	0.11	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)7%含む	
805	H-21	0.15	0.13	0.08	1 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)3%含む	
806	H-21	0.20	0.19	0.33	2 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径3~10mm)5%含む 3 10YR2/3黒褐色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)7%含む	
807	H-21	0.16	0.16	0.32	1 10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)2%含む 2 10YR3/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)5%含む 3 10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟 パミス(径1~2mm)2%含む	
808	H-21	0.17	0.17	0.18	10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)2%含む	
809	H-21	0.18	0.18	0.14	10YR1.7/1黒色堆積土 粘性弱 軟 パミス(径1mm)2%含む	
810	H-21	0.19	0.14	0.07	10YR1.7/1黒色土 軟	
811	H-21	0.13	0.13	0.18	1 10YR1.7/1黒色土 堅	
812	H-21	0.19	0.18	0.28	2 10YR2/2黒褐色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径1~3mm)1%含む	
813	H-21	0.13	0.12	0.13	10YR2/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)2%含む	
814	H-22	0.18	0.18	0.10	10YR7.1/1黒色堆積土 粘性弱 軟	
815	H-22	0.23	0.17	0.08	10YR7.1/1黒色堆積土 粘性弱 軟	
816	H-22	0.25	0.22	0.09	2 10YR7.1/1黒色堆積土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)2%含む	

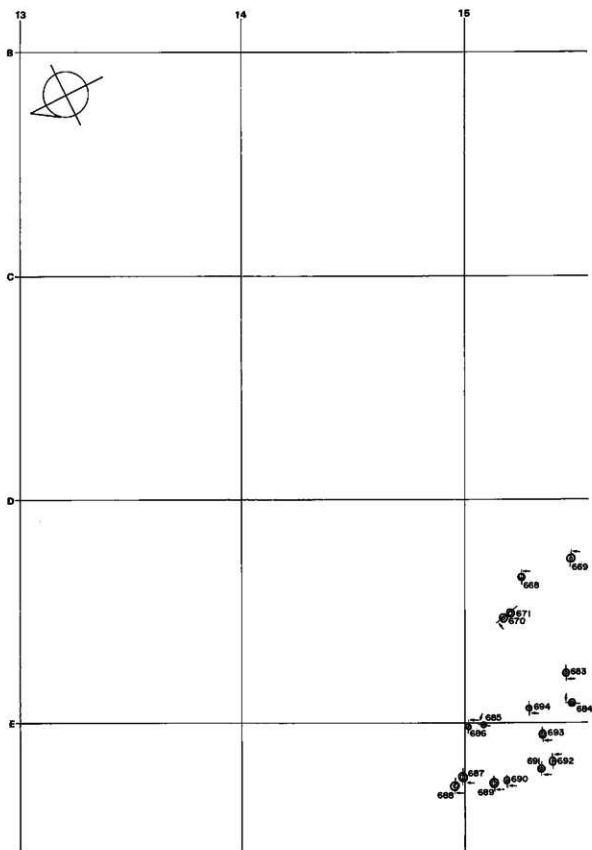
西島松5遺跡 平成12年度

遺構 番号	位置	規模(m)			土	備考
		長さ	幅	高さ		
817	H-22	0.20	0.20	0.10	1 10YR7.1/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~20mm)5%含む	
818	G-18	0.21	0.18	0.25		
819	G-18	0.17	0.14	0.12		
820	G-18	0.24	0.20	0.24		
821	G-18	0.14	0.13	0.26		
822	G-18	0.16	0.15	0.08		
823	G-18	0.17	0.18	0.25		
824	G-18	0.21	0.15	0.16		
825	G-18	0.15	0.15	0.22		
826	G-18	0.18	0.15	0.23		
827	G-18	0.21	0.20	0.24		
828	G-18	0.19	0.18	0.13		
829	G-18	0.19	0.19	0.13		
830	G-18	0.27	0.26	0.35		
831	H-18	0.18	0.15	0.24	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径20~30mm)5%含む	
832	H-18	0.15	0.15	0.05	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟	
833	H-18	0.19	0.18	0.12	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟 パミス(径2~3mm)5%含む	
834	H-18	0.26	0.23	0.20	10YR3/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)7%含む	
835	H-18	0.14	0.13	0.10	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)5%含む	
836	H-18	0.19	0.17	0.20	10YR2/1 黒色埴土 粘性弱 軟 パミス(径5~10mm)5%含む	
837	H-18	0.19	0.15	0.12	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 軟 パミス(径1mm)1%含む	
838	H-18	0.18	0.17	0.10	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~7mm)10%含む	
839	H-18	0.22	0.19	0.20	10YR2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)10%含む	
840	H-18	0.16	0.14	0.20	10YR2/1 黒褐色埴土 粘性弱 軟 パミス(径10mm)5%含む	
841	H-18	0.14	0.12	0.22	10YR1.7/1 黒褐色埴土 粘性弱 軟 ローム粒(径2~3mm)2%含む	
842	H-18	0.17	0.16	0.23	10YR2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm)10%含む	
843	H-18	0.20	0.15	0.25	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm)3%含む	
844	H-18	0.18	0.15	0.13	10YR2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm) %含む	
845	H-18	0.14	0.14	0.06	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)3%含む	
846	H-18	0.20	0.18	0.15	10YR2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)5%含む	
847	G-21	0.27	0.27	0.15	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径2~3mm)3%含む	
848	G-21	0.22	0.20	0.15	10YR2/1 黒色埴土 粘性弱 堅	
849	G-21	0.24	0.22	0.26	1 10YR2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)2%、炭化物(径10~20mm)1%含む 2 10YR2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)2%含む	
850	G-21	0.19	0.17	0.29	1 10YR2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~7mm)2%含む	
851	G-21	0.18	0.14	0.25	2 10YR2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)2%含む 3 10YR2/3 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)7%含む	
852	G-21	0.26	0.23	0.37	10YR2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径7~10mm)7%含む	
853	G-21	0.23	0.19	0.10	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅	
854	G-21	0.14	0.12	0.15	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)1%含む	
855	H-21	0.18	0.17	0.16	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 しょう	
856	G-21	0.15	0.15	0.10	10YR2/1 黒色埴土 粘性弱 軟	
857	G-21	0.22	0.19	0.46	10YR2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~20mm)5%含む	
858	G-21	0.23	0.21	0.43	10YR2/3 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~15mm)5%含む	
859	G-20	0.29	0.22	0.20	10YR2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)5%含む	
860	G-20	0.12	0.12	0.10	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~7mm)3%含む	
861	G-20	0.16	0.15	0.18	10YR2/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)2%含む	
862	G-20	0.14	0.12	0.08	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径1mm)1%含む	
863	G-20	0.15	0.13	0.10	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)3%含む	
864	G-20	0.18	0.13	0.21	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)3%含む	
865	G-20	0.17	0.16	0.30	10YR2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)5%含む	
866	G-20	0.19	0.19	0.14	10YR1.7/1 黒色埴土 粘性弱 堅 パミス(径1~2mm)2%含む	
867	G-20	0.18	0.17	0.20	10YR2/2 黒褐色埴土 粘性弱 堅 パミス(径2~3mm)2%含む	

遺構番号	位置	規模(m)			土	備考
		長さ	短径	高さ		
868	G-20	0.16	0.15	0.24	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径10mm)10%含む	
869	G-20	0.20	0.19	0.19	10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)5%含む	
870	G-20	0.19	0.16	0.10	10YR 3/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10mm)1%、炭化物1%含む	
871	G-20	0.43	0.37	0.23	10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10~15mm)7%含む	
872	G-20	0.18	0.16	0.22	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径2mm)1%含む	
873	G-20	0.13	0.12	0.14	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)5%含む	
874	G-20	0.12	0.12	0.24	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径5mm)5%含む	
875	G-20	0.12	0.11	0.06	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)3%含む	
876	G-20	0.12	0.11	0.18	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径5mm)7%含む	
877	G-20	0.17	0.15	0.14	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 しょう パミス(径3mm)1%含む	
878	H-20	0.27	0.21	0.37	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)3%含む	
879	H-20	0.08	0.08	0.07	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm)7%含む	
880	H-20	0.16	0.15	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 しょう	
881	H-20	0.15	0.13	0.18	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径10~15mm)5%含む	
882	H-20	0.14	0.14	0.24	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~12mm)7%含む	
883	H-20	0.15	0.15	0.05	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径7~10mm)5%含む	
884	H-20	0.16	0.15	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3mm)3%含む	
885	H-20	0.21	0.16	0.23	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10~20mm)10%含む	
886	H-19	0.24	0.22	0.23	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)1%含む	
887	H-19	0.18	0.15	0.16	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm)3%含む	
888	H-19	0.18	0.18	0.13	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径3~10mm)5%含む	
889	H-19	0.15	0.14	0.14	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5~7mm)5%含む	
890	H-19	0.21	0.15	0.13	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径7~15mm)2%含む	
891	H-19	0.21	0.17	0.18	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm)3%含む	
892	H-19	0.38	0.30	0.29	10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)2%含む	
893	H-19	0.18	0.16	0.15	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2~5mm)2%含む	
894	H-19	0.14	0.10	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径2~3mm)10%含む	
895	H-19	0.13	0.12	0.16	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径2~3mm)10%含む	
896	H-19	0.14	0.13	0.08	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径1~3mm)3%含む	
897	H-19	0.20	0.18	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径1mm)2%含む	
898	H-19	0.13	0.12	0.07	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)3%含む	
899	H-19	0.14	0.09	0.14	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm)2%含む	
900	H-19	0.19	0.19	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径10mm)2%含む	
901	H-19	0.18	0.16	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径10~15mm)3%含む	
902	G-19	0.16	0.13	0.10	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径1~2mm)1%含む	
903	H-19	0.14	0.12	0.18	10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~15mm)5%含む	
904	H-19	0.17	0.14	0.09	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm)1%含む	
905	H-19	0.18	0.15	0.19	1 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 2 10YR 3/3 暗褐色埴壤土 粘性弱 堅 ローム主体	
906	H-19	0.15	0.15	0.16	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)1%含む	
907	H-19	0.21	0.20	0.08	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 しょう	
908	H-19	0.18	0.17	0.17	10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 ローム7%含む	
909	H-18	0.18	0.14	0.23	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径3~5mm)5%含む	
910	G-19	0.19	0.15	0.09	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2~3mm)5%含む	
911	G-19	0.19	0.16	0.06	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)3%含む	
912	G-19	0.20	0.20	0.24	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 しょう	
913	G-19	0.18	0.15	0.23	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5~15mm)2%含む	
914	G-19	0.19	0.18	0.10	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径3~10mm)2%含む	
915	G-19	0.14	0.13	0.10	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
916	G-19	0.14	0.13	0.08	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm)1%含む	
917	G-19	0.20	0.20	0.24	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm)5%含む	
918	G-19	0.18	0.15	0.16	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10~15mm)5%含む	
919	G-19	0.20	0.18	0.19	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm)3%含む	

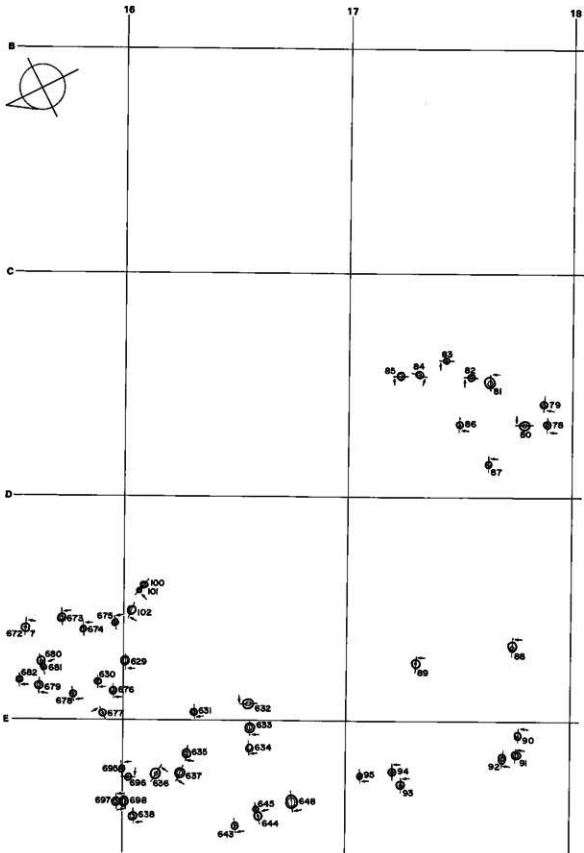
遺構番号	位置	規模(m)			土	備考
		長さ	幅	高さ		
920	G-19	0.15	0.13	0.31	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 3%含む	
921	G-19	0.25	0.25	0.31	1 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 2 10YR 2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm) 3%含む 3 10YR 3/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 5%含む	
922	G-19	0.18	0.15	0.25	1 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 2 10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径10mm) 15%含む	
923	G-19	0.14	0.13	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径4mm) 2%含む	
924	G-19	0.20	0.18	0.14	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) 3%含む	
925	G-19	0.19	0.17	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径2~5mm) 1%含む	
926	G-19	0.22	0.18	0.09	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 しょう ローム粒(径15mm) 1%含む	
927	G-19	0.22	0.22	0.22	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5mm) 7%含む	
928	G-19	0.23	0.22	0.22	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10mm) 3%含む	
929	G-19	0.30	0.25	0.21	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム10%含む	
930	G-19	0.25	0.23	0.14	1 10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 2 10YR 2/2 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径3~5mm) 2%含む	
931	G-19	0.18	0.15	0.14	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 1%含む	
932	G-19	0.18	0.15	0.20	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~20mm) 3%含む	
933	G-19	0.25	0.18	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
934	G-19	0.17	0.14	0.10	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
935	G-19	0.22	0.21	0.27	1 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 2 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10mm) 5%含む	
936	G-19	0.18	0.18	0.18	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径2mm) 1%含む	
937	G-19	0.15	0.14	0.14	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径10mm) 5%含む	
938	F-19	0.14	0.12	0.05	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) 1%含む	
939	F-19	0.28	0.21	0.20	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~15mm) 2%含む	
940	F-19	0.17	0.13	0.05	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	
941	G-19	0.19	0.18	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径3mm) 2%含む	
942	G-19	0.32	0.25	0.20	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径5mm) 2%含む	
943	G-19	0.14	0.14	0.20	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 しょう	
944	G-19	0.17	0.15	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm) 2%含む	
945	G-19	0.22	0.18	0.30	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) 1%含む	
946	G-19	0.17	0.15	0.10	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
947	G-19	0.18	0.13	0.19	1 10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	
948	G-19	0.17	0.15	0.16	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 ローム粒(径10~20mm) 1%含む	
949	G-19	0.18	0.18	0.15	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~20mm) 2%含む	
950	G-19	0.15	0.12	0.23	10YR 2/3 黒褐色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径3~5mm) 1%含む	
951	G-19	0.17	0.15	0.09	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径1~2mm) 1%含む	
952	G-19	0.14	0.12	0.10	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
953	G-19	0.14	0.09	0.13	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径2~3mm) 1%含む	
954	G-19	0.17	0.18	0.20	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径3~5mm) 5%含む	
955	G-19	0.21	0.13	0.06	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~7mm) 3%含む	
956	G-19	0.15	0.13	0.14	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径3~5mm) 3%含む	
957	G-19	0.15	0.14	0.10	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟 パミス(径2~3mm) 1%含む	
958	F-16	0.17	0.15	0.19	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径5~10mm) 2%含む	
959	F-16	0.12	0.11	0.12	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10~20mm) 2%含む	
960	F-16	0.12	0.11	0.21	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 5%含む	
961	F-16	0.18	0.15	0.19	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅	
962	F-16	0.14	0.12	0.20	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5mm) 3%含む	
963	F-16	0.14	0.13	0.18	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm) 2%含む	
964	F-16	0.13	0.12	0.17	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径5~10mm) 15%含む	
965	F-16	0.10	0.09	0.19	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 軟	
966	F-16	0.12	0.11	0.10	10YR 1.7/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 パミス(径4mm) 1%含む	
967	F-16	0.13	0.12	0.08	10YR 2/1 黒色埴壤土 粘性弱 堅 ローム粒(径10mm) 2%含む	

遺構番号	位置	規模(m)			土		備考
		長さ	短径	深さ			
968	F-10	0.10	0.10	0.08	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径5~10mm)3%含む
969	F-16	0.18	0.13	0.15	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径5mm)3%含む
970	F-16	0.14	0.12	0.10	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径5~10mm)3%含む
971	F-10	0.14	0.12	0.19	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径5~10mm)3%含む
972	F-16	0.12	0.12	0.12	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径5~7mm)5%含む
973	F-16	0.12	0.11	0.11	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	
974	F-16	0.12	0.11	0.15	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径10~20mm)2%含む
975	F-16	0.13	0.13	0.09	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径5mm)5%含む
976	F-16	0.10	0.08	0.13	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 しょう	
977	F-17	0.18	0.17	0.09	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)2%含む
978	F-17	0.18	0.18	0.13	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)1%含む
979	G-17	0.13	0.12	0.17	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	
980	G-17	0.13	0.12	0.21	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径5~10mm)5%含む
981	G-17	0.15	0.14	0.20	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径3~5mm)7%含む
982	G-17	0.16	0.15	0.19	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径2mm)2%含む
983	G-17	0.22	0.21	0.28	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径10~20mm)7%含む
984	G-17	0.13	0.14	0.15	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径2mm)3%含む
985	G-17	0.14	0.12	0.14	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 軟	ローム粒(径3~7mm)2%含む
988	G-16	0.15	0.14	0.15	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 しょう	
987	G-16	0.10	0.09	0.06	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	
988	G-16	0.16	0.16	0.06	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径1mm)1%含む
989	G-16	0.17	0.14	0.12	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径5~7mm)1%含む
990	G-16	0.15	0.15	0.14	1 10YR1.7/1黒色埴壤土 3/2 黒褐色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径5~7mm)3%含む 2 10YR バミス(径5mm)2%含む
991	G-16	0.09	0.08	0.10	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 軟	
992	E-19	0.18	0.18	0.05	10YR2/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径2~8mm)7%含む
993	E-19	0.20	0.20	0.09	10YR2/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径1~2mm)3%含む
994	E-19	0.19	0.15	0.11	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 軟	ローム粒(径3~5mm)7%含む
995	E-19	0.17	0.16	0.07	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径5~7mm)2%含む
996	E-19	0.18	0.15	0.20	10YR2/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)5%含む
997	E-20	0.17	0.14	0.13	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径5~7mm)2%含む
998	E-20	0.24	0.20	0.15	1 10YR1.7/1黒色埴壤土 バミス(径5~10mm)15%含む	粘性弱 軟	2 10YR2/1黒色埴壤土 粘性弱 堅 バミス(径5~10mm)15%含む
999	E-20	0.18	0.18	0.08	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径3mm)3%含む
1000	F-20	0.17	0.14	0.14	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 しょう	炭化物(径5mm)1%含む
1001	F-20	0.15	0.15	0.23	10YR2/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(3~10mm)3%含む
1002	F-20	0.16	0.15	0.16	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 軟	
1003	F-20	0.10	0.09	0.14	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	
1004	F-20	0.16	0.14	0.14	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 軟	バミス(径3~5mm)7%含む
1005	F-20	0.15	0.12	0.29	10YR2/1黒色埴壤土	粘性弱 軟	バミス(径7mm)5%含む
1006	F-20	0.24	0.19	0.23	10YR2/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径5~10mm)5%含む
1007	F-19	0.18	0.14	0.10	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径10mm)3%含む
1008	F-19	0.15	0.12	0.07	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	バミス(径5~10mm)3%含む
1009	F-19	0.15	0.12	0.12	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 堅	ローム粒(径5mm)3%含む
1010	F-19	0.18	0.17	0.14	10YR2/1黒色埴壤土	粘性弱 軟	ローム粒(径5~10mm)7%含む
1011	F-18	0.21	0.20	0.08	10YR1.7/1黒色埴壤土	粘性弱 軟	
1012	E-19	0.19	0.18				照の図面に断面有り



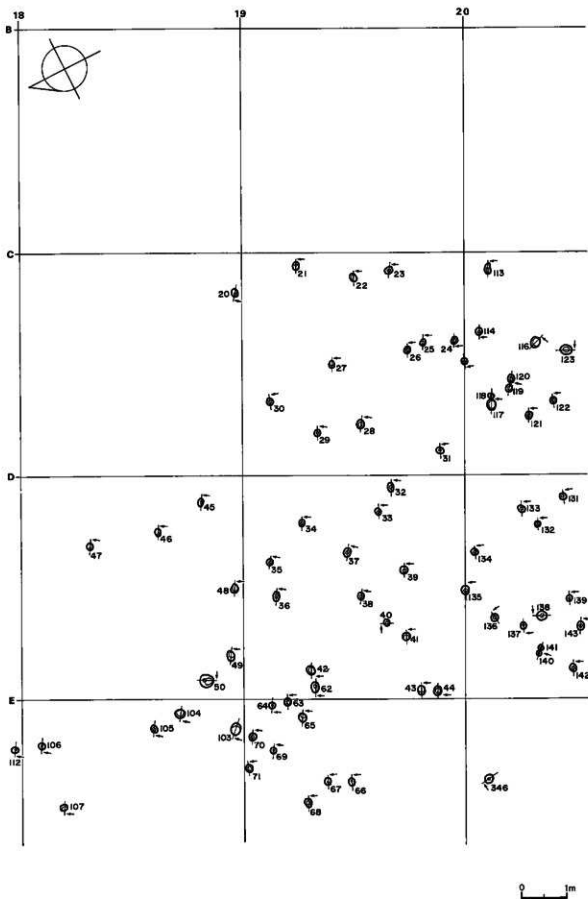
図V-50 D-15、E-14・15小ピット

0 1m

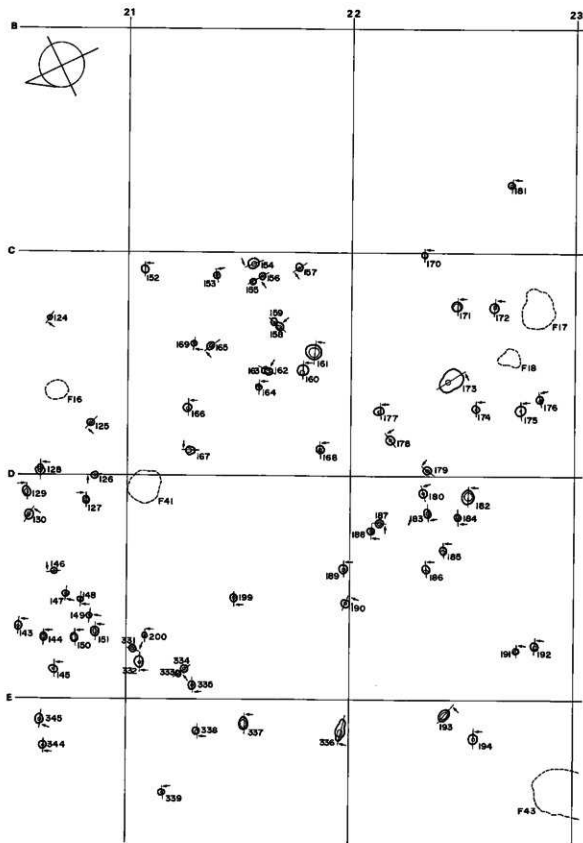


図V-51 C-17、D-15・16・17、E-15・16・17の小ピット

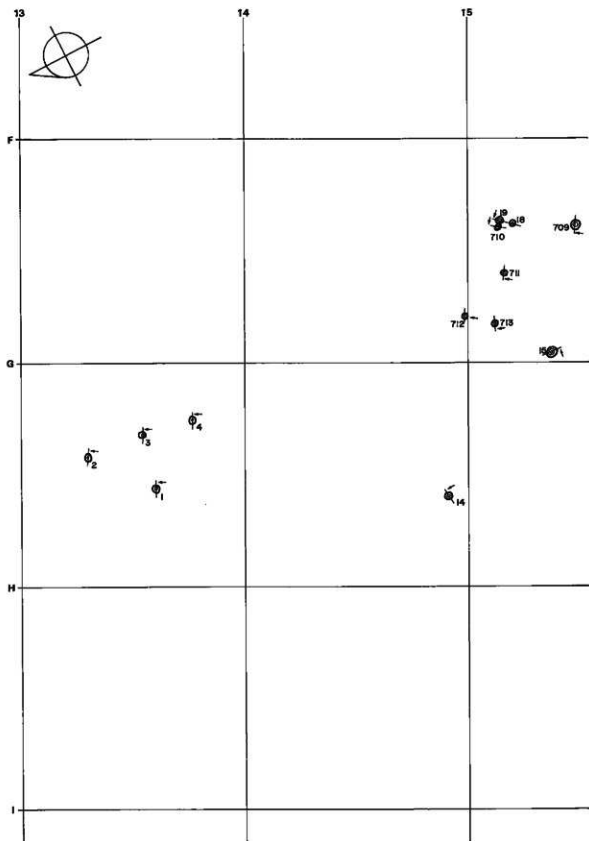
0 1m



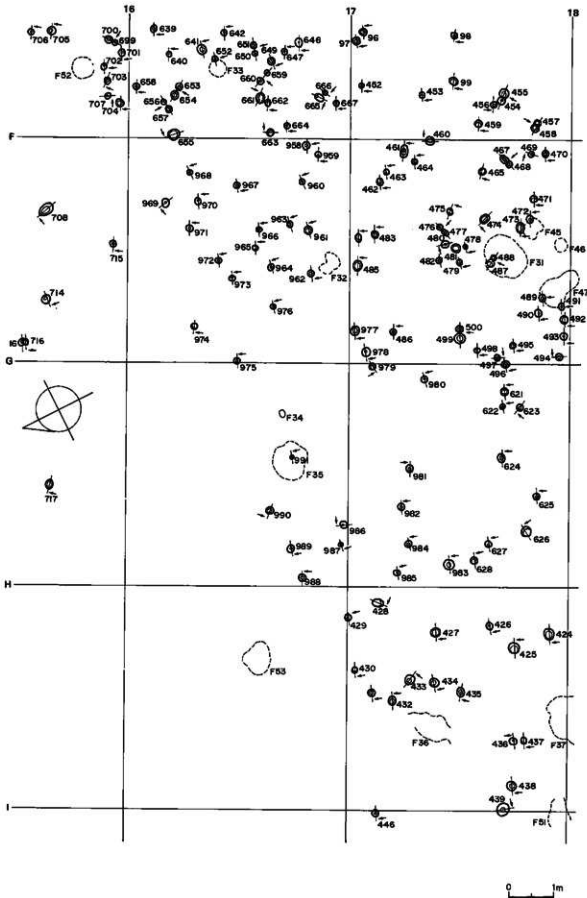
図V-52 C-18・19・20、D-18・19・20、E-18・19・20の小ピット



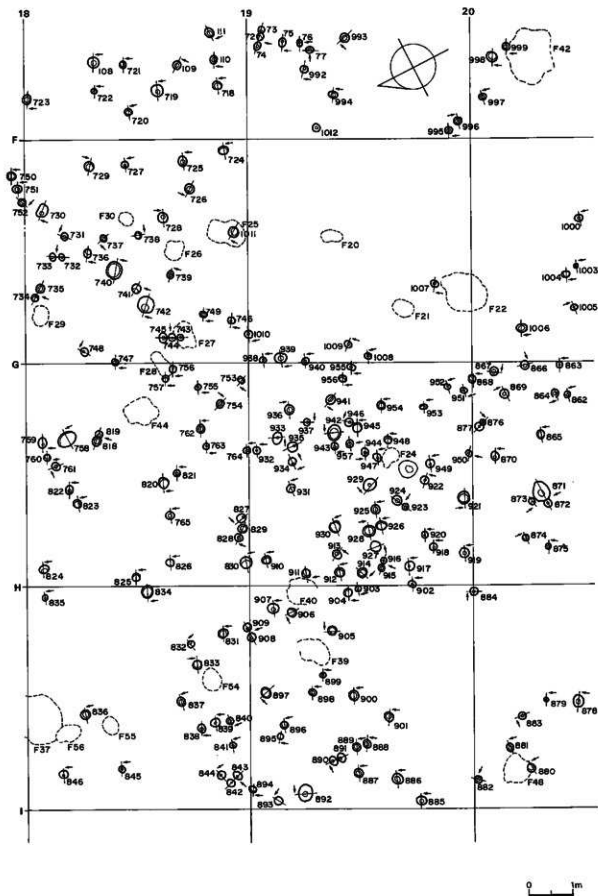
図V-53 B-22、C-20・21・22、D-20・21・22、E-20・21・22の小ピット



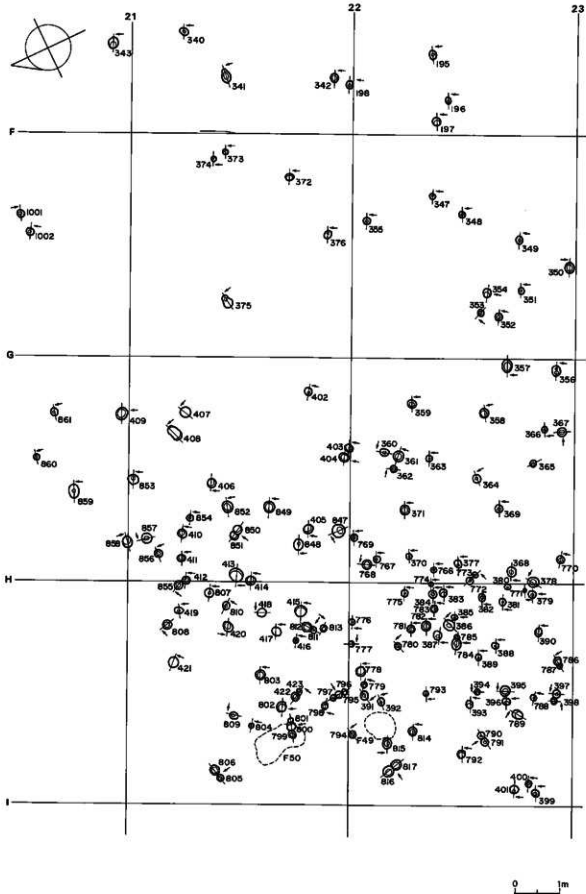
図V-54 F-14・15、G-13・14の小ピット



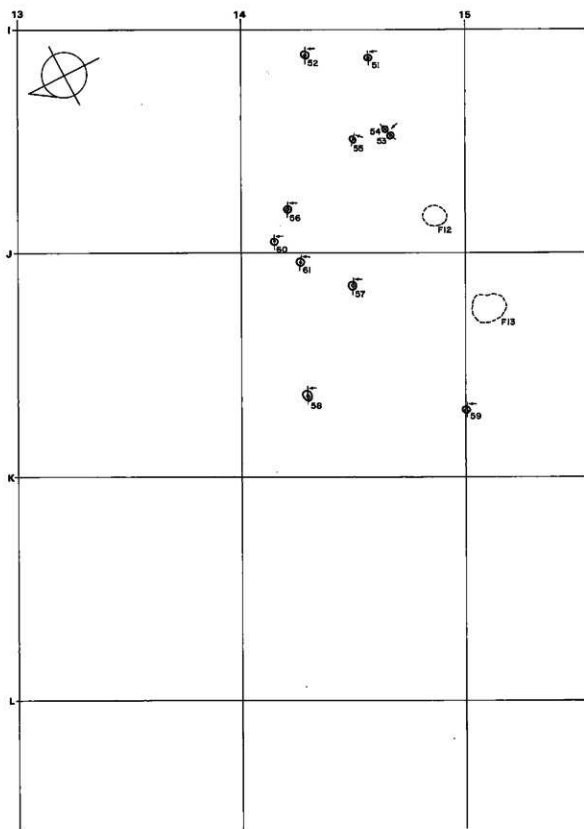
図V-55 E-15・16・17、F-15・16・17、G-15・16・17、H-16・17、I-17小ピット



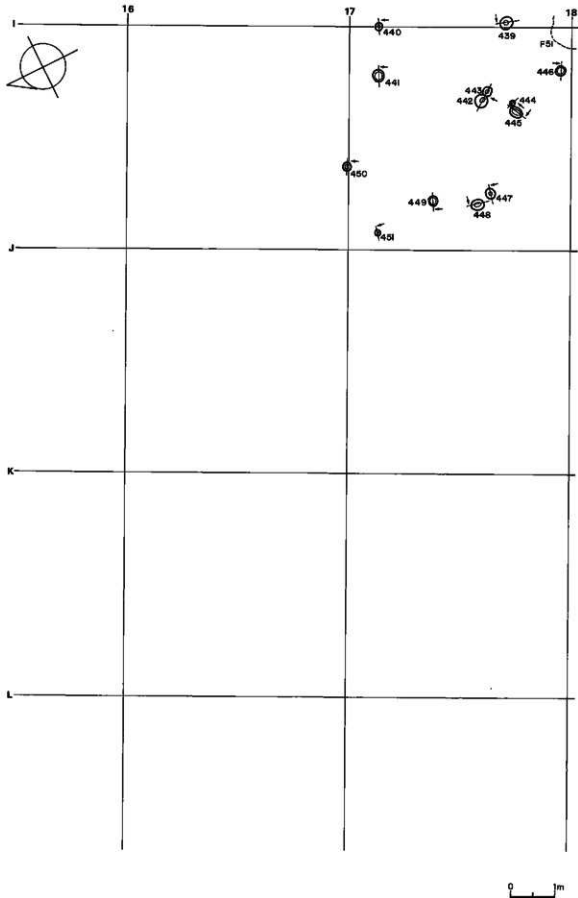
図V-56 E17・18・19・20、F-17・18・19・20、G-18・19・20、H-18・19・20の小ピット



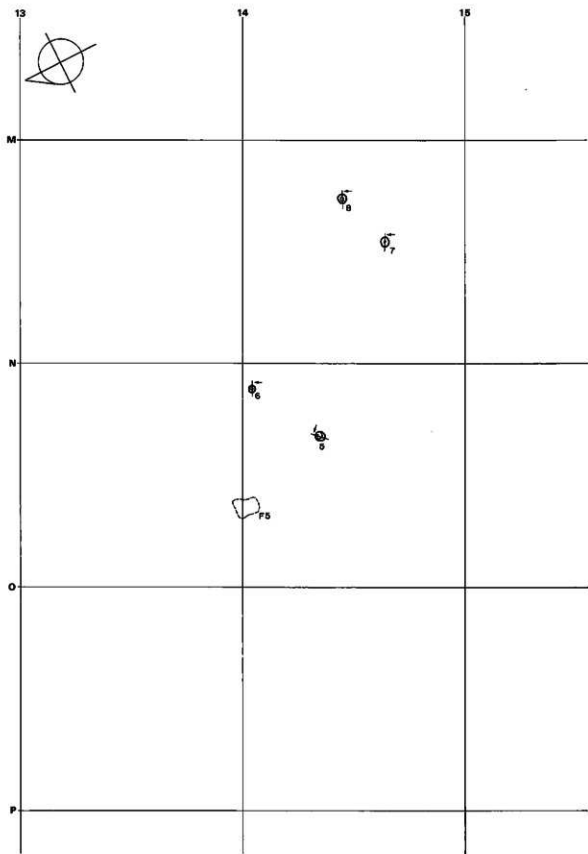
図V-57 E-20・21・22、F-20・21・22、G-20・21・22、H-21・22の小ピット



図V-58 I-14、J-14・15の小ピット

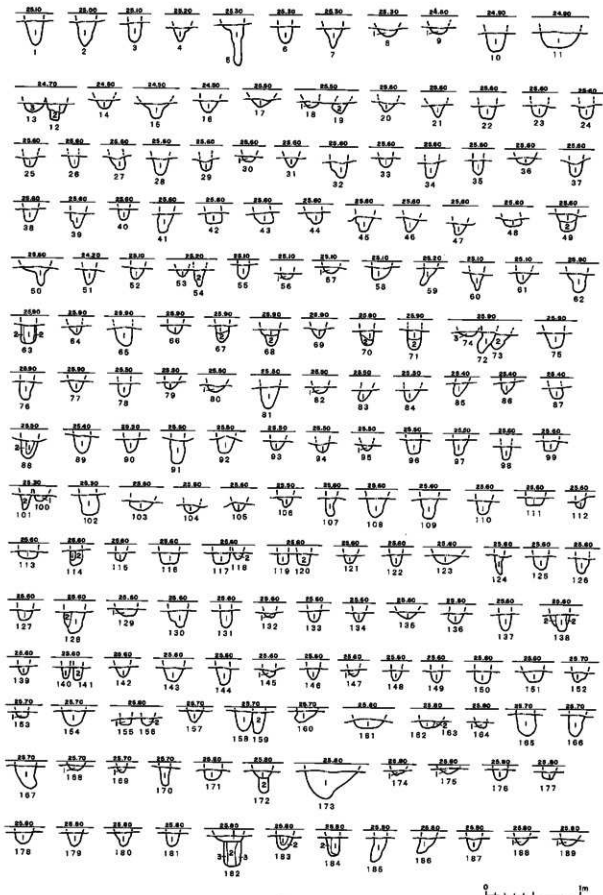


図V-59 H-17、I-16・17の小ピット

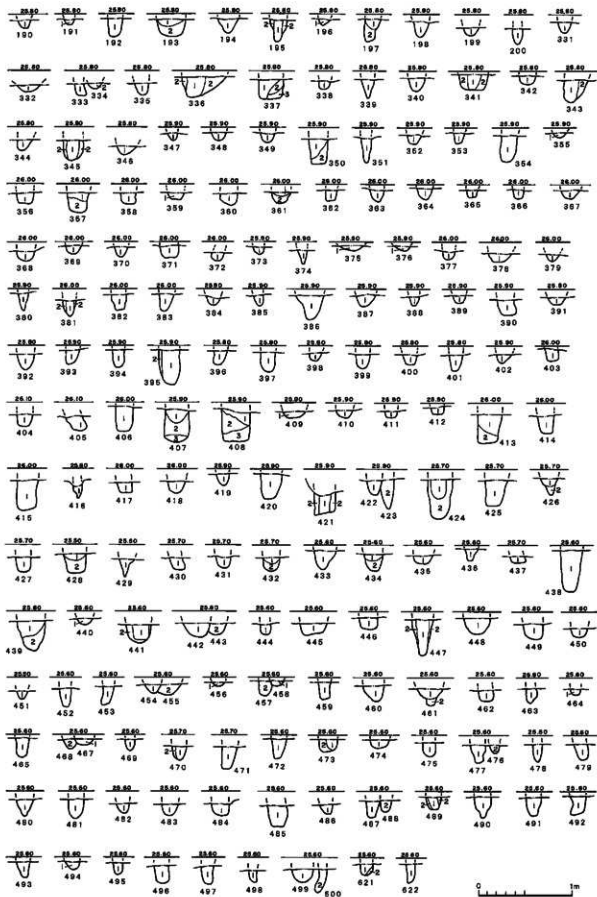


図V-60 M-14、N-14の小ピット

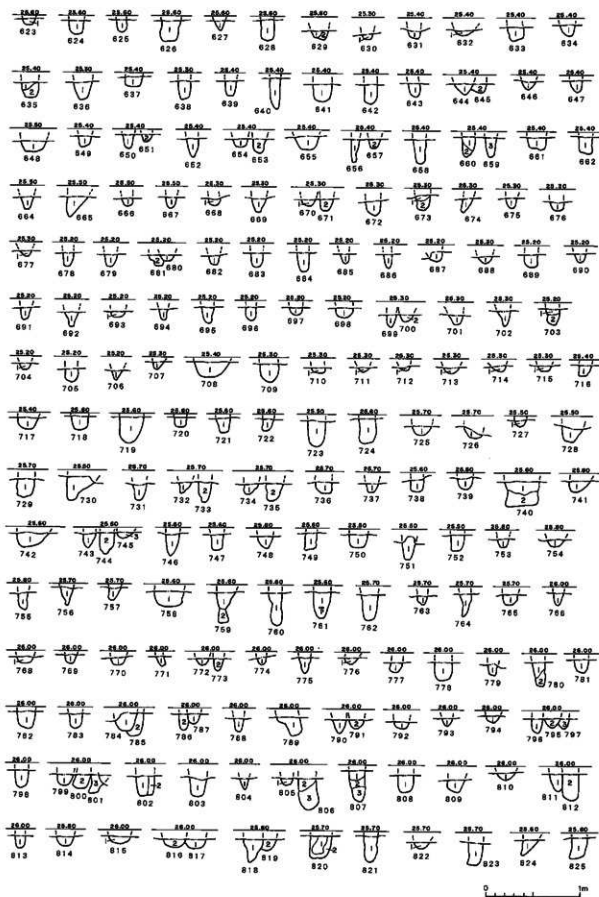
0 1m



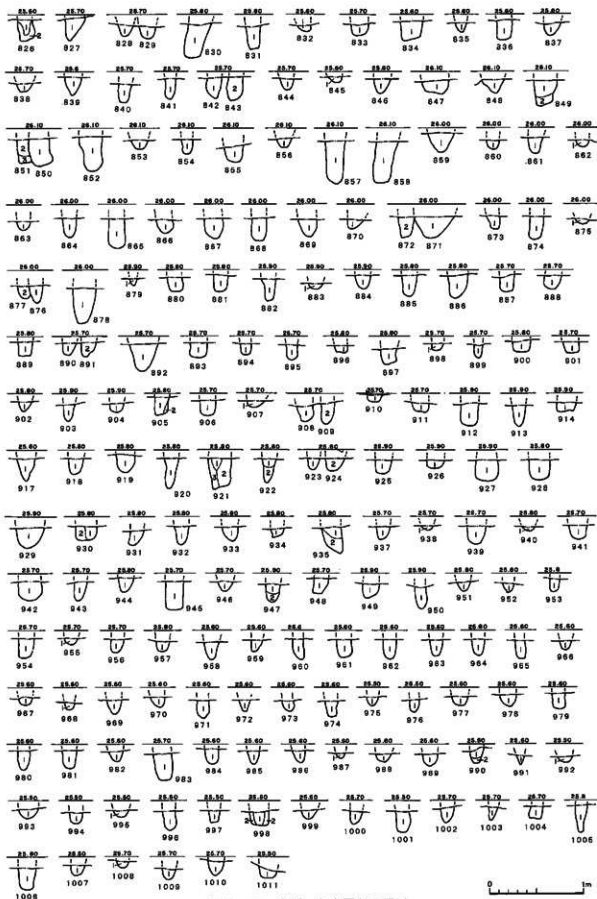
図V-61 小ピットの土層断面図(1)



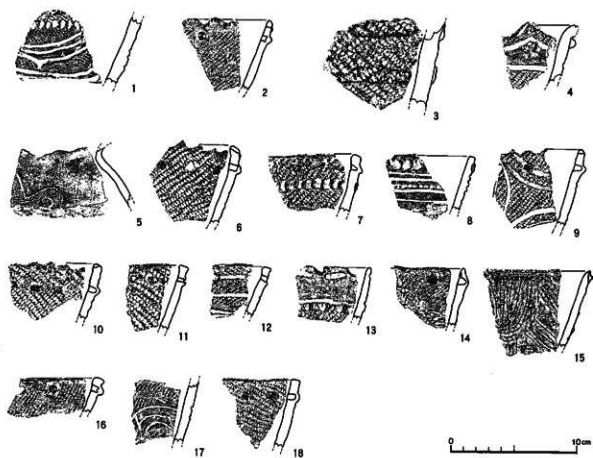
図V-62 小ピットの土層断面図(2)



図V-63 小ピットの土層断面図(3)



図V-64 小ビット土層断面図(4)



図V-65 小ピット出土の土器

7. その他

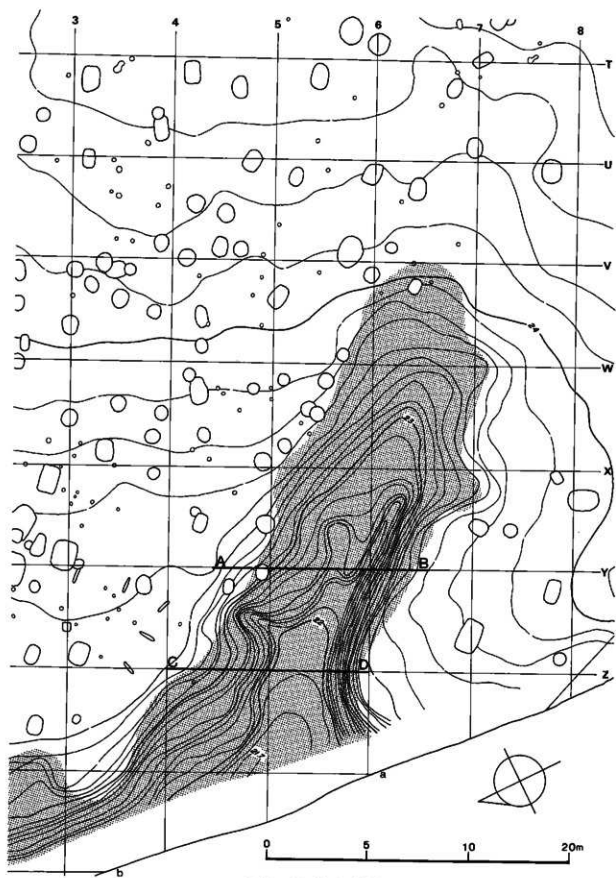
沢1(図V-66~74, 表V-11, 図版104・105・150・151)

沢1は、調査区の北側、南東から北西にのび、キトウシュメンナイ川に流入するものである。長さ約5m、巾7m~9m、最大深約1.20m、Vライン付近からYライン付近までは底面、斜面はゆるやかな傾斜で、Yラインから北西側は両斜面とも急傾斜、底面はほぼ平坦である。出土遺物総数は10,744点で、この内訳は、土器が7,047点、石器など3,697点である。土器では、VII群が3,720点、III群が951点、IV群が354点で、未分類の土器を除くとVII群が約74%、III群が約18%、IV群が7%で、これらで約99%以上を占めている。VII群土器はW-6周辺のII層上層とYラインの北西側から集中的に出土している。III、IV群土器はYラインの南西側のII層中・下層と沢の斜面付近で多く出土している。他にI群、II群、V群、VI群の土器片もわずかであるが出土している。石器ではフレイク・チップ(2,145点)と礫・礫片(1,235点)が全体の約92%を占めており、この他にすり石(片)が114点、台石・石皿(片)が39点、たたき石(片)が38点と多く出土している。これらはYライン付近をはさんで南東側ではフレイク・チップなど剥片石器類が、北西側で礫、礫石器が集中的に出土している。とくにフレイク・チップはW-6周辺の沢頭付近で、すり石(片)、たたき石(片)などはZ-5付近の底面付近で多く出土している。

図V-68はYラインとZラインでの土層図である。Yラインでは、Ta-aの下にII層が厚く堆積し、自然堆積の状態を示している。ところがZラインではTa-aをはさんで上下に泥炭化した黒褐色土が堆積しており、底面はほぼ平坦で、硬いIV層が表出している。このようにYラインとZラインの間で土層堆積に大きな相異を示している。

調査は、表土、耕作土および盛り土と思われる土(土層図1)を除去し、Ta-a、II層を順次掘り下げを行なった。II層を5cm~10cmほど掘り下げたところ、W-6周辺で遺物の集中が検出された(図V-69)。遺物は面的な広がりをもって出土し、骨片を多く混入する焼土やTa-aの落ち込み、フレイク・チップの集中が検出された。出土遺物はVII群の土器片やフレイク・チップ、礫などである。Zライン付近から北西側ではTa-a下で伏流水が湧出し、水中ポンプを稼働させつつスコップなどを用いた粗い調査となった。底面付近から礫・礫石器やVII群土器などが出土し、底面は堅いIV層が平坦な状態が検出された。また一部に加工痕が見られる木材片(20cm×30cm、厚さ約20cm)が底面上から出土している。

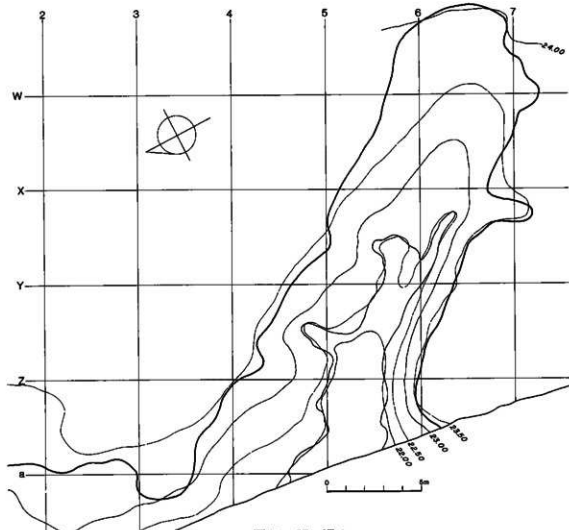
以上のように、遺物の出土状況や土層堆積にはYラインとZラインの間付近で大きく異なっている。本来沢1は縄文時代には自然堆積によって小さな浅い沢状の地形になっていたものと思われる。Zライン付近の北西側の底面の状態や出土遺物から見て、北大Ⅲ式期にキトウシュメンナイ川を利用する目的で人工的に掘削されたものではないかと推測される。その用途、性格については今回の調査結果からは明らかではない。またW-6付近でのII層上層付近の遺物集中区は、出土土器が北大Ⅲ式期のものであることから見て、付近に広がる同時期の土壌墓との関係を伺わせるものである。直接埋葬儀礼に結びつく痕跡は認められないが、細片化した土器片やフレイク・チップの集中、骨片を多く混入する焼土やいくつかの凹地は、あるいは埋葬に際して、ここで何らかの営みをする場として利用されていた可能性は否定できない。勿論具体的な様子などは不明である。Zライン付近北西側の掘削も、それらに關係する行為にあったのではないかと推量される。



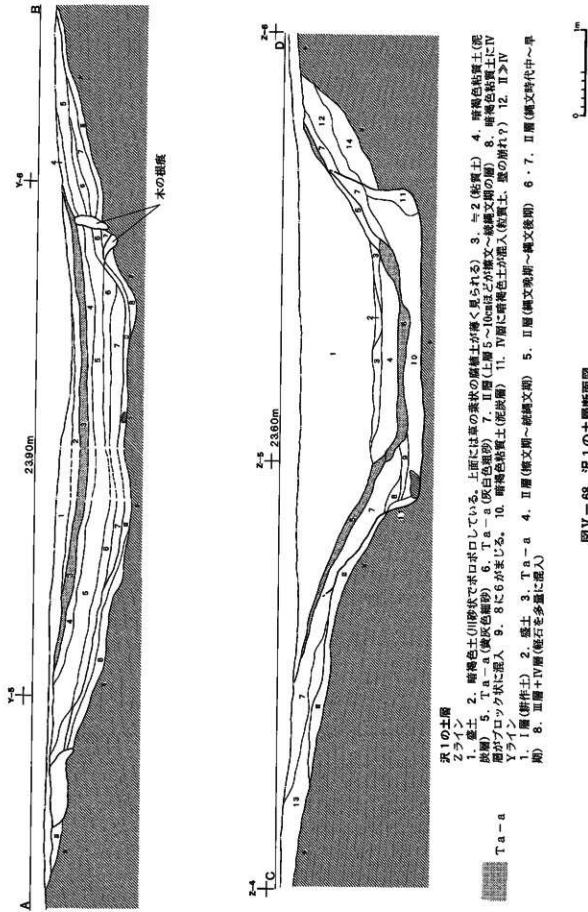
図V-66 沢1の位置図

沢1出土の石器(図V-66~74 表V-11 表1・2 図版104・105・150・151)

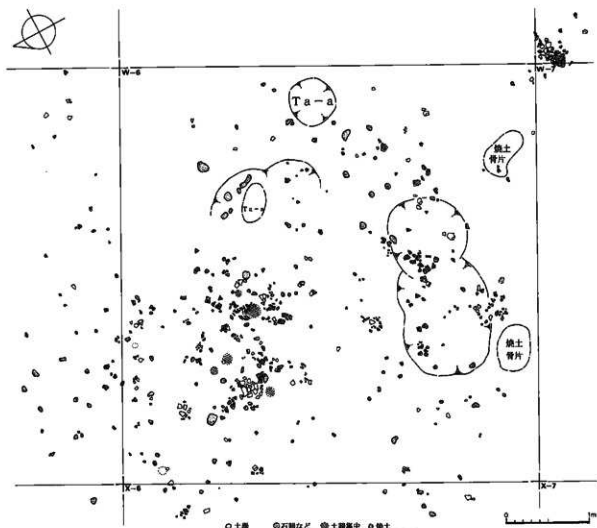
沢1からは石鏃30点、石槍3点、石錐4点、つまみ付きナイフ14点、スクレイパー10点、石斧11点、すり石88点、たたき石37点、石皿・台石36点、砥石8点、礫1,238点、フレイク2,145点が出土している。このうち石鏃22点、石槍2点、石錐1点、つまみ付きナイフ6点、スクレイパー3点、石斧6点、すり石13点、たたき石7点、台石1点、砥石1点、礫1点を図示した。1~22は石鏃。7・8・10~12、17は三角形で凹基のもの、13~15・18は三角形で平基のもの、1は有茎平基、2~6、9・16は有茎凸基のものである。2は茎が非常に長く、1はきわめて丁寧なつくりである。石材は1・19が頁岩で、他は黒曜石である。22・23は石槍で、有茎のもので、石材は黒曜石。25は棒状の石錐で、先端部欠損する。石材は黒曜石。26~29はつまみ付きナイフで、26は片面全面加工のもの、27・28は片面周縁加工のもの、29は両面加工のものである。石材は黒曜石。30~34はスクレイパー。32は円形のもので上部に礫皮面を残す。33は縦長で側縁に刃部をもつもので、30・31・34は素材の形状を大きく変えていないものである。30・33は側縁、31・34は下端部にそれぞれ刃部を作り出している。35~40は石斧である。39は敲打痕のみられるもの、35~38は打ち欠きにより整形されているもの、40は刃部と側面を磨いているもの、である。石材は35が片岩、36が緑色泥岩、29が砂岩、37・38・40が泥岩である。41~47はたたき石。41は棒状の礫を素材としたもので、下端にたたき痕がある。42・46・47は扁平礫を素材としたもの、43~45はくぼみ石と称されるもの、である。石材は41・43~45が砂岩、46



図V-67 沢1



図V-68 沢1の土層断面図

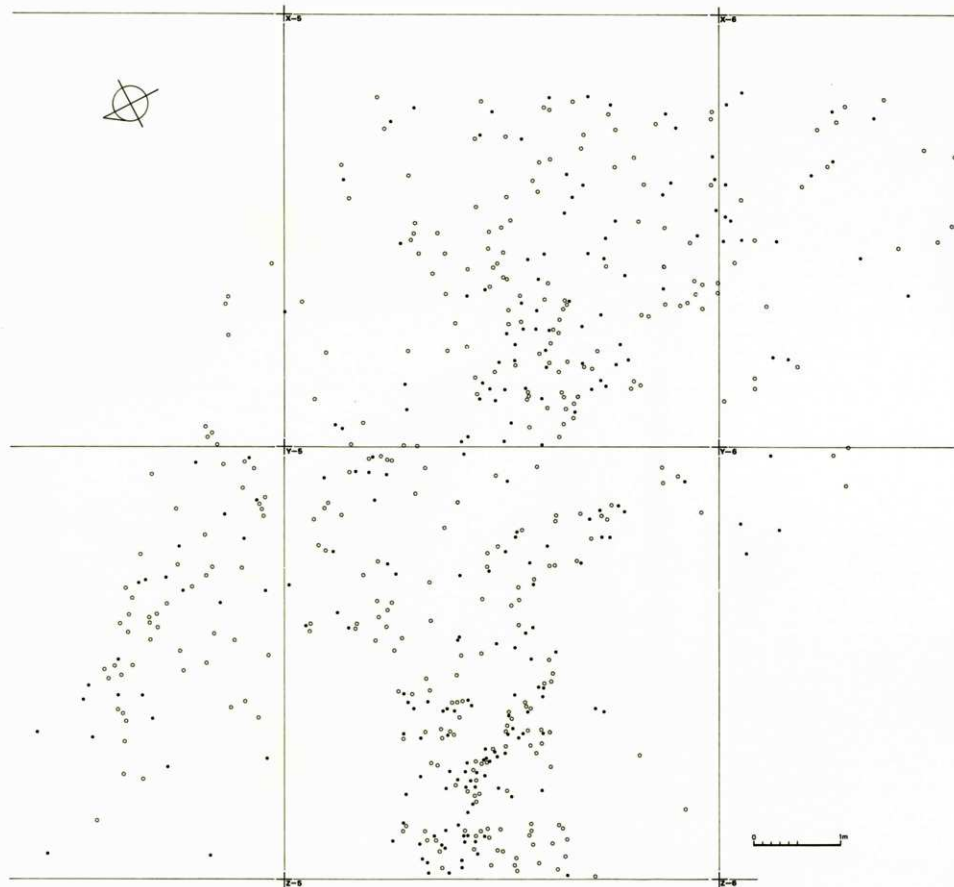


○土層 ○石層など ◎土層集中 ○焼土
 図V-69 沢1Ⅱ層上層遺物出土状況図

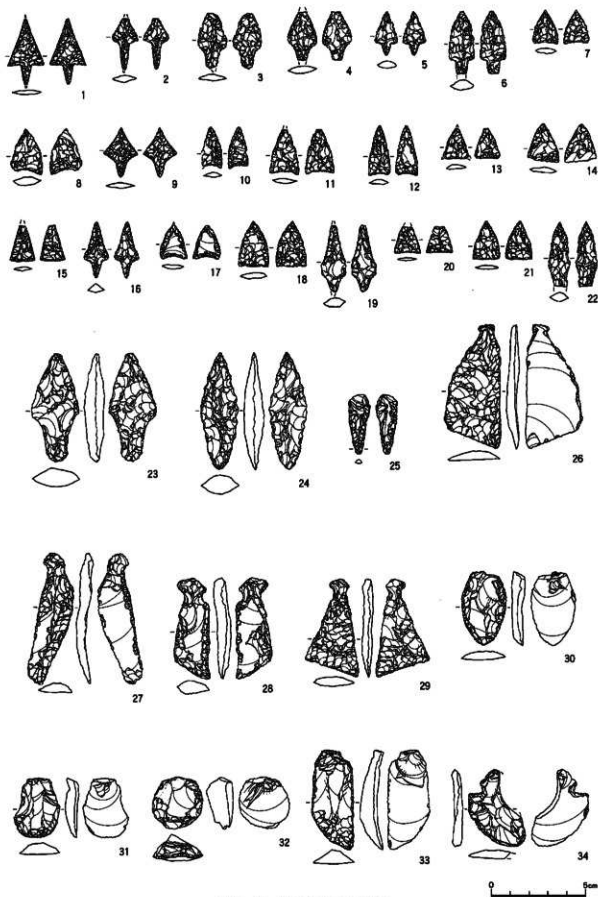
が緑色泥岩、42・47は安山岩である。48～59はすり石である。48・49・53～59は断面が三角形の礫の稜をすったもの、50～52は扁平礫を素材としたもの、である。石材は、49・58が砂岩、57が片麻岩、他は安山岩である。60・61は砥石。板状のもので、石材は砂岩である。62は台石で、石材は安山岩である。63・64は礫で、63は虫蝕い礫と称されるもの、64は表面ツルツルの安山岩の円礫である。

表V-12 沢1掘載石器など一覽

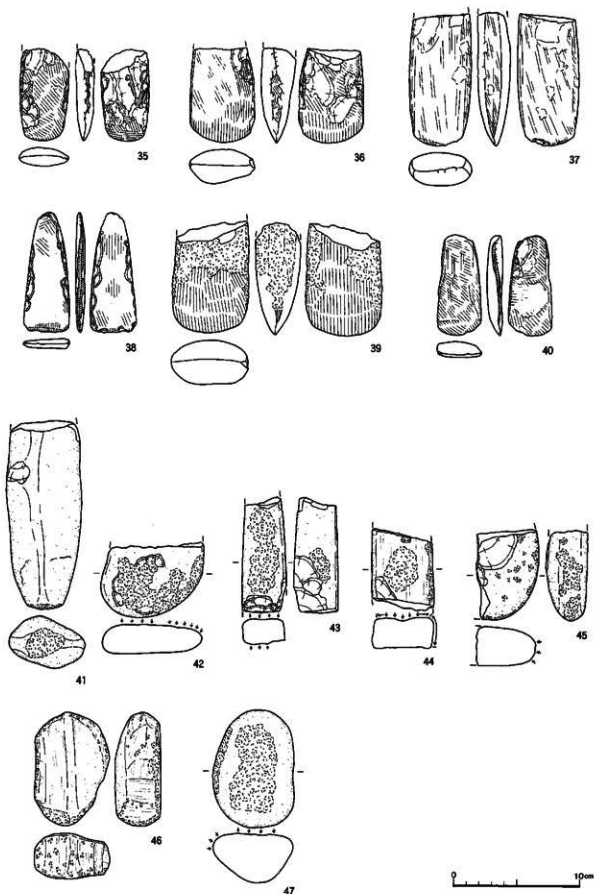
図番	図番	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
図V-71-1	1	石鏝	A-1	X-5	Ⅱ-1面目	(3.45)	1.9	0.3	1.1	頁岩	図版150
2	2	〃	〃	X-5	〃	(2.7)	1.35	0.4	0.7	黒曜石	〃
3	3	〃	〃	a-1	〃	(2.95)	1.3	0.4	1.4	〃	〃
4	4	〃	〃	X-5	〃	(2.55)	1.55	0.4	1.5	〃	〃
5	5	〃	〃	Y-4	〃	2.3	1.2	0.4	0.6	〃	〃
6	6	〃	〃	Z-7	〃	(3.3)	1.35	0.55	2.1	〃	〃
7	7	〃	〃	W-6	Ⅱ-2面目	1.8	1.35	0.3	0.6	〃	〃
8	8	〃	〃	a-2	〃	2.4	1.65	0.5	1.5	〃	〃
9	9	〃	〃	X-6	Ⅱ-3面目	2.6	1.8	0.35	0.89	〃	〃
10	10	〃	〃	V-6	Ⅱ-4面目	1.15	1.05	0.35	0.7	〃	〃
11	11	〃	〃	X-5	〃	(2.35)	1.55	0.3	0.9	〃	〃
12	12	〃	〃	W-6	〃	2.6	1.15	0.3	0.7	〃	〃
13	13	〃	〃	a-2	〃	(1.6)	1.35	0.3	0.4	〃	〃
14	14	〃	〃	W-6	〃	2.0	1.35	0.3	0.8	〃	〃
15	15	〃	〃	a-1	〃	(1.9)	1.3	0.5	0.4	〃	〃
16	16	〃	〃	W-6	〃	2.95	1.3	0.5	0.8	〃	〃
17	17	〃	〃	X-5	Ⅱ-5面目	(1.8)	1.45	0.3	0.5	〃	〃
18	18	〃	〃	Y-4	〃	2.4	1.6	0.4	1.2	〃	〃



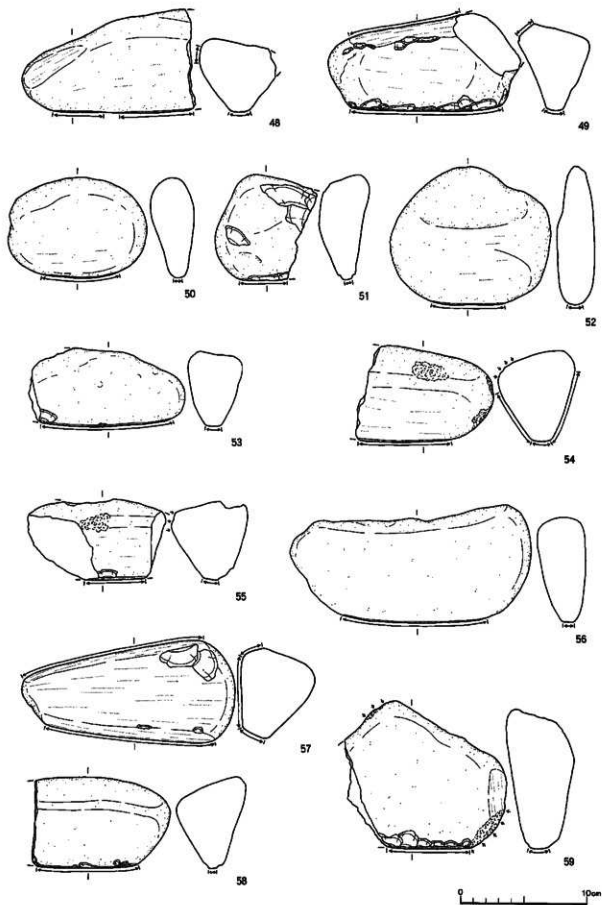
図V-70 沢1 II層中遺物出土状況図



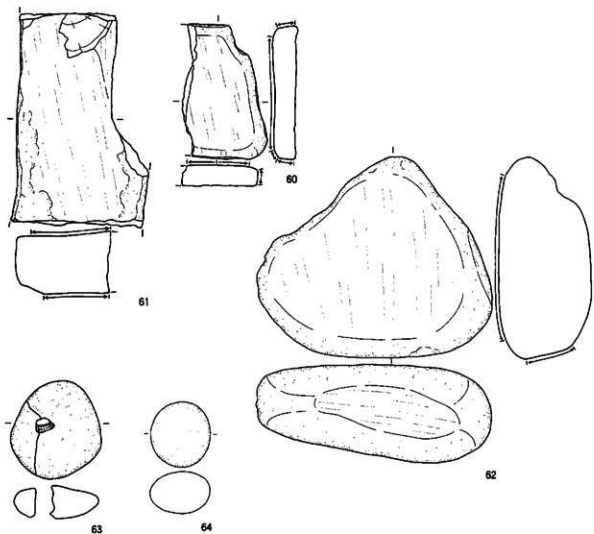
図V-71 沢1出土の石器(1)



図V-72 沢1出土の石器(2)



図V-73 沢1出土の石器(3)



図V-74 沢1出土の石器(4)

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
図V-71-19	石鏃	A-1	X-5	II-5 回目	(3.9)	1.3	0.5	1.6	頁岩	図版150
#-20	#	#	Y-4	II-6 回目	(1.4)	1.4	0.25	0.4	黒曜石	#
#-21	#	#	a-1	#	2.05	1.4	0.2	0.6	#	#
#-22	#	#	W-5	II-7 回目	(3.4)	1.15	0.55	1.7	#	#
#-23	石槍	A-1	X-5	II-1 回目	5.7	2.5	1.1	10.9	黒曜石	#
#-24	#	#	V-6	II-4 回目	6.15	2.0	1.05	9.3	#	#
#-25	石鏃	A-1	X-5	II-6 回目	3.1	1.15	0.58	1.73	黒曜石	#
#-26	つまみ付き ナイフ	#	a-2	II-2 回目	6.5	3.0	0.66	9.6	#	#
#-27	#	#	X-5	II-3 回目	(6.85)	2.4	0.85	6.65	#	#
#-28	#	#	a-1	II-5 回目	5.35	1.9	0.95	7.0	#	#
#-29	#	#	X-5	II-6 回目	5.15	2.85	0.9	5.7	#	#
#-30	スクレイパー	#	Y-5	II-1 回目	3.9	2.4	0.45	6.0	#	#
#-31	#	#	V-6	II-4 回目	3.15	2.45	0.7	4.6	#	#
#-32	#	#	Y-4	II-5 回目	2.75	2.65	1.45	6.6	#	#
#-33	#	#	a-1	#	5.25	2.25	1.3	3.6	#	#
#-34	#	#	W-6	II-6 回目	4.1	3.05	0.6	4.77	#	#
図V-72-35	石斧	A-1	Y-5	II-1 回目	(7.25)	3.9	1.5	54.4	片岩	#
#-36	#	#	a-2	II-2 回目	(7.5)	5.15	2.7	183.0	緑色硬岩	#
#-37	#	#	Y-4	II-6 回目	(10.45)	4.9	2.6	214.3	虎地	#
#-38	#	#	X-6	II-7 回目	9.4	3.65	0.75	37.9	#	#
#-39	#	#	#	#	(8.85)	6.65	3.05	344.1	砂岩	#
#-40	#	#	Y-5	II-14 回目	7.9	3.5	1.25	53.1	虎岩	#
#-41	たたく石	#	#	II-1 回目	(14.8)	6.0	4.15	494.9	砂岩	#
#-42	#	#	#	#	(8.9)	8.2	2.5	178.8	安山岩	#
#-43	#	#	#	#	(9.15)	3.5	2.9	114.1	砂岩	#
#-44	#	#	Y-4	#	(6.55)	5.0	2.5	133.2	#	#
#-45	#	#	Z-5	#	(7.15)	(4.85)	3.3	183.5	#	#

図番号	名称	地区	特殊区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
図V-72-46	たたき石	A-1	X-5	II-7回目	9.0	6.0	3.6	338.4	褐色砂岩	図版150
#-47	"	"	Y-5	沢底面上	9.4	6.45	3.9	344.3	安山岩	"
図V-73-48	すり石	"	"	II-1回目	8.15	(13.75)	8.1	1,955.3	"	図版151
#-49	"	"	Z-5	"	(7.7)	(15.2)	5.8	746.5	砂岩	"
#-50	"	"	Y-5	"	7.95	11.9	3.9	485.0	安山岩	"
#-51	"	"	"	"	8.25	(8.1)	4.0	333.2	"	"
#-52	"	"	"	"	10.95	12.75	3.45	984.4	"	"
#-53	"	"	"	II-2回目	8.2	(12.35)	5.05	463.2	"	"
#-54	"	"	a-1	II-3回目	7.9	(10.95)	6.1	636.1	"	"
#-55	"	"	X-6	II-6回目	6.35	(10.0)	6.15	504.9	"	"
#-56	"	"	X-5	II-7回目	9.25	19.1	3.8	1,952.8	"	"
#-57	"	"	Y-5	II-14回目	8.1	16.9	5.95	1,136.1	片麻岩	"
#-58	"	"	"	沢底面上	7.25	(10.9)	5.5	575.7	砂岩	"
#-59	"	"	Z-5	"	11.75	(12.8)	5.7	1,113.3	安山岩	"
図V-74-60	砥石	"	W-6	II-1回目	10.8	(6.75)	2.0	193.2	砂岩	"
#-61	"	"	Z-5	沢底面上	(16.8)	10.9	3.0	1,428.3	"	"
#-62	台石	"	X-5	II-7回目	15.9	18.7	7.75	2,950.0	安山岩	"
#-63	礎	"	W-6	II-1回目	7.7	7.2	2.8	170.3	不明	"
#-64	"	"	X-7	"	7.3	7.15	5.0	401.4	安山岩	"

沢2(図V-75~80 表V-13~15 表1・2 図版105・134・135・152)

調査区西側で検出した、キトウシュメンナイ川へ続く沢頭である。南東から北西方向に延びており、調査区北西壁では約1mの深さを測る。出土土器はⅢ群、Ⅶ群、Ⅳ群が多く、出土量もこの順に多い。石器では剥片類や礫・礫片が多く出土している。破片の細かい遺物が多く、接合破片も少ないため、台地上の包含層から雨水などで流れ込んだ遺物が多いと考えられる。

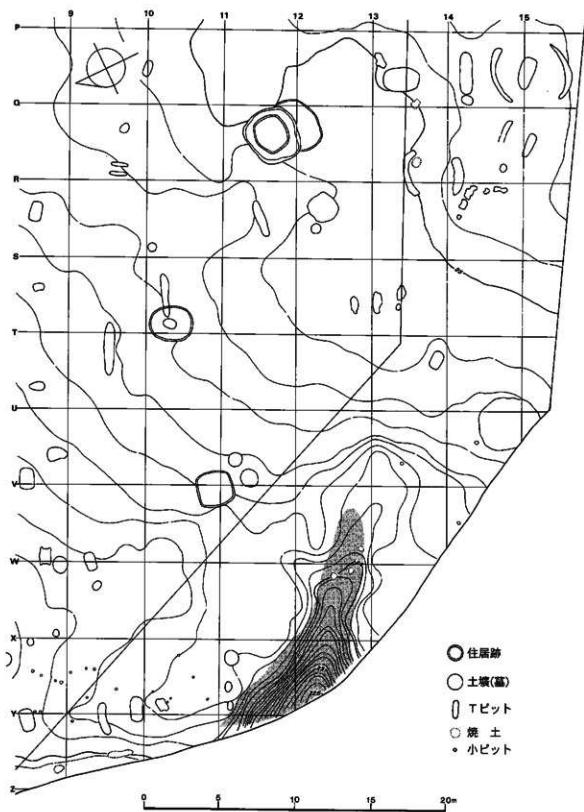
遺物は沢の北東斜面に多く分布する。沢の傾斜が、北東側で緩く南西側で急であることも関係するかもしれないが、遺物の多くは沢の北東側から流れ込んだものと推測する。

時期毎の土器の出土量をみると、Ⅰ群、Ⅱ群土器はごく少量しか出土せず、Ⅲ群土器では急激に増加する。Ⅳ群土器もⅢ群土器より出土量は少ないものの、堂林式～御殿山式を中心に一定量出土しており、Ⅶ群ではふたたび出土量が増加する。つまり、縄文時代早期、前期にはこの沢の埋没が始まっておらず、水の流れによる掘削が進んでいたため、遺物はキトウシュメンナイ川へと流され、残存しなかったものと考えられる。縄文時代中期には水による掘削の力が弱まり、次第に土砂の堆積による流路の埋没が進行したため、流れ込んだ遺物がそのまま沢底に残ったものと考えられる。

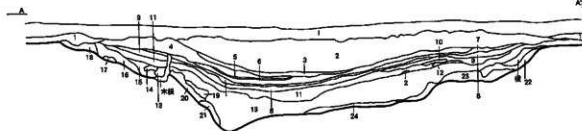
また、遺物の出土層位をみると、Ⅲ群、Ⅳ群土器では沢の底面からの出土が多いが、Ⅶ群土器では出土層位が上層に集中する。このことから、沢2は縄文時代中・後期にはある程度の深さを保っていたが、濠文時代にほぼ埋没しきっていたものと考えられる。

土層の堆積は、底面付近の下層では黒みの強い黒色土が厚く堆積し(土層13他)、中層では黒色土とシルト質の黄灰色土が堆積する(3~11層)。上層では周辺の包含層にみられるものほとんど変わらないⅡ層土が堆積する(2層)。

下層の黒色土は、均質で厚く堆積することから、泥炭層が土壌化したものと考えられる。この段階の沢の底面は、水に浸かっていたような状況であったと推測する。中層では黒色土とシルト質の黄灰色土が交互に堆積することから、水による黄灰色土の流入と黒色土の形成が交互に繰り返されたようである。水の流入は一時的なものとなり、沢の底面も通常は乾燥していたものと考えられる。上層は周囲の包含層に存在するⅡ層土とほとんど同じ土壌で形成されており、沢の埋没がほぼ終了したと考えられる。底面の標高も周囲の地面とほぼ変わらない状態になり、通常は包含層と同様の黒色土の堆積が進行したものと考える。



図V-75 沢2の位置図



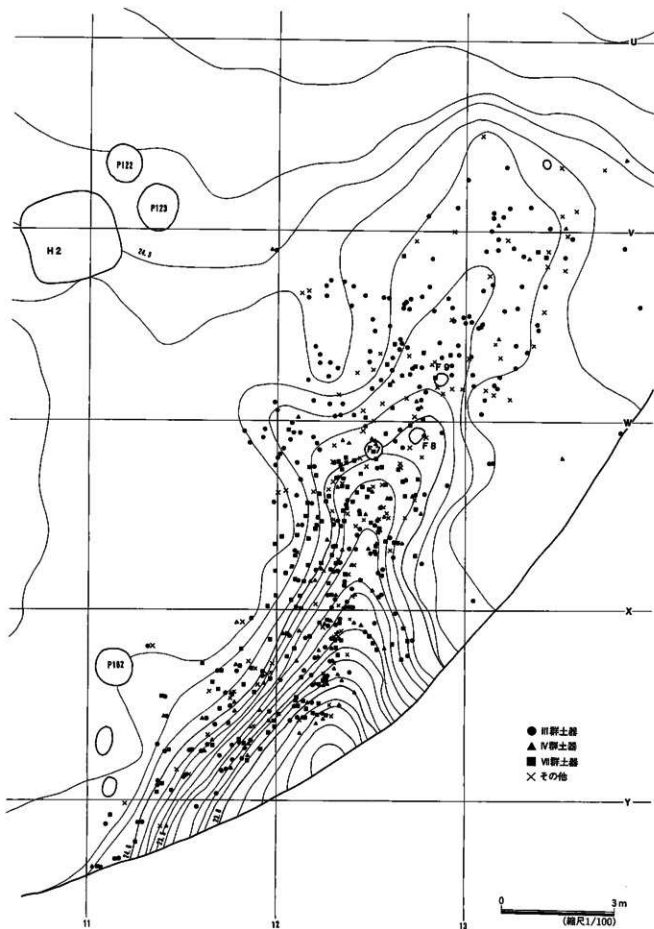
<沢2新調査土層表記>

- 1 10YR1.7/1 黒色土 シルト質礫土 粘性なし すこぶる型 パリス (径10mm) 10%含む、ロームブロック (径10~15mm) 7%含む
 2 10YR1.7/1 黒色土 シルト質礫土 粘性なし すこぶる型 パリス (径1~2mm) 7%含む
 3 10YR1.7/1 黒色土 シルト質礫土 粘性なし 軟 パリス (径2mm) 2%、5~40mm角の木片15%含む
 4 10YR1.7/1 黒色土 シルト質礫土 粘性なし すこぶる型 パリス (径1~5mm) 7%含む
 5 10YR6/2 灰黄褐色土 礫土 粘性なし しょう 6 10YR1.7/1 黒色土 シルト質礫土 粘性なし 軟 パリス (径1~2mm) 5%含む
 7 10YR1.7/1 黒色土 砂土 粘性なし ts-a主体で、上層の黒色土の影響で、黒く変色する。 8 5YR/2 灰白色 砂土 粘性なし ts-a
 9 10YR1.7/1 黒色土 シルト質礫土 粘性なし 軟 ローム粒 (径1mm) 2%含む
 10 10YR1.7/1 黒色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 パリス (径10~15mm) 1%含む、ローム粒 (径1~2mm) 3%含む
 11 10YR2/1 褐色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 ローム粒 (径1mm) 3%含む、炭化層 (径5mm) 1%含む
 12 2.5Y6/4 にぶい黄色土 砂土 粘性なし 軟 b-trと思われる黄色火山灰
 13 N2/0 黒色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 パリス (径1mm) 2%含む、ローム粒 (径1~5mm) 2%含む
 14 10YR2/2 黒褐色土 シルト質礫土 粘性弱 しょう
 15 10YR2/2 黒褐色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 ロームブロック (径20~30mm) 20%含む
 16 10YR2/2 黒褐色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 ローム粒 (径1~10mm) 20%含む
 17 10YR6/3 にぶい黄色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 ローム粒 (径1~10mm) 20%含む
 18 10YR2/2 黒褐色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 ローム粒 (径1~5mm) 20%含む
 19 10YR2/2 黒褐色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 ローム粒 (径1~5mm) 20%含む
 20 10YR4/4 褐色土 シルト質礫土 粘性なし 軟 ローム粒主体で、黒褐色土を含む
 21 10YR2/2 黒褐色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 ローム粒 (径1~5mm) 3%含む
 22 10YR3/4 暗褐色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 ローム粒 (径1~10mm) 20%含む
 23 10YR2/2 黒褐色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 ローム粒 (径1~10mm) 20%含む
 24 10YR1.7/1 黒色土 シルト質礫土 粘性弱 軟 ローム粒 (径1~5mm) 3%含む

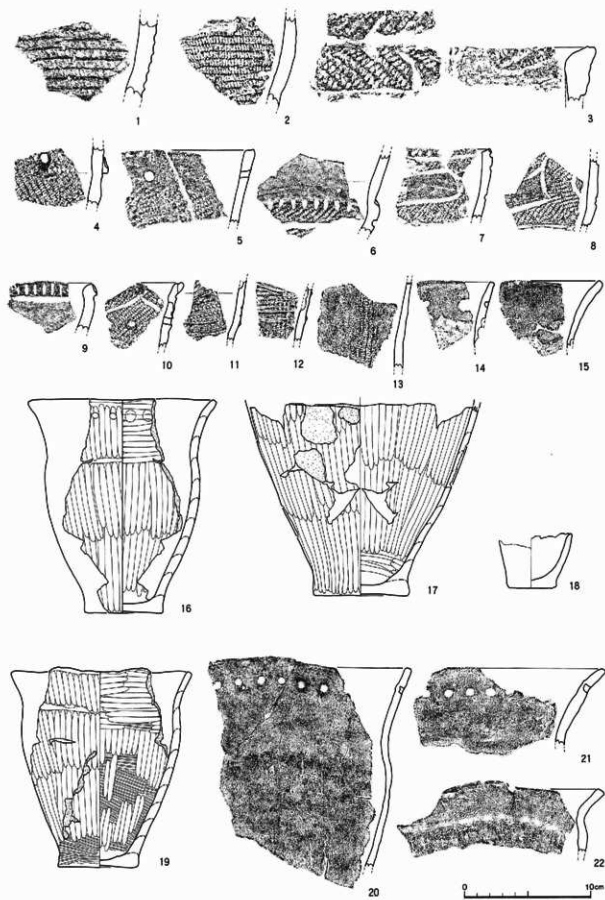
図V-76 沢2の土層断面図

沢2出土の土器(図V-78 表V-14・15 表1・2 図版134・135)

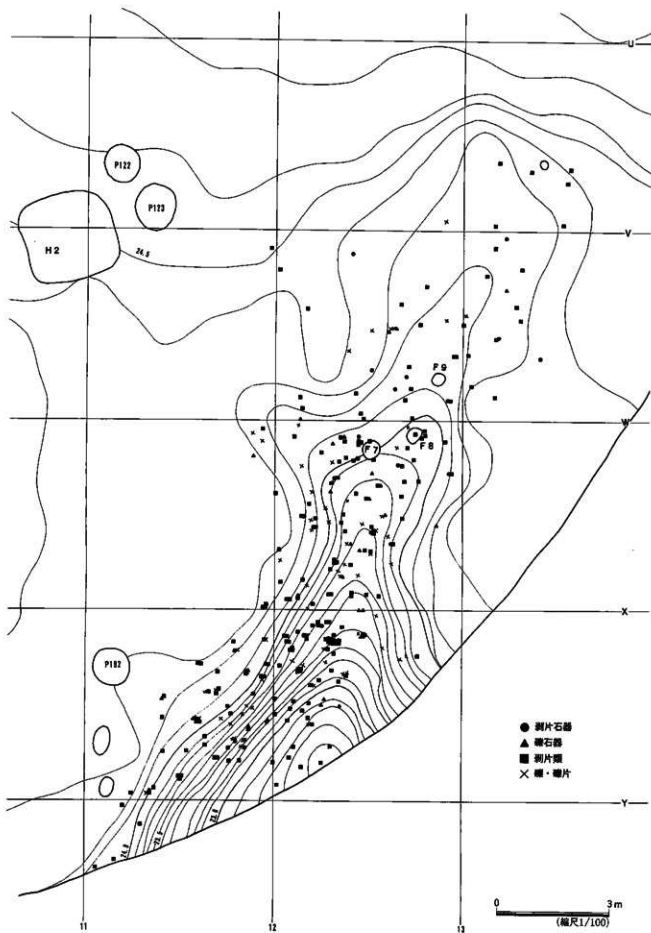
1, 3は縄文式である。3はⅢ群土器で刺突を加えられた貼り付けが残存する。4は余市式で、口縁部に幅広い貼り付けがめぐる。5~9は手稲式またはホッケマ式である。10は堂林式~御殿山式、11~13は後北C 2-D式である。14~22は北大Ⅲ式である。16は小型の甕で、全体の約半分を欠くが口縁部から底部まで残存する。頸部と胴部の境界には段差が存在する。口縁部には円形刺突文が施される。内外面ともよく磨かれる。内面は胴部下半を除き炭化物がほぼ全面に付着し、外面はほぼ全面に煤が付着する。17は中型の甕で、胴部上半を欠く。内外面ともよく磨かれるが、外面はミガキの上からハケメが確認できる。内外面ともに炭化物、煤が少量付着する。18はミニチュアと思われる底部片である。内外面はミガキが施されるが、内面はハケメの痕跡が残る。19は小型の甕である。頸部と胴部の境界は沈線で区画されるが、その後のミガキやハケメなどで沈線は不明瞭である。外面はよく磨かれるがミガキの上からハケメを確認できる。内面は胴部のミガキの密度が薄く、ハケメが残る。20は中型の甕である。頸部と胴部の境界には明瞭な段差は存在しない。口縁部には円形刺突文が施される。内外面ともよく磨かれるが、口縁部内面にハケメが残る。内面はほぼ全面に炭化物が付着し、外面は口縁部から頸部に煤が付着する。22は小型の甕の口縁部である。頸部と胴部の段差は不明瞭であるが存在する。頸部は短く急激に外反する。内外面とも磨かれるがハケメが残る。口縁部内面には縦方向に細い沈線が引かれる。内面はほぼ全面に炭化物が付着する。14は小型~中型の甕の口縁部である。口縁部には円形刺突文が施される。内外面ともよく磨かれる。外面は煤が付着する。15は中型の甕の口縁部である。口縁部は面取りされる。内外面とも磨かれるが、外面はミガキの上からハケメを確認できる。外面は煤が付着する。



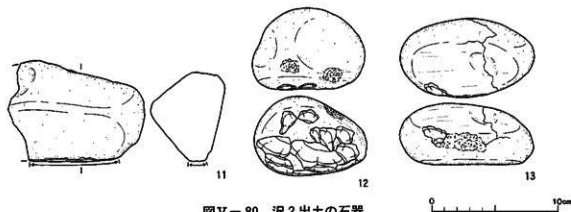
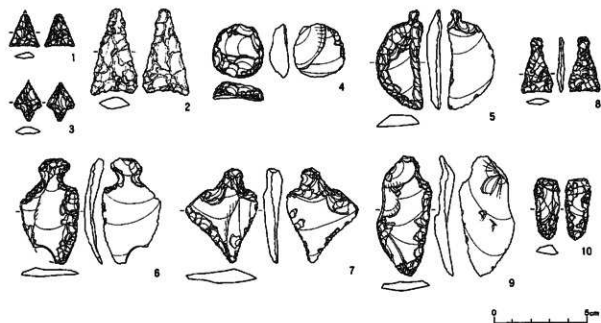
図V-77 沢2出土土器の分布図



図V-78 沢2出土の土器



図V-79 沢2出土石器の分布図



図V-80 沢2出土の石器

沢2出土の石器

沢2からは石鏃7点、つまみ付きナイフ5点、スクレイパー4点、すり石4点、たたき石3点などが出土している。このうち石鏃3点、つまみ付きナイフ4点、スクレイパー2点、Rフレイク1点、すり石1点、たたき石2点を図示した。1～3は石鏃で、1、2は三角形で凹基のもの、3は有茎凸基のものである。2は被熱している。5～8はつまみ付きナイフ。8は両面加工のもので、他は片面周縁加工のものである。石材は、5が頁岩、他は黒曜石。4・9はスクレイパー。4は円形のもので周縁に刃部を作る。9は左側縁上半部に礫被面が残り、他の側縁部に刃部を作る。石材は黒曜石。10はRフレイクで表・裏側縁に刃部を作っている。石材は黒曜石。11は断面が三角形の礫の稜をすったすり石で、石材は安山岩。12・13は扁平礫を素材とするたたき石で、石材は安山岩である。

表V-13 沢2掘載土器一覽

遺構(層位)	図番 号	図版 番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地文	備考
沢2(Ⅱ層)	図V-78-1	134				深鉢	Ⅱ群a-1類	R L縄文	縄文式 点取り番号406
沢2(Ⅱ層)	# - 2	#				深鉢	Ⅱ群a-1類	L R縄文	縄文式 点取り番号83
沢2(Ⅱ層)	# - 3	#				深鉢	Ⅲ群	結束羽状縄文	点取り番号190
沢2(Ⅱ層)	# - 4	#				深鉢	Ⅳ群a類	R L縄文	糸巾式 点取り番号59
沢2(Ⅱ層)	# - 5	#				深鉢	Ⅳ群b類	不明	手箱式~ホッケマ式 点取り番号293
沢2(Ⅱ層)	# - 6	#				深鉢	Ⅳ群b類	L R縄文	ホッケマ式 点取り番号611
沢2(Ⅱ層)	# - 7	#				深鉢	Ⅳ群b類	L R縄文	ホッケマ式 点取り番号534
沢2(Ⅱ層)	# - 8	#				深鉢	Ⅳ群b類	羽状縄文	手箱~ホッケマ式 点取り番号826
沢2(Ⅱ層)	# - 9	#				深鉢	Ⅳ群b類		ホッケマ式 点取り番号580
沢2(Ⅱ層)	# -10	#				深鉢	Ⅳ群c類	L R縄文	盆林式~御殿山式 点取り番号495
沢2(Ⅱ層)	# -11	#				深鉢	Ⅵ群		後北C2-D式 点取り番号406
沢2(Ⅱ層)	# -12	#				深鉢	Ⅵ群	R L帯状縄文	後北C2-D式 点取り番号405
沢2(Ⅱ層)	# -14	#				深鉢	Ⅵ群	R L帯状縄文	後北C2-D式 点取り番号406

表V-14 沢2掘載土器一覽(Ⅶ群)

図番 号	図版 番号	層位	器種	口径(cm. 1)				器高				内面		外面		使用痕		備考						
				口径	器高	底径	最大径	容積	内面		外面		内面(ケール・炭化物)	外面(炭・炭化痕)										
									口縁部	体部	口縁部	体部												
図V-78-14	134	Ⅱ層	甕																口縁部30%付着	点取り番号287				
# -15	#	Ⅱ層	甕																	口縁部50%付着	点取り番号488			
# -16	135	Ⅱ層	甕	14.9	18.8	6.1	12.2													口縁部50%、胴部上半10%付着	口縁部、胴部上半40%、胴部下半90%付着	点取り番号434, 444, 485		
# -17	#	Ⅱ層	甕				7.5													胴部下半20%付着	胴部下半40%付着	点取り番号502, 531		
# -18	#	Ⅱ層	甕				3.7															点取り番号137		
# -19	#	Ⅱ層	甕	14.3	18.8	5.3	12.8															胴部上半50%付着	点取り番号112	
# -20	134	Ⅱ層	甕																			口縁部100%、胴部上半90%付着	口縁部90%付着	点取り番号586
# -21	#	Ⅱ層	甕																			口縁部10%付着	口縁部10%付着	点取り番号204
# -22	#	Ⅱ層	甕																			口縁部100%付着	口縁部10%付着	点取り番号472

表V-15 沢2掘載石器一覽

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
図V-80-1	石鏃	A-2	V-13	Ⅱ層	(1.7)	1.6	0.35	0.59	黒曜石	図版152
# - 2	#	#	V-12	#	4.55	2.45	0.75	6.3	#	#
# - 3	#	#	X-11	#	(2.05)	1.45	0.4	0.7	#	#
# - 4	スクレイパー	A-2	W-12	Ⅱ層	2.8	2.7	1.0	7.04	#	#
# - 5	つまみ付き ナイフ	A-2	V-12	Ⅱ層	5.25	2.45	0.8	8.59	頁岩	#
# - 6	#	#	Y-12	#	5.55	3.1	1.0	7.7	黒曜石	#
# - 7	#	#	W-12	#	4.95	3.8	1.0	9.5	#	#
# - 8	#	#	#	#	2.85	1.65	0.4	1.3	#	#
# - 9	スクレイパー	#	V-12	#	6.3	2.95	1.05	10.2	#	#
# -10	Rフレイク	A-2	V-12	Ⅱ層	3.2	1.35	0.6	2.61	#	#
# -11	すり石	A-2	W-12	Ⅱ層	8.0	(10.75)	6.65	630.8	安山岩	#
# -12	たたき石	A-2	X-12	Ⅱ層	6.4	8.9	6.25	453.6	#	#
# -13	#	#	V-12	#	6.2	10.65	4.8	386.0	#	#

X1 (図V-81 表1・2 図版106)

位置：Q-11・12 南から北へわずかに傾斜する標高24.98m～25.10mのところに位置する。

規模：2.53m×2.00m/2.37m×1.80m/0.42m 周溝状落ち込みの巾25cm～70cm、深さ8cm～13cm

平面形：不整形円形 長軸方向：E-W

確認・調査・土層：I層を除去し、Ⅲ～Ⅳ層中でⅡ層の落ち込みとそれをめぐる周溝状の落ち込みを検出した。当初周溝状落ち込みは東側が開口していると思われたが、周辺精査し、Ⅱ層を除去したところほぼ一周していることが判明した。Ⅱ層の落ち込みと周溝状の落ち込みとの重複・新旧関係が把握できなかったため、共通の土層観察用の土手を設定し、Ⅱ層の落ち込みから調査を行う。Ⅱ層および覆土を26cm～42cm掘り下げ黄色土の堅い面を検出し、壁の立ち上がりを検出した。堅い面は異常に堅く、また褐色土も混入し、やや汚れた土であるため、小トレンチを土手西・南側に設定して掘り下げ、約13cmほど下げた。北壁際で一括土器が出土した。堅い黄色土、フレイクの散在などから他の遺構(H4)と重複しているものと判断し、堅穴状遺構であろうと考えた。また周溝状の落ち込みとの関係を土層断面で検討したところ重複などは見られなかった。覆土にきわだった違いが見られることから別遺構と考え、周溝状落ち込みの覆土を8～13cm掘り下げ、凹凸のはげしい暗褐色土(H5の覆土)が検出された。さらに西側墳底には浅いくぼみの底に貼り付くようにしたⅢ群土器片が出土した。出土状態から見て伴土器と考えられる事から、堅穴状遺構と周溝状落ち込みは、同時期かあるいは余り時間差のない遺構であろうと判断した。堅穴状遺構の覆土は、Ⅱ層およびⅡ層に黄色土が少量混じり合った土で、ほぼ一層である。自然堆積状である。周溝状の落ち込みの覆土は、褐色土がわずかにまじる暗黄色土である。

墳底：H4覆土中に構築されている。全体に凹凸があり、中央部90cm×80cm、深さ約13cmほどくぼんでいる。非常に堅い。

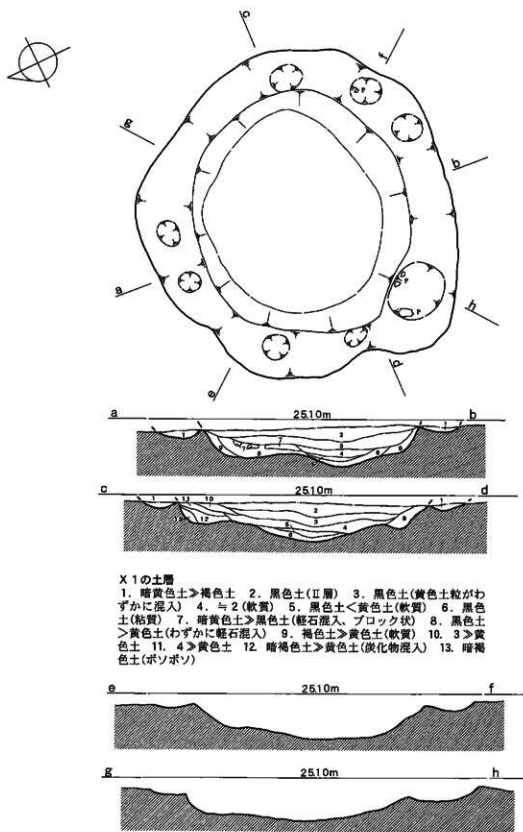
壁：立ち上がりは全体にゆるやかである。検出面からの壁高は、東壁が24cm、南壁32cm、西壁が26cm、北壁が38cmである。周溝状の落ち込みは墳底がH5覆土中につくられていて、断面は皿状で、わずかにくぼむ部分が数カ所見られる。

遺物出土状況：周溝状の落ち込みから土器片が4点出土している。これらは内面を上にし、墳底面に貼り付いた状態である。他は堅穴状遺構・周溝状の落ち込みの覆土中から土器29点、石器等38点が出土しているがまとまった出土状態ではない。出土土器はⅢ群のもので、石器はフレイクである。

重複・新旧関係：H4・5と重複しており、これより新しいものである。

時期：重複関係、出土遺物などから見て、Ⅲ群土器を伴う縄文時代中期のものと思われる。

本遺構は、確認・調査・土層のところで触れたように、堅穴状遺構と周溝状落ち込みは同一遺構とするか、余り時間的な差のない別遺構とするか、あるいは全く別遺構とするかきわめて判断し難い。検出当初周溝状の落ち込みは縄文時代の周溝のある墓か、墳丘墓の周溝かと考えていた。しかしながら出土遺物や堅穴状落ち込みとの関係から考え同一遺構と判断した。H4の覆土が踏みかためられたように非常に堅くなっていることから、堅穴住居跡と思われる。周溝状の落ち込みは浅く、形が不整で、ところどころに浅くくぼんだところがあることから、上屋を設置する構築物であろうかとも考えられる。ただ覆土の違いへの疑問は残る。今回は堅穴状遺構として報告するが、今後の類似の増加を待って判断したいと考える。



図V-81 XI



VI 包含層出土の遺物

1. 概要

出土遺物の分布は石器も含めて調査区南側に集中する。これは調査区北側の表土掘削を重機により行い、南側を人力で行ったことが多少は影響していると考えられる。また、調査区南側に分布の中心をもつIV群C類土器が、他の時期の出土量を圧倒しているため、全体では調査区南側に偏った分布を示す結果になったものと考えられる。土器の分布図は出土量の多いⅢ群、IV群C類、Ⅶ群について作成した。以下、土器の分布を時期毎にみていく。

Ⅲ群土器は調査区西側から南にかけての範囲で出土する。縄文時代中期中頃の竪穴住居がQ-11付近やG-17付近で検出されており、包含層から出土した土器はこれらの竪穴住居とほぼ同時期のものである。したがって、竪穴住居に居住した人々がこれらの遺物を残した可能性が高く、中期中頃には調査区西側から南側にかけての範囲に生活域が広がっていたものと推測する。

IV群C類は調査区南側に集中して分布する。柱穴状小ピットや焼土などがこの分布域とほぼ重なっており、柱穴状小ピットや焼土はこの時期に属す可能性が高い。この時期に位置づけられる竪穴住居は見つかっていないが、柱穴状小ピットは住居を構成する柱、焼土は炉跡であったのではないかと推測する。IV群C類土器の分布はさらに南側に広がり、一部は段丘の斜面や低位段丘面まで広がるようである。

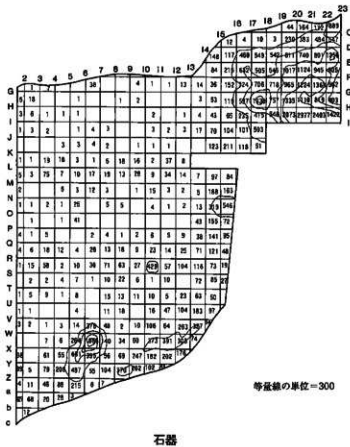
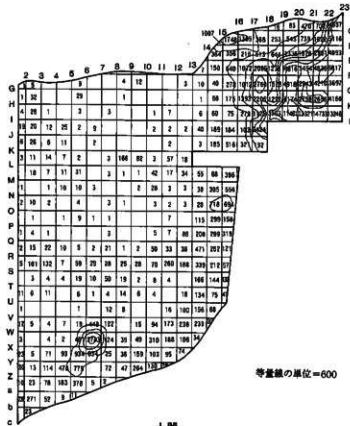
Ⅶ群土器は沢1を中心に出土した。多くは北大Ⅲ式に属し、土壌墓に副葬される土器とほぼ同時期のものであることから、土壌墓を営んだ人々が残したものと考えられる。沢1から出土する土器が埋葬儀礼に伴うものか日常的な生活の痕跡かは不明である。

図VI-1・3・4で明らかなように、土器同様石器、剥片石器、礫石器、剥片類とも同じような出土状況を見せている。石器などの包含層出土総数は50,597点で、沢1周辺から西側と調査区南側に集中している。これは沢1周辺ではⅡ層が残存していたこと、西側および南側はA-2地区に含まれ、人力でⅠ層から掘り下げた結果であろうと思われる。

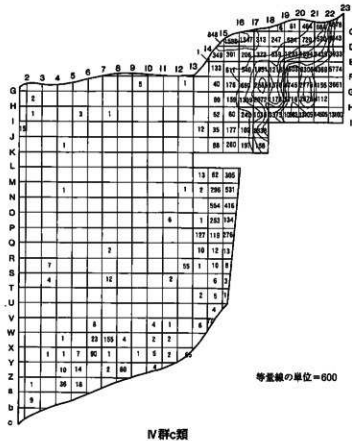
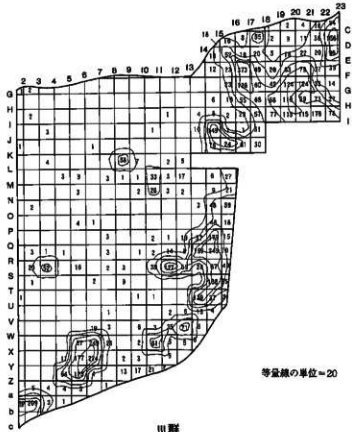
剥片石器の包含層出土総数は約2,750点で、沢1周辺と調査区南側に集中している。南側は縄文時代の遺構が多く、それに関係するものと思われる。剥片石器では石鎌が1,098点、Rフレークが1,057点と多く、それぞれが全体の約40%、約38%と、合わせて剥片石器の約78%を占めている。石材は大半が黒曜石である。

礫石器の包含層出土総数は約4,100点で、剥片石器同様の出土状況である。南側出土のものは縄文時代の遺構に関係するものであろう。沢1周辺、とくに底付近で礫や礫石器、とりわけすり石、たたき石が多く、出土している。これは北大Ⅲ式期の土壌墓に置き石として礫石器が再利用されていることから見て、周辺から礫とともに礫石器も利用するために集められていた結果ではないかと思われる。礫石器では石斧と石斧片(233点)、すり石(148点)、たたき石(62点)が多い。

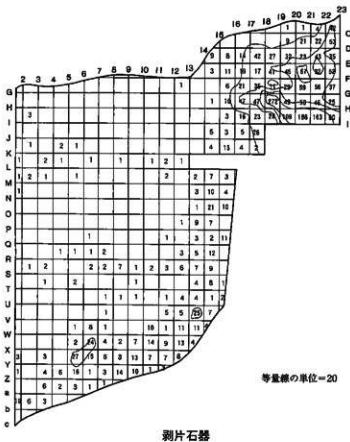
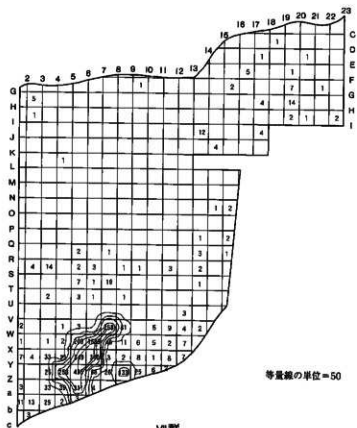
剥片類の包含層出土総数は約43,700点で、包含層出土石器などの約86%を占めている。出土状況は剥片石器、礫石器と同じである。沢1周辺では沢頭付近に多く、北大Ⅲ式期の土壌墓覆土中からフレイク・チップなどが多く出土していることと何らかの関係があるかも知れない。調査区南側では縄文時代の遺構、とくに住居跡や焼土の分布域とほぼ重なっている。



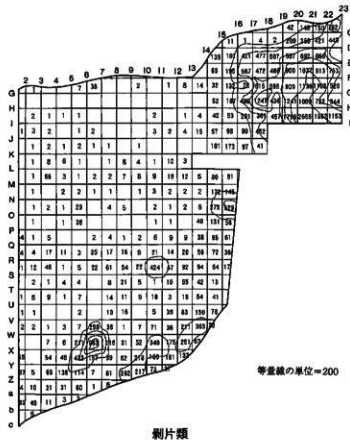
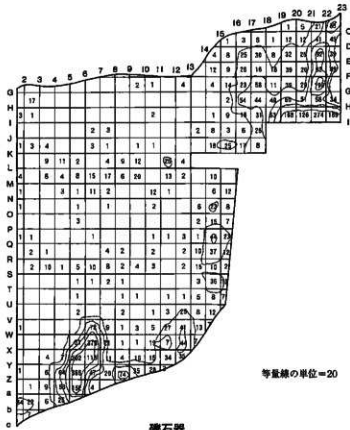
図VI-1 出土土器・石器分布図(1)



図VI-2 出土土器分布図(1)



図VI-3 出土土器・石器分布図(2)



図VI-4 出土石器分布図(1)

2. 土器・土製品など(図VI-1~3・5~20 表VI-1~3 表4 図版153~174)

I 群土器(1~12)

1~7は東剣路Ⅲ式である。1~3は器壁に組紐圧痕文が施され、4、5は絡条体圧痕文が施される。6、7は低部片で6は縄の圧痕が縦に押捺され、7は結束羽状縄文が施される。8は中茶路式の胴部片で、横走る沈線と微隆起の間を短縄文で充填する。9~12は東剣路Ⅳ式に相当し、撚糸文が施される。

II 群(13~31)

13、14は体部に結束羽状縄文、口縁部付近に4条の縄線文を施すもので、花積下層式並行とみられる。15は結束羽状縄文の施される胴部片で、13と同一個体の可能性がある。16~21は網文式である。22~29は静内中野式で、L R又はR Lの斜行縄文が施される。胎土には繊維を多く含む。30、31は結束羽状縄文の施される胴部片である。

III 群(32~90)

32~41は中期前葉に位置づけられる固体で、32は貼り付けと縄の圧痕により施文するもので、円筒土器上層式c~dに相当する。33、34は胴部にくびれをもつもので、サイベ沢Ⅶ式に並行する。33は口縁部に小突起と、V字状の貼り付けをもつ。35は口縁端部に縄の圧痕を施し、体部には結束羽状縄文が施される。36~40は口縁部に肥厚帯をもち、口縁部を貼り付けにより施文するものである。いずれも見晴町式に並行するものと考えられる。41は胴部片で半載竹管による横走沈線が引かれ、同じ工具でジグザグの文様が縦に施文される。42~67は荻ヶ岡1、2式に相当するもので、42~51までは刻みが用いられるもの、52~67は押し引き中心の施文がなされるものである。68~86は天神山式に位置づけられる。68~73は口縁部に棒状の突起をもつ個体である。突起部分は貼り付け、半載竹管による沈線、押し引きなどが施される。74~85は口縁部片である。口縁部が貼り付けにより肥厚し、断面が三角形になるものが多い。74、75、77は口縁部が肥厚しない。75は口縁部から垂下する貼り付けをもち、口縁端部と口縁部付近には押し引きがめぐる。86、90は胴部片で、86は横の貼り付けと縦の貼り付けが組み合わされる。90は縦絡文が施文される。87~89は底部片である。88は底部外面にも縄文が施される。

IV 群 a 類(91~100)

91~94は余市式に位置づけられる。口縁部及び胴部に幅1~2cmの貼り付けをもち、口縁端部はやや丸をもち内傾する。95~100は入江式や白坂3式に並行するものである。95、96は幾何学的な沈線文により施文される。95は乙字状の文様を沈線とすり消しにより表現する。99は肩部が強く屈曲しており、壺に近い器形であろう。96~98、100は波状文など曲線的な沈線文が施文される。

IV 群 C 類(101~242)

堂林式~御殿山式のもので、一部晩期前葉のものも存在すると思われるが、これに含めて報告する。101~204は深鉢、205~227は鉢又は浅鉢、228~242は壺又は注口である。

深鉢は大きく分けて平口縁のものと、突起をもつものや波状口縁のものに分けられる。

101~194は平口縁のものである。平口縁のものは瓜形文をもつものともたないものに分けられ、さらに口縁端部が①平らで、胴部とほぼ同じ幅が若干肥厚するもの、②内傾し、切り出し状になるもの、

③細くすばまり華奢なもの、の3つに分類できる。

101～127は爪形文をもたないもので、101～108は口縁端部が平らなものである。無文もしくは口縁部近くに横走沈線が施される。109～117は口縁端部が切り出し状になるものである。無文か、横走沈線のみのもものがほとんどであるが、117のような波状文や、115のような弧状の沈線文が施されるものもある。118～127は口縁端部が細くすばまるものである。文様は無文のものや横走沈線の他、123のような弧状の沈線や127のような鋸歯状の沈線文など、文様のバリエーションが多い。128～141は爪形文をもつもので、128、129は口縁端部が平らなものである。130～141は口縁端部が細くすばまるもので、無文又は横走沈線のみが施文される。134は口縁部外面に山形の突起をもつ。

142～155は突起をもつもので、突起の形状は三角形のものが多く、143、149は突起が2つのもの、150、151は突起に刻みをつけられるものである。156～194は波状口縁をもつもので、156～163は波の単位が大きいもの、164～194は波の単位が小さいものである。176はボタン状の貼瘤がなされる。

195～204は深針の胴部片である。200は外面に赤色顔料が付着しており、全面に赤色顔料が塗布されていた可能性がある。

205～227は鉢又は浅鉢である。205、206は上げ底気味の高台をもつものである。205は体部に横走沈線が数条巡り、その間に斜行する沈線が施される。206は口縁部の5箇所突起をもち、体部には弧状の文様が施される。207、208は高台をもつ無文の鉢である。207は底部から直線的に立ち上がる器形で、208は胴部上半で内湾気味に立ち上がる。

228～242は壺又は注口である。228は肩の張る器形で、頸部はすばまりながら直線的に立ち上がる。頸部と胴部の屈曲部には2本の沈線が引かれ、この沈線をまたぐように4箇所刻みを加えた貼瘤が施される。235、236は小型の壺又は注口で、同一固体である。胴部には貼瘤が施される。

V群C類(243)

243は大洞A式～A'式に平行する個体で、口縁端部には縄文と刻みが加えられる。

IV群(244～253)

244～253は後北C2-D式である。文様は微隆起線、帯状縄文、列点文によって構成される。口縁端部は刻みが加えられ、口縁部外面は口縁端部と同様の刻みを加えた隆起線が貼り付けられる。244は深鉢で、口縁部から胴部上半が残存する。横走する3本の帯状縄文と微隆起線に挟まれた2段の文様帯に、微隆起線、帯状縄文で弧状の文様を描く。

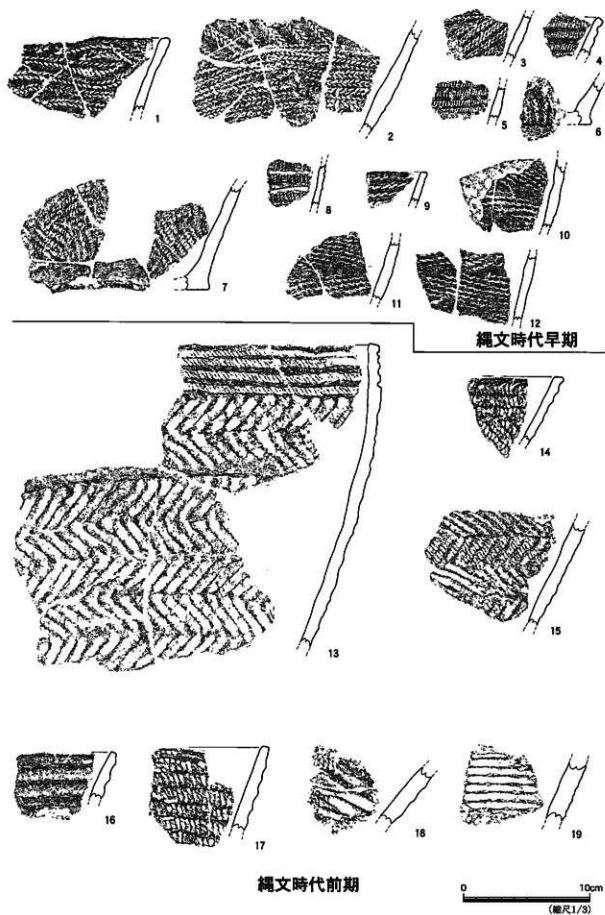
VII群(254～302)

多くは北大Ⅲ式であるが、擦文前期のものも含まれる。墓出土のものとは異なり、これら包含層出土のものは中型から大型のものが多く、

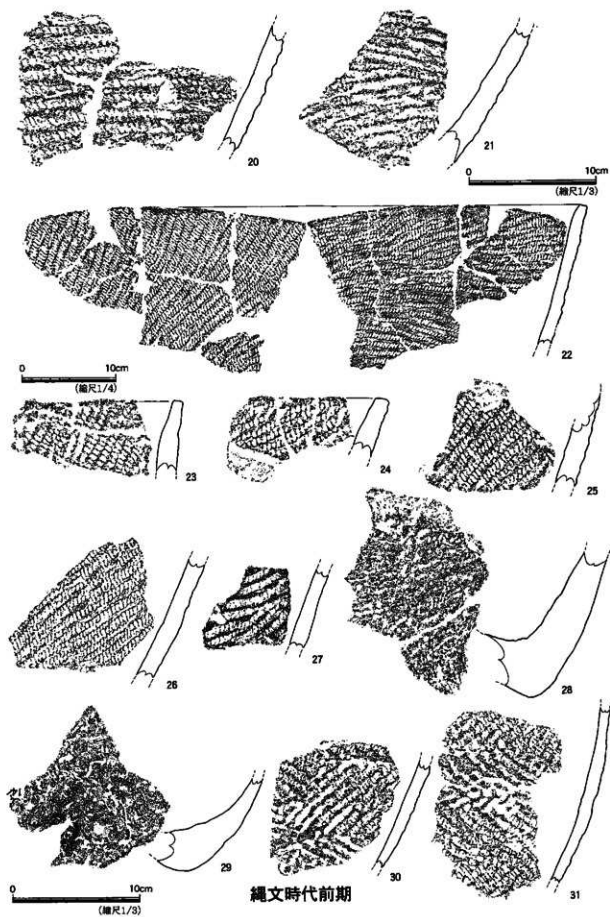
254～261は壺の復元個体である。

262～278は壺の口縁部を含む破片である。266は口縁部は2段のナデが施される。頸部と胴部の境界には2本の段状沈線を施す。268は壺の頸部で口縁部はごくわずかに残存する。頸部の文様は鋸歯状の沈線文と連続する縦の刺突文及び沈線文で構成される。

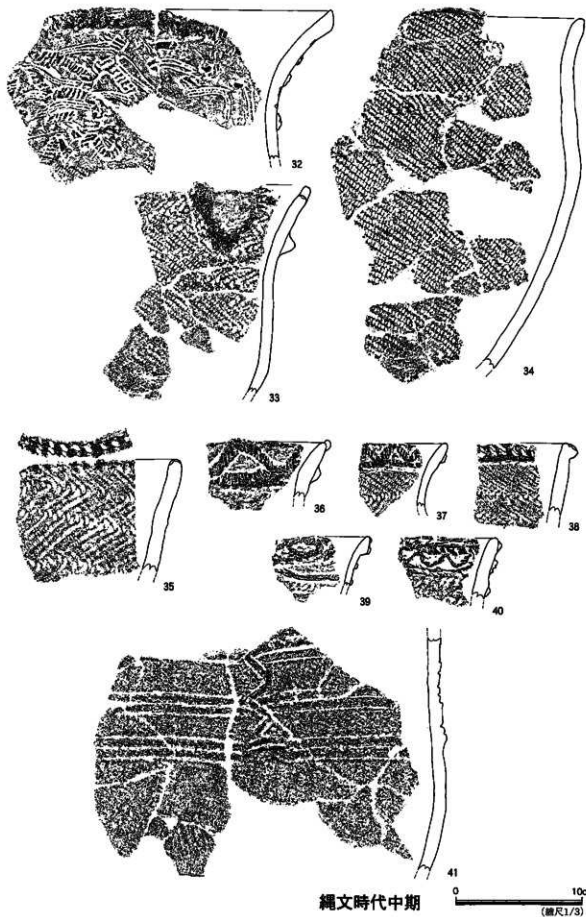
279～302は底部片である。279、280は片口又は注口である。283は底部の張り出しが少なく、ハケメが残ることから擦文土器の底部の可能性が高い。302は底部の側面がU字状になっている。上部が破損しているため断定は出来ないが、柱状の高台に貫通孔をあけているのではないかと推測する。



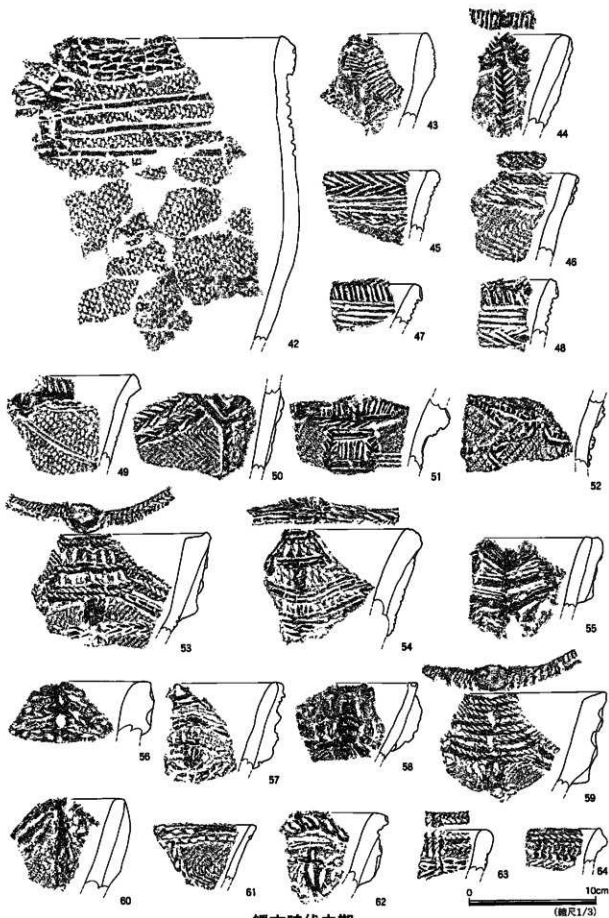
図VI-5 包含層出土の土器(1)



図VI-6 包含層出土の土器(2)

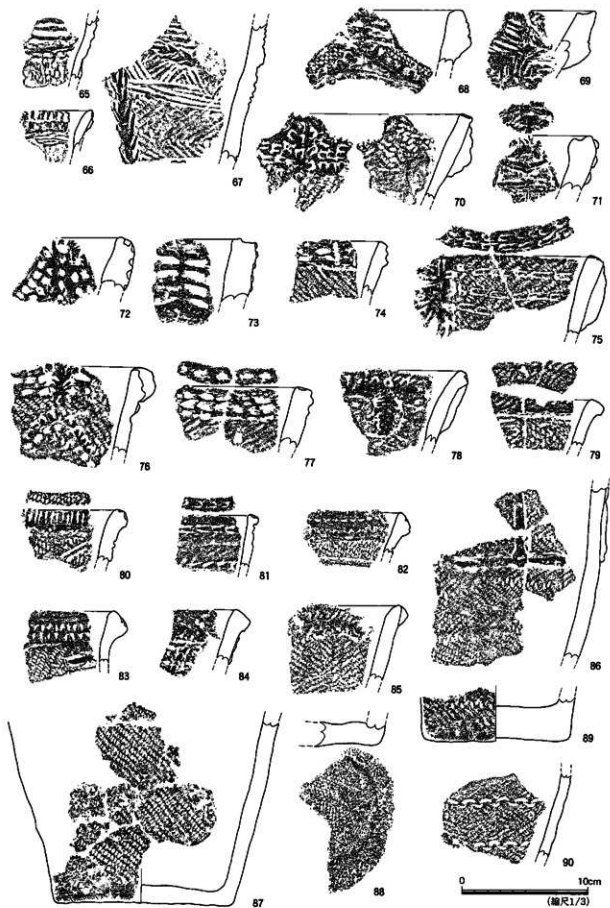


図VI-7 包含層出土の土器(3)



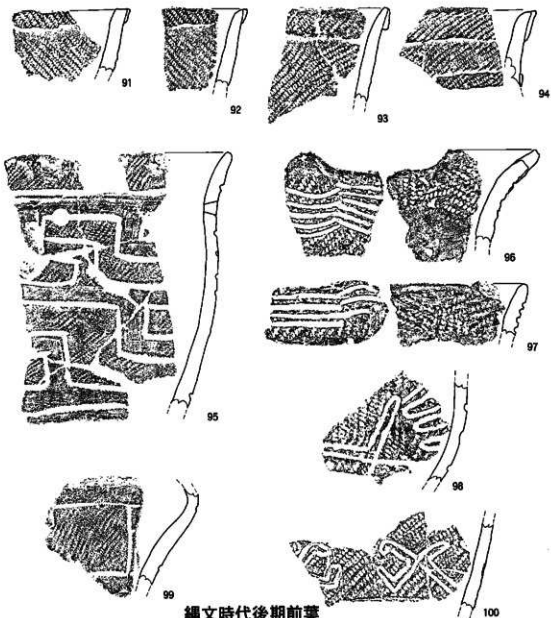
縄文時代中期

図VI-8 包含層出土の土器(4)

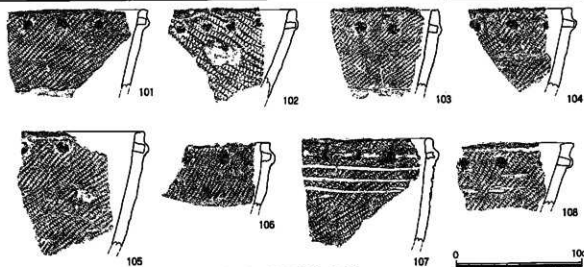


縄文時代中期

図VI-9 包含層出土の土器(5)

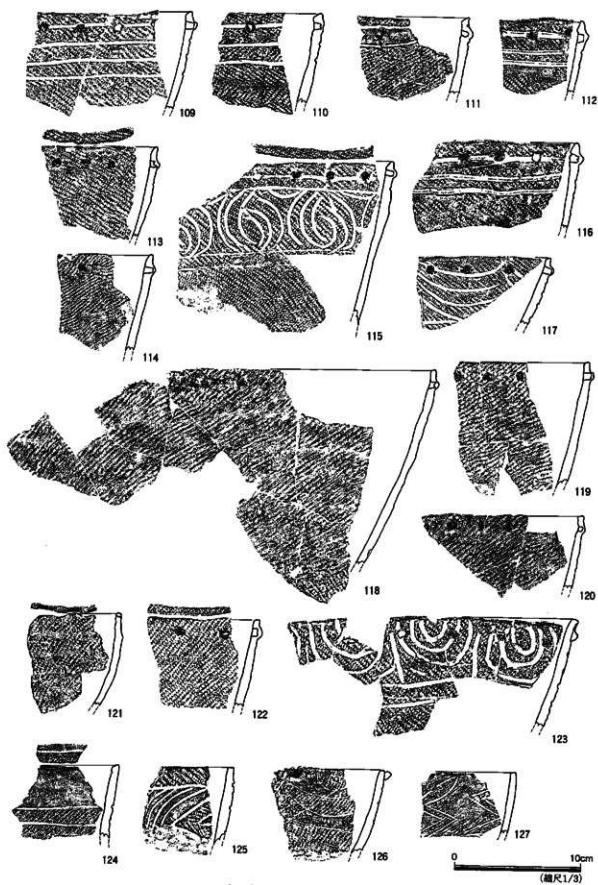


縄文時代後期前葉



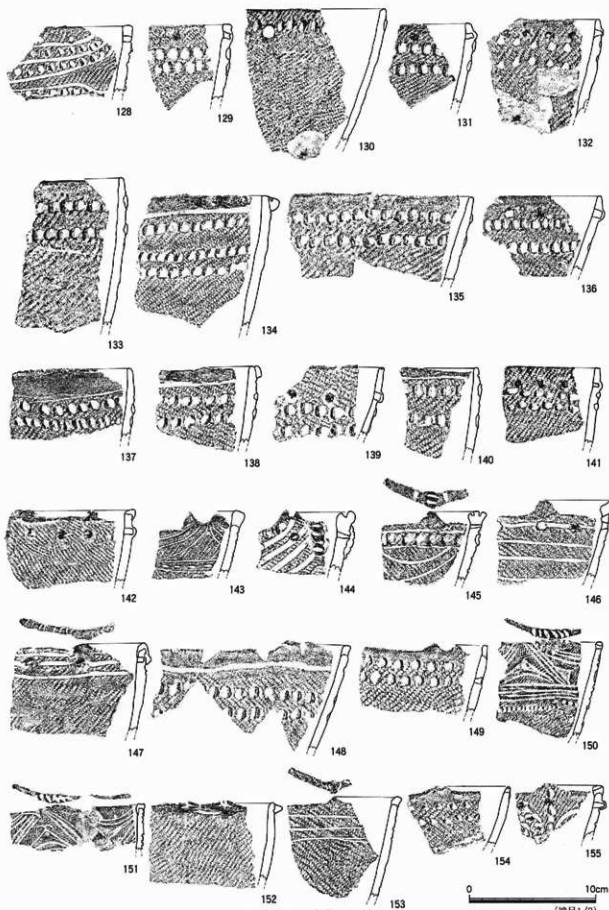
縄文時代後期後葉

図VI-10 包含層出土の土器(6)



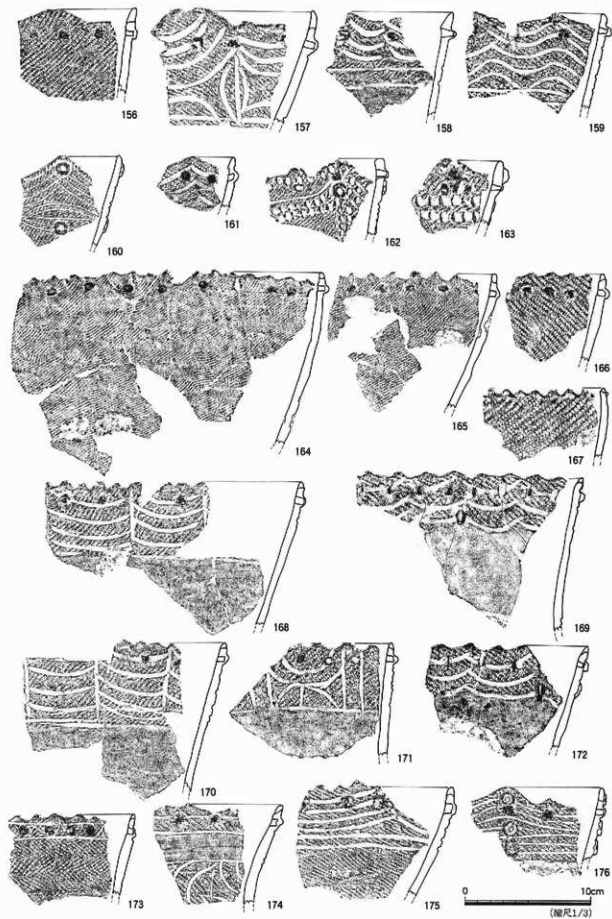
縄文時代後期後葉

図VI-11 包含層出土の土器(7)

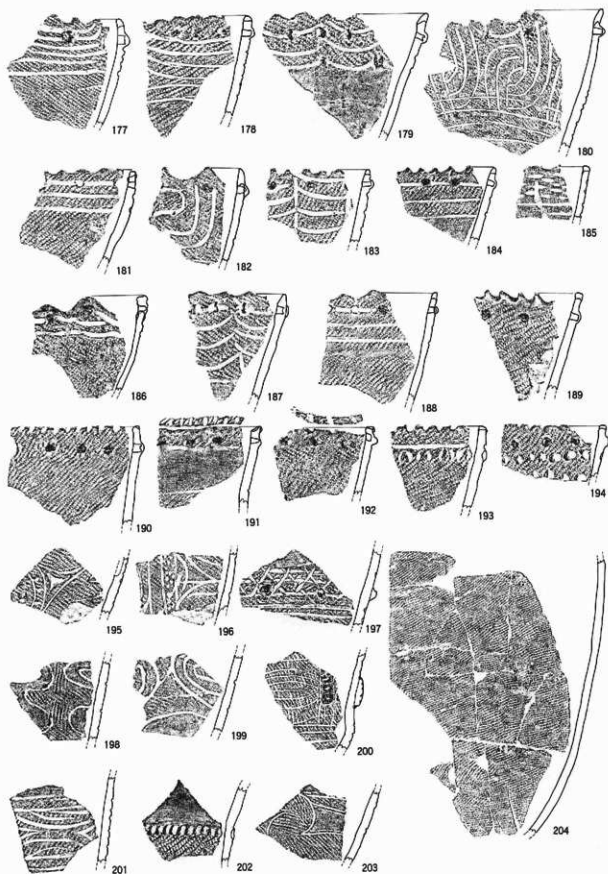


縄文時代後期後葉

図VI-12 包含層出土の土器(8)

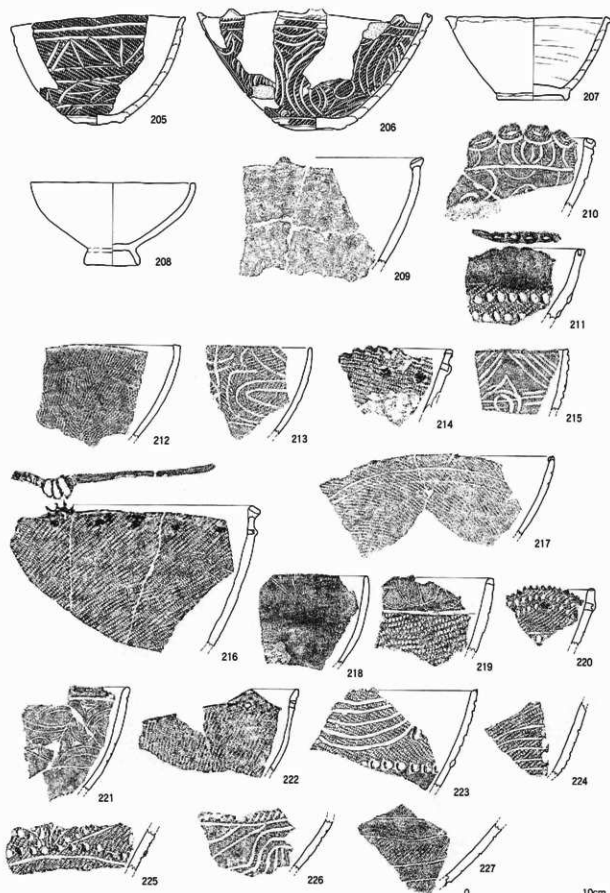


図VI-13 包含層出土の土器(9)



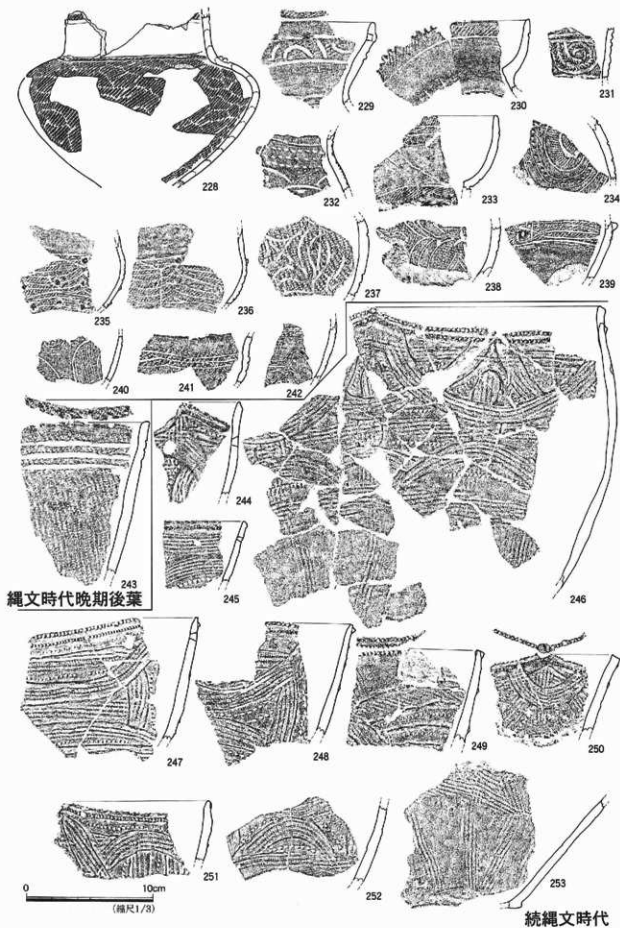
縄文時代後期後葉

図VI-14 包含層出土の土器00

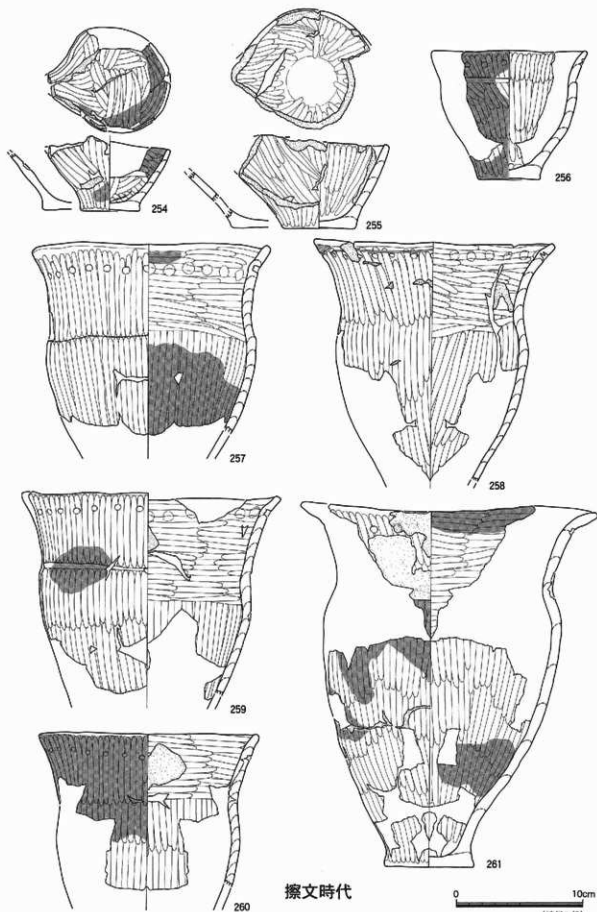


縄文時代後期後葉

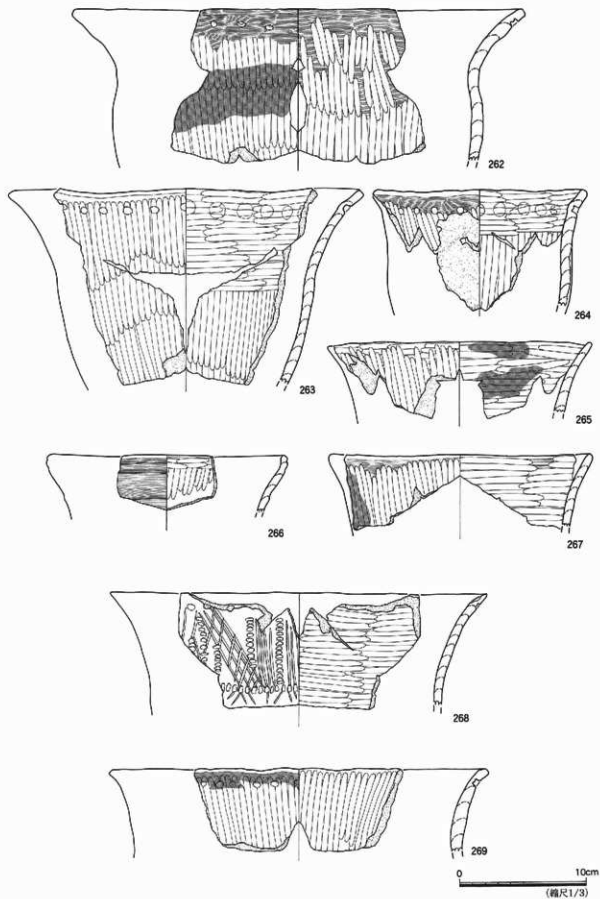
図VI-15 包含層出土の土器(1)



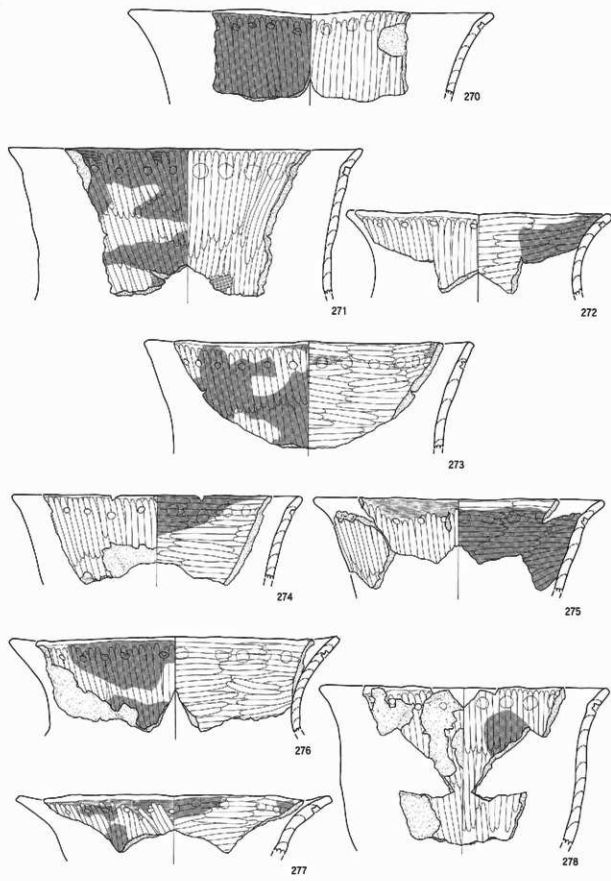
図VI-16 包含層出土の土器切



図VI-17 包含層出土の土器03



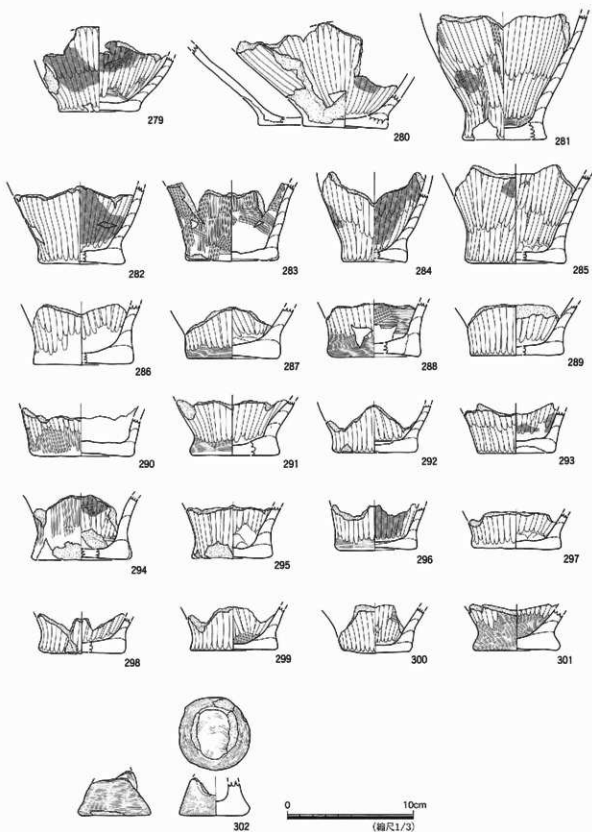
図VI-18 包含層出土の土器04



擦文時代

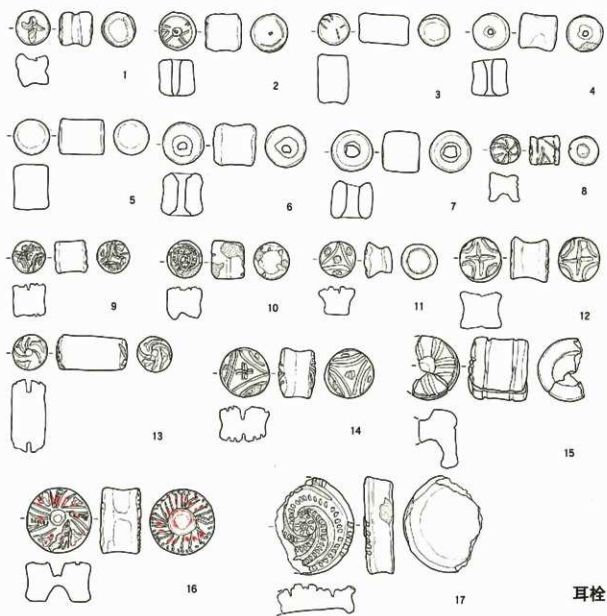
0 10cm
(縮尺1/3)

図VI-19 包含層出土の土器(5)

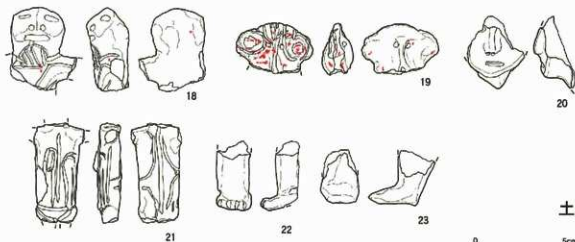


擦文時代

図VI-20 包含層出土の土器(6)



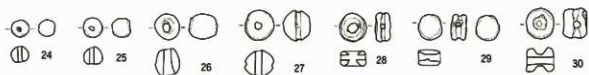
耳栓



土偶



図VI-21 包含層出土の土製品(1)



土玉



34



35

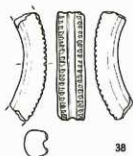
ミニチュア



36



37



38



39



40

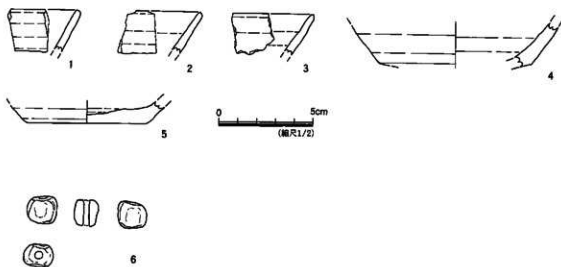


41

その他



図VI-22 包含層出土の土製品(2)



図VI-23 包含層出土の須恵器・玉

土製品(図VI-21・22 表VI-3 表4 図版175・176)

1～16は耳栓である。1～7は無文またはそれに近いもの、8～17は沈線や刺突により施文されるものである。16は沈線のくぼみに赤い顔料が付着しており、赤彩されていたようである。

17～22は土偶で、17～19は顔面、20は胴体、21、22は足である。17、18は赤色顔料が付着する。

23～32は土玉である。26～29は周囲に沈線状の溝がめぐるもの、30は壺柑の房のような形状のもの、31は細長いものである。32は貫通孔が無い。

33、34はミニチュア土器である。33は深鉢を模したもので無文である。34は浅鉢を模したものでL R縄文が施される。

35～37は弧状の土製品で、全て両端部を欠く。38は「く」の字状に屈曲する土製品で、中央に1箇所、両方の先端部2箇所合計5箇所の貫通孔をもつ。地紋はR L縄文で、赤色顔料が付着する。39は38を小型にしたような形状で、両方の先端部を欠く。先端部に貫通孔をもつ。40は四つ足の動物をもしたと思われる土製品である。耳、四肢が確認できる。

須恵器・ガラス玉(図VI-23 表4 図版175)

1～5は須恵器の杯で、1～3は口縁部、4は底部から体部、5はヘラ切りの底部である。出土地点が比較的近く焼成、胎土が似通っていることから、近い時期のものであろう。5のヘラ切りの底部が存在することから7世紀後半～8世紀の年代が考えられる。

6はガラス玉で、色調は青紺色である。包含層出土のため時期は不明であるが、北大Ⅲ式期の土壇墓の分布域で出土したことから、土壇墓と近い時期に位置づけられる可能性が高い。

表VI-1 包含層掘載土器一覽

図番号	図版番号	調査区(層位)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地紋	備考
図VI-5-1	153	C-22(I層)				深鉢	I群b-1類	縞紐庄文	東側路Ⅱ式
"	"	C-22(II層)				深鉢	I群b-1類	縞紐庄文	東側路Ⅱ式
"	"	E-20(I層)				深鉢	I群b-1類	縞紐庄文	東側路Ⅱ式
"	"	H-20(II層)				深鉢	I群b-1類	縞庄文	東側路Ⅱ式
"	"	C-22(II層)				深鉢	I群b-1類	結東羽状縄文	東側路Ⅱ式
"	"	E-20(II層)				深鉢	I群b-1類	結東羽状縄文	東側路Ⅱ式
"	"	E-20(II層)				深鉢	I群b-1類	結東体庄文	東側路Ⅱ式
"	"	H-21(II層)				深鉢	I群b-3類	短縄文	中茶路式
"	"	G-17(II層)				深鉢	I群b-4類	縞糸文	東側路IV式
"	"	H-16(II層)				深鉢	I群b-4類	縞糸文	東側路IV式
"	"	G-16(II層)				深鉢	I群b-4類	縞糸文	東側路IV式
"	"	G-16(II層)				深鉢	I群b-4類	縞糸文	東側路IV式
"	"	a-1(II層)				深鉢	II群a-1類	結東羽状縄文	花積下層式並行
"	"	a-1(II層)				深鉢	II群a-1類	結東羽状縄文	花積下層式並行
"	"	a-1(II層)				深鉢	II群a-1類	結東羽状縄文	花積下層式並行
"	"	X-5(II層)				深鉢	II群a-1類	R.L縄文	縄文式
"	"	Y-3(II層)				深鉢	II群a-1類	不明	縄文式
"	"	Y-7(I層)				深鉢	II群a-1類	不明	縄文式
"	"	Z-7(I層)				深鉢	II群a-1類	不明	縄文式
"	"	W-6(II層)				深鉢	II群a-1類	不明	縄文式
"	"	a-1(II層)				深鉢	II群a-1類	R.L縄文	縄文式
"	"	a-2(II層)				深鉢	II群a-1類	R.L縄文	縄文式
図VI-6-20	"	H-20(II層)				深鉢	II群a-2類	L.R縄文	静内中野式
"	"	G-18(II層)				深鉢	II群a-2類	L.R縄文	静内中野式
"	"	G-17(II層)				深鉢	II群a-2類	L.R縄文	静内中野式
"	"	H-21(II層)				深鉢	II群a-2類	L.R縄文	静内中野式
"	"	G-21(II層)				深鉢	II群a-2類	L.R縄文	静内中野式
"	"	F-16(II層)				深鉢	II群a-2類	L.R縄文	静内中野式
"	"	G-18(II層)				深鉢	II群a-2類	L.R縄文	静内中野式
"	"	C-22(II層)				深鉢	II群a-3類	L.R縄文	静内中野式
"	"	a-2(II層)				深鉢	II群a類	結東羽状縄文	
"	"	a-1(II層)				深鉢	II群a類	結東羽状縄文	
図VI-7-32	"	R-15(I層)				深鉢	III群a類	なし	円筒土器上層a、b式
"	"	Y-5(II層)				深鉢	III群a類	R.L縄文	サイベ沢Ⅵa式並行
"	"	a-2(II層)				深鉢	III群a類	R.L縄文	
"	"	E-20(II層)				深鉢	III群a類	結東羽状縄文	
"	"	不明				深鉢	III群a類		
"	"	T-14(I層)				深鉢	III群a類	結東羽状縄文	
"	"	L-13(I層)				深鉢	III群a類	R.L縄文	
"	"	F-18(II層)				深鉢	III群a類	R.L縄文	
"	"	D-21(I層)				深鉢	III群a類		
"	"	R-10(II層)				深鉢	III群a類	R.L縄文	
図VI-8-42	157	R-11(II層)				深鉢	III群a類	R.L縄文	板ヶ岡1、2式
"	"	V-14(I層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	G-19(II層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	R-7(I層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	Y-10(I層)				深鉢	III群a類	結東羽状縄文	板ヶ岡1、2式
"	"	F-20(II層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	H-21(II層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	E-20(II層)				深鉢	III群a類	L.R縄文	板ヶ岡1、2式
"	"	D-14(II層)				深鉢	III群a類	結東羽状縄文	板ヶ岡1、2式
"	"	H-17(II層)				深鉢	III群a類	L.R縄文	板ヶ岡1、2式
"	"	E-19(II層)				深鉢	III群a類	羽状縄文	板ヶ岡1、2式
"	"	H-21(II層)				深鉢	III群a類	L.R縄文	板ヶ岡1、2式
"	"	G-18(II層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	N-15(I層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	F-20(I層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	W-10(風筒木)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	F-19(II層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	H-21(II層)				深鉢	III群a類	L.R縄文	板ヶ岡1、2式
"	"	F-18(I層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	E-20(II層)				深鉢	III群a類	結東羽状縄文	板ヶ岡1、2式
"	"	F-18(I層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式
"	"	F-16(II層)				深鉢	III群a類		板ヶ岡1、2式

図番号	図帳番号	調査区(層位)	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	器種	分類	地紋	備考
図VI-8-54	157	P-14(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群a類		縦×周1、2式
図VI-9-65	158	E-20(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類	結束羽状縄文	縦×周1、2式
"-66	"	E-20(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類		縦×周1、2式
"-67	"	G-18(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群a類	結束羽状縄文	縦×周1、2式
"-68	"	G-16(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類		天神山式
"-69	"	S-6(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群b類		天神山式
"-70	"	H-21(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類		天神山式
"-71	"	S-8(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群b類		天神山式
"-72	"	G-19(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類		天神山式
"-73	"	W-6(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類		天神山式
"-74	"	P-15(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群b類	R.L.縄文	天神山式
"-75	"	M-15(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群b類	R.L.縄文	天神山式
"-76	"	F-16(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類	結束羽状縄文	天神山式
"-77	"	P-23(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群b類	L.R.縄文	天神山式
"-78	"	M-15(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群b類		天神山式
"-79	"	Q-11(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類		天神山式
"-80	"	F-16(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類	R.L.縄文	天神山式
"-81	"	D-15(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類	L.R.縄文	天神山式
"-82	"	D-14(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類	L.R.縄文	天神山式
"-83	"	F-16(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類	L.R.縄文	天神山式
"-84	"	F-16(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類		天神山式
"-85	"	L-13(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類	L.R.・R.L.縄文	天神山式
"-86	"	L-15(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類	結束羽状縄文	天神山式
"-87	"	a-2(Ⅱ層)			10.5	深鉢	Ⅳ群	R.L.縄文	底部
"-88	158	J-14(Ⅰ層)			8.5	深鉢	Ⅳ群		底部
"-89	"	H-18(Ⅱ層)			10.3	深鉢	Ⅳ群	結束羽状縄文	底部
"-90	"	H-17(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群	羽状縄文線給文	
図VI-10-91	159	R-19(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群a類	R.L.縄文	余市式
"-92	"	Q-13(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群a類	R.L.縄文	余市式
"-93	"	F-16(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群a類	L.R.縄文	余市式
"-94	"	F-19(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群a類	R.L.縄文	余市式
"-95	"	H-18(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群a類	L.R.縄文	図3式新 3. Ⅱ. Ⅱ. Ⅱ. 群
"-96	"	B-22(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群a類	L.R.縄文	図3式新 3. Ⅱ. Ⅱ. Ⅱ. 群
"-97	"	B-22(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群a類	L.R.縄文	図3式新 3. Ⅱ. Ⅱ. Ⅱ. 群
"-98	"	B-22(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群a類	L.R.縄文	図3式新 3. Ⅱ. Ⅱ. Ⅱ. 群
"-99	"	H-19(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群a類	L.R.縄文	図3式新 3. Ⅱ. Ⅱ. Ⅱ. 群
"-100	"	W-6(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群b類	L.R.縄文	手船式
"-101	"	H-21(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-102	"	G-17(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"-103	"	G-17(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-104	"	H-21(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-105	159	H-21(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-106	"	A-22(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-107	"	H-50(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-108	"	H-31(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
図IV-11-100	160	H-21(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"-110	"	B-22(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群c類	羽状縄文	堂林式~御殿山式
"-111	"	H-22(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-112	"	H-21(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-113	"	H-19(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"-114	"	H-20(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-115	"	H-21(Ⅰ、Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"-116	"	H-20(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-117	"	H-20(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"-118	"	H-20(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-119	161	J-10(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-120	"	H-20(Ⅰ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-121	"	H-20(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"-122	"	H-19(Ⅱ層)				深鉢	Ⅳ群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式

図番号	図版番号	調査区(層位)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地紋	備考
図IV-11-123	161	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-22(I層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	J-19(I層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-19(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文 (磨り消し)	堂林式~御殿山式
図VI-12-128	"	H-21(I層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	G-19(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	I-17(I層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-19(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	C-18(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-18(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	C-15(II層) C-16(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	I-17(I層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-18(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-19(II層)	162			深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	E-21(I層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文 (磨り消し)	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	C-15(II層) C-16(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	G-20(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-18(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式 下と同一個体
"	"	H-18(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式 上と同一個体
"	"	F-20(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-22(I層)				深鉢	IV群c類	羽伏縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(I層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(I層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
図VI-13-158	"	H-19(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(II層)	163			深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	B-22(I層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(I層) (II層)H-21 (II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式 下と同一個体の 可能性有り
"	"	H-21(I層) (II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式 上と同一個体の 可能性有り
"	"	A-22(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	F-20(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層) (II層)	164			深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(I層) (II層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-21(II層)				深鉢	IV群c類	羽伏縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
"	"	H-20(II層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式

図番号	図版番号	調査区(層位)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地紋	備考
図VI-13-177	164	H-21(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
図VI-14-177	"	H-21(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -178	"	H-21(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -179	"	H-20(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -180	"	C-22(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -181	"	H-20(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -182	"	H-21(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -183	165	H-20(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -184	"	J-18(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -185	"	H-21(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	無文	堂林式~御殿山式
" # -186	"	H-20(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -187	"	H-21(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -188	"	H-20(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -189	"	G-30(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -190	"	B-21(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -191	"	H-20(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -192	"	H-20(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	羽状縄文	堂林式~御殿山式
" # -193	"	C-16(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -194	"	F-17(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -195	"	H-22(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -196	"	I-19(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -197	"	H-20(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -198	"	G-19(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -199	"	I-19(Ⅰ層) (Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -200	"	H-21(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式 赤彩
" # -201	"	I-17(Ⅰ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -202	"	F-19(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -203	"	B-22(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -204	"	H-20(Ⅱ層)				深鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
図VI-15-205	166	H-20(Ⅱ層)	13.8	8.6	3.7	鉢・浅鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -206	"	H-20(Ⅱ層)	18.6	9.6	3.7	鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -207	"	B-22(Ⅱ層)	13	6.5	5.6	鉢・浅鉢	IV群c類	無文	堂林式~御殿山式
" # -208	"	F-20(Ⅱ層)	13	6.5	4.4	鉢・浅鉢	IV群c類	無文	堂林式~御殿山式
" # -209	"	H-19(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	無文	堂林式~御殿山式
" # -210	"	C-18(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	R.L.縄文 (磨り消し)	堂林式~御殿山式
" # -211	"	H-20(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -212	"	F-18(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -213	"	G-16(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -214	"	H-18(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -215	"	H-19(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	無文	堂林式~御殿山式
" # -216	"	B-22(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -217	167	H-20(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -218	"	H-20(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	無文	堂林式~御殿山式
" # -219	"	L-15(Ⅰ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -220	"	B-22(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -221	"	G-20(Ⅰ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	無文	堂林式~御殿山式
" # -222	"	H-20(Ⅰ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -223	"	H-21(Ⅰ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -224	"	E-20(Ⅰ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -225	"	"				鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -226	"	H-19(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	R.L.縄文	堂林式~御殿山式
" # -227	"	E-20(Ⅱ層)				鉢・浅鉢	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
図VI-16-228	"	H-20(Ⅱ層) H-21(Ⅰ層)				注口・壺	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -229	"	H-20(Ⅱ層)				注口・壺	IV群c類	L.R.縄文	堂林式~御殿山式
" # -230	"	H-22(Ⅰ層)				注口・壺	IV群c類	"	堂林式~御殿山式
" # -231	"	H-20(Ⅰ層)				注口・壺	IV群c類	無文	堂林式~御殿山式
" # -232	"	H-21(Ⅰ層)				注口・壺	IV群c類	R.L.縄文 (磨り消し)	堂林式~御殿山式
" # -233	"	I-19(Ⅰ層)				注口・壺	IV群c類	L.R.縄文 (磨り消し)	堂林式~御殿山式
" # -234	"	D-14(Ⅱ層)				注口・壺	IV群c類	L.R.縄文 (磨り消し)	堂林式~御殿山式

図番号	図原番号	調査区(層位)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器種	分類	地紋	備考
図VI-16-235	167	H-19(II層)				注口・壺	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式 下と同一個体の可能性有り
* -236	168	H-19(II層)				注口・壺	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式 上と同一個体の可能性有り
* -237	*	L-15(II層)				注口・壺	IV群c類	R L 縄文	堂林式~御殿山式
* -238	*	H-20(II層)				注口・壺	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式
* -239	*	H-20(II層)				注口・壺	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式
* -240	*	F-17(I層)				注口・壺	IV群c類	L R 縄文 (玄埴)	堂林式~御殿山式
* -241	*	H-20(II層)				注口・壺	IV群c類	L R 縄文	堂林式~御殿山式
* -242	*	H-19(II層)				注口・壺	IV群c類	無文	堂林式~御殿山式
* -243	*	G-18(II層)				深鉢	V群c類	R L 縄文	大柄A式~A式兼行
* -244	*	H-17(I層)				深鉢	VI群	R L 帯状縄文	後北C2-D式
* -245	*	H-22(I層)				深鉢	VI群	R L 帯状縄文	後北C2-D式
* -246	*	H-19(I層) (II層)				深鉢	VI群	R L 帯状縄文	後北C2-D式
* -247	*	H-19(II層)				深鉢	VI群	R L 帯状縄文	後北C2-D式
* -248	169	H-19(I層) (II層)				深鉢	VI群	R L 帯状縄文	後北C2-D式
* -249	*	F-18(II層)				深鉢	VI群	R L 帯状縄文	後北C2-D式
* -250	*	H-19(II層)				深鉢	VI群	R L 帯状縄文	後北C2-D式
* -251	*	H-19(I層)				深鉢	VI群	R L 帯状縄文	後北C2-D式
* -252	*	R-10(I層)				深鉢	VI群	R L 帯状縄文	後北C2-D式
* -253	*	F-20(II層)				深鉢	VI群	R L 帯状縄文	後北C2-D式

表VI-2 包含層掲載土器一覧(VII群)

図番号	図原番号	グリッド	層位	器種	法量(cm, l)				器高				使用痕		備考		
					口径				内面		外面		内面(ケール, 黄化物)	外面(窪, 黄化物)			
					口径	器高	底径	大径	口縁部	底部	口縁部	底部					
図VI-17-254	170	Y-4	II層	注口・ 注口・ 注口・	8.1	5.8	4.7	0.17	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	胴部上半50%付着	40%付着		
* -255	*	W-6	II層	注口・ 注口・	7.2	5.6	0.27	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	胴部上半60%付着	胴部下半30%付着			
* -256	*	Z-5	川底直上	甕	12.4	10.2	4.8	10.5	0.45	横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部, 胴部上半 30%付着	80%付着		
* -257	*	Z-5	II層	甕	15.8			16.5		縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部35%, 胴部 下半100%付着	口縁部, 胴部上半 20%付着, 胴部 下半100%黄化消失		
* -258	*	W-6	II層	甕	18.1			15.2		縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部10%付着			
* -259	*	X-5, X- 6, W-6	II層	甕	17.5			14.6		横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部	口縁部10%付着		
* -260	*	V-7	II層	甕	20.0			18.8		縦ミガキ	縦ミガキ	横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部, 胴部上半 5%付着	胴部上半16%付着		
* -261	*	Y-8	II層	甕	23.4			18.9	2.59	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部30%, 胴部 下半90%付着	胴部上半50%, 胴部 下半100%黄化消失		
図VI-19-262	171	W-6	II層	甕	38.0					横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部	胴部上半30%付着		
* -263	*	X-5	II層	甕	28.0					縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部	胴部上半30%付着		
* -264	*	Z-5	川底直上	甕	17.0					横ハケ→ 縦ミガキ	横ハケ→ 縦ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	口縁部100%, 胴 部上半80%付着	口縁部70%, 胴部 上半80%付着		
* -265	*	X-5	II層	甕	21.0					縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部40%付着			
* -266	*	Z-5	川底直上	甕	19.0					縦ミガキ → 縦ミガキ		横ミガキ					
* -267	*	W-6	II層	甕	21.0					横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ			口縁部20%付着	口縁部10%付着		
* -268	*	Z-4	II層	甕	30.0					横ミガキ							
* -269	*	e-2	I層	甕	30.0					縦ミガキ	縦ミガキ				口縁部5%付着		
図VI-19-270		X-6	II層	甕	29.0					縦ミガキ	縦ミガキ			口縁部10%付着	口縁部90%付着		
* -271	*	V-6	II層	甕	38.0					縦ミガキ	縦ミガキ			口縁部40%付着	口縁部80%付着		

調査号	図版番号	グリッド	階位	部種	法量 (cm. 1)								形状				使用箇所		備考		
					口部				底面				内面		外面		内面(ケール・炭化跡)	外面(炭・炭化跡)			
					口深	口幅	口底径	口底厚	底径	底厚	底面	底厚	口底部	口底厚	口底部	口底厚					
図VI-19-272	172	W-6	II層	変	21.0										縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部90%付着		
"	"-273	"	W-6	II層	変	26.0									横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ			口縁部70%付着		
"	"-274	"	Z-5	夾底直上	変	23.0									横ミガキ	縦ミガキ			口縁部100%付着		
"	"-275	"	Y-5	夾底直上	変	23.0									横ミガキ	横ナデ→ 横ミガキ			口縁部90%付着	口縁部90%炭化消失	
"	"-276	"	R-3	II層	変	26.1									横ミガキ	縦ミガキ			口縁部6%付着	口縁部40%付着	
"	"-277	"	W-6	II層	変	25.0									横ミガキ	縦ミガキ			口縁部20%付着	口縁部10%付着	
"	"-278	"	Z-5	川底直上	変	23.0									横ハケ→ 縦ミガキ	横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部90%付着	口縁部70%付着、 内面100%炭化消失	
図VI-20-279	"	W-6	II層	内口・ 注口			6.2								横ハケ→ 縦ミガキ	横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	胴部上半80%付着	胴部上半、 胴部下半40%炭化消失	
"	"-280	"	W-6	II層			5.9								縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	胴部上半10%付着	胴部上半、 胴部下半100%付着	
"	"-281	173	W-6	III層	変	6.6									横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-282	"	W-6	II層	変	7.0									横ハケ→ 縦ミガキ	横ハケ→ 縦ミガキ			胴部下半70%付着		
"	"-283	"	X-5	I層	変	7.1									横ハケ	縦ハケ					
"	"-284	"	Y-5	II層	変	5.9									横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ			胴部下半70%付着	胴部下半40%付着	
"	"-285	"	W-6	II層	変	7.8															
"	"-286	"	V-6	II層	変	7.3									縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-287	"	Y-4	II層	変	7.6									縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-288	"	V-6	II層	変	7.0									横ハケ→ 縦ミガキ	横ハケ→ 縦ミガキ					
"	"-289	"	Y-7	II層	変	7.0									縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-290	"	Y-5	I層	変	8.8										炭層のた め不明	横ハケ→ 縦ミガキ				
"	"-291	"	Z-3	II層	変	7.0									横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-292	"	Y-5	夾底直上	変	6.7									縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-293	"	X-5	I層	変	7.0									縦ミガキ	縦ミガキ			胴部下半30%付着		
"	"-294	"	W-6	II層	変	7.6									横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-296	"	W-6	II層	変	6.2									縦ミガキ	縦ミガキ				胴部下半35%炭化 消失	
"	"-296	174	W-6	II層	変	6.3									縦ミガキ	縦ミガキ			胴部下半50%付着		
"	"-297	"	Y-5	II層	変	7.2									縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-298	"	Z-5	川底直上	変	6.4									縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-299	"	W-6	I層	変	7.1									横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-300	"	X-6	II層	変	5.2									横ハケ→ 縦ミガキ	縦ミガキ					
"	"-301	"	X-6	II層	変	7.2									横ナデ→ 縦ミガキ	横ナデ→ 縦ミガキ					
"	"-302	"	Y-5	II層	変	5.5									不明	横ナデ					

表VI-3 包含層掲載土製品一覧

図版号	図版番号	調査区(層位)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	分類	備考	
図VI-21-1	175	O-14(1)	1.9	1.8	1.8	5.1	耳栓		
"	"-2	"	F-37(B)	2.0	2.0	2.0	7.6	耳栓	
"	"-3	"	H-20(1)	1.7	1.7	2.7	8.3	耳栓	
"	"-4	"	H-21(1)	2.0	2.0	2.0	6.7	耳栓	
"	"-5	"	C-22(1)	1.9	1.9	2.4	8.4	耳栓	
"	"-6	175	H-22(1)	2.9	2.2	2.3	16.5	耳栓	

図番号	図版番号	調査区(層位)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (cm)	分類	備考
図VI-21-7	*	I-17(Ⅰ)	2.2	2.2	2.0	8.8	耳栓	
* 2-8	*	H-20(Ⅰ)	1.6	1.8	1.6	3.7	耳栓	
* 2-9	*	I-17(Ⅰ)	1.8	1.8	1.8	4.8	耳栓	
* 2-10	*	G-21(Ⅰ)	2.0	1.9	1.8	6.3	耳栓	
* 2-11	*	D-14(Ⅰ)	1.9	1.9	1.5	3.6	耳栓	
* 2-12	*	I-17(Ⅰ)	3.4	2.2	2.0	16.1	耳栓	
* 2-13	*	G-18(Ⅱ)	1.9	1.9	3.3	13.8	耳栓	
* 2-14	*	C-22(Ⅰ)	1.9	1.9	2.4	9.4	耳栓	
* 2-15	*	D-21(Ⅰ)	3.4	2.5	3.1	26.5	耳栓	
* 2-16	*	C-22(Ⅰ)	3.5	3.5	2.2	28.4	耳栓	
* 2-17	*	H-20(Ⅲ)	4.4	3.6	2.3	24.1	土偶	
* 2-18	*	H-20(Ⅲ)	2.7	4.1	1.7	7.3	土偶	
* 2-19	*	J-17(Ⅰ)	3.8	3.0	2.3	8.4	土偶	
* 2-20	*	H-21(Ⅱ)	5.6	2.7	1.5	17.3	土偶	
* 2-21	*	D-20(Ⅱ)	3.7	1.9	2.1	7.5	土偶	
* 2-22	*	G-18(Ⅰ)	2.9	2.0	3.5	11.1	土偶	
図VI-22-23	*	F-19(Ⅰ)	0.8	1.0	0.8	0.6	土玉	
* 2-24	*	G-19(Ⅰ)	1.0	1.0	1.0	0.8	土玉	
* 2-25	*	グリッド不明(Ⅰ)	1.4	1.4	1.5	2.1	土玉	
* 2-26	*	H-23(Ⅰ)	1.8	1.6	1.4	2.9	土玉	
* 2-27	*	B-22(Ⅱ)	14.6	1.4	1.3	1.2	土玉	
* 2-28	*	G-21(Ⅰ)	1.4	1.3	0.9	1.2	土玉	
* 2-29	*	F-20(Ⅰ)	1.6	1.5	1.3	2.9	土玉	
* 2-30	*	D-22(Ⅰ)	2.0	2.1	1.7	5.0	土玉	
* 2-31	*	G-20(Ⅰ)	2.4	4.9	2.2	23.5	土玉	
* 2-32	*	F-19(Ⅰ)	2.9	1.9	1.9	5.9	土玉	
* 2-33	*	F-20(Ⅱ)	3.1	1.8	3.7		ミニチュア	
* 2-34	*	H-22(Ⅰ)	4.8				ミニチュア	
* 2-35	*	F-17(Ⅰ)	3.8	0.8	1.3	2.6	その他	
* 2-36	*	F-22(Ⅰ)	4.4	1.7	1.7	11.0	その他	
* 2-37	*	H-22(Ⅰ)	5.7	2.0	1.6	14.4	その他	
* 2-38	*	J-17(Ⅰ)	3.6	5.4	1.3	15.2	その他	
* 2-39	*	H-20(Ⅲ)	1.7	2.3	7.0	1.6	その他	
* 2-40	*	N-14(Ⅰ)	2.3	5.3	2.3	20.1	その他	

3. 石器・石製品など(図VI-1・3・4・24~48 表VI-4 表4 図版177~186)

包含層出土の石器などの総点数は53,805点である。剥片(フレイク)類は40,319点、礫・礫片が4,734点で、出土総点数の約84%を占めている。定形的石器は3,590点(剥片石器2,818点、礫石器772点)である。剥片石器では石鏃が1,108点と約40%を占めている。他に石鏃(約10%)、つまみ付ナイフ(約6%)も多い。礫石器では石斧が249点(約32%)、すり石が238点(約31%)で、約83%を占めている。また剥片石器では黒曜石、礫石器では安山岩の多さが目に付く。ここでは完型品に近いものを選び出し、掲載している。なお、出土層位については、I層、II層、III層に分けて掲載しているが、I層はII層が攪乱されたものであり、両方もII層に近いところでの出土であり、大半がII層出土のものと考えられる。

石鏃(図VI-24~27 表VI-4 図版177・178)

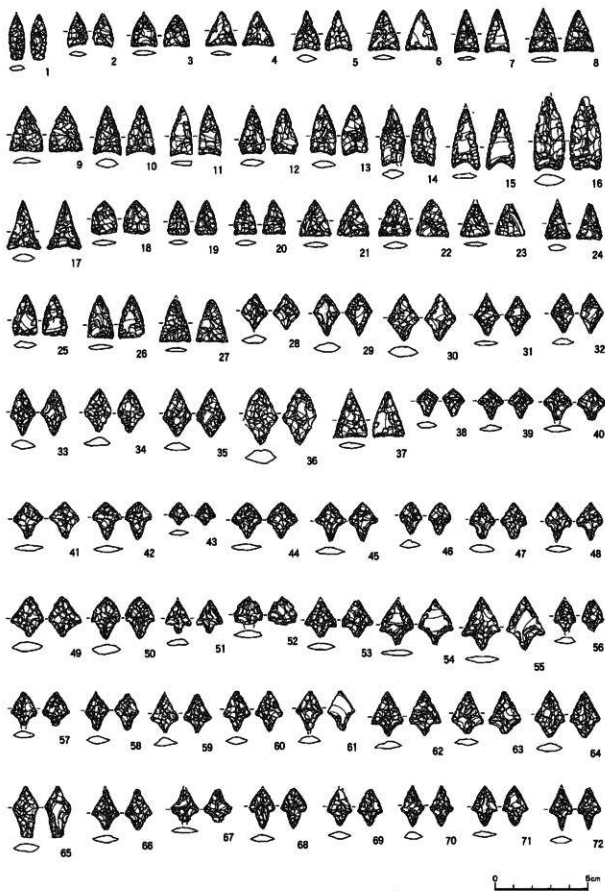
石鏃は1,108点出土している。このうち241点を図示した。石材は黒曜石、頁岩、珪質頁岩などであるが、黒曜石が大半を占めている。1~148はI層、149~232はII層、233はIII層出土のもので、234~236は風倒木痕、237~241は表採等出土層位不明のものである。1・149・234は薄身で、柳葉形のものである。2~17・37・150~158・233は三角形で凹基のものである。150は基部が大きく内湾し、233は先端部が欠損するが、側縁部が外側に大きく張り出している。5~17・37・151~158は細長い二等辺三角形である。18~27・159~166・235は三角形で平基のものである。18は五角形状に近いもので、21~23・159・160は正三角形、他は細長い二等辺三角形のものである。28~36・167~172は菱形のものである。172は有茎平基、38~148・173~232・236~241は有茎凸基のものである。38~52・173は茎部に対して尖頭部の長さが短いものである。86~148・200~232・237~241は尖頭部が細長い二等辺三角形のものである。7・11・15・25・29・71・78・84・128・153・154・162・167・212・216は周縁部を加工調整し、29・71・212・216は片面に礫皮面が残る。138・144は両側縁部に一カ所ずつ、141は浅く二ヶ所にえぐりがあり、異形石器状である。石材は、15・16・30・36・65・118・167・178・180・210・227・232・240は頁岩、61・105は珪質頁岩、149はメノウで、他はすべて黒曜石である。

石槍(図VI-28 表VI-4 図版178)

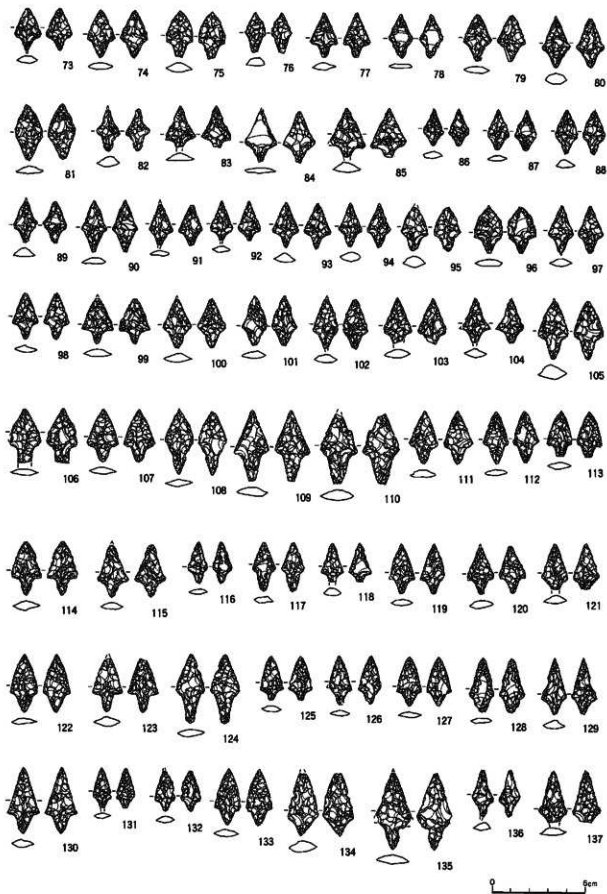
石槍は26点出土している。このうち13点を図示した。石材は黒曜石、頁岩、珪質頁岩などがある。1~7はI層、8~13はII層出土である。1~4・8~13は有茎のもの、5~7は茎が明瞭に見られない、木葉形に近いものである。1・4は茎の下半が欠損し、6は下半部の両側縁部に一カ所づつえぐりを有する様に見えるが、左は新しいキズである。何度も加工したためか、尖頭部がゆがんできている。10は茎部下端を平らに加工し、すぐ上両側縁にえぐりを作っている。石材は1~4・6・8・9・11・13は黒曜石、7・12は頁岩、5は珪質頁岩、10は珪岩である。

石鏢(図VI-29~31 表VI-4 図版179)

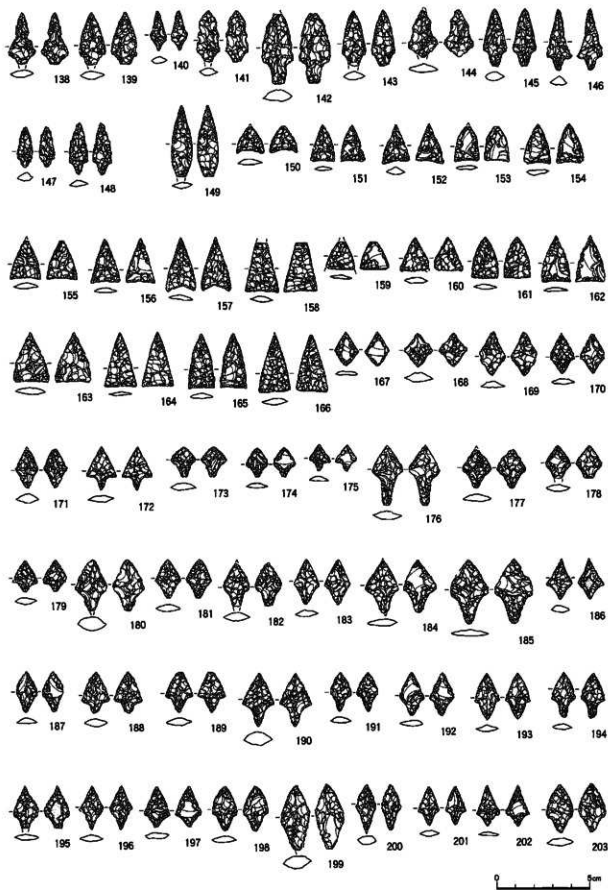
石鏢は264点出土している。このうち85点を図示した。石材は頁岩、珪質頁岩が多く、他にメノウ、黒曜石などもある。1~68はI層、69~84はII層出土のもので、85は出土層位不明のものである。1~20、69・85は素材の一部に刺突部を作り出したものである。85は石鏢の転用品であろう。石材は4~6・7・19・69は珪質頁岩、11は黒曜石、12はメノウ、他は頁岩である。21~60・70~76はつまみ部をもつ棒状のものである。43~60・73~75は刺突部が長いものである。41は当初異形石器と見間違



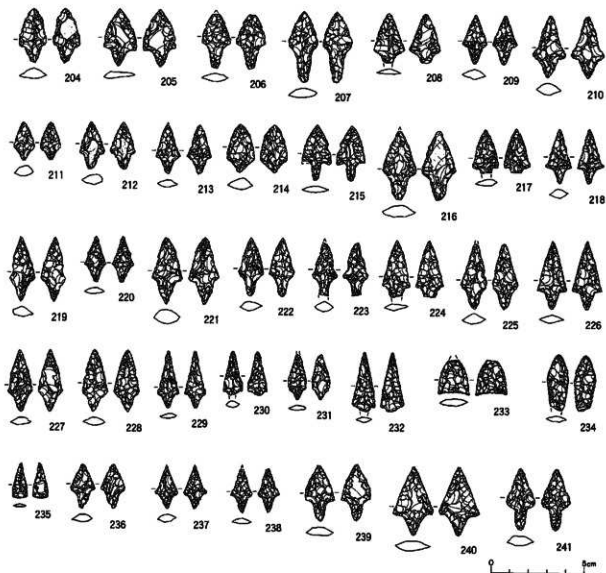
図VI-24 包含層出土の石鏃(1) 石鏃(1)



図VI-25 包含層出土の石器(2) 石鏃(2)



図VI-26 包含層出土の石器(3) 石鏃(3)

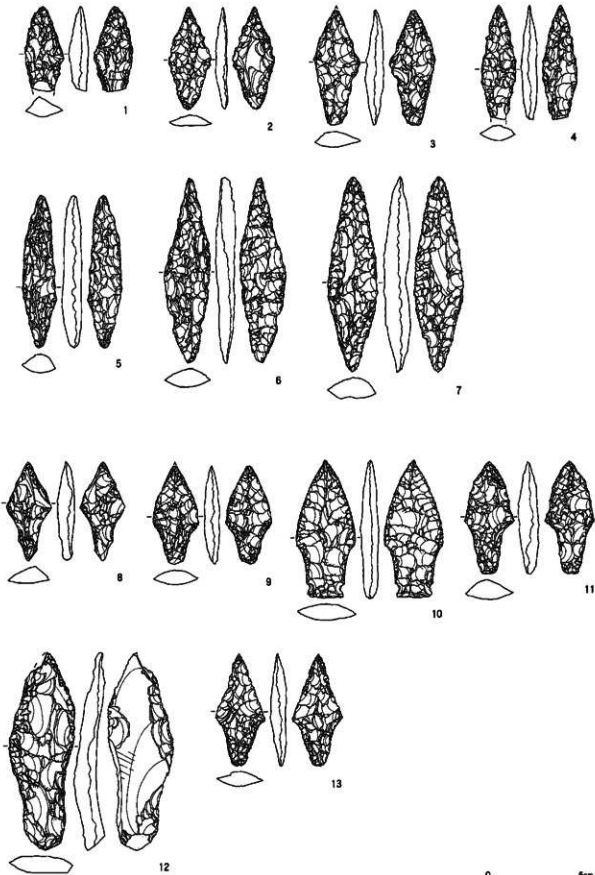


図VI-27 包含層出土の石器(4) 石鏃(4)

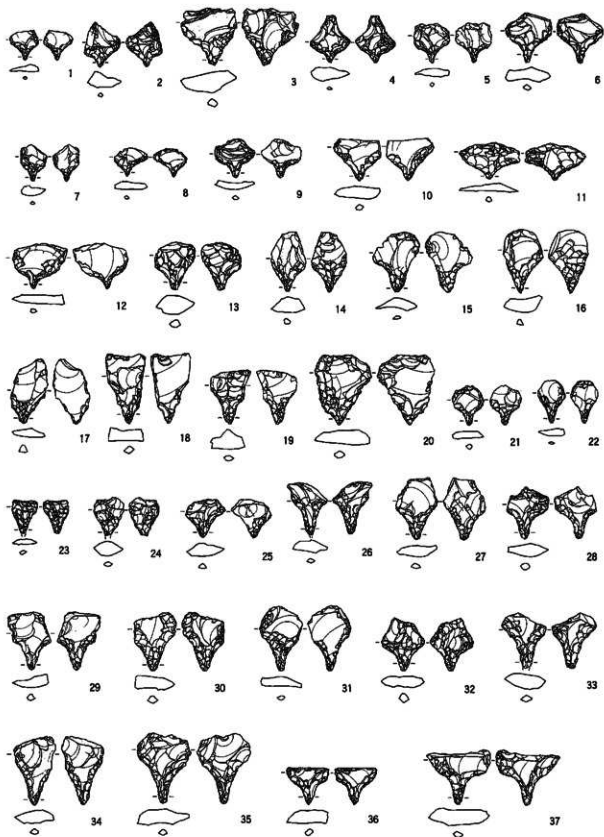
えたもので、47は被熱している。22・27・29・34・36・48・52・57のつまみ部には礫皮面が残る。石材は、23・47・64は黒曜石、32はメノウ、22・24・25・27・33・45は珪質頁岩、51は泥岩、他は頁岩である。61～68・77～84は棒状のものである。石材は、64・78・81・84は黒曜石、68・72・80はメノウ、62・65・79は珪質頁岩、他は頁岩である。

つまみ付きナイフ(図VI-32～34 表VI-4 図版180)

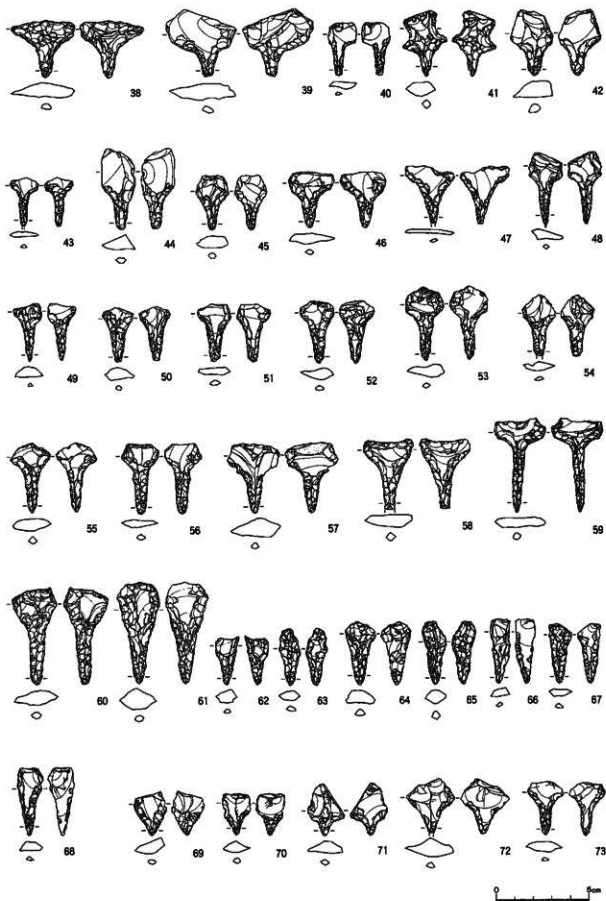
つまみ付きナイフは173点出土している。このうち35点を図示した。石材は頁岩、珪質頁岩、黒曜石などである。1～20はI層、21～33がII層、34・35がIII層出土のものである。1は片面全面加工のもので両側縁に刃部を作り出す。石材は黒曜石。2～8・21は片面全面加工のものである。9～19・22～32・35・36は片面周縁加工のものである。10は刃部欠損、16・23の表面には礫皮面が残る。石材は9・11・15・22・30は黒曜石、10・18・25・28は珪質頁岩、他は頁岩である。20・33は両面加工のもので、33は破損品の再利用のものである。石材は20が頁岩、33は黒曜石である。



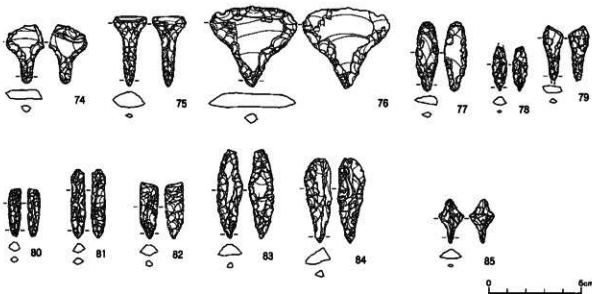
図VI-28 包含層出土の石器(5) 石槍



図VI-29 包含層出土の石器(6) 石鏃(1)



図VI-30 包含層出土の石鏃(7) 石鏃(2)



図VI-31 包含層出土の石器(6) 石鏃(3)

スクレイパー(図VI-35・36 表VI-4 図版181)

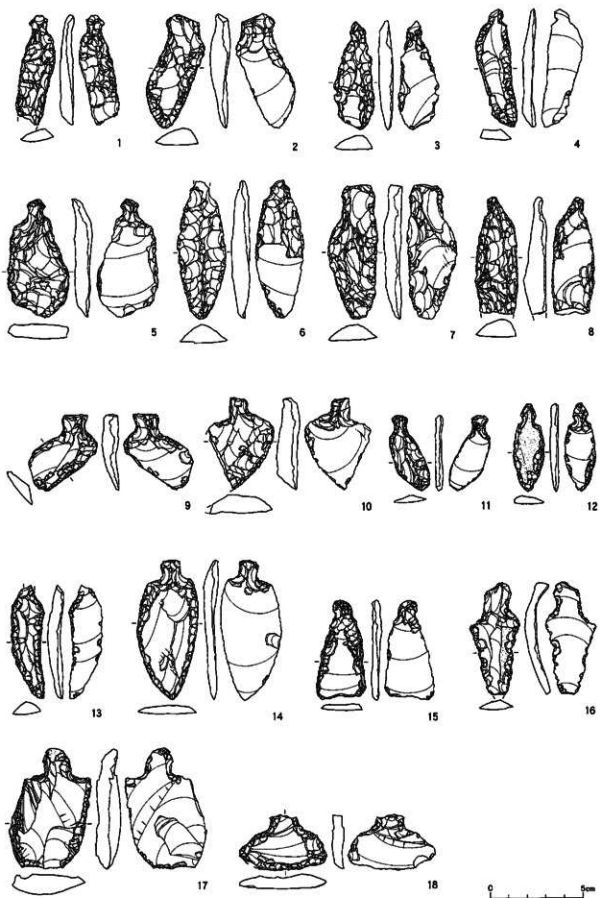
スクレイパーは134点出土している。このうち23点を図示した。石材は黒曜石、頁岩などで、黒曜石のものが多い。1～12はI層、13～23はII層出土のものである。1・2・13～16は円形のものである。周縁に刃部を作り、13の上面には礫皮面が残る。17は周縁に刃部を作り出し表面に礫皮面が残る。3・18は縦長で、側縁に刃部をもつ。4～12・19～23は素材の形状を大きく変えていないものである。7・8・10・12は表面に礫皮面が残り、12・23は側縁と下端を調整し、21・22は剥片の片面側縁をきわめて丁寧に加工調整し、刃部を作り出している。石材は、3・6・23は頁岩、5・8は珪質頁岩、他は黒曜石である。

石斧(図VI-37・38 表VI-4 図版181・182)

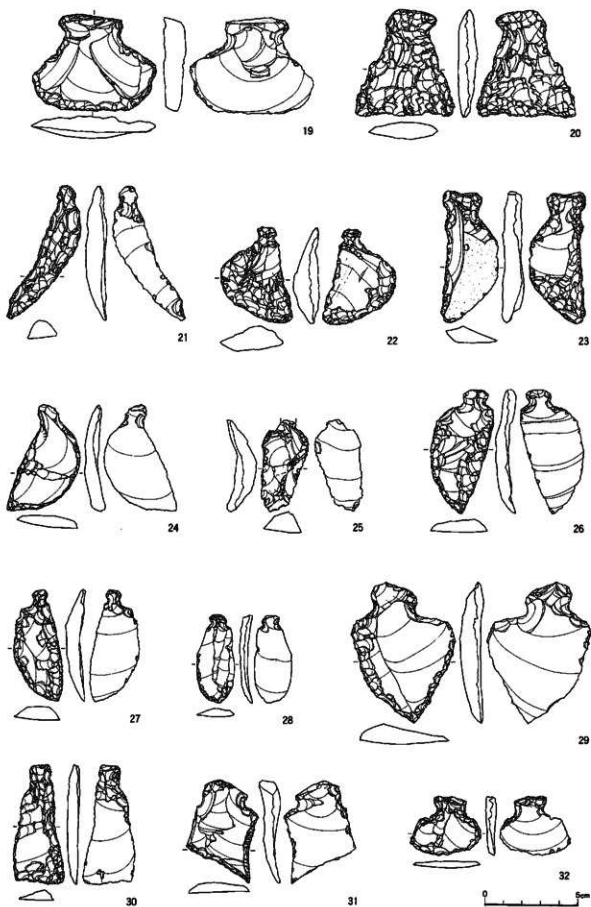
石斧は233点出土しているが、破損品が多く、ここでは34点を図示した。石材は緑色泥岩、泥岩、蛇紋岩などであるが、緑色泥岩が圧倒的に多く、また基部を破損するものがない。1～17はI層、18・19・21～33はII層、20はIII層出土である。18・19・20はすり切り手法によって製作されたもの、1～4・21～23は敲打痕のみられるもの、5～12、24～30は打ち欠きにより整形されているもの、13～17、31～33は表裏全面磨製のものである。34は石のみで全面磨製のものである。基部を欠損する。石材は、18・19・20が蛇紋岩、4が砂岩、8・32は泥岩、9・10・25・26は片岩で他は緑色泥岩である。

すり石(図VI-39・40 表VI-4 図版182・183)

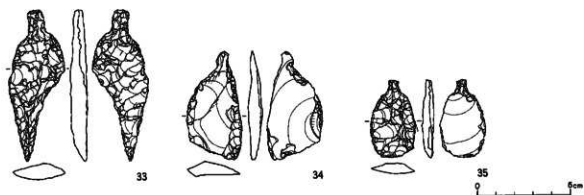
すり石は148点出土しているが、破損品が多く、ここでは19点を図示した。石材は安山岩が多い。1～4はI層、5～18はII層、19はIII層出土である。1・2・5～13・19は断面が三角形の礫で、稜をすったものである。14は扁平礫を素材としたもの、15は扁平礫を半円状に打ち欠き弦をすったもの、3・4、16～18は北海道式石冠と称されるもの、である。石材は17が片麻岩、18は砂岩で、他は安山岩である。



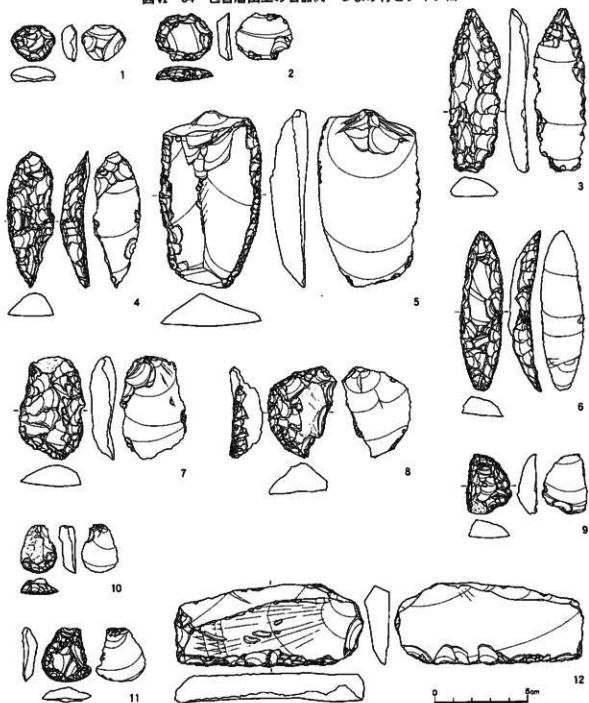
図VI-32 包含層出土の石器(9) つまみ付きナイフ(1)



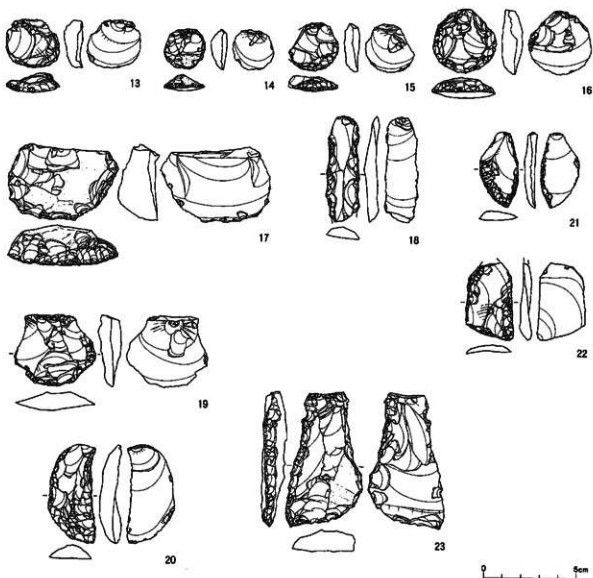
図VI-33 包含層出土の石器⑩ つまみ付きナイフ(2)



図VI-34 包含層出土の石器(1) つまみ付きナイフ(3)



図VI-35 包含層出土の石器(2) スクレイバー(1)



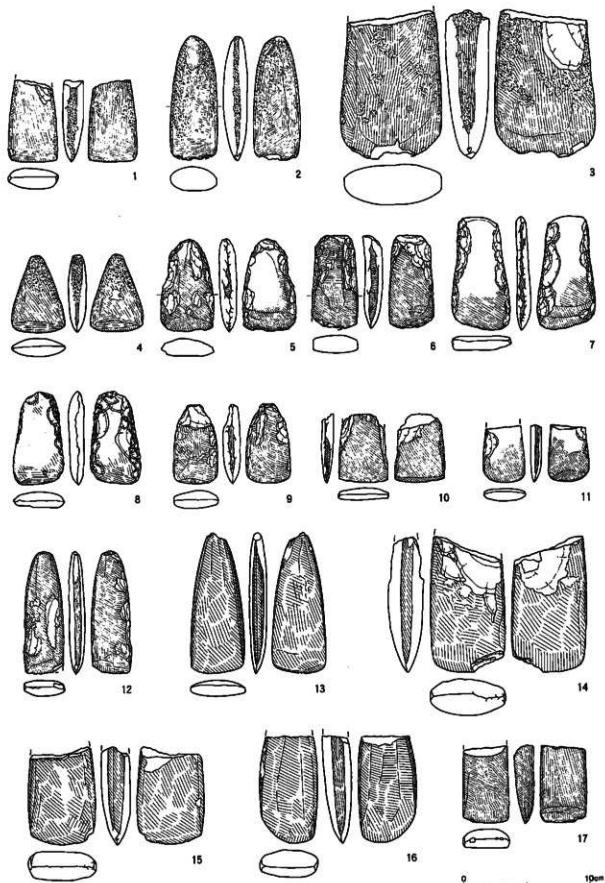
図VI-36 包含層出土の石器(13) スクレイパー(2)

たたき石(図VI-41・42 表VI-4 図版183・184)

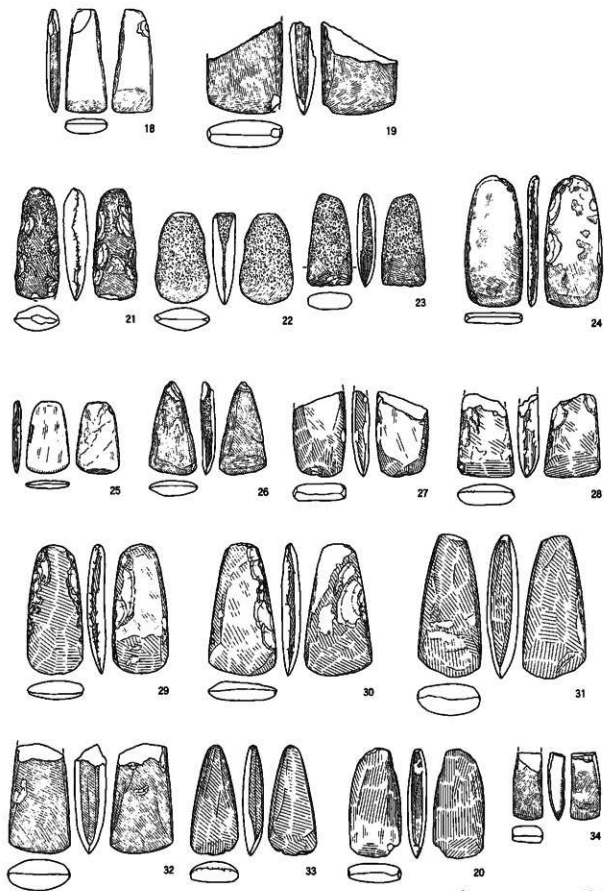
たたき石は62点出土しているが、破損品がなく、ここでは15点を図示した。安山岩、片麻岩、砂岩などがあるが、安山岩が多い。またすり石と区別し難いものもあるが、たたき痕が顕著なものをたたき石に分類した。1～5は棒状礫を素材としたもの、6・7は扁平礫を素材としたもの、8・9・13は円礫を素材としたもの、10～12、14・15はくぼみ石と称されるもの、である。石材は、9が珪岩、13が片麻岩、3・5・7・11～12・14が砂岩、他は安山岩である。

石皿(図VI-44 表VI-4 図版184)

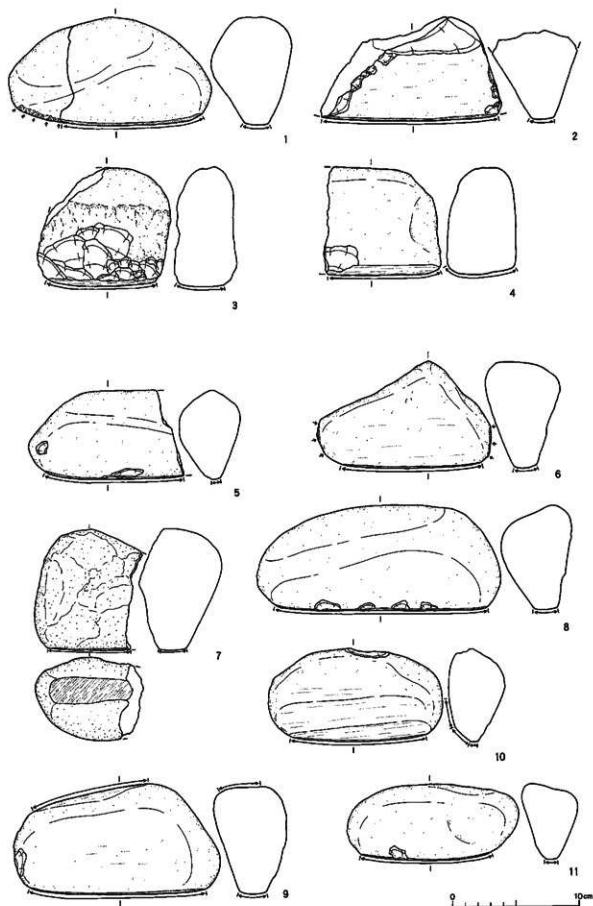
石皿は31点出土している。ここでは3点を図示した。破片が多い。石材は安山岩が大半を占めている。1・2はI層、3はII層出土である。1・2は厚い素材、3は薄い素材を使用しており、すり痕が顕著に見られる。石材は安山岩である。



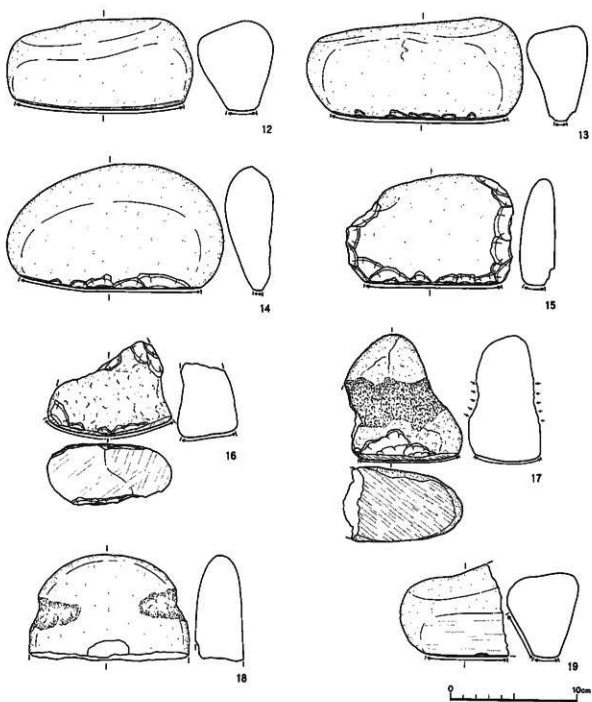
図VI-37 包含層出土の石器04 石斧(1)



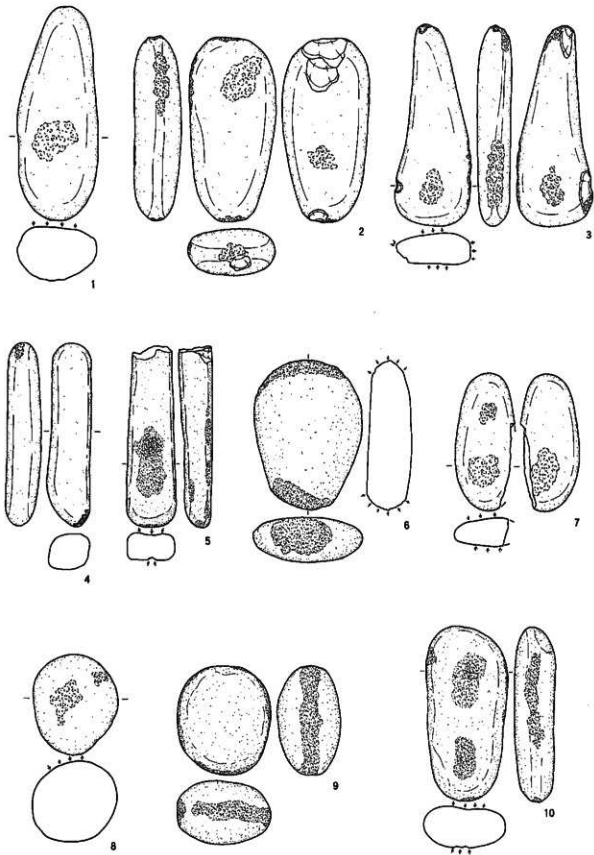
図VI-38 包含層出土の石器(9) 石斧(2)



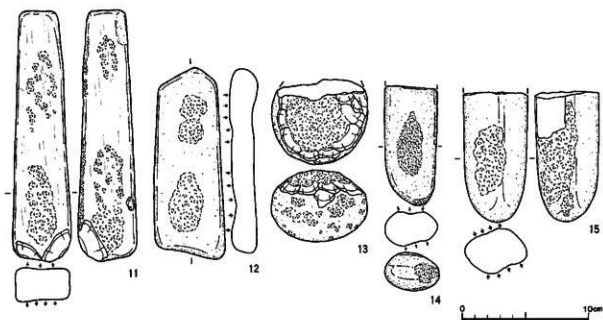
図VI-39 包含層出土の石器06 すり石(1)



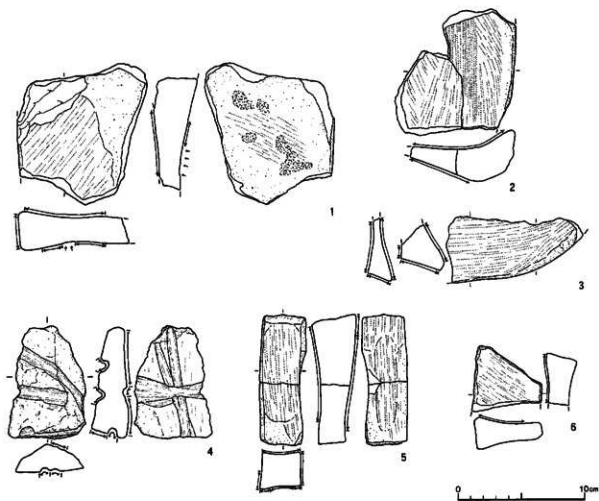
図VI-40 包含層出土の石器(7) すり石(2)



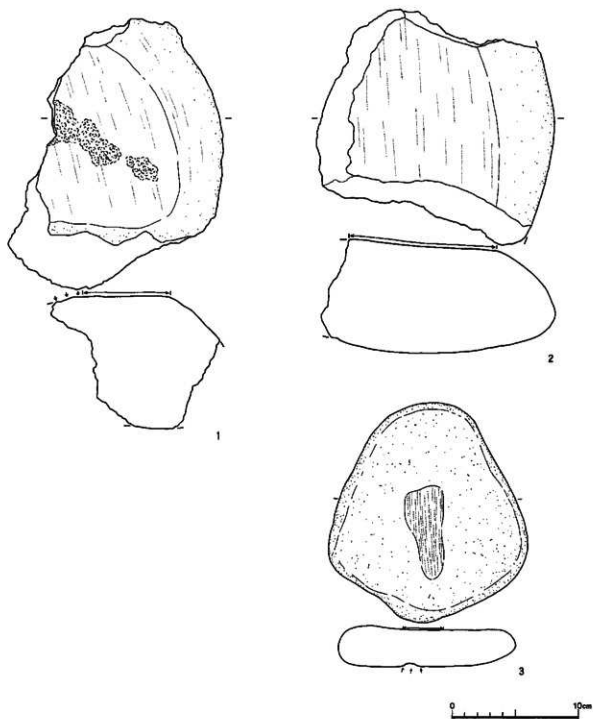
図VI-41 包含層出土の石器⑩ たたき石(1)



図VI-42 包含層出土の石器09 たたき石(2)



図VI-43 包含層出土の石器08 砥石



図VI-44 包含層出土の石器② 石皿

砥石(図VI-43 表VI-4 図版185)

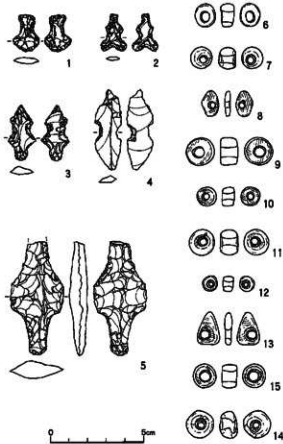
砥石は50点出土しているが破損品が多く、ここでは6点を図示した。石材は砂岩が大半を占める。1～3はI層、4～6はII層出土である。4は研磨面に溝があるもの、1は板状のもの、5は角柱状のもので、四面砥石と称されるものである。2・3・6は破片である。石材はすべて砂岩である。

石製品(図VI-45・46・47 表VI-4 図版186)

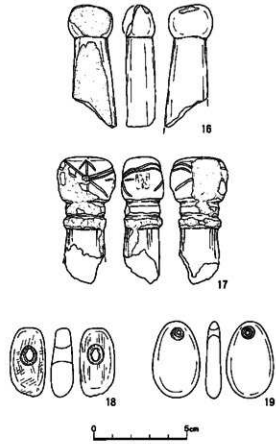
石製品は、30点出土している。ここでは28点を図示した。1～19はI層、20～28はII層出土である。1～5・20は異形石器状のもので、5は石櫓の転用品であろう。6・7・9～12・14・15・22～24は玉、8・13・18・19・25・27・28は垂飾、16・17は石棒片、7は三角形で丁寧に研磨している。26は石以外の材質か考えられるが不明である。27・28には未貫通の孔が1ヵ所づつ見られる。石材は、1・4・20が黒曜石、3が珪質頁岩・5が珪岩 9が蛇紋岩、16・18・27が泥岩、17が粘板岩、21が滑石、19が凝灰岩、2が頁岩、他はカンラン岩である。

礫(図VI-48 表VI-4 図版185)

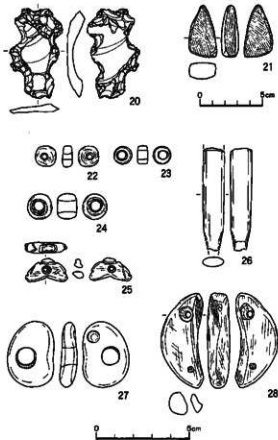
ここには安山岩の円礫を図示した。1・2はI層・3・4はII層出土である。遺構覆土中からも同じ形状のものが出土している。



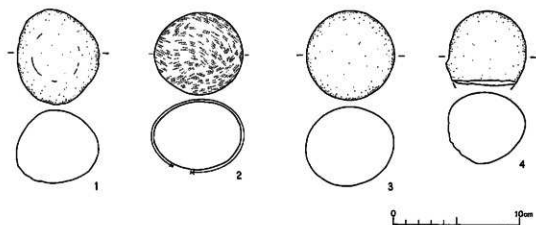
図VI-45 包含層出土の石製品(1)



図VI-46 包含層出土の石製品(2)



図VI-47 包含層出土の石製品(3)



図VI-48 包含層出土の礫

表VI-4 包含層掘献石器など一覧

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
図VI-24-1	石鏃	A-1	Q-12	I層	(2.4)	0.85	0.3	0.5	黒曜石	図版177
" "	"	A-2	N-14	"	1.8	1.1	0.3	0.34	"	"
" "	"	A-1	S-3	"	(1.7)	1.35	0.25	0.5	"	"
" "	"	A-2	U-13	"	1.8	1.6	0.2	0.43	"	"
" "	"	"	E-22	"	2.1	1.4	0.4	0.66	"	"
" "	"	"	V-12	"	2.1	1.7	0.3	0.59	"	"
" "	"	A-1	a-1	"	2.25	1.3	0.2	0.5	"	"
" "	"	A-2	P-15	"	(2.2)	1.6	0.2	0.61	"	"
" "	"	"	N-14	"	2.4	1.8	0.3	0.92	"	"
" "	"	"	H-21	"	2.5	1.5	0.5	1.18	"	"
" "	"	"	M-15	"	2.6	1.2	0.3	0.72	"	"
" "	"	"	F-20	"	(2.4)	1.4	0.4	0.97	"	"
" "	"	"	J-19	"	2.6	1.4	0.4	1.00	"	"
" "	"	"	F-20	"	3.0	1.3	0.5	1.52	"	"
" "	"	"	Q-14	"	(3.2)	1.5	0.3	1.12	頁岩	"
" "	"	"	G-16	"	(3.8)	1.7	0.6	3.19	"	"
" "	"	"	G-20	"	2.6	1.8	0.4	0.99	黒曜石	"
" "	"	"	U-13	"	1.8	1.4	0.3	0.60	"	"
" "	"	"	G-21	"	1.8	1.1	0.2	0.32	"	"
" "	"	"	C-22	"	1.8	1.2	0.3	0.48	"	"
" "	"	"	Q-14	"	1.9	1.7	0.3	0.54	"	"
" "	"	"	X-9	"	1.9	1.7	0.4	0.84	"	"
" "	"	A-1	V-10	"	(1.75)	1.55	0.2	0.5	"	"
" "	"	A-2	V-13	"	(1.9)	1.4	0.4	0.58	"	"
" "	"	A-1	T-12	"	2.15	1.3	0.38	1.0	"	"
" "	"	A-2	H-20	"	2.3	(1.4)	0.3	0.69	"	"
" "	"	"	U-13	"	2.2	1.7	0.3	0.64	"	"
" "	"	"	E-21	"	1.85	1.4	0.45	0.76	"	"
" "	"	"	E-20	"	2.2	1.4	0.5	1.01	"	"
" "	"	"	G-22	"	2.4	1.6	0.6	1.51	頁岩	"
" "	"	"	H-20	"	2.0	1.4	0.25	0.47	黒曜石	"
" "	"	"	U-13	"	2.1	1.2	0.3	0.53	"	"
" "	"	"	F-21	"	2.4	1.3	0.4	0.86	"	"
" "	"	A-1	R-13	"	2.25	1.4	0.45	0.92	"	"
" "	"	A-2	D-15	"	2.5	1.5	0.4	0.98	"	"
" "	"	"	F-22	"	2.9	(1.8)	0.7	2.81	頁岩	"
" "	"	"	N-15	"	(2.4)	(1.7)	0.3	0.91	黒曜石	"
" "	"	"	J-19	"	1.4	1.1	0.3	0.35	"	"
" "	"	"	D-18	"	1.6	1.3	0.3	0.35	"	"

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
図VI-24-40	石鏃	A-2	C-22	I層	(1.6)	1.5	0.3	0.54	黒曜石	図版177
〃 〃-41	〃	〃	E-22	〃	1.9	1.55	0.3	0.58	〃	〃
〃 〃-42	〃	〃	H-21	〃	2.0	(1.4)	0.4	0.62	〃	〃
〃 〃-43	〃	〃	E-22	〃	(1.15)	1.1	0.25	0.24	〃	〃
〃 〃-44	〃	〃	C-20	〃	1.8	1.6	0.3	0.67	〃	〃
〃 〃-45	〃	〃	P-13	〃	2.05	(1.5)	0.4	0.7	〃	〃
〃 〃-46	〃	〃	C-22	〃	1.7	1.2	0.4	0.45	〃	〃
〃 〃-47	〃	〃	H-22	〃	1.9	1.4	0.4	0.55	〃	〃
〃 〃-48	〃	〃	C-21	〃	2.0	1.35	0.35	0.52	〃	〃
〃 〃-49	〃	〃	G-18	〃	2.1	1.7	0.5	1.25	〃	〃
〃 〃-50	〃	〃	B-20	〃	2.2	1.5	0.5	1.07	〃	〃
〃 〃-51	〃	〃	C-21	〃	1.7	1.35	0.4	0.56	〃	〃
〃 〃-52	〃	〃	J-19	〃	(1.4)	1.5	0.4	0.75	〃	〃
〃 〃-53	〃	〃	D-18	〃	(1.9)	1.7	0.4	0.71	〃	〃
〃 〃-54	〃	〃	D-22	〃	(2.3)	1.8	0.3	0.91	〃	〃
〃 〃-55	〃	〃	P-15	〃	2.7	2.0	0.4	1.24	〃	〃
〃 〃-56	〃	〃	D-21	〃	(1.6)	1.1	0.3	0.41	〃	〃
〃 〃-57	〃	〃	D-22	〃	(1.7)	1.3	0.4	0.56	〃	〃
〃 〃-58	〃	〃	G-22	〃	(1.9)	(1.3)	0.5	0.68	〃	〃
〃 〃-59	〃	〃	F-20	〃	2.0	1.5	0.4	0.65	〃	〃
〃 〃-60	〃	〃	E-21	〃	2.1	1.4	0.4	0.62	〃	〃
〃 〃-61	〃	〃	B-20	〃	(2.05)	1.4	0.4	0.79	珪質頁岩	〃
〃 〃-62	〃	〃	D-18	〃	2.3	1.6	0.4	0.88	黒曜石	〃
〃 〃-63	〃	〃	G-18	〃	2.2	1.65	0.35	0.89	〃	〃
〃 〃-64	〃	〃	N-15	〃	2.4	1.5	0.5	1.08	〃	〃
〃 〃-65	〃	〃	B-22	〃	2.7	1.4	0.5	1.01	頁岩	〃
〃 〃-66	〃	〃	G-21	〃	(2.1)	1.4	0.4	0.58	黒曜石	〃
〃 〃-67	〃	〃	H-21	〃	(1.7)	1.5	0.3	0.43	〃	〃
〃 〃-68	〃	〃	H-19	〃	2.1	1.8	0.4	0.60	〃	〃
〃 〃-69	〃	〃	E-20	〃	(1.9)	1.3	0.4	0.63	〃	〃
〃 〃-70	〃	〃	F-20	〃	2.1	1.2	0.4	0.53	〃	〃
〃 〃-71	〃	〃	E-22	〃	2.1	1.35	0.3	0.52	〃	〃
〃 〃-72	〃	〃	S-14	〃	(2.2)	(1.2)	0.4	0.57	〃	〃
図VI-25-73	〃	〃	E-19	〃	(2.2)	1.35	0.45	0.88	〃	〃
〃 〃-74	〃	〃	H-20	〃	2.4	1.4	0.35	0.85	〃	〃
〃 〃-75	〃	〃	N-14	〃	2.5	1.4	0.5	1.21	〃	〃
〃 〃-76	〃	〃	Q-14	〃	2.1	1.1	0.4	0.7	〃	〃
〃 〃-77	〃	〃	J-19	〃	2.3	1.5	0.4	0.77	〃	〃
〃 〃-78	〃	〃	C-20	〃	2.3	1.2	0.2	0.56	〃	〃
〃 〃-79	〃	〃	E-22	〃	2.4	1.45	0.35	0.78	〃	〃
〃 〃-80	〃	〃	G-20	〃	2.6	1.5	0.6	1.35	〃	〃
〃 〃-81	〃	〃	H-21	〃	2.9	1.4	0.4	1.24	〃	〃
〃 〃-82	〃	〃	H-19	〃	(2.2)	1.2	0.6	0.79	〃	〃
〃 〃-83	〃	〃	G-20	〃	(2.2)	1.6	0.4	0.80	〃	〃
〃 〃-84	〃	〃	W-12	〃	(2.7)	1.7	0.35	0.86	〃	〃
〃 〃-85	〃	〃	E-22	〃	(2.6)	1.9	(0.55)	1.36	〃	〃
〃 〃-86	〃	〃	H-20	〃	1.9	1.0	0.4	0.52	〃	〃
〃 〃-87	〃	〃	〃	〃	2.1	1.2	0.3	0.44	〃	〃
〃 〃-88	〃	〃	E-18	〃	2.35	1.15	0.45	0.72	〃	〃
〃 〃-89	〃	〃	H-16	〃	(2.2)	1.2	0.5	0.84	〃	〃
〃 〃-90	〃	〃	H-22	〃	2.7	1.3	0.3	0.72	〃	〃
〃 〃-91	〃	〃	F-20	〃	(2.1)	1.2	0.3	0.49	〃	〃
〃 〃-92	〃	〃	E-19	〃	(2.05)	1.15	0.35	0.54	〃	〃
〃 〃-93	〃	〃	E-22	〃	2.4	1.4	0.5	0.79	〃	〃
〃 〃-94	〃	〃	G-20	〃	2.3	1.2	0.5	0.75	〃	〃
〃 〃-95	〃	〃	E-22	〃	(2.3)	1.4	0.6	1.31	〃	〃
〃 〃-96	〃	〃	G-21	〃	(2.4)	1.5	0.4	1.11	〃	〃
〃 〃-97	〃	〃	D-21	〃	(2.5)	1.3	0.4	0.76	〃	〃
〃 〃-98	〃	〃	Q-14	〃	2.4	1.4	0.4	0.65	〃	〃

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
図VI-24-99	石鏃	A-2	G-20	I層	(2.4)	1.6	0.4	0.93	黒曜石	図版177
〃	〃	〃	H-22	〃	(2.5)	1.5	0.6	1.02	〃	〃
〃	〃	〃	M-14	〃	2.6	1.3	0.4	0.8	〃	〃
〃	〃	〃	F-20	〃	(2.6)	1.3	0.4	0.91	〃	〃
〃	〃	〃	N-14	〃	(2.4)	1.5	0.5	1.04	〃	〃
〃	〃	〃	D-21	〃	2.3	1.5	0.5	0.86	〃	〃
〃	〃	〃	E-18	〃	(3.05)	1.55	0.75	2.30	注賢頁岩	〃
〃	〃	〃	F-20	〃	(2.9)	(1.6)	0.3	1.17	黒曜石	〃
〃	〃	〃	H-20	〃	2.7	1.6	0.3	0.9	〃	〃
〃	〃	〃	X-11	〃	(3.3)	1.4	0.4	1.2	〃	〃
〃	〃	〃	O-15	〃	3.7	1.8	0.5	2.01	〃	〃
〃	〃	〃	T-13	〃	(3.7)	2.0	0.6	2.59	〃	〃
〃	〃	〃	H-19	〃	2.8	1.5	0.4	0.92	〃	〃
〃	〃	〃	H-20	〃	2.7	1.3	0.3	0.84	〃	〃
〃	〃	〃	H-21	〃	2.4	1.3	0.4	0.79	〃	〃
〃	〃	〃	U-14	〃	2.8	1.6	0.6	1.22	〃	〃
〃	〃	〃	E-20	〃	2.7	1.6	0.4	0.93	〃	〃
〃	〃	A-1	U-11	〃	2.2	1.0	0.3	0.4	〃	〃
〃	〃	A-2	G-22	〃	2.6	1.2	0.35	0.73	〃	〃
〃	〃	〃	H-22	〃	2.0	1.1	0.4	0.72	頁岩	〃
〃	〃	〃	M-14	〃	2.6	(1.3)	0.3	0.77	黒曜石	〃
〃	〃	〃	D-16	〃	(2.5)	1.4	0.4	0.82	〃	〃
〃	〃	〃	B-20	〃	(2.4)	1.4	0.5	0.89	〃	〃
〃	〃	〃	H-21	〃	3.0	1.4	0.3	0.92	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	(2.8)	1.6	0.5	1.29	〃	〃
〃	〃	〃	M-14	〃	3.7	1.5	0.4	1.44	〃	〃
〃	〃	〃	E-20	〃	2.3	1.2	0.3	0.62	〃	〃
〃	〃	〃	E-22	〃	2.5	1.2	0.3	0.61	〃	〃
〃	〃	〃	H-22	〃	2.5	1.3	0.3	0.70	〃	〃
〃	〃	〃	H-21	〃	2.8	1.3	0.4	0.89	〃	〃
〃	〃	〃	H-20	〃	2.9	1.3	0.5	0.95	〃	〃
〃	〃	〃	L-13	〃	3.5	1.7	0.5	1.36	〃	〃
〃	〃	〃	H-20	〃	(2.1)	0.95	0.3	0.38	〃	〃
〃	〃	A-1	Q-6	〃	(2.15)	1.05	0.3	0.6	〃	〃
〃	〃	A-2	H-22	〃	3.0	1.3	0.4	1.01	〃	〃
〃	〃	〃	C-22	〃	(3.3)	1.6	0.6	2.03	〃	〃
〃	〃	〃	S-14	〃	4.0	(1.9)	0.5	2.3	〃	〃
〃	〃	〃	E-18	〃	(2.5)	1.6	0.4	0.75	〃	〃
〃	〃	〃	F-21	〃	(2.7)	1.5	0.4	1.09	〃	〃
図VI-26-138	〃	〃	C-21	〃	(2.7)	1.4	0.4	0.88	〃	〃
〃	〃	〃	D-22	〃	(2.7)	(1.4)	0.5	1.16	〃	〃
〃	〃	〃	C-20	〃	2.1	0.8	0.4	0.39	〃	〃
〃	〃	〃	J-19	〃	(2.7)	1.2	0.4	1.06	〃	〃
〃	〃	〃	G-21	〃	(3.7)	1.7	0.6	3.18	〃	〃
〃	〃	〃	F-20	〃	(2.9)	1.3	0.45	1.22	〃	〃
〃	〃	〃	H-21	〃	(2.4)	1.6	0.5	1.01	〃	〃
〃	〃	〃	D-18	〃	3.0	1.2	0.5	1.08	〃	〃
〃	〃	〃	G-20	〃	3.2	1.3	0.5	1.01	〃	〃
〃	〃	〃	H-19	〃	2.1	0.8	0.5	0.51	〃	〃
〃	〃	〃	W-11	〃	2.7	1.0	0.4	0.7	〃	〃
〃	〃	A-1	X-5	II層	(3.75)	1.05	0.4	1.40	メノウ	〃
〃	〃	A-2	F-16	〃	(1.4)	1.45	0.3	0.5	黒曜石	〃
〃	〃	〃	J-14	〃	1.9	1.3	0.3	0.4	〃	〃
〃	〃	〃	H-21	〃	2.0	1.4	0.4	0.65	〃	〃
〃	〃	A-1	K-10	〃	(1.85)	1.3	0.25	0.6	〃	〃
〃	〃	〃	K-6	〃	2.1	1.4	0.3	0.7	〃	〃
〃	〃	〃	H-2	〃	(2.05)	1.6	0.35	0.8	〃	〃
〃	〃	A-2	F-21	〃	2.3	1.6	0.25	0.61	〃	〃
〃	〃	〃	F-19	〃	2.8	1.6	0.3	0.8	〃	〃

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	石材	備考
図VI-26-158	石蔵	A-1	Z-3	II層	(2.6)	1.75	0.3	1.08	黒曜石	図版177
〃-159	〃	〃	〃	〃	(1.45)	1.5	0.2	1.41	〃	〃
〃-160	〃	〃	V-10	〃	(1.75)	1.5	0.3	0.6	〃	〃
〃-161	〃	〃	Y-5	〃	2.15	0.4	0.3	0.8	〃	〃
〃-162	〃	〃	T-8	〃	2.4	1.55	0.25	0.7	〃	〃
〃-163	〃	A-2	H-17	〃	2.6	1.9	0.35	1.24	〃	〃
〃-164	〃	A-1	N-13	〃	2.85	1.65	0.2	0.8	〃	〃
〃-165	〃	A-2	F-18	〃	2.9	1.4	0.25	0.86	〃	〃
〃-166	〃	A-1	K-3	〃	(3.0)	1.65	0.35	1.2	〃	〃
〃-167	〃	A-2	F-22	〃	1.8	1.3	0.2	0.39	頁岩	〃
〃-168	〃	〃	H-20	〃	1.8	1.5	0.5	0.72	黒曜石	〃
〃-169	〃	〃	C-22	〃	2.3	1.35	0.4	0.72	〃	〃
〃-170	〃	〃	H-20	〃	2.0	1.3	0.3	0.49	〃	〃
〃-171	〃	〃	〃	〃	(2.0)	1.2	0.5	0.77	〃	〃
〃-172	〃	A-1	K-3	〃	2.3	1.6	0.35	0.72	〃	〃
〃-173	〃	A-2	F-22	〃	1.6	1.3	0.4	0.54	〃	〃
〃-174	〃	〃	H-19	〃	1.5	1.1	0.3	0.31	〃	〃
〃-175	〃	〃	D-21	〃	1.35	1.1	0.3	0.3	〃	〃
〃-176	〃	〃	H-21	〃	3.2	1.6	0.5	1.25	〃	〃
〃-177	〃	〃	G-16	〃	2.0	1.5	0.4	0.78	〃	〃
〃-178	〃	〃	F-22	〃	(1.7)	1.3	0.4	0.62	頁岩	〃
〃-179	〃	〃	H-21	〃	1.6	(1.2)	0.35	0.46	〃	〃
〃-180	〃	〃	A-21	〃	(2.7)	1.7	0.75	2.43	〃	〃
〃-181	〃	〃	H-21	〃	2.0	1.3	0.4	0.74	黒曜石	〃
〃-182	〃	〃	H-20	〃	(2.2)	1.4	0.5	1.05	〃	〃
〃-183	〃	〃	E-20	〃	2.35	1.35	0.35	0.71	〃	〃
〃-184	〃	〃	M-13	〃	(2.75)	1.75	0.4	1.2	〃	図版178
〃-185	〃	〃	D-15	〃	3.4	2.0	0.3	1.37	〃	〃
〃-186	〃	〃	D-21	〃	2.15	1.35	0.4	0.63	〃	〃
〃-187	〃	A-1	H-2	〃	2.15	1.1	0.3	0.5	〃	〃
〃-188	〃	A-2	G-19	〃	2.1	1.5	0.4	0.78	〃	〃
〃-189	〃	〃	C-22	〃	2.1	1.45	0.4	0.71	〃	〃
〃-190	〃	A-1	J-4	〃	2.8	1.7	0.7	1.9	〃	〃
〃-191	〃	A-2	B-22	〃	2.05	1.1	0.3	0.46	〃	〃
〃-192	〃	〃	H-20	〃	2.2	1.3	0.3	0.57	〃	〃
〃-193	〃	〃	H-21	〃	2.4	1.3	0.4	0.61	〃	〃
〃-194	〃	〃	D-15	〃	2.3	1.3	0.4	0.67	〃	〃
〃-195	〃	A-2	J-15	〃	2.3	1.3	0.3	0.6	〃	〃
〃-196	〃	〃	H-20	〃	2.3	(1.2)	0.4	0.59	〃	〃
〃-197	〃	〃	H-19	〃	2.1	1.3	0.3	0.66	〃	〃
〃-198	〃	〃	H-20	〃	2.4	1.3	0.3	0.76	〃	〃
〃-199	〃	A-1	Z-5	〃	(3.45)	1.5	0.7	2.63	〃	〃
〃-200	〃	〃	V-6	〃	(2.45)	1.05	0.45	0.8	〃	〃
〃-201	〃	A-2	H-18	〃	2.0	1.1	0.3	0.39	〃	〃
〃-202	〃	〃	H-19	〃	2.1	1.2	0.2	0.27	〃	〃
〃-203	〃	〃	H-21	〃	2.5	1.4	0.4	1.12	〃	〃
図VI-27-204	〃	〃	H-19	〃	2.8	1.4	0.6	1.34	〃	〃
〃-205	〃	〃	J-16	〃	3.0	1.7	0.4	1.26	〃	〃
〃-206	〃	〃	H-18	〃	(2.8)	1.5	0.4	1.21	〃	〃
〃-207	〃	A-1	L-5	〃	3.75	1.55	0.5	1.9	〃	〃
〃-208	〃	A-2	D-21	〃	(2.65)	1.6	0.3	0.97	〃	〃
〃-209	〃	〃	H-21	〃	2.6	1.3	0.5	0.9	〃	〃
〃-210	〃	〃	B-22	〃	3.3	1.75	0.6	2.16	頁岩	〃
〃-211	〃	〃	H-18	〃	2.0	1.1	0.6	0.75	黒曜石	〃
〃-212	〃	〃	H-20	〃	2.4	1.3	0.6	1.00	〃	〃
〃-213	〃	〃	H-19	〃	(2.6)	1.3	0.4	0.7	〃	〃
〃-214	〃	〃	G-19	〃	2.5	1.4	0.6	1.61	〃	〃
〃-215	〃	〃	H-19	〃	2.9	1.5	0.3	0.97	〃	〃
〃-216	〃	〃	H-21	〃	3.6	1.8	0.6	2.69	〃	〃

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	石材	備考
図VI-27-217	石鏃	A-2	F-17	II層	(2.3)	1.4	0.4	0.79	黒曜石	図版178
〃 〃-218	〃	〃	H-19	〃	2.8	1.3	0.5	0.97	〃	〃
〃 〃-219	〃	〃	H-20	〃	3.3	1.3	0.6	1.3	〃	〃
〃 〃-220	〃	〃	G-21	〃	2.4	1.1	0.3	0.55	〃	〃
〃 〃-221	〃	〃	H-17	〃	3.5	1.6	0.8	2.85	〃	〃
〃 〃-222	〃	〃	H-21	〃	3.0	1.3	0.45	1.05	〃	〃
〃 〃-223	〃	〃	E-22	〃	(2.8)	1.3	0.5	1.05	〃	〃
〃 〃-224	〃	〃	H-21	〃	(3.0)	1.5	0.35	0.94	〃	〃
〃 〃-225	〃	〃	H-21	〃	(3.4)	1.4	0.5	1.44	〃	〃
〃 〃-226	〃	〃	H-19	〃	3.6	1.5	0.4	1.25	〃	〃
〃 〃-227	〃	〃	H-19	〃	3.2	1.3	0.4	0.81	頁岩	〃
〃 〃-228	〃	〃	E-20	〃	3.25	1.35	0.45	1.3	黒曜石	〃
〃 〃-229	〃	A-1	S-5	〃	3.0	1.1	0.25	0.6	〃	〃
〃 〃-230	〃	〃	Z-3	〃	(2.3)	1.0	0.4	0.65	〃	〃
〃 〃-231	〃	〃	S-5	〃	2.4	0.95	0.35	0.5	〃	〃
〃 〃-232	〃	〃	X-6	〃	(3.1)	1.2	0.4	0.96	頁岩	〃
〃 〃-233	〃	〃	K-1	III層	(1.85)	1.65	0.4	1.0	黒曜石	〃
〃 〃-234	〃	A-2	D-17	風倒木痕	(2.95)	1.15	0.3	1.07	〃	〃
〃 〃-235	〃	〃	〃	〃	1.85	0.8	0.2	0.25	〃	〃
〃 〃-236	〃	〃	〃	〃	2.3	1.3	0.4	0.77	〃	〃
〃 〃-237	〃	〃	H-19	不明	2.25	1.1	0.4	0.53	〃	〃
〃 〃-238	〃	〃	〃	〃	2.3	1.1	0.3	0.4	〃	〃
〃 〃-239	〃	〃	〃	〃	2.9	1.6	0.5	1.38	〃	〃
〃 〃-240	〃	〃	〃	〃	3.6	2.1	0.5	2.38	頁岩	〃
〃 〃-241	〃	〃	D-17	〃	3.2	1.6	0.6	1.53	黒曜石	〃
図VI-28-1	石槍	A-2	D-21	I層	4.5	2.0	1.1	6.98	黒曜石	図版178
〃 〃-2	〃	〃	J-19	〃	5.4	2.2	0.6	4.99	〃	〃
〃 〃-3	〃	〃	D-17	〃	6.0	2.5	1.0	9.08	〃	〃
〃 〃-4	〃	〃	F-18	〃	(6.0)	1.9	0.9	7.0	〃	〃
〃 〃-5	〃	〃	Q-13	〃	8.0	1.8	1.0	14.17	珪質頁岩	〃
〃 〃-6	〃	A-1	X-7	〃	9.25	2.45	1.05	19.28	黒曜石	〃
〃 〃-7	〃	〃	a-3	〃	10.3	2.65	1.45	30.9	頁岩	〃
〃 〃-8	〃	A-2	H-21	II層	5.2	2.4	0.9	6.47	黒曜石	〃
〃 〃-9	〃	〃	F-17	〃	(5.2)	2.4	0.9	7.44	〃	〃
〃 〃-10	〃	A-1	J-12	〃	7.25	3.15	1.0	18.2	メノウ	〃
〃 〃-11	〃	A-2	H-17	〃	5.9	2.6	1.0	11.32	黒曜石	〃
〃 〃-12	〃	A-1	R-11	〃	10.45	3.5	1.65	39.5	頁岩	〃
〃 〃-13	〃	A-2	F-16	〃	5.9	2.6	0.9	7.33	黒曜石	〃
図VI-29-1	石鏃	A-2	B-22	I層	1.5	1.5	0.4	0.57	頁岩	図版179
〃 〃-2	〃	〃	H-22	〃	2.4	1.9	0.9	2.33	〃	〃
〃 〃-3	〃	〃	H-17	〃	3.0	3.0	1.2	7.16	〃	〃
〃 〃-4	〃	〃	E-16	〃	2.5	2.1	0.7	2.35	珪質頁岩	〃
〃 〃-5	〃	〃	D-21	〃	2.1	1.9	0.5	1.51	〃	〃
〃 〃-6	〃	〃	E-19	〃	2.65	2.45	0.8	4.02	〃	〃
〃 〃-7	〃	〃	G-18	〃	1.9	1.4	0.5	1.0	〃	〃
〃 〃-8	〃	〃	F-20	〃	1.5	1.8	0.4	0.86	頁岩	〃
〃 〃-9	〃	〃	G-17	〃	2.0	2.1	0.4	1.32	〃	〃
〃 〃-10	〃	〃	H-20	〃	2.2	2.5	0.7	3.29	〃	〃
〃 〃-11	〃	〃	C-22	〃	1.95	3.2	0.5	2.0	黒曜石	〃
〃 〃-12	〃	〃	H-22	〃	2.4	2.9	0.6	3.41	メノウ	〃
〃 〃-13	〃	〃	D-19	〃	2.5	2.15	0.95	4.43	頁岩	〃
〃 〃-14	〃	〃	E-16	〃	3.1	1.8	0.9	4.65	〃	〃
〃 〃-15	〃	〃	G-17	〃	3.2	2.5	0.65	3.5	〃	〃
〃 〃-16	〃	〃	F-19	〃	3.3	2.1	1.0	5.04	〃	〃
〃 〃-17	〃	〃	D-22	〃	3.4	1.9	0.7	3.01	〃	〃
〃 〃-18	〃	〃	C-20	〃	3.65	2.1	0.8	6.15	〃	〃
〃 〃-19	〃	〃	C-22	〃	2.8	2.1	1.2	4.9	珪質頁岩	〃
〃 〃-20	〃	〃	D-21	〃	3.7	3.0	0.8	8.45	メノウ	〃
〃 〃-21	〃	〃	H-20	〃	2.1	1.7	0.4	1.22	頁岩	〃

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
図VI-29-22	石壁	A-2	H-20	I層	2.2	1.5	0.4	1.02	珪質頁岩	図版179
#-23	#	A-1	R-7	#	1.75	1.35	0.4	0.8	黒曜石	#
#-24	#	A-2	D-21	#	(2.0)	1.6	0.8	1.89	珪質頁岩	#
#-25	#	#	#	#	2.0	2.2	0.7	1.95	#	#
#-26	#	#	F-19	#	(2.8)	2.1	0.75	2.35	頁岩	#
#-27	#	A-2	I-16	#	3.3	2.2	0.7	3.64	珪質頁岩	#
#-28	#	#	D-20	#	2.7	2.2	0.7	3.03	頁岩	#
#-29	#	#	F-20	#	3.1	2.3	0.7	3.06	#	#
#-30	#	#	H-21	#	3.1	2.2	0.8	4.82	#	#
#-31	#	#	H-17	#	3.4	2.3	0.6	3.45	#	#
#-32	#	#	C-21	#	2.8	2.3	0.75	3.93	メノウ	#
#-33	#	#	E-20	#	(2.9)	2.3	0.9	3.53	珪質頁岩	#
#-34	#	#	H-21	#	3.6	2.2	0.7	4.82	頁岩	#
#-35	#	#	D-21	#	3.8	2.9	1.2	6.53	#	#
#-36	#	#	G-18	#	1.95	2.25	0.85	2.98	#	#
#-37	#	#	D-20	#	2.9	3.4	1.0	5.5	#	#
図VI-30-38	#	#	D-19	#	3.0	3.4	0.8	4.16	#	#
#-39	#	#	J-18	#	3.5	3.7	0.9	7.91	#	#
#-40	#	#	E-17	#	2.75	1.5	0.35	1.08	#	#
#-41	#	#	C-21	#	3.45	2.3	0.9	4.79	#	#
#-42	#	#	H-16	#	3.5	2.3	0.9	5.58	#	#
#-43	#	#	C-22	#	(2.5)	1.5	0.3	0.71	#	#
#-44	#	#	H-20	#	4.2	1.8	0.9	5.04	#	#
#-45	#	#	#	#	2.4	1.7	0.6	2.3	珪質頁岩	#
#-46	#	#	H-21	#	2.9	2.4	0.6	2.64	#	#
#-47	#	A-1	Q-7	#	3.0	2.6	0.3	1.4	黒曜石	#
#-48	#	A-2	E-19	#	3.75	1.8	0.7	2.94	頁岩	#
#-49	#	#	E-20	#	3.0	1.5	0.5	1.42	#	#
#-50	#	#	H-21	#	2.9	1.6	0.7	2.02	#	#
#-51	#	#	G-16	#	3.0	1.7	0.4	1.74	泥岩	#
#-52	#	#	E-20	#	3.3	1.8	0.6	2.30	頁岩	#
#-53	#	#	G-16	#	3.9	2.0	0.7	3.28	#	#
#-54	#	#	H-18	#	(3.2)	1.8	0.5	1.73	#	#
#-55	#	#	J-19	#	3.7	2.1	0.6	2.87	#	#
#-56	#	#	N-14	#	3.7	2.0	0.5	2.09	#	#
#-57	#	#	J-19	#	3.7	2.8	1.0	5.25	#	#
#-58	#	#	F-20	#	(3.6)	2.7	0.7	4.65	#	#
#-59	#	#	B-20	#	4.95	2.7	0.55	3.64	#	#
#-60	#	#	I-19	#	5.1	2.3	0.85	5.06	#	#
#-61	#	#	C-22	#	5.3	2.3	1.3	9.36	珪岩	#
#-62	#	#	D-21	#	2.6	1.3	0.7	1.45	珪質頁岩	#
#-63	#	#	G-22	#	3.0	1.1	0.5	1.33	頁岩	#
#-64	#	#	C-20	#	3.3	1.6	0.7	2.6	黒曜石	#
#-65	#	#	D-22	#	3.3	1.3	0.8	2.57	珪質頁岩	#
#-66	#	#	G-18	#	3.35	1.05	0.8	1.71	#	#
#-67	#	#	G-22	#	3.1	1.2	0.5	1.45	#	#
#-68	#	#	E-18	#	3.6	1.35	0.5	2.08	メノウ	#
#-69	#	#	H-21	II層	2.3	1.7	0.9	2.3	珪質頁岩	#
#-70	#	#	E-14	#	2.2	1.5	0.65	1.65	頁岩	#
#-71	#	#	F-22	#	2.7	2.0	0.7	2.34	#	#
#-72	#	#	J-17	#	(2.9)	2.6	1.2	4.54	メノウ	#
#-73	#	#	H-19	#	2.8	1.9	0.6	1.92	頁岩	#
図VI-31-74	#	#	G-16	#	3.1	2.0	0.5	2.39	#	#
#-75	#	#	H-19	#	3.7	1.8	0.8	2.79	#	#
#-76	#	#	G-18	#	4.2	4.6	0.8	12.24	#	#
#-77	#	#	E-19	#	3.6	1.2	0.5	2.08	#	#
#-78	#	A-1	X-5	#	2.35	0.8	0.5	0.77	黒曜石	#
#-79	#	A-2	H-21	#	(2.9)	1.1	0.4	1.04	珪質頁岩	#
#-80	#	#	U-13	#	2.5	0.7	0.5	0.84	メノウ	#

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	石材	備考
図VI-31-81	石鏃	A-1	W-9	II層	3.55	0.75	0.55	1.7	黒曜石	図版179
82	"	A-2	H-20	"	2.9	1.0	0.6	1.52	頁岩	"
83	"	A-2	J-15	"	4.75	1.3	0.6	3.95	"	"
84	"	"	G-18	"	4.4	1.5	1.0	3.89	黒曜石	"
85	"	"	E-17	不明	2.3	1.3	0.55	0.89	頁岩	"
図VI-32-1	つばね射ナイフ	A-1	Y-1	I層	5.8	2.1	0.75	7.2	黒曜石	図版180
2	"	A-2	C-20	"	6.05	3.1	1.1	13.13	珪質頁岩	"
3	"	A-1	S-13	"	5.75	2.15	0.75	8.4	頁岩	"
4	"	A-2	V-13	"	6.2	2.2	0.7	6.0	"	"
5	"	"	I-17	"	6.3	3.2	1.0	17.1	"	"
6	"	"	B-20	"	7.3	2.6	1.0	14.0	"	"
7	"	"	C-21	"	7.05	2.65	1.0	16.53	黒曜石	"
8	"	A-1	X-8	"	(6.2)	2.3	1.2	17.23	頁岩	"
9	"	A-2	P-15	"	4.0	3.7	0.9	6.8	黒曜石	"
10	"	"	S-15	"	4.85	(3.45)	1.2	14.9	珪質頁岩	"
11	"	"	I-17	"	3.9	2.1	0.4	2.2	黒曜石	"
12	"	"	V-12	"	4.6	1.7	0.5	3.0	"	"
13	"	"	E-16	"	(5.9)	1.8	0.8	5.9	頁岩	"
14	"	A-1	X-5	"	7.35	3.25	0.75	14.3	"	"
15	"	"	"	"	5.25	2.65	0.55	6.3	黒曜石	"
16	"	A-2	N-15	"	(5.9)	2.7	1.3	6.7	"	"
17	"	"	H-19	"	6.4	4.4	1.3	29.8	頁岩	"
18	"	"	G-15	"	2.9	4.6	0.8	8.8	珪質頁岩	"
図VI-33-19	"	"	F-19	"	5.1	6.6	1.2	36.5	頁岩	"
20	"	"	F-17	"	5.65	5.25	1.05	27.92	"	"
21	"	"	N-16	II層	7.1	1.9	1.1	13.0	"	"
22	"	"	G-18	"	5.1	3.8	1.4	16.8	黒曜石	"
23	"	"	F-19	"	6.9	3.0	1.15	17.4	"	"
24	"	"	L-13	"	5.6	3.75	1.1	8.3	頁岩	"
25	"	"	J-15	"	4.9	2.5	1.55	9.8	珪質頁岩	"
26	"	"	J-15	"	6.6	3.3	1.1	14.5	頁岩	"
27	"	"	U-13	"	5.9	2.6	1.0	10.8	"	"
28	"	"	J-15	"	4.6	2.0	0.7	4.3	珪質頁岩	"
29	"	"	H-20	"	7.4	5.5	1.3	32.7	頁岩	"
30	"	"	C-22	"	6.35	2.7	0.65	9.36	黒曜石	"
31	"	"	H-21	"	5.4	3.8	1.1	14.4	頁岩	"
32	"	"	B-22	"	3.1	3.75	0.55	6.05	"	"
図VI-34-33	"	A-1	A-2	"	8.0	2.95	0.9	14.3	黒曜石	"
34	"	"	J-5	III層	5.7	2.95	0.75	8.9	"	"
35	"	A-2	F-17	"	4.1	(2.4)	0.6	5.5	頁岩	"
図VI-35-1	スクレイパー	A-2	U-13	I層	1.9	2.3	0.9	3.2	黒曜石	図版181
2	"	A-1	L-1	"	2.45	3.0	0.75	5.7	"	"
3	"	A-2	U-13	"	8.6	2.7	1.2	25.1	頁岩	"
4	"	"	C-20	"	7.2	2.5	1.55	21.47	"	"
5	"	A-1	Y-5	"	9.35	5.4	2.0	91.3	緑色泥岩	"
6	"	A-2	I-17	"	(8.4)	2.3	1.7	20.1	頁岩	"
7	"	A-1	R-11	"	5.4	3.5	1.4	23.6	黒曜石	"
8	"	A-2	H-21	"	4.8	3.6	1.6	22.2	珪質頁岩	"
9	"	"	"	"	3.1	2.4	1.1	6.6	黒曜石	"
10	"	"	U-13	"	2.5	1.9	0.8	3.4	"	"
11	"	"	D-22	"	2.8	2.5	0.8	4.3	"	"
12	"	"	C-22	"	4.4	10.05	1.55	80.01	"	"
図VI-36-13	"	A-1	X-5	II層	2.5	2.8	1.0	6.3	"	"
14	"	"	X-3	"	2.15	2.15	0.85	3.57	"	"
15	"	"	X-5	"	2.55	2.6	0.8	5.08	"	"
16	"	"	W-6	"	3.4	3.35	1.05	12.1	"	"
17	"	A-2	U-13	"	4.0	5.8	2.1	46.8	"	"
18	"	"	H-22	"	(5.6)	1.8	0.6	5.7	"	"
19	"	A-1	W-8	"	3.75	4.3	1.2	16.4	"	"

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	石材	備考
図VI-36-20	スクレイパー	A-1	Z-3	II層	5.2	2.5	1.15	10.73	黒曜石	図版181
#-21	"	"	X-5	"	3.95	2.05	0.75	4.6	"	"
#-22	"	"	"	"	(4.1)	2.55	0.65	5.2	"	"
#-23	"	A-2	H-21	"	7.1	4.0	1.3	34.9	頁岩	"
図VI-37-1	石斧	A-2	H-20	I層	(6.4)	3.9	(1.6)	69.8	緑色泥岩	図版181
#-2	"	"	D-20	"	(9.7)	3.7	1.9	107.1	"	"
#-3	"	"	I-18	"	(11.6)	8.0	3.4	506.1	"	"
#-4	"	"	H-21	"	6.0	4.1	1.4	44.9	砂岩	"
#-5	"	"	N-16	"	7.2	4.2	1.4	58.8	緑色泥岩	"
#-6	"	"	D-20	"	7.25	3.6	1.45	62.5	"	"
#-7	"	"	M-14	"	8.8	4.6	1.1	65.7	"	"
#-8	"	"	H-20	"	7.35	3.95	1.3	48.8	泥岩	"
#-9	"	"	C-22	"	6.2	3.4	1.4	42.6	片岩	"
#-10	"	"	G-16	"	(5.4)	3.9	(0.9)	31.1	"	"
#-11	"	"	H-20	"	(4.5)	3.2	0.9	23.2	緑色泥岩	"
#-12	"	"	I-18	"	9.6	3.2	1.2	58.7	泥岩	"
#-13	"	A-1	K-9	"	11.05	4.25	1.3	106.7	緑色泥岩	"
#-14	"	"	Z-5	"	(10.65)	5.9	2.9	291.6	"	"
#-15	"	"	R-6	"	(7.8)	5.35	2.3	175.0	"	"
#-16	"	"	L-1	"	(8.55)	4.6	2.2	152.7	"	"
#-17	"	A-2	D-17	"	(6.1)	3.7	1.5	64.6	"	"
図VI-38-18	"	"	F-16	II層	8.1	2.2	1.1	42.5	蛇紋岩	図版182
#-19	"	"	H-21	"	(7.3)	5.9	(2.0)	96.5	"	"
#-21	"	"	H-20	"	8.7	3.4	2.0	75.2	緑色泥岩	"
#-22	"	"	H-19	"	7.1	4.3	1.8	78.8	"	"
#-23	"	"	H-20	"	7.3	3.5	1.5	59.5	"	"
#-24	"	"	J-16	"	10.3	4.5	0.8	60.4	"	"
#-25	"	"	A-22	"	5.7	3.45	0.65	21.1	片岩	"
#-26	"	"	H-20	"	7.3	3.7	1.2	39.7	"	"
#-27	"	A-1	H-1	"	(6.7)	4.15	1.4	65.8	緑色泥岩	"
#-28	"	A-2	H-19	"	(6.55)	4.4	1.7	83.2	"	"
#-29	"	"	J-15	"	10.15	4.45	1.45	98.11	"	"
#-30	"	A-1	X-6	"	10.4	5.35	1.5	122.7	"	"
#-31	"	A-2	J-15	"	11.25	5.0	2.5	221.0	"	"
#-32	"	"	H-21	"	(8.8)	4.9	(2.4)	173.5	泥岩	"
#-33	"	"	J-15	"	8.7	3.8	1.65	75.81	緑色泥岩	"
#-20	"	A-1	P-2	III層	8.65	4.1	1.5	84.8	蛇紋岩	"
#-34	石のみ	A-2	H-21	I	(5.3)	2.4	1.3	28.1	緑色泥岩	"
図VI-39-1	すり石	A-2	J-19	I	8.55	16.05	6.5	1150.0	安山岩	図版183
#-2	"	"	F-17	"	8.1	14.3	8.8	829.7	砂岩	"
#-3	"	A-1	Y-5	"	9.35	10.55	4.95	723.7	安山岩	"
#-4	"	A-2	S-14	"	8.5	9.3	5.4	820.0	"	"
#-5	"	A-1	Y-3	II層	7.05	12.3	5.1	569.4	"	"
#-6	"	"	V-10	"	8.4	13.8	5.9	771.2	"	"
#-7	"	A-2	G-16	"	9.5	8.5	6.6	659.0	"	"
#-8	"	"	G-21	"	8.3	19.3	5.6	1285.9	"	"
#-9	"	"	F-17	"	8.8	16.4	6.2	1225.4	"	"
#-10	"	A-1	a-2	"	7.3	13.7	4.5	680.0	"	"
#-11	"	A-2	E-19	"	6.05	13.6	4.6	506.7	"	"
図VI-40-12	"	"	G-18	"	7.2	14.65	6.0	904.7	"	"
#-13	"	A-1	Y-5	"	8.1	17.15	5.2	978.3	砂岩	図版182
#-14	"	"	W-10	"	9.8	17.1	4.4	896.1	"	"
#-15	"	"	Z-4	"	8.7	13.2	2.85	506.4	"	"
#-16	"	"	G-2	"	7.45	9.8	4.85	385.5	安山岩	"
#-17	"	A-2	H-20	"	9.9	9.4	5.9	665.4	片麻岩	"
#-18	"	A-1	X-6	"	8.35	12.6	3.95	614.4	砂岩	"
#-19	"	"	W-6	III層	7.25	8.6	5.7	434.0	安山岩	"
図VI-41-1	たつき石	A-2	Q-15	I層	16.75	6.45	4.65	733.0	安山岩	図版184
#-2	"	A-1	a-4	"	14.5	6.9	3.7	578.1	"	"

VI 包含層出土の遺物

図番号	名称	地区	発掘区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	石材	備考
図VI-41-3	たたき石	A-1	a-2	I層	15.85	6.05	2.7	318.3	砂岩	図版184
#-4	"	"	K-11	"	14.4	3.5	2.8	250.2	安山岩	"
#-5	"	A-2	G-21	"	14.2	3.9	2.6	257.0	砂岩	"
#-6	"	"	Q-13	"	11.8	8.6	3.6	511.9	安山岩	"
#-7	"	"	H-19	"	10.8	4.7	2.3	170.5	砂岩	"
#-8	"	A-1	Z-5	"	7.9	6.7	7.0	482.2	安山岩	"
#-9	"	A-2	V-19	"	8.5	7.4	5.0	456.6	珪岩	"
#-10	"	"	F-19	"	13.8	6.5	3.3	456.2	安山岩	"
図VI-42-11	"	A-1	Y-9	"	19.85	4.7	2.7	473.7	砂岩	図版183
#-12	"	"	X-5	"	15.0	5.65	2.1	291.7	"	"
#-13	"	"	W-7	II層	(6.65)	7.6	5.65	410.7	片麻岩	"
#-14	"	A-2	X-10	"	9.5	4.3	3.0	163.1	砂岩	"
#-15	"	A-1	Y-5	"	(12.5)	5.1	3.8	260.2	"	"
図VI-44-1	石皿	A-2	Q-13	I	(21.3)	(17.05)	10.5	3750.0	安山岩	図版184
#-2	"	"	I-18	"	(13.6)	(13.9)	9.0	4350.0	"	"
#-3	"	"	H-21	II層	17.3	15.8	3.2	1348.5	"	"
図VI-43-1	砥石	A-2	B-22	I層	(11.1)	(10.3)	(3.5)	(355.2)	砂岩	図版185
#-2	"	"	J-19	"	(10.1)	(9.5)	(4.0)	250.2	"	"
#-3	"	"	H-22	"	10.8	(5.2)	3.4	163.8	"	"
#-4	"	A-1	V-6	II層	9.0	6.1	3.05	137.9	"	"
#-5	"	A-2	H-21	"	10.4	3.7	3.6	165.0	"	"
#-6	"	"	"	"	5.2	5.5	2.9	64.3	"	"
図VI-45-1	石製品	A-1	F-17	I層	1.95	1.4	0.4	0.91	黒曜石	図版186
#-2	"	A-2	E-21	"	1.95	1.4	0.3	0.59	頁岩	"
#-3	"	A-2	E-18	"	2.95	1.45	0.45	1.3	珪頁岩	"
#-4	"	A-1	V-11	"	4.25	1.4	0.4	1.9	黒曜石	"
#-5	"	A-2	I-17	"	6.0	2.8	0.95	11.5	珪岩	"
#-6	"	"	C-20	"	1.22	1.1	0.7	1.3	カンラン岩	"
#-7	"	"	E-16	"	1.15	1.15	0.9	1.2	"	"
#-8	"	"	F-16	"	1.35	0.9	0.3	0.5	"	"
#-9	"	"	H-22	"	1.5	1.5	0.95	2.3	蛇紋岩	"
#-10	"	"	E-20	"	1.0	1.05	0.65	0.9	カンラン岩	"
#-11	"	"	G-21	"	1.35	1.35	0.95	2.3	"	"
#-12	"	"	H-22	"	0.8	0.8	0.6	0.3	"	"
#-13	"	"	E-22	"	1.75	1.2	0.4	1.1	"	"
#-14	"	"	G-22	"	1.5	1.5	0.95	2.2	"	"
#-15	"	"	J-19	"	1.25	1.2	0.8	1.5	"	"
図VI-46-16	"	A-1	Y-5	"	(6.45)	2.55	1.55	30.2	泥岩	"
#-17	"	A-2	G-20	"	(6.7)	3.1	2.3	52.8	粘板岩	"
#-18	"	"	H-21	"	3.6	1.9	1.2	13.0	泥岩	"
#-19	"	"	H-20	"	4.0	2.5	0.75	10.1	凝灰岩	"
図VI-47-20	"	A-1	I-2	II層	4.75	2.8	0.9	7.5	黒曜石	"
#-21	"	A-2	H-21	"	4.0	2.2	1.3	17.3	滑石	"
#-22	"	"	H-19	"	1.1	1.1	0.55	1.0	カンラン岩	"
#-23	"	"	"	"	0.9	0.95	0.55	0.6	"	"
#-24	"	"	M-15	"	1.35	1.3	1.05	2.1	"	"
#-25	"	"	H-21	"	2.09	1.23	0.46	2.1	"	"
#-26	"	"	J-14	"	(5.4)	1.15	0.55	3.1	不明	"
#-27	"	"	C-15	"	3.5	2.45	0.95	7.5	泥岩	"
#-28	"	"	H-21	"	5.05	2.25	1.2	18.2	カンラン岩	"
図VI-48-1	礫	A-1	X-9	I層	7.4	6.45	5.7	374.2	安山岩	図版185付録
#-2	"	A-2	U-12	"	7.0	6.4	5.4	328.6	"	"
#-3	"	"	C-22	II層	7.0	6.95	6.3	422.8	"	"
#-4	"	A-1	Z-5	"	(5.8)	6.3	5.65	306.8	"	"

一覧表

表1 遺構別出土土器一覧

(1)周溝のある墓

遺構名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VI	土製品未分類	計
X2	覆土1層			10	1						1	1	13
	覆土2層			14									14
	覆土			73	2					1	4	2	86
	北側周溝			7	6						1	10	24
	計			104	9					1	6	13	138
X3	覆土上面			2	4							2	8
	覆土			1	1								2
	覆土										2		2
	覆底			3	7								2
	計			3	7						2		14
X5	覆土										2		2
X6	覆土			14	22					5	1	15	58
	覆土2層			4							7	6	14
	南側溝				8								8
	計			18	30					5	8	22	83
X7	覆土上面			3							12	3	15
	覆土			2							4		5
	覆底直下										3		4
	周溝										1		1
	周溝(左)			15	2								17
	計			20	2						20		42

(2)土城墓

遺構名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VI	土製品未分類	計
P1	覆土1層										21	5	26
	覆土2層										65		65
	覆土3層			1							16	16	33
	袋状ピット										1	21	1
	計			1							103		125
P2	覆土1層										8		8
	覆土2層		1								2	6	9
	覆土3層										1		1
	覆土壁										21		21
	計		1							1	31	6	39
P3	覆土1層										12	8	20
	覆土2層			1							30	17	48
	覆土3層上面			2							13		15
	覆土4層										62	32	94
	覆土5層			1							34		35
	覆土										6	1	8
	袋状ピット										1	1	1
	計			5							158	58	221
P4	覆土1層										4	4	4
	覆土2層										4	7	11
	覆土3層		2	15							4	4	25
	覆土壁										1		1
	計		2	15							9	15	41
P5	覆土1層										27		27
	覆土3層直下				2						8		10
	覆土3層				1						6	1	8
	覆土4層				2						2		2
	覆土5層										2		2
	覆底直下											3	3
	計				12						4	3	19
P6	覆土1層			1	1						47	7	71
	覆土2層				5						184		186
	覆土3層上面				2						68		73
	覆土3層直下											1	1
	袋状ピット										1		1
	計			1	8						253	1	263
P7	覆土				1						7	12	20
	計				1						7	12	20
P8	覆土1層									1	1	3	4
	袋状ピット										1		1
	計									1	1	3	5
P10	覆土1層							2			1	1	2
	計							2			1	1	2
P11	覆土1層									1	3	1	5
	袋状ピット										1	4	1
	計										1	4	1
P12	覆土1層									2	5	4	9
	袋状ピット										31		31
	計									2	36	4	42
P14	覆土1層										2	2	3
	計										2	2	3

遺物名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VI	土製品未分類	計
P14	埴底面										1		1
	袋状ビッド										12		12
P15	計										15	3	18
	埴土1層								5		2	3	10
	埴土2層								4		2	1	7
P16	袋状ビッド										2		2
	計									9	6	4	19
	埴土1層				3						10	6	19
P17	埴土2層										1		1
	袋状ビッド										20		20
	計				3						31	6	40
P19	埴土1層	1		2	1						3	34	41
	埴土2層										1		1
	埴底面										5		5
P20	袋状ビッド										1		1
	計	1		2	1						10	34	48
	埴土1層				6						53		59
P21	埴土2層										2	11	13
	袋状ビッド										37		37
	計				6						42	11	109
P22	埴土1層				5						8		13
	埴土2層								1		10	9	20
	埴土3層										11	3	15
P23	埴底直上				6							2	2
	袋状ビッド										1		1
	計				11					1	30	14	56
P24	埴土1層		1					4			2	13	18
	埴底直上										1	11	12
	埴底面										1		1
P25	袋状ビッド										36		36
	計		1					4		3	50	57	115
	埴土1層										35	4	39
P26	埴土2層										3	3	6
	袋状ビッド										9		9
	計										47	7	54
P27	検出面										3		3
	埴土1層										47		47
	埴土2層										10	1	11
P28	埴土3層										4		4
	計										64	1	65
	埴土1層				1					4	12	8	25
P29	埴土2層				4					2	4	5	15
	埴底直下										61		61
	埴土										3		3
P30	計				5					6	79	13	103
	埴土1層										22		22
	埴土2層										5		5
P31	埴土3層										5	18	23
	袋状ビッド										1		1
	計										11	18	29
P32	埴土1層								1		8	6	15
	埴土2層										2	1	3
	計								1		10	7	18
P33	埴土1層										4		4
	埴土3層										1		1
	計										5		5
P34	埴土1層										6	1	7
	埴土2層										15	14	30
	埴底直下										1		1
P35	袋状ビッド										1		1
	計										24	15	39
	埴土2層										12		12
P36	埴土3層										10	2	12
	埴土4層										25		25
	埴土5層										54	2	56
P37	計										22		22
	検出面										111	14	125
	埴土2層										1		1
P38	埴土3層										1		1
	埴土4層										1		1
	埴底直下										1		1
P39	計										136	14	150
	袋状ビッド										28		28
	埴底直下												1
P40	埴土1層										1		1
P41	埴土1層										3		3
P42	埴土1層上層										2		2

遺構名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品	未分類	計
P55	出土層位													
	袋状ピット											23	1	23
P66	層土2層				2							26	1	26
	層土3層				3							4	12	16
	層土4層				21							2	10	33
	袋状ピット													
	計				24							8	22	54
P68	層土2層											13	3	16
	層土3層												6	6
	築底直下												1	1
	袋状ピット											1		1
	計											14	10	24
P70	層土2層											5		5
	層土3層											5		5
	層土4層											2	10	12
	築底直下					1						2		3
	袋状ピット											1		1
P73	層土2層			5		1						15		26
	層土3層			2									3	8
	層土4層												4	6
	築底直下												1	1
	袋状ピット												1	1
P75	計			7								3	7	17
	層土1層											1	6	7
	袋状ピット												1	1
P76	計											2	6	8
	検出面											9		9
	層土1層											1		1
	層土2層											8		8
	層土4層											2		2
P83	袋状ピット											1		1
	計											21		21
	層土1層											1	8	9
	層土2層											1	1	1
	層土												6	6
P84	袋状ピット											1		1
	計				1							2	15	17
	層土2層				1							10	1	12
P85	計			1								11	1	13
	層土1層				1							1	8	9
	袋状ピット											1		1
P86	計				1							1	8	10
	検出面												6	6
	層土1層											2	3	5
	層土1層上層											11		11
	層土1層下層											3	2	5
	築底直上												2	2
	袋状ピット											1		1
P87	計											17	13	30
	層土1層												1	1
P88	層土4層上面											1		1
	層土											1		1
P93	計											2		2
	層土1層												5	5
	層土2層												18	18
	層土4層												1	1
	築底直上					1							2	3
P94	袋状ピット											1	1	1
	計				2	1						1	2	24
	検出面				2									2
	層土2層				22	2						1		25
	層土3層				3							4	1	8
	層土4層				1									1
P96	築底直上												1	2
	計				29	2						5	2	38
	層土3層												3	3
P97	層土4層		1											1
	計		1										3	4
P98	層土2層			3	1							4		8
	袋状ピット											1		1
P98	計			3	1							5		9
	層土1層				1							16	1	18
	層土2層			1								49	2	52
	築底直上											3		3

VI 包含層出土の遺物

遺物名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品未分類	計
P98	遺込め土										1		1
	構築面直上										3		3
	袋状ピット										1		1
	計			1	1						70	3	78
P99	層土1層										50		50
	層土2層										4		4
	層土2層上層										51	4	55
	層土2層下層										15		15
	層土3層			1							58	28	87
	層土										20		20
	構築面直上										10		10
	計			1							188	113	302
P100	検出面										3		3
	層土下層										11	1	12
	層土										2	2	4
	構築直上										16	3	19
	計										32	6	38
P101	層土1層										36	5	41
	構築面										3		3
	計										39	5	44
P102	層土2層			1							3	4	8
	層土3層										2		2
	層土5層			1							1		1
	壁構築面直下										4		4
	計			2							9	4	13
P103	検出面										1		1
	層土2層			1							5	2	8
	袋状ピット										1		1
	計			1							7	2	10
P111	層土1層			19	1								20
	層土2層			2									2
	計			21	1								22
	層土1層										3	5	8
	層土2層			19	2						10		31
	構築直上											1	1
P115	層土1層			19	2						13	1	22
	計			1									1
	層土1層			12							2	10	22
P117	層土1層										2		2
	構築直上										1	2	3
	構築面										1		1
	計			12	2						3	12	29
P119	検出面										1		1
	層土1層			2							13	5	20
	構築面										1	1	2
	計			2							15	6	21
P120	検出面										1	1	2
P121	検出面				2								2
	層土2層										14		14
	層土3層											1	1
	層土5層										12		12
	層土6層										1		1
	層土										1		1
	計				2						28	1	31
P125	層土3層			2							1		3
	層土4層			6							1	2	9
	壁構築直下			1							1		1
	袋状ピット										1		1
	計			9							3	2	14
P126	層土2層			1							10	3	14
	層土3層										1		1
	層土4層			4							7	5	16
	構築直上										14		14
	構築中											1	1
	瓦乱										3		3
	計			5							30	9	39
P127	検出面										1		1
	層土1層			1							4		5
	計			1							5		6
P128	層土1層											2	2
	層土2層										1		1
	層土3層				7							2	10
	構築面										1		1
	袋状ピット										1		1
	計			7							4	4	15
P129	検出面				1								1

遺跡名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品	未分類	計
P129	層上1層			6	1								3	10
	層上2層										17			17
P130	層上1層			6	2						17		3	28
	層上2層			1							1	1		2
	袋状ピット													1
	計										2		1	1
P131	検出面			1							2		1	4
	層上2層			5							4			9
	築底直上											2		2
	計			6							4		2	12
P132	検出面										1			1
	層上1層			2										2
	築底直上										1	3		4
	計			2							2	3		7
P139	層上1層				1								17	17
	層上3層										6			7
	計				1						6			7
	検出面				1						6	17		24
P143	層上1層				1					13	181		7	194
	層上2層										2		3	5
	築底直上				1									1
	袋状ピット										1			1
	計				2					13	188		10	211
P145	層上1層					1								1
	袋状ピット					1					1			2
	計					2					1			3
	層上1層			6						2		20		29
P146	築底直上										43			43
	袋状ピット										1			1
	計			6						2	45		20	73
	層上1層										17			17
P150 P203	検出面										1			1
	層上1層										6	2		8
	層上2層			4							14	1		19
	袋状ピット													1
	計			4							22	3		29
P207	層上1層										3			3
	層上2層										1			1
	築底直上										1			1
	計										5			5
P212	層上1層	2												2
P214	層上1層			3										3

(3)土壌

遺跡名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品	未分類	計
P18	築底直上												6	6
P36	層上1層												1	1
P37	層上1層										7			8
P38	層上1層												2	2
P40	層上1層										2		8	10
P45	層上1層										1			1
P47	層上1層				1								5	6
	層上1層												1	1
P53	層上1層												1	1
P58	層上1層			1										1
P63	層上1層				1								1	1
P67	層上1層				2									2
	層上2層				1									1
P69	層上1層												1	1
P71	層上1層				1									1
P72	層上1層												1	1
P77	層上1層												3	3
P78	層上1層		5											5
P79	層上1層			3										3
P81	築底直上												1	1
	層上1層												4	4
P82	築底直上												4	4
P88	層上1層										5			5
P90	層上1層												3	3
P91	層上1層												1	1
P82	層上1層												3	3
P95	検出面										2		3	2
	層上1層			1								10		11
P113	層上1層				8						4			12

遺物名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品未分類	計
P113	塚底出土												1
P114	出土			3	1								4
P118	検出前				1								2
P134	塚上1層			1									1
P135	塚上1層			3									2
P138	塚上2層			2									2
P144	塚底			1									1
P148	塚土段			1									1
	出土										37		37
P202	出土			1									1
P208	塚上1層												4
	塚上2層												1
	塚上3層				1								1
P209	塚上2層の上				1							22	22
	塚上2層の中				8							3	9
	出土				9							25	31
P218	出土											1	8
P140	検出前												1
P124	塚上1層			1	3								4
P142	検出前												1
	出土				10								16
P200	塚土											3	3

(4)小ピット

遺物名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品未分類	計
S. P. 549	塚土				1								1
S. P. 587	塚土					1							1

(5)住居跡

遺物名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品未分類	計
H1	塚上2層				9							9	18
H2	塚上1層												1
	塚上1層		1										1
H3	塚土				48								48
H4	検出前				12							2	14
	塚上1層				43								43
	塚上3層				24								24
	塚上5層				34								34
	塚土			3	23								26
	床面直下				14								14
	床面			1	92							18	109
	計			4	242							18	264
H5	塚土				13								13
	塚土段				1								1
	床面				1								1
	計				15								15
H6	塚土				3								3
H7	塚土		4	2	315	11							332
	床面				142	38						14	194
	計		4	2	457	49						14	526
H8	塚上1層		4	5	23	67							99
	塚上2層		2	27	50	50				1			80
	塚土					3							3
	床面												7
	トレンヂ			7									7
	計		6	34	23	120				1			191
H9	塚上1層					181						1	182
	塚上2層				2	276							278
	塚土				7	39							46
	床面											6	6
	計				9	496						7	512

(6)土壌(縄文)

遺物名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品未分類	計
P104	塚土				1								1
P105	塚上2層				2								2
P106	塚上2層				2								1
P107	塚上1層				2								2
	塚土				2								4
P109	塚上1層				1								1
P110	塚上2層					1						2	3
	塚上4層												1
P122	検出前				1								1

西島松5遺跡 平成12年度

遺構名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品	未分類	計
P122	埴土			38										38
P123	検出面													1
F133	埴土2層		35	72										107
P151	埴土			1										1
P152	埴土				42									42
P153	埴土				2									2
P154	埴土					3						6		6
P156	埴土					379								379
P158	埴土						1			1		1		3
P159	埴土				18						2			18
P160	埴土			9										9
P161	埴土			110										110
P166	埴土1層												4	4
	埴土			4	4	136								144
	風割木			5										5
	計			9	4	136							4	153
P169	埴土				15									15
P170	埴土			21							17			21
P171	埴土			16	7									23
P172	埴土1層			11										11
	埴土			9	1					1				10
P173	埴土												4	4
P174	埴土			2									1	3
P175	埴土1層			9	1								8	18
	埴土			55	14								18	87
	計			64	15								26	105
P176	埴土			6										6
P177	埴土			93									2	95
P180	埴土上面				3									3
	埴土			5										5
P181	埴土			65										65
P182	埴土			9	2									11
P183	埴土			184									29	163
P184	埴土1層			3										3
P185	埴土			2										2
P186	埴土			1	12								9	22
P187	埴土				8									8
P188	埴土1層			1	23									24
P189	埴土1層			16										16
	埴土2層		3	12									2	17
P190	埴土				17									17
P193	埴土			1	32					1				34
P194	埴土												2	2
P195	埴土		1	2	218					1				222
P196	埴土			4	15									19
P197	埴土				10									10
P198	埴土			11	1									12
P191	埴土2層		2											2
	埴土			1										1
	床面			6										6
	計		2	7										9
P201	埴土		1										5	6
P220	埴土				3									3
P221	埴土1層			3									2	5
	埴土												2	2

(7) Tピット

遺構名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品	未分類	計
T P 1	埴土2層			24									1	25
T P 2	埴土1層			14										14
T P 3	埴土1層												2	2
T P 4	埴土1層		1											1
T P 5	埴土1層			35										35
T P 7	埴土		4	48										52

(8) 焼土

遺物名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VI	土製品未分類	計
F 1	焼土中			14									14
F 6	焼土中 2層			3								12	15
F 12	焼土中			4	3								18
F 14	焼土中												34
F 15	焼土中			22	1								54
F 16	焼土中			6	13	1					31	3	21
F 20	焼土中	1	1	6	62								84
F 21	焼土中	3	1	12	71								87
F 22	焼土2層			1									1
F 23	焼土中	1		2	74								77
F 23	焼土中			3	3								3
F 24	焼土中			1									1
F 25	焼土中			3	3								6
F 26	焼土中				6						1		7
F 27	焼土中	1			4								5
F 28	焼土中				6								6
F 30	焼土中				4								4
F 35	焼土中				113								113
F 37	焼土中			3	101								104
F 37	焼土											耳栓1	1
F 39	焼土1層				17								17
F 39	焼土2層			2	121								123
F 39	計			2	138								140
F 42	焼土中											39	39
F 44	焼土中			1									1
F 48	焼土2層			1	139	1							141
F 50	焼土中				18						1		19
F 51	焼土中			1	37								38
F 54	焼土中					1							1
F 55	焼土2層				16								16
F 55	焼土中				3								3
F 56	焼土中				12								12

(9) 小ピット(縄文)

遺物名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VI	土製品未分類	計
S. P. 7	焼土				1								1
S. P. 23	焼土				1								1
S. P. 28	焼土				1								1
S. P. 32	焼土				2								2
S. P. 36	焼土				2								2
S. P. 72	焼土				2								2
S. P. 89	焼土				2								2
S. P. 99	焼土				3								3
S. P. 104	焼土3層			1									1
S. P. 108	焼土2層				1								1
S. P. 112	焼土2層				1								1
S. P. 160	焼土2層				1								1
S. P. 120	焼土				1								1
S. P. 124	焼土2層				2								2
S. P. 126	焼土				1								1
S. P. 133	焼土2層				1								1
S. P. 138	焼土				1								1
S. P. 141	焼土				1								1
S. P. 144	焼土2層				1								1
S. P. 145	焼土2層				1								1
S. P. 148	焼土2層				1								1
S. P. 149	焼土2層				2								2
S. P. 152	焼土				49								49
S. P. 153	焼土			9									9
S. P. 157	焼土				1								1
S. P. 158	焼土				7								7
S. P. 159	焼土				5								5
S. P. 160	焼土				2								2
S. P. 161	焼土				24								24
S. P. 162	焼土				2								2
S. P. 163	焼土				3								3
S. P. 164	焼土				1								1
S. P. 166	焼土				10								10
S. P. 171	焼土				1								1
S. P. 173	焼土				87								87
S. P. 174	焼土				1								1
S. P. 175	焼土				2								2
S. P. 177	焼土				3								3
S. P. 178	焼土				11								11
S. P. 179	焼土				3								3

西島松5遺跡 平成12年度

遺構名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品	未分類	計
S.P.187	層上				2									2
S.P.188	層上				1									1
S.P.189	層上				8									8
S.P.190	層上				5									5
S.P.193	層上				1									1
S.P.198	層上				0									0
S.P.200	層上				1									1
S.P.331	層上			I										1
S.P.334	層上				2									2
S.P.338	層上				1									1
S.P.339	層上				1									1
S.P.351	層上			I										1
S.P.356	層上				1									1
S.P.358	層上				1									1
S.P.359	層上				1									1
S.P.360	層上	I												1
S.P.361	層上				2									2
S.P.362	層上				1									1
S.P.367	層上				1									1
S.P.381	層上				1									1
S.P.382	層上				1									1
S.P.383	層上				1									1
S.P.385	層上				4									4
S.P.386	層上				6									6
S.P.387	層上				3									3
S.P.388	層上				2									2
S.P.389	層上				2									2
S.P.390	層上				2									2
S.P.394	層上				2									2
S.P.395	層上				10									10
S.P.397	層上				2									2
S.P.399	層上				1									1
S.P.403	層上			2	2									4
S.P.404	層上				2									2
S.P.405	層上				12									12
S.P.409	層上2層				3		I							13
S.P.410	層上				1									3
S.P.412	層上				1									1
S.P.413	層上				1									1
S.P.415	層上				5									5
S.P.417	層上				1									1
S.P.420	層上				1									1
S.P.423	層上				3									3
S.P.444	層上				3									3
S.P.460	層上				1									1
S.P.461	層上				1									1
S.P.463	層上				1									1
S.P.465	層上				2									2
S.P.471	層上				4									4
S.P.472	層上				1									1
S.P.473	層上				2									2
S.P.477	層上				1									1
S.P.478	層上				2									2
S.P.480	層上				1									1
S.P.481	層上				1									1
S.P.485	層上				1									1
S.P.487	層上				1									1
S.P.492	層上				1									1
S.P.496	層上				1									1
S.P.498	層上				1									1
S.P.500	層上				7									7
S.P.625	層上				1									1
S.P.658	層上2層				3									3
S.P.641	層上2層				1									1
S.P.645	層上2層				4									4
S.P.646	層上2層				1									1
S.P.662	層上2層				1									1
S.P.667	層上			I										1
S.P.679	層上2層				2									2
S.P.689	層上2層				1									1
S.P.697	層上2層				2									2
S.P.705	層上2層				1									1
S.P.714	層上2層				2									2
S.P.723	層上				1									1
S.P.724	層上				2									2
S.P.726	層上				1									1

遺物名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品	未分類	計
S. P. 729	層土				2									2
S. P. 733	層土				2									2
S. P. 735	層土				1									1
S. P. 736	層土				1									1
S. P. 740	層土				3									3
S. P. 741	層土				2									2
S. P. 742	層土				6									6
S. P. 746	層土				1									1
S. P. 758	層土				1									1
S. P. 761	層土				1									1
S. P. 765	層土				3									3
S. P. 767	層土2層				2									2
S. P. 769	層土2層				1									1
S. P. 770	層土2層				2									2
S. P. 773	層土2層				1									1
S. P. 776	層土2層				1									1
S. P. 777	層土2層				4									4
S. P. 780	層土2層				4									4
S. P. 781	層土2層				2									2
S. P. 782	層土2層				2									2
S. P. 785	層土2層				9									9
S. P. 786	層土2層				3									3
S. P. 788	層土2層				1									1
S. P. 789	層土2層				4									4
S. P. 790	層土2層				7									7
S. P. 795	層土2層				4									4
S. P. 796	層土2層				1									1
S. P. 800	層土2層				6									6
S. P. 807	層土2層				6									6
S. P. 811	層土2層				2									2
S. P. 819	層土				3									3
S. P. 827	層土				3									3
S. P. 828	層土				1									1
S. P. 840	層土				1									1
S. P. 853	層土2層										1			2
S. P. 857	層土2層			1										1
S. P. 867	層土				2									2
S. P. 874	層土				1									1
S. P. 881	層土				1									1
S. P. 885	層土				3									3
S. P. 886	層土				3									3
S. P. 893	層土				10									10
S. P. 897	層土				2									2
S. P. 900	層土				4									4
S. P. 901	層土				3									3
S. P. 905	層土				1									1
S. P. 906	層土				1									1
S. P. 909	層土				4									4
S. P. 912	層土				4									4
S. P. 915	層土				2									2
S. P. 917	層土				1									1
S. P. 918	層土				9									9
S. P. 926	層土				2									2
S. P. 929	層土				3									3
S. P. 945	層土				2									2
S. P. 966	層土				1									1
S. P. 966	層土				1									1
S. P. 970	層土				1									1
S. P. 971	層土				2									2
S. P. 976	層土				1									1
S. P. 1004	層土				1									1

00沢 1

遺物名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品 (備録別)	未分類	計
V-7	I層			3									9	13
	計			3							81		28	108
W-5	I層				1							81	1	122
	II層		1	87	22						11		22	34
	木の根										19		155	426
W-6	計		1	87	23							203		461
	I層										9		13	22
	II層	1	7	249	155					1	1680		667	2760
X-4	II層-2回目												1	1
	計	1	7	249	155					1	1689		681	2783
	I層				1							7		27
	II層				11						18		31	58

遺跡名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品	未分類	計
X-4	計			11	1						23		58	93
	I層			1	2						63		106	172
	II層		6	178	5						286		289	762
X-6	計		6	177	7						346		395	834
	I層										21		21	42
	II層		1	224	89						312		157	783
	III層-2回層										7		1	8
	IV層				1									1
Y-4	計		1	224	90						340		179	834
	I層			5	4						9		50	68
	II層		1	59	6						244		100	410
	計		1	64	10						253		150	478
Y-5	I層				4						105		46	155
	II層		1	125	4						292		91	513
	IV層直上										14			14
	沢底直上				6						24		67	97
	計		1	125	14						435		204	779
	II層				4						68			72
Y-6	I層		1	3							10		63	77
	II層			1	36						29		40	106
Z-4	I層		1	4	36						39		103	183
	II層			1	1						23		5	30
Z-5	I層下層													1
	II層				12						133		39	184
	沢底直上			2	6						155			163
	計		1	3	18						311		45	378

10沢2

遺跡名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品	未分類	計
沢2	II層		65	670	246		1	16		1	16	654		246
	計		65	670	246		1	16		1	16	654		246

その他

遺跡名	出土層位	I	II	III	IV	IVa	IVb	V	Vc	VI	VII	土製品	未分類	計
X1	層土			33										33
	計			33										33

表2 遺構別出土石器など一覽

(1)周溝のある墓

遺構名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	つばね柄 鉄ナイフ	スクレ ナイフ	R イク	フレ イク	リ イク	フレ イク	石核	原石	石斧	すり石	たた き石	石皿 ・ 石舟	砥石	鏡・ 鏡片	石製品	計	
X2	層土									2										2	3
	層土									2											2
X3	層土									2											2
	築底									1											1
X5	検出面									1											1
	層土									2											2
X6	層土2層				1					24											25
	層土									10											12
	計				1					34											37
X7	層土																				1
	計																				1

(2)土坑墓

遺構名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	つばね柄 鉄ナイフ	スクレ ナイフ	R イク	フレ イク	リ イク	フレ イク	石核	原石	石斧	すり石	たた き石	石皿 ・ 石舟	砥石	鏡・ 鏡片	石製品	計	
P1	層土1層									40											42
	層土2層									12											12
	層土3層									31									2		33
	層土5層									6										3	9
	計									89											96
P2	層土1層									7											7
	層土2層		2							10										2	14
	層土3層		2							5											7
	計		4							22											28
P3	層土1層		1						1	5											7
	層土2層									6											6
	層土3層									1											2
	層土5層									5											5
	築底直上									11										1	1
	計		1						1	28										3	33
P4	層土1層									6											6
	層土2層									6											6
	層土4層									1										4	10
	築底直上									1											3
	計									13										4	20
P5	層土1層									1											4
	層土2層									1											1
	層土									5											5

遺構名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	ツルノ 羽	スク レ イ バ	フレ イク	フレ イク	フレ イク	フレ イク	石鏃	原石	石斧	すり石	た ま ま 石	石 量 ・ 段 石	砥 石	鏡 ・ 鏡 片	石 製 品	計
P 5	埴底直上								11											11
	計								18									3		21
P 6	層上1層								8										1	8
	層上2層								9											9
	層上3層上層								1									5		5
	層上3層中層								4											4
	層上4層								1											1
	埴底直上								4											4
	計	1							14					1	1			6		23
P 7	埴底直上								2						1	1				2
	依仗ピット内は土								2											2
	計								2					1	1					4
P 8	層上1層								1											1
	埴底直上								1										2	3
	計								1										2	4
P 9	層上1層								3											3
P10	層上1層								3											3
P11	層上1層								6											6
	埴底直上								8					1						9
	計								7					1					2	9
P12	層上1層								1											1
	依仗ピット内は土								1											1
	依仗ピット内は土								1											1
	計								9											9
P14	埴底直上								5					1					1	2
P15	層上1層								6											6
	層上2層								11										1	12
	計								8										5	13
P16	層上1層								1											1
	層上2層								55											56
	層上3層								85										3	88
	埴底直上								2										2	5
	計						1		2										2	5
P17	層上1層								11											11
	層上2層								1											2
	層上3層								1											2
	埴底直上								14					1	1					18
	計						1		2										2	3
P19	層上1層								2											2
	層上2層								2											2
	層上3層								4										1	5
	計								3										1	4
P20	層上1層								19											19
	層上2層								418											419
	層上3層								107											107
	層上4層								18											18
	層上5層								562										1	565
	計						1	1	65										5	74
P21	層上1層								114											114
	埴底直上								3											3
	依仗ピット内は土								186										5	192
	依仗ピット内は土								31											32
	計							1	20											21
	計							1	51											52
P23	層上1層								9											9
	層上2層								1											1
	計								10											10
P24	層上1層								3											3
	層上2層								3											6
	層上3層								3											6
	層上4層								2											4
	埴底直上								120											122
	計	1							158						1	1				162
P26	層上1層								2											2
	埴底直上								41											43
	計								33										1	34
P27	層上1層								4											4
P28	層上1層								15											15
	埴底直上								2											2
	計								15											17
P29	検出面								2											2
	層上1層								3										2	5
	層上2層								5											8

西島松5遺跡 平成12年度

遺構名	出土層位	石礎	石礎	石礎	フタナフタ	スクレ	フレ	フレ	フレ	石椁	原石	石弁	すり石	たたき石	石皿・食石	砥石	磨・鏡片	石製品	計
P29	覆土3層								9										9
	遺底面								2					2					2
	袋状ピット内土塊								22										22
P30	計								22					2					26
	検出面																		
	覆土1層								1								2		2
	覆土1層黒土								37		3						2		6
	埴底直上								10										37
P33	埴底																		10
	計								48		3						2		57
	覆土2層								9								2		9
	覆土3層								9								2		11
	埴底直上								13										13
P59	計								28								4		32
	検出面								48										48
	覆土2層								108										108
	覆土3層								2										2
	埴底直上								18					2					19
P48	計								174					2			1		177
	覆土1層								1								1		1
	埴底直上																		
P51	計																1		1
	覆土1層								1										1
	埴底面																	2	2
P52	計								1										3
	覆土1層								1										2
	埴底面																		1
P66	計								1										1
	検出面								1										1
	覆土2層								5										6
	覆土3層								1					1			2		5
	覆土4層								18										19
P68	計	1							24					1	1		2		31
	検出面																		
	覆土2層								10									3	13
	覆土3層								5										5
	覆土																		1
	埴底直上								6					1					6
	袋状ピット内土塊								1										1
P70	計								22					2			3		27
	覆土3層								2										2
	覆土4層								19										20
	埴底直上								12										12
	埴底面																		1
P73	計								33						1		1		35
	覆土2層								37										37
	覆土3層								13										13
	覆土4層								19										19
	袋状ピット内土塊								1										1
P75	計								70										70
	覆土1層								2										2
	埴底直上								1										1
	埴底																		1
P78	計								3								2		6
	覆土2層								1										1
	埴底直上													1					1
	計								1					1					2
P80	覆土2層								3										3
	覆土3層																	4	4
	覆土壁																	2	2
	計								3								6		6
P83	覆土1層								3								1		4
	覆土2層								3								1		1
	覆土																	1	1
	埴底直上								1					1					2
P84	計								3					1			4		9
	覆土2層								1										1
	埴底面																		2
	計								1					1					4
P85	覆土1層							4										4	
P86	検出面																		1
	覆土1層								20								1		21
	覆土								2										2
	埴底直上								2					1					3
P87	計								24								5		30
	覆土1層								1										1
P88	覆土1層								9								1		10

遺跡名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	透明 ガラス ビーズ	ステ ル シルバー	R フレ イク	U フレ イク	フ レ イク	石核	原石	石斧	すり石	た た き 石	石皿・ 台石	砥石	鏡・ 鏡片	石製品	計
P121	計																		
P125	覆土3層								5					1				3	10
	埴底直上								1										1
	計								1										1
P126	覆土1層								2										2
	覆土4層								4										5
	埴底直上								2								14		16
	埴底直上																	1	2
	計								6								16		22
P127	検出面																		1
	埴底直上													1					2
	計												1	1					3
P128	検出面								2									1	3
	覆土1層								2					1				1	2
	覆土2層								2										2
	覆土3層																		2
	埴底直上								18										16
	計								20					2				2	22
P129	覆土								1					3					25
	埴底直上																		1
	計								1										2
P130	覆土1層								4										2
	埴底直上								1										4
	埴底直上								1										1
	計								5				1						7
P131	覆土2層								1										1
	埴底直上																		2
	計								1										3
P132	覆土1層								5										6
P139	覆土1層								2										1
	覆土								2										2
	埴底直上																		1
	埴底直上																		2
	計								3				1						2
P143	検出面								2				1						2
	覆土2層								1										1
	覆土																		1
	埴底直上								1										5
	埴底直上								15										16
	計								19										24
P145	埴底直上													1					2
P148	覆土1層								12					1					14
	覆土2層																		1
	埴底直上																		1
	埴底直上																		1
	計								12										2
P150	検出面												1						18
	覆土1層								1										1
	埴底直上																		1
	計								1										3
P203	検出面														1				1
	覆土1層								19										22
	覆土2層								16										16
	覆土3層												1						2
	埴底直上																		3
	鉄製ビーズ内装								3										1
	計								40				1					4	45
P207	覆土1層								1										1
	覆土2層								1										1
	覆土3層								1										1
	埴底直上																		2
	計								2										5
P210	埴底直上													1					1
P212	覆土3層								1										1
P214	覆土1層								3										3

(3)土壌

遺跡名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	透明 ガラス ビーズ	ステ ル シルバー	R フレ イク	U フレ イク	フ レ イク	石核	原石	石斧	すり石	た た き 石	石皿・ 台石	砥石	鏡・ 鏡片	石製品	計
P13	覆土								1										1
P18	覆土																		1
P81	覆土								1										1
P32	覆土1層								4										4
P35	覆土																	2	2
P36	覆土2層								4										5
P37	覆土1層								3										4
P38	覆土														1				1
P38	覆土								1										1

VI 包含層出土の遺物

遺物名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	つまみ針 ナイフ	スクレ ナイフ	R イク	フレ イク	U イク	フレ イク	石杖	原石	石斧	すり石	たた き石	石皿・ 舟石	砥石	鏃・ 鏡片	石製品	計
P 40	検出面																	2		2
P 47	硝土				1				3											4
P 49	硝土	1																		1
P 50	硝土				1															1
P 53	硝土 壁																	1		1
P 59	硝土																	1		1
P 77	硝土																	1		1
P 78	硝土									1										1
P 81	硝土 上層		1							3										2
	硝土									1										1
P 82	硝土																	1		1
P 88	硝土									1										1
P 91	硝土									1										1
P 95	検出面																			
	硝土 上層								5									3		8
P 113	硝土							2		17										19
	硝土 上層																			
	硝土 直上													1				5		6
	硝土 直上																	2		3
	硝土 直上						2			17							1	7		28
P 118	検出面																			1
P 135	硝土 1層								3										2	5
P 138	硝土 2層																		2	2
P 137	硝土 3層																		1	1
P 144	検出面																			72
	硝土				1	1				133									1	136
	硝土																			
	硝土 壁				1	1				205									1	209
P 148	硝土												1							4
P 149	硝土 直上				2												3			2
P 202	硝土																			1
P 203	硝土																			1
P 209	硝土 2層の上								2										1	3
	硝土 2層の中								5											3
P 213	硝土													1		7		2		10
P 218	硝土							1		1										2
P 141	硝土 中層																			1
P 124	硝土 1層													2						2
P 142	検出面																		4	5
	硝土 2層																		5	6
P 200	検出面																			1
	硝土 上層													1					1	2
	硝土 上層									7									2	9
	硝土 直上									1										1
	計								8					2				3		13

(4)小ピット

遺物名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	つまみ針 ナイフ	スクレ ナイフ	R イク	フレ イク	U イク	フレ イク	石杖	原石	石斧	すり石	たた き石	石皿・ 舟石	砥石	鏃・ 鏡片	石製品	計	
S.P. 300	硝土																		1		1
S.P. 301	硝土													1							1
S.P. 302	硝土															1					1
S.P. 303	硝土																		1		1
S.P. 304	硝土							1													1
S.P. 305	硝土																1				1
S.P. 306	硝土																				1
S.P. 307	硝土																				1

(5)住居跡

遺物名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	つまみ針 ナイフ	スクレ ナイフ	R イク	フレ イク	U イク	フレ イク	石杖	原石	石斧	すり石	たた き石	石皿・ 舟石	砥石	鏃・ 鏡片	石製品	計	
H 1	硝土 2層									40											40
H 2	硝土 1層									2									2		4
	硝土				1					6											7
H 3	硝土									14									3		17
H 4	検出面									2											5
	硝土 1層		1							328										2	329
	硝土 3層									63											64
	硝土 5層									7			1						2		9
	硝土									44											44
	北壁の1/2付近		1					1		171											173
	H P 1									13											13
	北壁直上							1		7,588											7,588
	計		2	1				2		8,182				1				5			8,183
H 5	硝土		1							76										1	77
	硝土 壁																			1	2
	計		1							77								1			78

西島松5遺跡 平成12年度

遺構名	出土層位	石礫	石楯	石籠	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	石椁	原石	石斧	すり石	たたき石	石瓦・ 石瓦	磁石	土 器片	石製品	計
H 6	甌土																		3
H 7	甌土							3											1
	床面	4										1							3
	計								3										5,859
H 8	甌土1層	3						1								1			5,683
	甌土2層				1	3	1	11					1				10		87
	床面																		375
	計	3			1	3	1	12					1				10		447
H 9	甌土1層	1																	46
	甌土2層	2																	55
	甌土																		7
	床面																		35
	計	3																	133

(6)土壇(縄文)

遺構名	出土層位	石礫	石楯	石籠	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	石椁	原石	石斧	すり石	たたき石	石瓦・ 石瓦	磁石	土 器片	石製品	計
P104	甌土																		1
P109	甌土																		1
P110	甌土3層																		1
P122	検出前																		1
P123	甌土	1					1						1						8
	填底								2										4
P153	甌土																		1
P154	甌土																		2
P156	甌土					1		2	2				1			1	4		74
P159	甌土																		2
P160	甌土																		2
	竈前木根																		1
P161	甌土	1																	1
P166	甌土																		1
P169	甌土																		1
P170	甌土	1																	14
P172	甌土2層																		20
	甌土																		1
P174	甌土																		1
P175	甌土1層																		142
	甌土	1																	29
	計	1																	171
P177	甌土															1			2
P180	甌土																		2
P181	甌土	1						1											104
P183	甌土																		44
P184	甌土1層																		1
	甌土																		1
P185	甌土	1																	7
P186	甌土																		6
P187	甌土																		3
P188	甌土1層																		11
P189	甌土1層							2											14
	甌土2層															1			1
P190	甌土			1															15
P193	甌土	2							1										11
P195	甌土																		23
P196	甌土																		29
P196	甌土	1																	2
P198	甌土																		2
P199	甌土	1	2			2	1	3			2	9							8
P191	甌土								1										1
P221	甌土7層																		56
	甌土																		1

(7)Tビット

遺構名	出土層位	石礫	石楯	石籠	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	石椁	原石	石斧	すり石	たたき石	石瓦・ 石瓦	磁石	土 器片	石製品	計	
TP 1	甌土2層											1							4	3
TP 2	甌土2層																			6
TP 3	甌土2層													1						1
TP 5	甌土1層			1	1															3
TP 7	甌土												1							5

(8)焼土

遺構名	出土層位	石礫	石楯	石籠	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	埴輪 イブ	石椁	原石	石斧	すり石	たたき石	石瓦・ 石瓦	磁石	土 器片	石製品	計	
F 4	焼土中																			1
F 17	焼土中													1						14

遺構名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	つぎ 用 材	スク レ イ ブ	R イ ク	フレ イ ク	レ イ ク	フレ イ ク	石核	原石	石斧	すり石	たた き石	石皿・ 殻石	磁石	鏡・ 銅片	石製品	計
F 4	焼土中																			1
F 12	焼土中							1		11					1					14
F 14	焼土中									263					2	1			2	268
F 15	焼土中							2		161								3		169
F 16	焼土中									2										2
F 20	焼土中							2		21						1				24
F 21	焼土中									1										1
F 22	焼土中									5										5
	焼土中									22								3		26
F 27	焼土中									3										3
F 28	焼土中									3										3
F 30	焼土中									1										1
F 35	焼土中									361										361
F 37	焼土中			1						43										44
F 39	焼土1層							7		11										18
	焼土2層																			1
F 42	焼土中									73										73
F 48	焼土中		1				1													5
	焼土2層									7										7
F 50	焼土中									7										7
F 51	焼土中									6										6
F 54	焼土2層									3										3
F 55	焼土2層									1										1
F 58	焼土中									2									1	3

(9)小ピット(縄文)

遺構名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	つぎ 用 材	スク レ イ ブ	R イ ク	フレ イ ク	レ イ ク	フレ イ ク	石核	原石	石斧	すり石	たた き石	石皿・ 殻石	磁石	鏡・ 銅片	石製品	計
S.P. Ⅲ	焼土									1										1
S.P. Ⅳ	焼土									1										1
S.P. Ⅶ	焼土2層							1												1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土2層									4										5
S.P. Ⅷ	焼土							1											2	2
S.P. Ⅷ	焼土									2										2
S.P. Ⅷ	焼土									12										12
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									3										3
S.P. Ⅷ	焼土									1			1							1
S.P. Ⅷ	焼土									3										3
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									2										2
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土							1												2
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									2										2
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									2										2
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									1										1
S.P. Ⅷ	焼土									2										2

00沢 1

遺構名	出土層位	石鏃	石槍	石鏃	つぎ 用 材	スク レ イ ブ	R イ ク	フレ イ ク	レ イ ク	フレ イ ク	石核	原石	石斧	すり石	たた き石	石皿・ 殻石	磁石	鏡・ 銅片	石製品	計
V-7	I層									10									2	12
	II層							1		25						1			1	26
	III層-1 回目									3									5	8
W-5	計							1		38						1			8	45
	I層									9									4	13
	II層		1							149				1	1	1			24	177
	III層-1 回目									3								1	9	14

遺構名	出土層位	石縁	石籠	注記 あり	スケ イブ	Rフ イク	Uフ イク	プレ イ	石楨	原石	石弁 すり	た たき 石	石 置 台	砥石	備 ・ 鏡 片	石製品	計	
W-6	Ⅱ層-2回目	1					1	13			1				11		25	
	計							175			1	2		1	48		229	
	Ⅱ層-1回目							7									8	
	Ⅱ層-2回目					2	2	730			1						738	
	Ⅱ層-3回目	2				1	1	30			2	4	6		1	41	185	
	Ⅱ層-4回目							57								38	152	
	Ⅱ層-5回目							19								23	45	
	Ⅱ層-6回目	4	1					60								7	75	
	Ⅱ層-7回目							3								3	7	
	Ⅱ層-8回目							1	1		1					8	39	
	Ⅱ層-9回目								16							11	28	
	Ⅱ層-10回目							2	8			4				5	17	
	Ⅱ層-12回目								6			2			1	6	15	
Ⅱ層												1			6	7		
計		6	1	1	3	5	9	960		1	10	6	8	3	555		1,370	
Ⅱ層								21			2				1		24	
Ⅱ層-5回目								14					1		3		18	
Ⅱ層								3									3	
計								38			2		1		4		45	
X-5	Ⅰ層	1			2		3	70	1		4	2	5		1	44	133	
	Ⅱ層			1		4	1	284			3	1			20		305	
	Ⅱ層-1回目	2	1					27			3	5			57		96	
	Ⅱ層-2回目							5			3				11		20	
	Ⅱ層-3回目							18									18	
	Ⅱ層-4回目							5				1			10		17	
	Ⅱ層-5回目	2						11			2				6		20	
	Ⅱ層-6回目				1	1			27			3			1	5		38
	Ⅱ層-7回目							2			2		1	1		2		8
	計		7	1	2	3	4	7	429	1	1	21	9	6	2	164		655
X-6	Ⅰ層							4									50	
	Ⅱ層	1						59		1					1	19	94	
	Ⅱ層-1回目							25			2	19	1		1	34	111	
	Ⅱ層-2回目					1	3	8			3				2		51	
	Ⅱ層-3回目	2						3							2		15	
	Ⅱ層-4回目							4							2		6	
	Ⅱ層-5回目							14									14	
	Ⅱ層-6回目							8				1			11		20	
	Ⅱ層-7回目							20			1	2	2		7		32	
	Ⅱ層							1						1			2	
計		5			1	1	7	164		2	4	20	3	1	99		308	
Y-4	Ⅰ層							22									17	40
	Ⅱ層							82			1	1			17		112	
	Ⅱ層-1回目	1						5				1			13		23	
	Ⅱ層-4回目							8				1			5		13	
	Ⅱ層-5回目	1						6							8		14	
	Ⅱ層-6回目							4			1				1		6	
	Ⅱ層							1									2	
	計		3				1	2	137		1	2	2		58		208	
	Y-5	Ⅰ層							36		2		12	7	13	114		186
		Ⅱ層	1						48			2	2			17		75
Ⅱ層-1回目								17			2	14	6	3	1	99	152	
Ⅱ層-4回目								1							5		7	
Ⅱ層-5回目								1							1		2	
Ⅱ層-6回目								1							5		6	
Ⅱ層-13回目															2		2	
Ⅱ層-14回目								5							11		19	
N層直上															3		5	
計			6			2	1	2	4	111		2	5	32	19	17	1	295
Y-6	Ⅰ層							2				1	1				4	4
	Ⅱ層							1							3		4	
	Ⅱ層-1回目							1							3		4	
	Ⅱ層-3回目														1		1	
	Ⅱ層-13回目							3				4			1	32	40	
計								6			5	1		1	39		53	
Z-4	Ⅰ層							17							21		45	
	Ⅱ層							1							17		35	
	沢底直上										1	2					5	5
	計								1			9			43		85	
Z-5	Ⅰ層							33	1			3	2		27		87	
	Ⅱ層	1						16							35		55	
	Ⅱ層-1回目							2				3	1	1	8		15	
	沢底直上							8			2	7	2	2	1	55		77
	計		1						59	1		3	11	6	5	2	125	214

00)沢2

遺構名	出土層位	石鏃	石鏃	石鏃	つばめ おナイ	スグレ アイバー	灰 イク	ワ イク	ワ イク	ワ イク	石核	原石	石斧	すり石	たた き石	石皿 台石	砥石	鏃・ 鏡片	石製品	計
不明	不明							1		7								3		2
U-13	II層									24					1	1		7		8
V-12	II層	1				1	2	2										4		30
V-12	II層	2								118						1		4		125
W-11	II層	3				2	1	3		112				11		4		20		156
X-11	II層	1						2		30					3			13		49
X-12	II層					1	1	5		54			2	2	1			19		85
X-13	II層							2		20					1	1		10		34
Y-11	II層									5										5
Y-12	II層					1		1		39				1	1	1		11		55
Y-13	II層							3		13								1		17

01)その他

遺構名	出土層位	石鏃	石鏃	石鏃	つばめ おナイ	スグレ アイバー	灰 イク	ワ イク	ワ イク	ワ イク	石核	原石	石斧	すり石	たた き石	石皿 台石	砥石	鏃・ 鏡片	石製品	計
X1	覆土									33										33

表3 遺構別出土鉄製品一覧

(1)扇溝のある鏃

遺構名	出土層位	鍔手刀	直刀	小刀	刀子	鉄鏃	鉄斧	鉄鏃	釣針	釘等	鉄環	鏃子	鉄鏃	その他	計
X6														2	4

(2)土壌鏃

遺構名	出土層位	鍔手刀	直刀	小刀	刀子	鉄鏃	鉄斧	鉄鏃	釣針	釘等	鉄環	鏃子	鉄鏃	その他	計
P1	覆土2層													1	1
	覆土3層													3	3
	計													4	4
P2	墳底直上							袋柄1							1
P3	墳底直上			1											1
P5	覆土2層													1	1
	覆土3層													2	2
	覆土3層													1	1
P6	墳底直上					3								1	4
	計					3								3	3
	覆土1層													4	4
	覆土3層					3								5	5
	覆土3層													1	1
P7	墳底直上					2								1	2
	墳底直上				1	1									2
	計					3								1	3
P9	墳底直上							袋柄1							7
P11	墳底直上		3		1	2									5
P12	墳底直上		1			4									7
P14	覆土2層								1						1
P15	墳底直上		2		1										5
P16	墳底直上				2			袋柄1			1				4
P17	覆土1層													1	1
	墳底直上													2	2
P19	墳底直上				1									1	1
P20	墳底直上													1	1
P21	墳底直上				1									1	1
P22	墳底直上				2									2	2
P23	検出直上													1	1
	墳底直上													1	2
P24	覆土1層				1									1	1
P28	覆土										1				1
	墳底直上				2									2	2
	計				2						1			3	3
P29	覆土2層													1	1
	墳底直上													1	1
	計													2	2
P30	検出直上													5	5
	覆土2層													1	1
	墳底直上					2								2	2
	計					2								5	11
P33	墳底直上							1						1	2
P68	墳底直上				1									1	1
P73	覆土				2									5	7
	覆土2層													1	1

遺跡名	出土層位	鍬手刀	直刀	小刀	刀子	鉄鏃	鉄斧	鉄鏝	釣針	釘等	鉄環	釧子	腕輪跡	その他	計
P73	計				2		1							5	8
P75	覆土1層													1	1
	埴底面				1		1	1							3
P83	覆土1層							1						1	4
	埴底面				1	1								2	2 1点は釘か?
	計				1	1								2	4
P84	埴底面													2	4
P85	覆土														埴製品
P89	埴底直上				1										屑のみ
P94	覆土3層				2			1							3
	埴底直上													1	1
	計				2			1						1	4
P96	覆土3層				1										1
	覆土		1		1										2
	埴底面		1												1
	計		2		1	1									4
P97	覆土2層													2	3
	覆土表													1	1
	埴底直上				4									2	6
	計				4	1							5	10	
P98	埴底面	3			1										4
P99	覆土1層														1
	覆土2層														1
	覆土3層													2	2
	計													4	4
P101	覆土表				2	1									4
	埴底直上					4								5	9
	埴底				1									6	8
	計				3	5								12	21
P102	覆土2層								(?)2						7
P103	覆土3層				1										1
P111	埴底直上				1										1
	埴底面													1	2
	計				1									1	3
P112	埴底面	1													1
P117	埴底面				1										1
P120	検出面								2						3
P121	覆土3層													1	1
	覆土				1										1
	埴底直上														1
	計				2									1	3
P125	埴底面	1			5										6
P127	埴底面							1							1
P128	覆土1層				1										1
	覆土3層													1	1
	埴底面	1	1				2							1	5
	計	1	1		1		2							2	7
P129	埴底直上				1										2
P130	埴底面											1			1
	計	5			1									1	6
	計	5			1						1			1	7
P131	埴底面	1	3												4
P143	覆土表				2			1							4
	埴底面								1	1					3
	計				2			1	1						4
P145	埴底面				1										1
P146	覆土1層													1	1
	埴底				1										2
	計				1									1	3
P150	覆土				1									1	1
P203	覆土表				1										1
P207	埴底面				2										2

(3)土城

遺跡名	出土層位	鍬手刀	直刀	小刀	刀子	鉄鏃	鉄斧	鉄鏝	釣針	釘等	鉄環	釧子	腕輪跡	その他	計
P95	覆土上層										1?				1

西島松5遺跡 平成12年度

測量区	1号	2号	一			新行石室					新石室						その他					合計					
			埋部(北)	埋部(南)	埋部(東)	石室	石室(南)	石室(北)	石室(東)	石室(西)	石室(南)	石室(北)	石室(東)	石室(西)	石室	石室	石室	石室	石室	石室	石室		石室	石室	石室	石室	
F-22			14	3	18	3,997		15	3	15	424		85													5	
G-1																											6
G-2					2	22																					3
G-3					2	25																					3
G-4					1	1																					1
G-5					1	6																					1
G-6					1	6																					1
G-7					1	6																					1
G-8					6	6																					6
G-9																											2
G-10																											2
G-11																											1
G-12					6	6																					6
G-13					1	1		4	1	2	3	6	11														1
G-14					156	175		4	1	2	3	6	11														1
G-15					1	1																					1
G-16					1	1																					1
G-17					2	2		22	7	2	12	422	44														2
G-18					1	1		2	2	4	3	12	422	44													1
G-19					2	2		2	2	4	3	12	422	44													2
G-20					2	2		2	2	4	3	12	422	44													2
G-21					3	3		2	2	4	3	12	422	44													3
G-22					2	2		2	2	4	3	12	422	44													2
G-23					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-24					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-25					2	2		2	2	4	3	12	422	44													2
G-26					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-27					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-28					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-29					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-30					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-31					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-32					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-33					2	2		2	2	4	3	12	422	44													2
G-34					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-35					2	2		2	2	4	3	12	422	44													2
G-36					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-37					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-38					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-39					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-40					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-41					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-42					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-43					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-44					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-45					1	1		1	1	2	3	6	11														1
G-46					1	1		1	1	2	3	6	11														1

調査年度	1期	2期	土器		石		銅		鉄		その他		合計
			IV期IV層 土器 数量	IV期IV層 土器 重量	IV期IV層 土器 数量	IV期IV層 土器 重量	IV期IV層 土器 数量	IV期IV層 土器 重量	IV期IV層 土器 数量	IV期IV層 土器 重量	IV期IV層 土器 数量	IV期IV層 土器 重量	
M-1													
M-2													
M-3													
M-4													
M-5													
M-6													
M-7													
M-8													
M-9													
M-10													
M-11													
M-12													
M-13													
M-14													
M-15													
M-16													
M-17													
M-18													
M-19													
M-20													
M-21													
M-22													
M-23													
M-24													
M-25													
M-26													
M-27													
M-28													
M-29													
M-30													
M-31													
M-32													
M-33													
M-34													
M-35													
M-36													
M-37													
M-38													
M-39													
M-40													
M-41													
M-42													
M-43													
M-44													
M-45													
M-46													
M-47													
M-48													
M-49													
M-50													
M-51													
M-52													
M-53													
M-54													
M-55													
M-56													
M-57													
M-58													
M-59													
M-60													
M-61													
M-62													
M-63													
M-64													
M-65													
M-66													
M-67													
M-68													
M-69													
M-70													
M-71													
M-72													
M-73													
M-74													
M-75													
M-76													
M-77													
M-78													
M-79													
M-80													
M-81													
M-82													
M-83													
M-84													
M-85													
M-86													
M-87													
M-88													
M-89													
M-90													
M-91													
M-92													
M-93													
M-94													
M-95													
M-96													
M-97													
M-98													
M-99													
M-100													

VII 自然科学的手法による分析結果

1. 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14C age(y B P)	: ¹⁴ C年代 [*] measured radiocarbon age [*] 試料の ¹⁴ C/ ¹² C比から、単純に現在(1950年A D)から何年前(B P)かを計算した年代。半減期はリビーの5568年を用いた。
補正14C age (y B P)	: 補正 ¹⁴ C年代 [*] conventional radiocarbon age [*] 試料の炭素安定同位体比(¹³ C/ ¹² C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り ¹⁴ C/ ¹² Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。 試料の ¹³ C値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代値である。 暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。
δ ¹³ C (permil)	: 試料の測定 ¹⁴ C/ ¹² C比を補正するための ¹³ C/ ¹² C比。 この安定同位体比は、下式のように標準物質(P D B)の同位体比からの千分偏差(‰)で表現する。
	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰}) = \frac{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})[\text{試料}] - (^{13}\text{C}/^{12}\text{C})[\text{標準}]}{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})[\text{標準}]} \times 1000$
	ここで、 ¹³ C/ ¹² C [標準] = 0.0112372である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中¹⁴C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の¹⁴Cの測定、サンゴのU-Th年代と¹⁴C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース(^{*}INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3))により約19000 y B Pまでの換算が可能となった。^{*}

^{*}但し、10000 y B P以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。
The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Taima and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pp 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a "best fit" compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results.^{}

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調製・その他 : 資料の前処理、調製などの情報

前処理 acid-alkali-acid : 酸-アルカリ-酸洗浄

acid washes : 酸洗浄

acid etch : 酸によるエッチング

none : 未処理

調製、その他

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理

Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出

Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出

Extended Counting : Radiometricによる測定の際、測定時間を延長する

分析機関 BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74 Count, Miami, F1, U. S. A 33155

Beta- 150475	4260±40	-28.0	4210±40
試料名(16478) NM5-1 (H7-①) 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150476	4190±50	-27.6	4150±50
試料名(16479) NM5-2 (H7-②) 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150477	4070±40	-28.5	4050±40
試料名(16480) NM5-3 (H7-③) 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150478	1660±40	-27.4	1620±40
試料名(16481) NM5-4 (H9 覆土2層上面) 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150479	2520±40	-24.8	2520±40
試料名(16482) NM5-5 (H9床) 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など organic sediment acid washes			
Beta- 150480	4190±40	-23.9	4210±40
試料名(16483) NM5-6 (P174) 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など organic sediment acid washes			

年代値はRCYBP(1950 A. D. を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンダードは、国際的な慣例として、NBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

Beta- 150481	4210±40	-24.6	4220±40
試料名(16484) NM5-7 (P178) 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など organic sediment acid washes			
Beta- 150482	1340±40	-26.9	1310±40
試料名(16485) NM5-8 (P3小ビット) 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など wood acid/alkali/acid			
Beta- 150483	390±40	-25.4	380±40
試料名(16486) NM5-9 (沢1の下層の木) 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など wood acid/alkali/acid			
Beta- 150484	360±40	-25.1	360±40
試料名(16487) NM5-10 同上 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など wood acid/alkali/acid			

年代値はRCYBP(1950 A.D. を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンドは、国際的な慣例として、NBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-28;lab.mult=1)

Laboratory number: Beta-150475

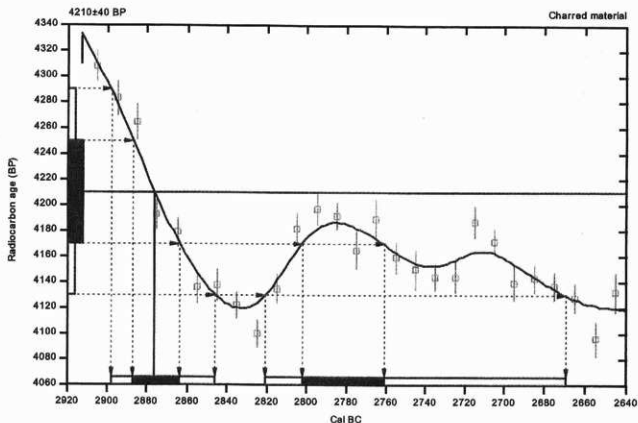
Conventional radiocarbon age: 4210±40 BP

2 Sigma calibrated results: Cal BC 2900 to 2850 (Cal BP 4850 to 4800) and
(95 % probability) Cal BC 2820 to 2670 (Cal BP 4770 to 4620)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal BC 2880 (Cal BP 4830)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 2890 to 2860 (Cal BP 4840 to 4810) and
(68 % probability) Cal BC 2800 to 2760 (Cal BP 4750 to 4710)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et. al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-27.6;lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150476**

Conventional radiocarbon age: **4150±50 BP**

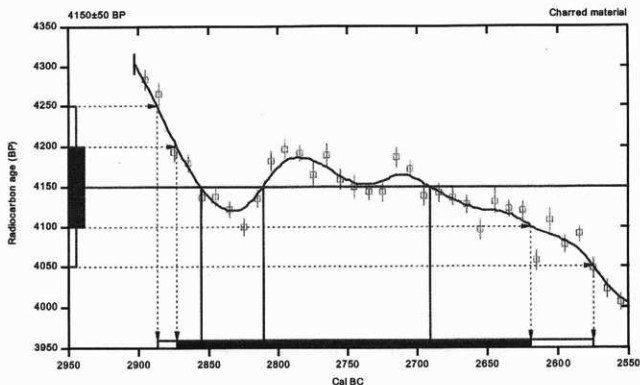
2 Sigma calibrated result: Cal BC 2890 to 2580 (Cal BP 4840 to 4520)
(95% probability)

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age

with calibration curve: Cal BC 2860 (Cal BP 4810) and
Cal BC 2810 (Cal BP 4760) and
Cal BC 2690 (Cal BP 4640)

1 Sigma calibrated result: Cal BC 2870 to 2620 (Cal BP 4820 to 4570)
(68% probability)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p.ii-iii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p.1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p.317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.5‰, mult=1)

Laboratory number: Beta-150477

Conventional radiocarbon age: 4050±40 BP

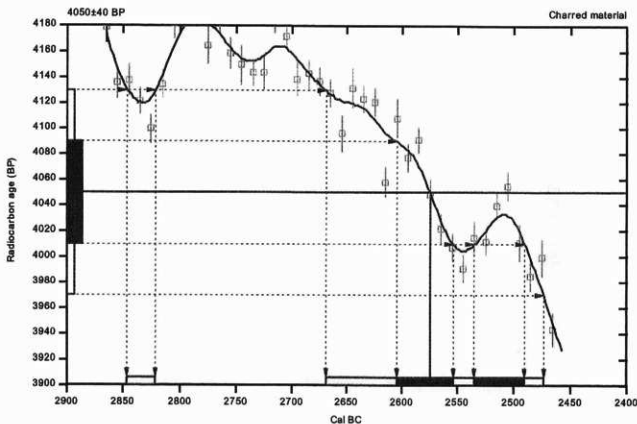
2 Sigma calibrated results: Cal BC 2850 to 2820 (Cal BP 4800 to 4770) and
(95% probability) Cal BC 2670 to 2470 (Cal BP 4620 to 4420)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age

with calibration curve: Cal BC 2580 (Cal BP 4520)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 2600 to 2550 (Cal BP 4560 to 4500) and
(68% probability) Cal BC 2540 to 2490 (Cal BP 4480 to 4440)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-27.4;lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150478**

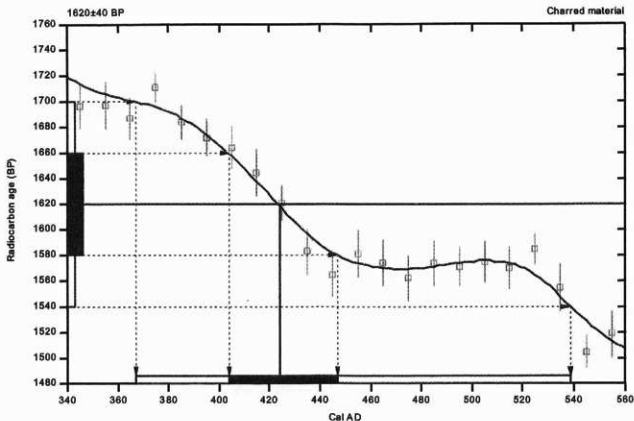
Conventional radiocarbon age: **1620±40 BP**

2 Sigma calibrated result: Cal AD 370 to 540 (Cal BP 1580 to 1410)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal AD 420 (Cal BP 1530)

1 Sigma calibrated result: Cal AD 400 to 450 (Cal BP 1550 to 1500)
(68% probability)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-24.8;lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150479**

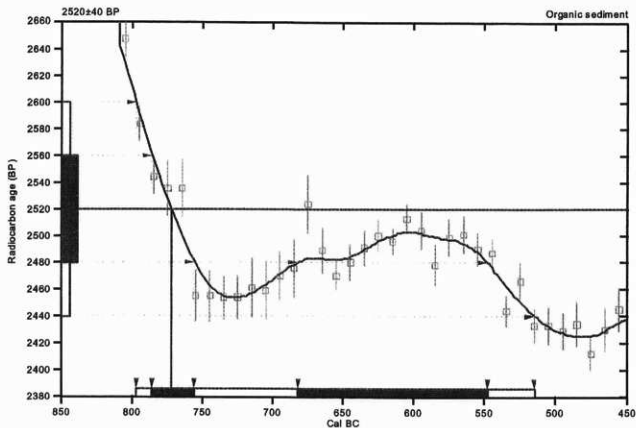
Conventional radiocarbon age: **2520±40 BP**

2 Sigma calibrated result: Cal BC 800 to 520 (Cal BP 2750 to 2460)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal BC 770 (Cal BP 2720)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 790 to 760 (Cal BP 2740 to 2710) and
Cal BC 680 to 550 (Cal BP 2630 to 2500)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33135 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-23.9;lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150480**

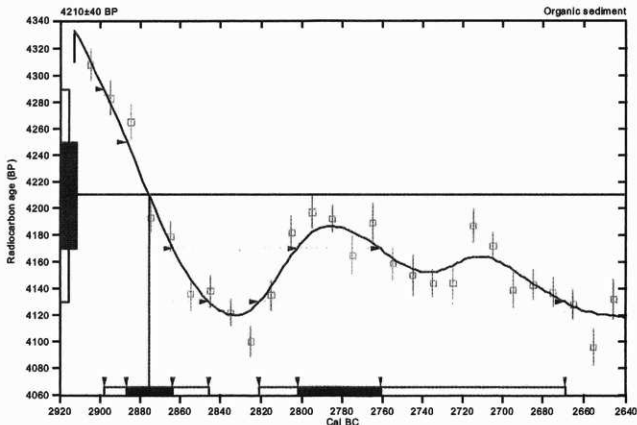
Conventional radiocarbon age: **4210±40 BP**

2 Sigma calibrated results: **Cal BC 2900 to 2850 (Cal BP 4850 to 4800) and
95% probability) Cal BC 2820 to 2670 (Cal BP 4770 to 4620)**

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: **Cal BC 2880 (Cal BP 4830)**

1 Sigma calibrated results: **Cal BC 2890 to 2860 (Cal BP 4840 to 4810) and
68% probability) Cal BC 2800 to 2760 (Cal BP 4750 to 4710)**



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-24.6;lab.mult=1)

Laboratory number: **Beta-150481**

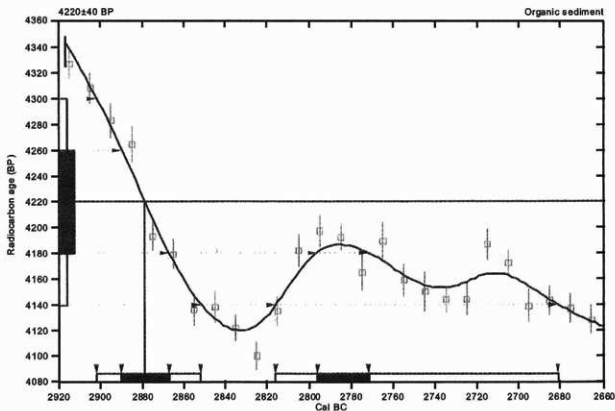
Conventional radiocarbon age: **4220±40 BP**

2 Sigma calibrated results: Cal BC 2900 to 2850 (Cal BP 4850 to 4800) and
Cal BC 2820 to 2680 (Cal BP 4770 to 4630)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal BC 2880 (Cal BP 4830)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 2890 to 2870 (Cal BP 4840 to 4820) and
Cal BC 2800 to 2770 (Cal BP 4750 to 4720)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Tolma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.9‰, δ_{lab} , mult=1)

Laboratory number: **Beta-150482**

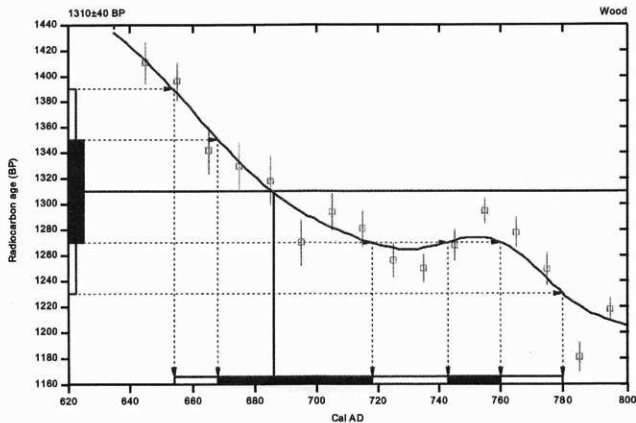
Conventional radiocarbon age: **1310±40 BP**

2 Sigma calibrated result: Cal AD 650 to 780 (Cal BP 1300 to 1170)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal AD 690 (Cal BP 1260)

1 Sigma calibrated results: Cal AD 670 to 720 (Cal BP 1280 to 1230) and
(68% probability) **Cal AD 740 to 760 (Cal BP 1210 to 1190)**



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxti-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-25.4;lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150483**

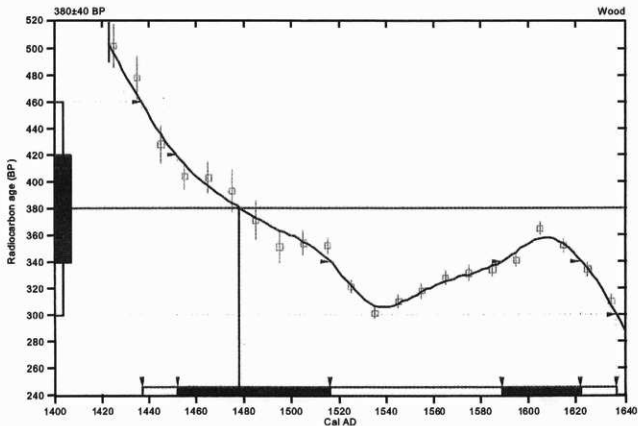
Conventional radiocarbon age: **380±40 BP**

2 Sigma calibrated result: Cal AD 1440 to 1640 (Cal BP 510 to 310)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal AD 1480 (Cal BP 470)

1 Sigma calibrated results: Cal AD 1450 to 1520 (Cal BP 500 to 430) and
Cal AD 1590 to 1620 (Cal BP 360 to 330)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-25.1:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150484**

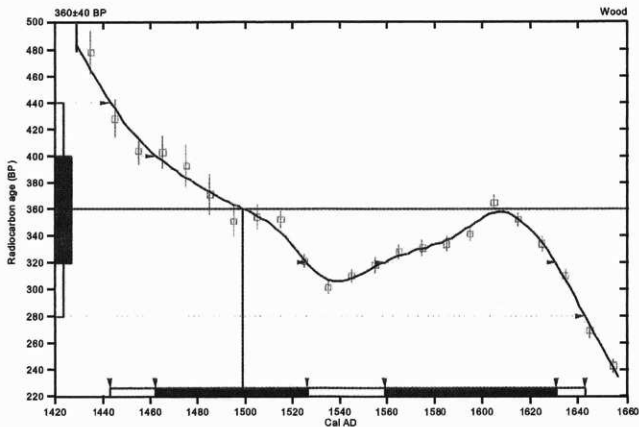
Conventional radiocarbon age: **360±40 BP**

2 Sigma calibrated result: **Cal AD 1440 to 1640 (Cal BP 510 to 310)**
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: **Cal AD 1500 (Cal BP 450)**

1 Sigma calibrated results: **Cal AD 1460 to 1530 (Cal BP 490 to 420) and**
Cal AD 1560 to 1630 (Cal BP 390 to 320)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 3167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

2. 西島松5遺跡から出土した土壌・土器に残存する脂肪の分析

帯広畜産大学生物資源科学科 中野益男
(株)ズコーシャ・総合科学研究所 中野寛子、清水 了
門 利恵、星山賢一

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質、核酸、糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの主体成分は環境の変化に対して不安定で、圧力、水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく、土の中に棲んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは、地下水位の高い低地遺跡、泥炭遺跡、貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近、ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと、古代遺跡から出土した約2千年前のトウモロコシ種子、約5千年前のハーゼルナッツ種子に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した。

脂質は有機溶媒に溶けて、水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質、単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス（種）が脂肪酸であり、その種類、含量ともに脂質中でも最も多い。その脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合を持つ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸、植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように、動植物は種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても、動物性のものはコレステロール、植物性のものはシトステロール、微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って、出土物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれとを比較することによって、目に見える形では遺存しない原始時代の動植物を判定することが可能である。

このような出土遺構・遺物に残存する脂肪を分析する方法を「残存脂肪分析法」という。この「残存脂肪分析法」を用いて西島松5遺跡から出土した土壌と土壌内や土壌側壁袋状ピット内土器の性格を解明しようとした。

1. 土壌および炭化物試料

北海道恵庭市に所在する西島松5遺跡からは、これまでに縄文時代早期から晩期、続縄文時代、擦文時代の遺構や遺物が検出されている。このうち続縄文時代から擦文時代にかけてのものとは推定されている土壌の墳底から採取した土壌試料や土壌内から出土した土器と土壌側壁の袋状ピット内から出土した土器の内面に付着していた炭化物試料を分析した。遺跡内での土壌の配置状況および土壌内外での土壌試料と炭化物試料採取地点を図1に示す。試料No.1～No.4は土壌P90、No.5～No.8はP92のもので、すべて墳底から採取した土壌試料である。試料No.9、No.14、No.15は土壌の頭位側壁中にみられる袋状ピット内、No.10～No.13は土壌内から出土した、土器の内面に付着していた炭化物試料である。試料No.16は対照試料としてそれらの土壌出土地点とは異なる区域から採取した土壌試料である。

2. 残存脂肪の抽出

土壌試料169～848gに3倍量、炭化物試料0.1～0.5gに試料が十分浸漬する量のクロロホルム-メタノール(2:1)混液を加、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液をろ過後、残

渣に再度クロロホルムメタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1%塩化バリウムを全抽出溶媒の4倍の1容量加え、クロロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を表1に示す。抽出率は土壌試料が0.0054~0.00387%、平均0.0099%、炭化物試料が0.0800~4.0909%、平均1.1851%であった。この値は土壌試料が全国各地の遺跡から出土した土壌、石器、土器などの試料の平均抽出率0.0010~0.00100%の範囲内のもので、炭化物試料はそれよりは平均で約120倍も高いものであった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質で構成されていた。その中では遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸が結合したトリアシグリセロール(トリグリセリド)、ステロールエステル、スチロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

3. 残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪の遊離脂肪酸とトリアシグリセロールに5%メタノール性塩酸を加え、125℃封管中で2時間分解し、メタノール分解によって精製した脂肪酸メチルエステルを含む画分をクロロホルムで分離し、さらにジアゾメタンで遊離脂肪酸を完全にメチルエステル化してから、ヘキサノエチルエーテル-酢酸(80:30:1)またはヘキサノエチルエーテル(85:15)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した。

残存脂肪の脂肪酸組成を図2-1と2-2に示す。残存脂肪から12種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸(C16:0)、ステアリン酸(C18:0)、オレイン酸(C18:1)、リノール酸(C18:2)、アラキジン酸(C20:0)、エイコサモノエン酸(C20:1)、ベヘン酸(C22:1)、エルシン酸(C22:1)、リグノセリン酸(C24:0)、ネルボン酸(C24:1)の10種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー質量分析により同定した。

今回の試料No.9~No.15は土器内の炭化物であることから、これらの試料中の脂肪酸は加熱変性を受けていると考えられる。脂肪酸は300℃以上の加熱で大きく変性する。特にパルミチン酸とオレイン酸は加熱後に著しい変化があり、オレイン酸はパルミチン酸へと移行する。そこで標準試料を用いて求めた熱変性の係数で割って、実測値ではない試料の過熱前の脂肪酸組成も算出した。図2-2は試料No.9~No.15については加熱変性後の脂肪酸組成を示したものである。以下の比較検討は加熱変性後の値、即ち実測値で行った。

試料中の脂肪酸組成をみると大きく2つのパターンに分かれ、そのパターンは土壌内土壌試料と土器内炭化物試料で明確に分かれた。このうち炭素数18までの中級脂肪酸は、土壌内土壌試料No.1~No.8では主要な脂肪酸がオレイン酸で次いでパルミチン酸、ステアリン酸の順に多かった。土器内炭化物試料No.9~No.15ではNo.9、No.11、No.13、No.14で主要な脂肪酸がパルミチン酸とオレイン酸ではほぼ同程度分布し、No.10、No.12、No.15で主要な脂肪酸がパルミチン酸であった。対照土壌試料No.16は土器内炭化物試料の組成パターンに近く、主要な脂肪酸がパルミチン酸で次いでステアリン酸とオレイン酸がほぼ同程度分布していた。一般に考古遺物にはパルミチン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解し、パルミチン酸を生成するため、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来ていると推定される。オレイン酸の分布割合の高いものとしては、動物性脂肪と植物性脂肪の両方が考えられ、植物性脂肪は特に根、茎、種子に多く分布するが、動物性脂肪の方が分布割合は高い。オレイン酸はまた、ヒトの骨のみを埋葬した再葬墓試料などにも多く含まれる。ステアリン酸は動物体脂肪や植物の根に比較的多く分布している。リ

ノール酸は主として植物種子・葉に多く分布する。

一方、高等動物、特に高等動物の臓器、脳、神経組織、血液、胎盤に特徴的に見られる炭素数20以上のアラキジン酸、ペヘン酸、リグノセリン酸などの高級飽和脂肪酸はそれら3つの合計含有率が、土壌内土壌試料で約12～19%、土器内炭化物試料で約3%以下、対照土壌試料で約20%であった。通常の遺跡出土土壌中のアラキジン酸、ペヘン酸、リグノセリン酸の高級飽和脂肪酸3つの合計含有率は約4～10%であるから、土壌内土壌試料と対照土壌試料中の高級飽和脂肪酸含有量はやや多めで、土器内炭化物試料中のそれは非常に少なかった。高級飽和脂肪酸含有量が多い場合としては、試料中に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器などの特殊な部分が含まれている場合と、植物の種子・葉などの植物体の表面を覆うワックスの構成成分が含まれている場合とがある。高級飽和脂肪酸が動物、植物のどちらに由来するかはコレステロールの分布割合によって決めることができる。概して、動物に由来する場合はコレステロール含有量が多く、植物に由来する場合はコレステロール含有量が少ない。

以上、西島松5遺跡の内料中の脂肪酸組成は土壌内土壌試料と土器内炭化物試料で明確に2つのパターンに分かれ、土壌内土壌試料中では主要な脂肪酸がオレイン酸で、土器内炭化物試料中では主要な脂肪酸がオレイン酸で、土器内炭化物試料中では主要な脂肪酸がパルミチン酸とオレイン酸の両方であるか、パルミチン酸であることがわかった。高級飽和脂肪酸は土壌内土壌試料中ではやや多く、土器内炭化物試料中では非常に少ないこともわかった。対照土壌試料の脂肪酸組成パターンの傾向は土器内炭化物試料の傾向に近かったが、高級飽和脂肪酸は土壌内土壌試料並みに含まれていた。

4. 残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキサノール-エチルエーテル酢酸(80:30:1)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジン-無水酢酸(1:1)を空室気流下で反応させてアセテート誘導体にする。得られた誘導体をもう一度同じ展開溶媒で精製してから、ガスクロマトグラフィーより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図3に示す。残存脂肪から9～24種類のステロールを検出した。このうちコプロスタノール、コレステロール、エルゴステロール、カンベステロール、スチグマステロール、シトステロールなど8種類のステロールをガスクロマトグラフィー-質量分析より同定した。

試料中ステロール組成をみると、動物由来のコレステロールは土壌内土壌試料と対照土壌試料中に約4～7%、土器内炭化物試料中に約84%～87%分布していた。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは2～6%分布している。従って、土壌内土壌試料と対照土壌試料中のコレステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みで、土器内炭化物試料中でのそれは非常に多かった。

植物由来のシトステロールは土壌内土壌試料と対照土壌試料中に約22～31%、土器内炭化物試料中に約2～13%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはシトステロールは30～40%、もしくはそれ以上に分布している。従って、土壌内土壌試料と対照土壌試料中のシトステロール含有量は通常の遺跡出土土壌の植物腐植土中よりも少なめではあるが、かなり植物腐植土中での含有量に近く、土器内炭化物試料中でのそれは非常に少ないものであった。

クリ、クルミなどの堅果植物由来のカンベステロール、スチグマステロールは、カンベステロールがすべての試料中に約1～10%、スチグマステロールが土壌内土壌試料と対照土壌試料中に約7～11%、土器内炭化物試料中に約1～3%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはカンベステロール、スチグマステロールは1～10%分布している。従って、試料中のカンベステロール、スチグマステロール含有量はすべてほぼ通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであったが、土器内炭化物試料中

はカンベステロール、ステグマステロールのいずれもがほぼ3%以下の含有量で、他の土壌試料中よりもかなり少なめであった。

微生物由来のエルゴステロールは試料No.3、No.9、No.15、に痕跡程度、他のすべての試料中に約0.3~3.3%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはエルゴステロールは数%分布している。従って、この程度の量は土壌微生物の存在による結果と考えられる。

哺乳動物の腸および糞便中に特異的に分布するコプロスタノールは、試料No.10、No.14、No.15に痕跡程度、No.1、No.7~No.9に約3~4%、他のすべての試料中に約0.1%~2.5%分布していた。コプロスタノールは通常の遺跡出土土壌中には分布していないが、1~2%程度の量は検出されることがある。また、コプロスタノールの分布により試料中での哺乳動物の存在を確認することができる他に、コプロスタノールが10%以上含まれると、試料中に残存している脂肪の動物種や性別、また遺体の配置状況などが特定できる場合がある。今回はコプロスタノールが10%以上含まれている試料はなかったが、試料No.1、No.7~No.9には通常よりはごくわずかに多く含まれており、これらの試料中には哺乳動物の腸もしくは糞便由来の脂肪がごくわずかに残存していた可能性が考えられる。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壌で0.6以上、土器・石器・右製品で0.8~23.5である。試料中のコレステロールとシトステロールの分布比を表2に示す。表からわかるように、分布比は土壌内土壌試料と対照土壌試料がすべて0.3以下、土器内炭化物試料はすべて4.0以上であった。従って、分布比は土壌内土壌試料と対照土壌試料中には動物遺体もしくは動物由来の脂肪がほとんど残存しておらず、逆に土器内炭化物試料中にはそれが非常に多く残存していることを示唆している。

以上、西島松5遺跡の試料中に含まれている各種ステロール類は、動物由来のコレステロールがすべての土器内炭化物試料中に非常に多く、哺乳動物由来のコプロスタノールがP90内土壌試料No.1、P92内土壌試料No.7、No.8、P8土器内炭化物試料No.9にごくわずかに多めである他は、すべて通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みか少なめであることがわかった。植物由来のシトステロール、堅果植物由来のカンベステロール、ステグマステロールはほぼ通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みの含有量であったが、土器内炭化物試料中では特に非常に少なめのものが多かった。これは炭化物の主成分が動物脂肪に由来していることを示唆している。コレステロールとシトステロールの分布比はすべての土器内炭化物試料が4.0以上で、すべての炭化物試料中に動物遺体もしくは動物由来の脂肪が非常に多く現存していることがわかった。ステロール分析の結果を考えた場合、土器内炭化物試料中にはあれほど多くのステロールが含まれているにもかかわらず、高級飽和脂肪酸は逆に非常に少ないので、脂肪酸分析で多めに含まれていた高級飽和脂肪酸は植物体の表面を覆うワックスの構成成分由来のものと推測される。

5. 脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料の類似度を調べた。同時に土壌内土壌試料No.1~No.8と対照試料No.16については、同じ北海道内の遺跡で出土土壌にヒト遺体を直接埋葬した場合と類似の脂肪やヒトの骨部分をよく含むヒト遺体全般の脂肪が残存していると判明した美沢3遺跡、遺跡A-2地区、納内3遺跡、滝里38遺跡、キウス4B遺跡、キウス4遺跡I地区、キウス5キウス5遺跡B区、C地区、キウス7遺跡、ユカンボシC15遺跡、ユカンボシE7遺跡、オバルベツ2遺跡、出土土壌を土壌出土土壌や出土土器にヒトの骨のみを埋納した場合と類似の脂肪が残存していると判明した

北海道栄町5遺跡、出土土壌を再葬墓と判定した宮城県摺藪遺跡、ヒトの骨油試料など各種遺跡試料や現生試料の脂肪酸との類似度を比較した。土器内炭化物試料No.9～No.15については、これらの試料の加熱変性前後の脂肪酸や現生動物試料の脂肪酸との類似度を比較した。予めデータベースの脂肪酸組成と試料中のそれとでクラスター分析を行い、その中から出土状況を考慮して類似度の高い試料を選び、再びクラスター分析によりパターン間距離にして表したのが試料No.1～No.8とNo.16については図4-1、No.9～No.15については図4-2である。

図4-1をみると、西島松5遺跡のすべての土器内土壌試料No.1～No.8はオバルベツ2遺跡、ユカンボシE7遺跡、摺藪遺跡、栄町5遺跡の試料やヒトの骨油試料と共に相関行列距離0.1以内でA群を形成し、よく類似していた。西島松5遺跡の対照土壌試料No.16は滝里38遺跡、キウス5遺跡B地区、C地区、キウス5遺跡A-2地区、オバルベツ2遺跡、キウス4B遺跡、キウス7遺跡、キウス4遺跡I地区の試料と共に相関行列距離0.1以内でB群を形成し、よく類似していた。他の対照試料はC～E群を形成した。従って、西島松5遺跡のすべての土器内土壌試料中に残存する脂肪は、ヒトの骨のみを埋葬したことに関わる遺跡試料の脂肪やヒトの骨油と類似しているといえる。

図4-2をみると、西島松5遺跡の土器内炭化物試料No.9～No.15とNo.10、No.12の加熱前換算値試料はエゾシカ、イヌ、オットセイ、イルカ、アユ試料と共に相関行列距離0.15以内でA'群を形成し、類似していた。西島松5遺跡の試料No.9、No.11、No.13～No.15の加熱前換算値試料はヒグマ、アザラシ、オオカミ(またはヤマユス)試料と共に相関行列距離0.1以内でC'群を形成し、よく類似していた。他の対照試料はB'群、D'～H'群を形成した。これらの群のうちA'群とB'群は相関行列距離0.15以内の所にあり類似しており、C'群とD'群も相関行列距離0.15以内の所にあり類似していた。

クラスター分析の成績から西島松5遺跡の土器内炭化物試料No.9～No.15とNo.10、No.12の加熱前換算値試料中にはエゾシカ、イヌ、タヌキのような動物、オットセイ、イルカのような海産動物、モズ、アカハラ、エゾライチョウのような野鳥、アユのような淡水性魚類試料の脂肪、試料No.9、No.11、No.13～No.15の加熱前換算値試料中にはオオカミ(またはヤマユス)、ヒグマのような動物、アザラシのような海産動物、カヤ、トチのような堅果植物試料の脂肪の混在が推測された。そこでクラスター分析から導き出されたこれらの動植物がどれくらいの割合で混ざっているかを求めた。相関行列距離の短い動植物の脂肪酸組成に基づいて、ラグランジェの未定係数法を用いて誤差の二乗和が最も小さくなるような動植物の組み合わせを数理計算し、試料中の動植物の分布割合を求めた。相関行列距離により異なる群を形成し、動植物の組み合わせが異なった試料として、試料No.9とNo.10の具体的な数値を表3-1と3-2に、すべての土器内炭化物試料No.9～No.15での動植物の分布割合を表4を示す。今回はクラスター分析に用いた現生動植物試料が非加熱試料であるため、ラグランジェの未定係数法による計算も土器内炭化物試料の加熱前換算値で行なった。表3-1の試料No.9を例にとれば、No.9に残存する動植物がオオカミ(またはヤマユス)57.6%、蚊帳5.4%、土地4.1%、アザラシ9.2%、ヒグマ3.8%である時、試料中の残存脂肪分析値が計算上の分析値に最も誤差なく近似することを示している。これらの試料の分析値の誤差の二乗和の最少値はすべて100以下で、誤差の二乗和の最小値が100以下である場合はこの分布割合は一応の目安になるものである。従って、試料No.9、No.11、No.14に共通して多く残存している動植物としてはオオカミ(またはヤマユス)、カヤ、トチが挙げられ、これらの動植物の脂肪が約84～87%を占めていた。試料No.13とNo.15ではオオカミ(またはヤマユス)、ヒグマ、アザラシが約88%を占めていた。試料No.10とNo.12ではアユのような淡水性魚類、モズのような野鳥が約43～44%を占めていた。

以上、西島松5遺跡のすべての土器内土壌試料中に残存する脂肪は、ヒトの骨のみを埋葬したこと

関わる遺跡試料の脂肪やヒトノ骨油と類似していることがわかった。土器内炭化物試料中に残存する脂肪は、エゾシカ、イヌ、タヌキのような動物、オットセイ、イルカのような海産動物、モズ、アカハラ、エゾライチョウのような野鳥、アユのような淡水性魚類試料に類似するものと、オオカミ(またはヤマイヌ)、ヒグマのような動物、アラザシのような海産動物、カヤ、トチのような堅果植物試料の脂肪に類似するものに分かれ、前者のタイプは試料No.10とNo.12、後者のタイプはNo.9、No.11、No.13～No.15であった。その中でも試料No.9、No.11、No.14に共通して多く残存している動物としてはオオカミ(またはヤマイヌ)、カヤ、トチが挙げられ、これらの脂肪が約84～87%、No.13とNo.15ではオオカミ(またはヤマイヌ)、ヒグマ、アラザシが約86%、No.10とNo.12ではアユのような淡水性魚類、モズのような野鳥が約43～44%占めていることもわかった。

6. 脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸(炭素数16のパルミチン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸まで)と高級脂肪酸(炭素数20のアラキジン酸以上)との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器などに由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤、第2象限原点から離れた位置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれに分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植、第3象限から第4象限にかけての原点から離れた位置に海産動物に由来する脂肪が分布する。

試料の残存脂肪から求めた種特異性相関を図5に示す。図からわかるように、土壌内土壌試料は試料No.3がX軸上、No.7が第2象限内に分布した他は、すべて第3象限内に分布した。土器内炭化物試料はすべて第2象限内に分布した。土壌内土壌試料のそれは高等動物の体脂肪や骨油に由来することを示唆している。

以上、西島松5遺跡のすべての土壌内土壌試料No.1～No.8と対照土壌試料No.16に残存する脂肪は植物腐植土に由来し、土器内炭化物試料No.9～No.15に残存する脂肪は高等動物の体脂肪や骨油に由来することがわかった。

7. 総括

西島松5遺跡から出土した土壌と土壌内や土壌側袋状ビット内土器の性格を判定するために、土壌内外の土壌試料と土器内の炭化物試料の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪の脂肪酸分析、ステロール分析、脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果、土壌P90とP92に残存する脂肪はヒトの骨のみを埋葬したことに関わる遺跡試料の脂肪やヒトの骨油と類似していることがわかった。哺乳動物由来のコプロスタノールが土壌P90の試料No.1に約4%、P92の試料No.7とNo.8に約3%含まれていることと、これらの土壌に残存する脂肪がヒトの骨のみと類似することは一致しない。しかし、コプロスタノールが含まれていても非常にわずかであり、これらの土壌が浅いことも考えると、土壌の内容物を示唆するような哺乳動物に由来する脂肪が残存していると判定できない。後世に哺乳動物や糞便由来の脂肪で汚染された可能性も考えられる。土器P8、P89、P101、P131、P145内炭化物試料No.9、No.11、No.13～No.15に残存する脂肪はオオカミ(またはヤマイヌ)、ヒグマのような動物、アラザシのような海産動物、カヤ、トチのような堅果植物の脂肪が84～87%、P101とP145のそれはオオカミ(またはヤマイヌ)、ヒグマのような動物とアラザシのような海産動物の脂肪が86%分布している

時に、試料中の残存脂肪分析値の加熱前換算値が計算上の分析値に最も誤差なく近似することがわかった。P39とP97に残存する脂はエゾシカ、イヌ、タヌキのような動物、オットセイ、イルカのような海産動物、モズ、アカハラ、エゾライチョウのような野鳥、アユのような淡水性魚類試料の脂肪と類似しており、その中でもアユのような淡水性魚類とモズのような野鳥の脂肪が43~44%分布している時に、試料中の残存脂肪分析値の加熱前換算値が計算上の分析値に最も誤差なく近似していることがわかった。

参考文献

- (1) R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle: 「Food identification of samples from archaeological sites」, 『Archaeo Physika』, 10巻, 1979, pp260.
- (2) D. A. Priestly, W. C. Galinat and A. C. Leopold: 「Preservation of polyunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」, 『Nature』, 295巻, 1981, pp146.
- (3) R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle: 「Analyse fr_ugeschichtlicher Gef_inhalte」, 70巻, 1983, pp33.
- (4) 中野益男: 「残存脂肪分析の現状」, 『歴史公論』, 第10巻(6), 1984, pp124.
- (5) M. Nakano and W. Fischer: 「The Glycolipids of *Lactobacillus casei* DSM 20021」, 『Hoppe-Seyler's Z. Physiol. Chem.』, 358巻, 1977, pp1439.
- (6) 中野益男: 「残留脂肪酸による古代復元」, 『新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』, 田中 琢, 佐原 真編, クバプロ, 1995, pp148.
- (7) 中野益男, 伊賀 啓, 根岸 孝, 安本教博, 畑 宏明, 矢吹俊男, 佐原 真, 田中 琢: 「古代遺跡に残存する脂質の分析」, 『脂質生科学研究』, 第28巻, 1984, pp40.
- (8) 中野益男: 「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」, 『真脇遺跡』, 石川県鳳至郡能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団, 1989, pp191.
- (9) 中野益男, 根岸 孝, 長田正宏, 福島道広, 中野寛子: 「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」, 『ヘロカルウス遺跡』, 北海道文化財研究所調査報告書大集, 北海道文化財研究所, 1987, pp191.
- (10) 中野益男, 福島道広, 中野寛子, 長田正宏: 「美沢3遺跡の土壌に残存する脂肪の分析」, 『美沢川流域の遺跡群Ⅶ』, (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第58週, (財)北海道埋蔵文化財センター, 1998, pp237.
- (11) 中野益男, 福島道広, 中野寛子, 長田正宏: 「納内3遺跡の遺構群に残存する脂肪の分析」, 『納内3遺跡』, (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第60集, (財)北海道埋蔵文化財センター, 1998, pp141.
- (12) 中野寛子, 明瀬雅子, 長田正宏, 中野益男: 「滝里38遺跡の土壌に残存する脂肪の分析」, 『滝里遺跡群Ⅱ』, (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第74集, (財)北海道埋蔵文化財センター, 1990, 1991, pp93.
- (13) 中野益男, 中野寛子, 星山賢一: 「キウス4B遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, (財)北海道埋蔵文化財センター.
- (14) 中野益男, 中野寛子, 星山賢一: 「キウス4遺跡1地区から出土した遺構に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, (財)北海道埋蔵文化財センター.
- (15) 中野益男, 中野寛子, 長田正宏: 「キウス5遺跡A-2地区から出土した土器・土壌に残存する

- 脂肪の分析」、『キウス5遺跡(5)』、(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第125集第2分冊、(財)北海道埋蔵文化財センター、1998、pp331.
- ①6 中野益男、中野寛子、長田正宏：「キウス5遺跡B地区、C地区から出土した土壌に残存する脂肪の分析」、『未発表』、(財)北海道埋蔵文化財センター。
- ①7 中野益男、中野寛子、長田正宏：「キウス7遺跡から出土した土壌・土器に残存する脂肪の分析」、『未発表』、(財)北海道埋蔵文化財センター。
- ①8 中野益男、中野寛子、星山賢一：「ユカンボシC15遺跡から出土した土壌・土器に残存する脂肪の分析」、『未発表』、(財)北海道埋蔵文化財センター。
- ①9 中野益男、中野寛子、星山賢一：「ユカンボシE7遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析」、『未発表』、(財)北海道埋蔵文化財センター。
- ②0 中野益男、中野寛子、長田正宏：「オバルベツ2遺跡・栄原2遺跡の土壌・礫に残存する脂肪の分析」、『未発表』、北海道山越郡長万部町教育委員会、(1回目)
- ②1 中野益男、中野寛子、清水了、門利恵、長田正宏：「オバルベツ2遺跡から出土した土壌に残存した脂肪の分析」、『未発表』、北海道山越郡長万部町教育委員会、(2回目)
- ②2 中野益男、中野寛子、清水了、門利恵、星山賢一：「オバルベツ2遺跡から出土した土壌に残存した脂肪の分析」、『オバルベツ2遺跡(2)』、北海道文化財保護協会調査報告書第13集、北海道文化財保護協会、2000、pp29.
- ②3 中野益男、中野寛子、福島道広、長田正宏：「寺田遺跡土壌墓状遺構に残存する脂肪の分析」、『未発表』、兵庫県芦屋市教育委員会。
- ②4 中野益男、幅口剛、福島道広、中野寛子、長田正宏：「原川遺跡の土器棺に残存する脂肪の分析」、『原川遺跡I』、静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書第17集、(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所、1988、pp79.
- ②5 中野寛子、明瀬雅子、長田正宏、中野益男、福島道広：「栄町5遺跡の土壌に残存する脂肪の分析」、『余市町フゴッペ貝塚』、(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第66集、(財)北海道埋蔵文化財センター、1991、pp578.
- ②6 中野益男、福島道広、中野寛子、長田正宏：「摺藪遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」、『摺藪遺跡』、宮城県文化財調査報告書第132集、宮城県教育委員会・宮城県土木部水資源開発課、1990、pp929.
- ②7 大地羊三：「電子計算機的手法とその応用」、『土木工学大成』、第4巻、東京、森北出版、1970.

表1 試料の残存脂肪抽出量

試料No.	採取地点	湿重量(g)	全脂質(mg)	抽出率(%)
1	P90 墳底①	777.5	64.9	0.0083
2	" 墳底②	833.3	50.9	0.0061
3	" 墳底③	847.5	49.3	0.0058
4	" 墳底④	802.4	59.3	0.0074
5	P92 墳底①	434.8	24.1	0.0055
6	" 墳底②	538.2	32.0	0.0059
7	" 墳底③	319.2	17.1	0.0054
8	" 墳底④	319.8	20.8	0.0065
9	P8 袋状ピット内	0.1	0.3	0.2308
10	P39 覆土中	0.5	0.4	0.0800
11	P89 覆土中	0.2	0.4	0.2500
12	P97 覆土中	0.1	2.5	2.2727
13	P101 墳底直上	0.2	0.4	0.1818
14	P131 袋状ピット内	0.4	4.4	1.1892
15	P145 袋状ピット内	0.1	4.5	4.0909
16	a-1区 II層(対照土)	168.8	65.4	0.0387

表2 試料中に分布するステロールの割合

試料No.	プロスタノール(%)	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール /シトステロール
1	3.96	6.94	28.28	0.25
2	1.50	5.80	28.23	0.21
3	1.74	4.65	31.40	0.15
4	2.45	5.09	27.61	0.18
5	2.14	4.05	28.79	0.14
6	1.79	4.46	30.30	0.15
7	3.03	4.43	26.40	0.17
8	3.00	4.57	26.85	0.17
9	3.43	66.52	8.60	7.73
10	tre.	77.04	1.71	45.05
11	0.11	87.37	1.72	50.80
12	2.05	71.27	3.15	22.63
13	1.97	73.07	4.73	15.45
14	tre.	63.89	13.47	4.74
15	tre.	84.67	2.75	30.79
16	2.30	4.59	21.89	0.21

表 3-1 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した動植物脂肪の分布割合

脂肪酸	No.9	ヒヅマ	オオカミ	アザラシ	カヤ	トチ	計算値	動植物
C16:0	18.8	14.0	22.1	23.3	24.2	12.7	18.7	14.24
C16:1	-	8.0	4.4	13.3	-	-	2.4	
C16:2	-	-	-	-	1.9	-	0.7	
C18:0	21.8	4.8	18.9	6.7	4.2	2.3	22.5	
C18:1	49.3	66.3	50.0	42.7	48.5	46.2	49.5	
C18:2	2.8	2.0	2.7	0.6	20.9	24.7	4.0	
C20:0	1.6	0.5	0.3	0.5	-	5.7	2.1	
C20:1	2.8	1.5	1.2	8.9	-	6.8	1.8	
C20:2	-	-	-	0.1	-	0.1	0	
C22:0	1.0	0.1	-	0.1	-	1.3	0.4	
C22:1	2.0	0.1	-	0.9	-	-	0.2	
C22:2	-	0.5	-	-	-	-	0	
C24:0	-	-	-	-	-	0.2	0.1	
分布割合(%)		3.8	57.6	9.2	15.4	14.1		

表3-2 試料中に検出する脂肪の脂肪酸組成から算出した動物脂肪の分布割合

脂肪酸	No.10	エ/シカ	タキ	イ	マ	7カウ	エ/ライヨウ	キツヒ	イナ	7ユ	計算値	最小二乗法
C16:0	31.0	43.9	25.5	38.3	34.3	25.3	27.9	38.2	34.6	37.5	30.5	52.60
C16:1	-	10.7	5.9	4.8	3.7	5.0	2.2	12.7	8.5	16.5	1.5	-
C16:2	-	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1	-
C18:0	28.9	7.9	15.9	9.9	14.2	14.3	20.6	9.4	14.4	4.6	25.7	-
C18:1	28.2	29.2	21.6	35.8	19.0	20.7	11.5	25.2	25.4	26.8	27.5	-
C18:2	3.8	1.1	20.1	11.2	13.7	13.8	24.7	3.0	8.1	12.4	4.1	-
C18:3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	3.3	-
C20:0	1.8	2.2	1.5	-	5.0	6.5	-	2.6	6.9	-	3.5	-
C20:1	3.7	1.3	0.5	-	0.4	0.3	0.4	0.7	-	-	1.4	-
C20:2	-	-	0.4	-	-	-	0.5	-	-	-	0.5	-
C20:4	-	-	-	-	4.1	6.5	9.3	-	-	-	1.3	-
C20:5	-	-	-	-	1.1	1.3	0.7	-	-	-	0.9	-
C22:0	0.9	0.5	0.8	-	0.1	tre.	-	-	-	0.2	0.2	-
C22:1	1.4	-	0.2	-	0.1	-	0.2	2.4	-	-	2.4	-
C22:2	-	0.2	0.7	-	0.1	-	0.2	-	-	-	0.4	-
C22:5	-	-	-	-	4.0	5.6	1.6	-	-	-	3.7	-
C24:0	0.5	0.9	1.3	-	0.3	0.4	0.4	-	-	-	1.0	-
C24:1	-	-	1.3	-	0.1	-	-	-	-	-	0.4	-
分布割合(%)		6.5	6.7	8.2	19.0	1.3	9.5	13.8	11.1	24.0		

表4 試料中に残存する動物脂肪の分布割合(%)

試料No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
No.9	3.8	57.6	-	-	-	-	-	-	-	-	9.2	-	15.4	14.1
No.10	-	-	6.5	6.7	8.2	19.0	1.3	9.5	13.8	11.1	-	24.0	-	-
No.11	10.1	44.6	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8	-	22.1	17.4
No.12	-	-	3.5	1.9	15.8	25.5	9.1	6.5	9.1	10.1	-	18.6	-	-
No.13	9.4	68.3	-	-	-	-	-	-	-	-	8.4	-	6.7	7.3
No.14	5.9	61.7	-	-	-	-	-	-	-	-	9.0	-	13.2	10.3
No.15	15.0	62.9	-	-	-	-	-	-	-	-	8.3	-	7.2	6.6

* 対象名

- 1:ヒグマ
2:オオカミ
3:エゾシカ
4:タヌキ
5:イヌ
6:モス
7:アカハラ
8:エゾライチヨウ
9:オットセイ
10:イルカ
11:アザラシ
12:アユ
13:カヤ
14:トチ

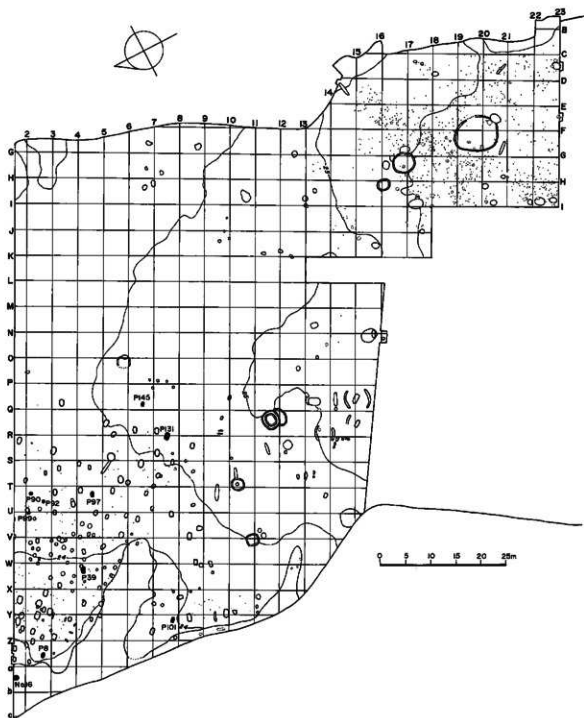


図1 土壤試料と炭化物試料採取地点

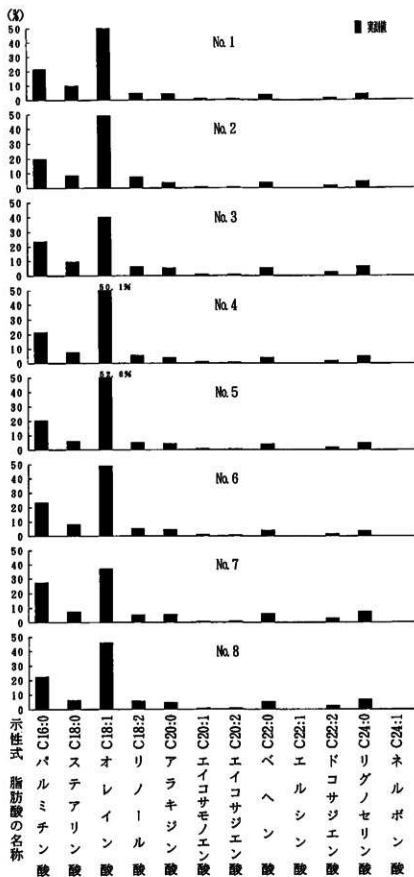


図 2-1 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成

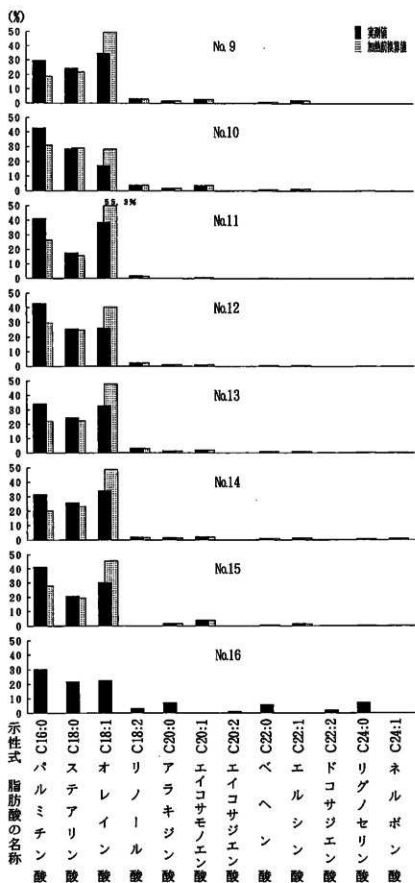


図 2-2 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成

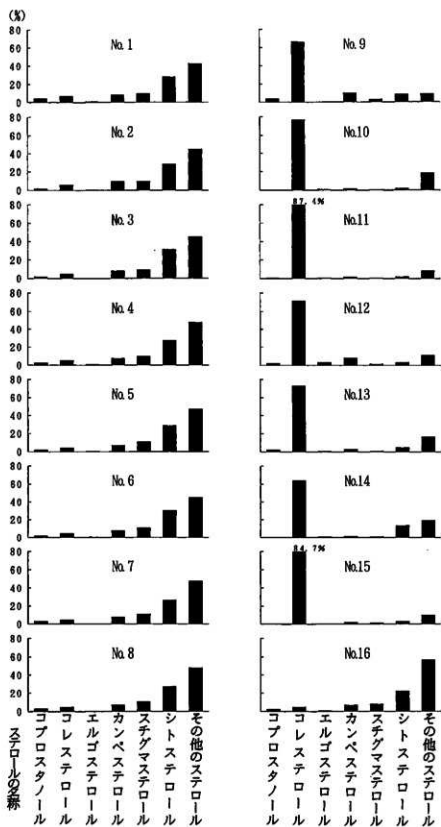


図3 試料中に残存する脂肪のステロール組成

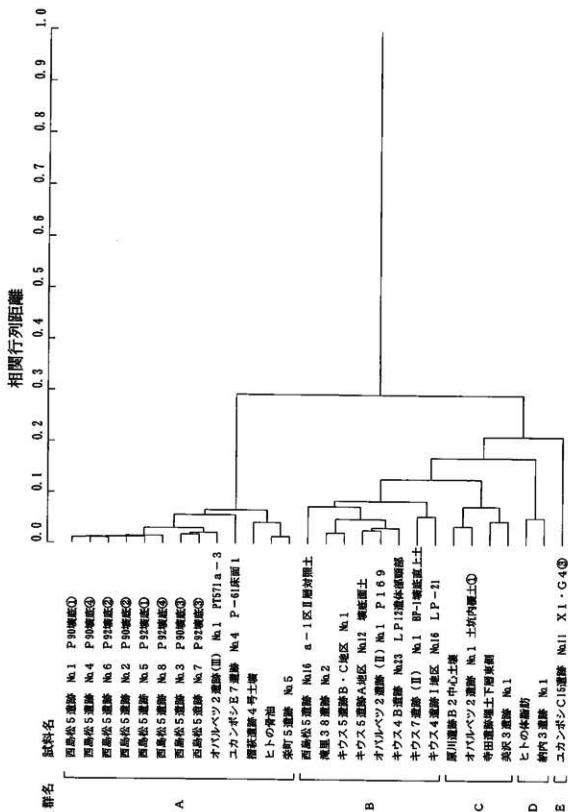


図4-1 試料中に残存する脂肪の階級組成樹状構造図

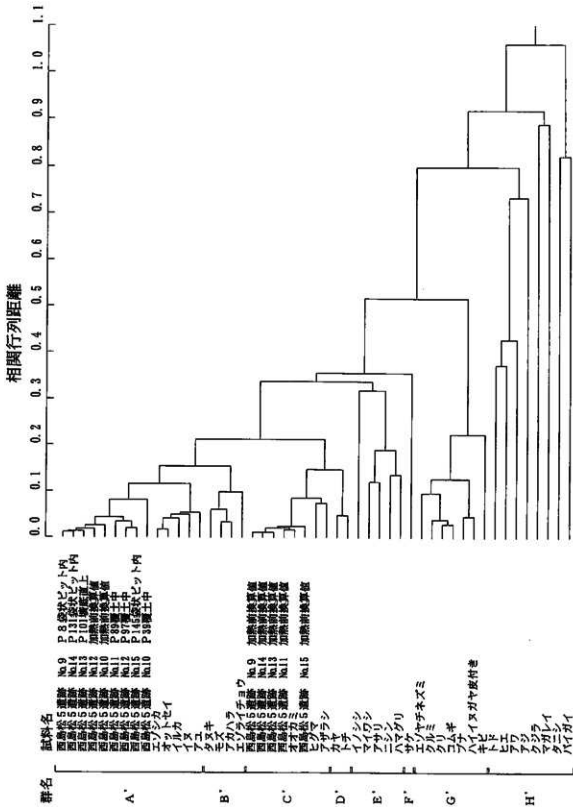


図 4-2 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

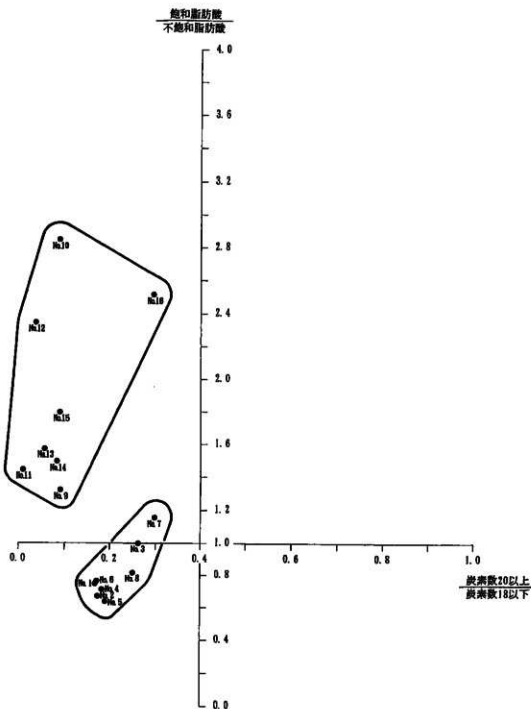


図5 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

3. 恵庭市西島松5遺跡から出土した縄文時代人骨

乗安整而(札幌医科大学)
松村博文(国立科学博物館)

緒言

恵庭市の北に位置する西島松5遺跡より、縄文時代前半の人骨が出土した。人骨が残存していたのは、P16、P101、P150、P179、P119号の墳墓である。保存状態は極めて不良であり、検出された部位は頭蓋の一部および破片と歯である。これらの人骨について、観察と歯による人類学的所見を得たので報告する。写真は、P16号人骨とP179号人骨の一部で、図版1に掲載した。

所見

P16号人骨 幼児 性別不明(図版1)

幼児人骨の側頭骨の錐体を含む脳頭蓋の破片が検出された。年齢、性別などは不明である。

P101号人骨 年齢・性別不明

わずかな骨粉のみ検出。性別、年齢などは不明。

P119号人骨 年齢・性別不明

頭蓋骨の左側頭骨の一部と錐体と判別できる部位のみが残存する。錐体部の前縁部と後縁部の一部は欠損している。錐体部長軸における最大長は47mmで、これに直角な最大幅は27mmである。前縁では頸動脈管内口が開口している。上面では三叉神経圧痕、および上錐体洞溝が認められる。その外側では大錐体神経溝から大錐体神経管裂孔へと続いていることが確認できる。下面では頸動脈管外口と頸静脈切痕がみられる。内面では内耳孔が存在するが、その孔はやや縦位の傾向を示している。外側部は鼓室部が欠損し、その後部の乳突蜂巣が露出する。

P150号人骨 年齢・性別不明

わずかな骨粉のみ検出。性別、年齢などは不明。

P179号人骨 壮年 男性(写真図版1)

残存するのは歯列のみであった。切歯や犬歯などの前歯は破損が著しく、小臼歯から大臼歯の後歯のみが、かろうじて原形をとどめている。これらの後歯も上顎は比較的良好的に保存されている歯種もみられるが、下顎の歯はかなり破損している。破損の著しい歯も含めて検出された歯種は以下の歯式に示されるとおりである。

$$\begin{array}{r} 8765///|///45678 \\ X/6543//|/234567X \end{array}$$

咬耗はBrocaの2度弱、ただし上顎の第3大臼歯は1度ほどである。従って、第3大臼歯が萌出してからさほどの年を経たようにもみえるが、咬合する下顎の第3大臼歯が先天的に欠如している可能性もあるので、咬耗がさほど進行していないのかもしれない。しかし他の歯の咬耗もさほど著しく

ないことから、被葬者の年齢は、壮年後半(30-40歳)と推定される。カリエスも歯石も観察できる範囲においては認められない。

歯冠の計測は、一部の小臼歯と大臼歯のみに対して行うことが可能であった。計測結果は表1に示されたとおりである。被葬者の性別については推定が困難であるが、歯の大きさに性差が存在することが知られているので、性別分析による性別判別を試みた。現時点では縄文時代の人骨の歯のまとまったデータがないため、他の縄文時代人を性別判別のための基準とすることは困難である。そこで近世アイヌを用いるのが適当と考えられるが、この被葬者が在地のアイヌの系統に属する人物とは限らない。本州からの和人の可能性もあるからである。しかし、アイヌか和人かを判定するには、歯の大きさなどから分析する以外にない。その分析には、性別がわかっていることが前提となる。そこで、性別判定を優先することとし、この被葬者がアイヌの系統とした場合と和人とみなした両方のケースを想定し、性別判別分析をおこなった。計算に用いた計測項目は、被葬者から得ることの可能であった表1の8項である。性別判別分析の結果を表2に示す。アイヌ(Matsumura, 1989)を基準にした判別関数と、和人として本州の古墳時代人(Matsumura, 1990)を基準とした判別関数を導き出した。正答率は判別の精度をあらわす。いずれも70%代であり、さほど高い正答率ではないが、歯冠径を用いた性別別としては妥当な精度である。この判別分析では、判別得点が正であれば男性、負であれば女性と判別される。被葬者をアイヌの系統と仮定しても、和人の系統と仮定しても、どちらの場合もこの被葬者は男性に判別された。また男性に属する確率は、アイヌとした場合も和人とした場合も80%以上であり、かなりの確からしきで、被葬者の性別は男性であるといえる。

次に、この被葬者がアイヌの系譜に属するのか、和人かの判別をおこなった。和人のデータは、同じく本州の古墳時代人男性を用いた。結果は表3に示されるとおりである。判別関数に用いた項目は、先の性別判別分析と同じである。アイヌと和人(古墳人)の集団間の判別の正答率は87%と高い。和人(古墳人)の歯がアイヌに比べてかなり大きいことが知られており(Matsumura, 1990)、歯冠径を用いた判別分析によって、高い正答率で判別できるのは当然の結果である。判別得点が正の値であれば和人、負であればアイヌの系譜に属することになるが、被葬者の得点は負の値であり、アイヌの系譜に判別されたことになる。しかも、この被葬者がアイヌの系譜に属する確率は99.9%と算出された。従って、被葬者はアイヌの系譜に属する男性であることにほぼ間違いのないといえる。

結論

性別・年齢の推定まで可能であったのは、P16号人骨とP179号人骨のみであった。P16号人骨は幼児であること以外の情報を得ることはできなかった。P179号人骨については、残存する歯の分析により、年齢、性別は、壮年男性と推定された。またこの被葬者の集団の帰属は、和人ではなくアイヌの系譜である可能性が示された。

文献

Matsumura H. (1989) Geographical variation of dental measurements in the Jomon population. 人類学雑誌, 97:493-512

Matsumura H. (1989) Geographical variation of dental characteristics in the Japanese Of the Protohistoric Kofun period. 人類学雑誌, 98:439-449

表1 西島松5遺跡出土P179号人骨の歯冠計測値

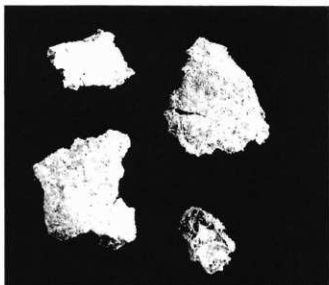
		左		右	
		近遠心径	頬舌径	近遠心径	頬舌径
上顎	中切歯				
	側切歯				
	犬歯				
	第1小白歯	5.03			
	第2小白歯	5.22	8.05		
	第1大白歯	8.97			
	第2大白歯	8.21	10.74		
	第3大白歯	7.40	9.46	8.1	9.94
下顎	中切歯				
	側切歯				
	犬歯				
	第1小白歯				
	第2小白歯				
	第1大白歯				
	第2大白歯	9.98	10.01		
	第3大白歯				

表2 西島松P179号人骨の歯冠径にもとづく性別別結果

		近世アイヌを基準にした場合	和人(古墳人)を基準にした場合
		性別別係数	性別別係数
近遠心径			
上顎	第1小白歯	-1.7132	-0.3735
	第2小白歯	-0.4811	-0.7236
	第1大白歯	2.4732	1.2122
	第2大白歯	-1.1115	-1.0149
下顎	第2大白歯	0.5553	-0.8108
頬舌径			
上顎	第2小白歯	0.1752	-0.2463
	第2大白歯	0.3211	0.3713
下顎	第2大白歯	0.3492	2.6501
定数		-14.5208	-16.2558
性別別分析に用いた個体数		55	50
性別別の正答率		70.00%	78.00%
西島松P179号の性別別得点		1.306	-2.65
西島松P179号の性別別結果		男性	男性
判別された性に属する確率		83.00%	85.20%

表3 歯冠径に基づく和人(古墳人)とアイヌの判別関数と
西島松P179号人骨に対する判別結果

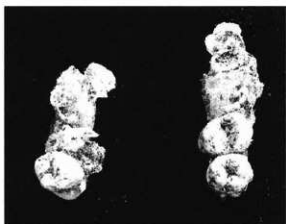
	判別係数
近遠心径	
上顎 第1小臼歯	1.0375
第2小臼歯	1.2156
第1大臼歯	-0.312
第2大臼歯	0.3965
下顎 第2大臼歯	-0.0923
頬舌径	
上顎 第2小臼歯	0.4780
第2大臼歯	0.1275
下顎 第2大臼歯	-0.1744
定数	-19.2483
性判別分析に用いた個体数	57
集団判別の正答率	87.70%
西島松P179号の判別得点	-4.678
西島松P179号の判別結果	アイヌ
判別された集団に属する確率	99.90%



P16号人骨
幼児の頭蓋片



P179号人骨
埋葬状態での
下顎歯列



P179号人骨
分離された
上顎歯列

図版1 出土人骨

4. 西島松5遺跡出土の歯

札幌医科大学 松村博文

北海道埋蔵文化財センターによる2000年度の西島松5遺跡の発掘調査において、8基の土壌からヒトの歯が検出された。以下に保存状態と所見を記す。

P 2

土壌底の直上から検出された。約2～3ミリメートル方のエナメル質の破片5点が残存。細片のため歯種は同定は困難であった。特筆すべき所見はない。

P 30

黒土の床から検出された。時期は縄文時代から縄文時代と推定されている。残存するのは約2ミリメートル方のエナメル質の破片13点である。細片のため歯種は同定は困難であった。特筆すべき所見はない。

P 48

覆土下層の頭が位置していたとみられる地点から、約2～4ミリメートル方のエナメル質の破片57点が検出された。細片のため歯種は同定は困難であった。特筆すべき所見はない。

P 70

土壌底の直上から出土。時期は縄文時代から縄文時代にかけてと推定されている。最大約7ミリメートル方のエナメル質の破片10点が残存する。細片のため歯種は同定は困難であったが、永久歯であることは判明した。特筆すべき所見はない。

P 103

土壌底の直上から出土。約4ミリメートル方のエナメル質の破片1点のみ残存。細片のため歯種は同定は困難であった。特筆すべき所見はない。

P 112

覆土2層から検出された。約2ミリメートル方のエナメル質の破片3点が残存。細片のため歯種は同定は困難であった。特筆すべき所見はない。

P 127

覆土2層から検出された。約2～3ミリメートル方のエナメル質の破片2点のみ残存。細片のため歯種は同定は困難であった。特筆すべき所見はない。

P 129

IV層から出土。約2ミリメートル方のエナメル質の破片5点が残存。細片のため歯種は同定は困難であった。特筆すべき所見はない。

5. 西島松5遺跡出土動物遺存体

高橋 理/千歳サケのふるさと館
太子夕佳/札幌国際大学大学院

遺跡の概要

遺跡名	西島松5遺跡(にししまつ5いせき)
所在地	北海道恵庭市西島松545
調査原因	柏木川河川改修工事に伴う発掘調査
発掘調査期間	平成12年4月1日～平成13年3月31日(内現地調査期間:5月8日～10月27日)
発掘調査面積	8,485㎡
調査主体	北海道札幌土木現業所
調査担当者	高橋 和樹・和泉田 毅・中山 昭大・末光 正卓・石井 淳平
時期	縄文時代早期～埴文時代
検出遺構	竪穴住居、Tピット、焼土、柱穴、墓
出土遺物	土器・石器・鉄器(大刀・蕨手刀・刀子・鉄斧・鎌・釣り針など)

はじめに

恵庭市の北3km、柏木川の左岸の標高25mの台地上に所在する。縄文時代から埴文時代の多くの遺構が検出されたが、特に調査地域の北西において83基にのぼる縄文時代から埴文時代の墓塚が検出された。この多くの墓塚分布域に、墓塚の間を埋めるように多量の焼土がみつかり、中には焼けた骨片が包含されていた。

筆者らに分析の機会を与えられた第2調査課 和泉田 毅氏、高橋 和樹氏およびスタッフの方々に御礼申し上げます。

出土動物遺存体

出土した動物遺存体はつぎのとおりである。また、各遺構の出土状況は表を参照されたい。

二枚貝綱 *Pelecypoda*

ウチムラサキ *Saxidomus purpuratus*

エソワスレガイ *Callista (Ezocallista) Brevisiphonata*

陸産貝類 *sp. indet.*

硬骨魚綱 *Osteichthyes*

サケ科魚類 *Salmonidae*

鳥綱 *Aves*

哺乳綱 *Mammalia*

シカ科 Cervidae

ニホンジカ *Cervus nippon*

イノシシ科 Suidae

イノシシ *Sus scrofa leucomystax*

クマ科 Ursidae

ヒグマ *Ursus arctos*

イヌ科 Canidae

コメント

墓域にともなう焼土群から多量の動物遺存体が検出されたわけであるが、この焼土群はどのような性格をもっていたのであろうか。その動物相はニホンジカ *Cervus nippon*やヒグマ *Ursus arctos*、サケ科魚類 *Salmonidae*を含むものであり、同期の他の遺跡や縄文時代の焼土などと大きく異なるものではない。しかし少量ではあるがイノシシ *Sus scrofa leucomystax*の遺存体が検出されたことは特筆されるだろう。W・X・Yの5区から6区において数点のイノシシが認められた。

縄文時代のイノシシは、恵山期例では伊達市の有珠モシリ遺跡や南有珠7遺跡、豊浦町礼文華遺跡などで出土しており(註)、後北C2・D式期では高橋が七飯町桜町遺跡において墓域の埋土中のイノシシを確認している(高橋・太子 in press)。擦文時代のイノシシ遺存体はほとんど出土例がなかったが、最近になって千歳市のウサクマイ遺跡N地点において当該期のイノシシが確認されたい(私信による)。ウサクマイ例が墓域にともなうものだとすると、この西島松5遺跡例と同様の性格をもっているのかもしれない。そしてその背後に、当時イノシシを使う儀礼の存在した可能性も考えられる。この点はウサクマイ遺跡の報告をまって再考したい。

ところで、イノシシは白老町虎杖浜2遺跡において縄文時代前期中葉(円筒下層a式期)の盛土遺構から確認され、従来北海道の遺跡から出土しはじめるとされてきた縄文後期初頭を大きくさかのぼることとなった(高橋 2001, in press)。縄文時代前半期から擦文時代にいたるまで(現段階では「断続的」ではあるが)本州からくりかえし移入されてきたイノシシは、北海道内においてどのような扱いを受けていたのか、そのもつ意味はどのようなものだったのかなど、今後考えていくべき問題は少なくない。

(註) これらについては、山崎京美(いわき短期大学)、遠藤秀紀(国立科学博物館)、菅原弘樹(奥松島縄文歴史資料館)および高橋が集計・分析を行っている。

引用文献

高橋 理・太子夕佳(2001)「白老町虎杖浜2遺跡出土動物遺存体」(in press)

高橋 理「七飯町桜町遺跡出土動物遺存体」(in press)

忠直市西島松5遺跡

No.	資料採取年月日	遺跡名	調査区名	層位	時期	種別	種別	出土部位	部位	数量	重量(g)	備考
1	01. 04. 19	V-0	V-0	II層	破片文~破文	破片文	破片文	破片不明	破片	22	0.05	他に遺物等
2	01. 04. 19					破片文	破片文	破片不明	破片	3	0.19	他に遺物等
3	01. 04. 19					破片文	破片文	破片不明	破片	1	0.31	他に遺物等
4	01. 04. 27	V-0	V-0	II層	破片文~破文	破片文	破片文	破片不明	破片(底)一部	2	0.08	うち2片合体
5	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	381	71.81	他に遺物等
6	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	9	1.20	他に遺物等
7	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	12	0.95	他に遺物等
8	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	3	1.02	他に遺物等
9	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	13	9.21	他に遺物等
10	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	17	1.64	他に遺物等
11	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	13	5.78	他に遺物等
12	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	38	0.23	他に遺物等
13	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	6	0.04	破片
14	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	1	3.85	41g.
15	01. 04. 27					破片文	破片文	破片不明	破片	15	2.25	他に遺物等
16	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	100	22.38	他に遺物等				
17	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	3	3.71	他に遺物等				
18	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	8	3.71	他に遺物等				
19	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	4	1.13	他に遺物等				
20	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	8	2.17	他に遺物等				
21	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	8	4.3	他に遺物等				
22	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	2	32.95	他に遺物等				
23	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	158	4.78	他に遺物等				
24	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	5	1.04	他に遺物等				
25	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	2	0.04	同一				
26	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	1	0.04	同一				
27	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	3	0.04	同一				
28	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	8	4.81	同一				
29	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	1	5.93	同一				
30	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	12	5.93	同一				
31	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	4	5.79	他に遺物等				
32	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	10	2.09	他に遺物等				
33	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	1	0.63	他に遺物等				
34	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	11	2.71	他に遺物等				
35	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	18	3.28	同一一体				
36	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	2	1.33	同一一体				
37	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	1	0.04	同一一体				
38	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	1	0.28	同一一体				
39	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	1	1.25	同一一体				
40	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	1	2.04	同一一体				
41	01. 04. 27	破片文	破片文	破片不明	破片	1	0.33	同一一体				

恵庭市西島松5遺跡

期	土質調査年月日	遺跡名	調査区名	層位	時期	層位	説明	調査区名	層位	時期	出土部位	部位	数量(個)	備考	
10	06.07.04	W-5	W-5	I層	縄文文化～徳文	II層	二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
11	06.07.11	W-6	W-6	II層	縄文文化～徳文	II層	二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	102	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
12	06.07.13	W-5	W-5	III層～3	縄文文化～徳文	III層	二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
13	06.07.14	W-5	W-5	III層～3	縄文文化～徳文	III層	二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
14	06.07.11	W-5	W-5	III層～7	縄文文化～徳文	III層	二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	
							二ホンシカ	Cervus nippon	鹿	鹿	鹿	鹿	1	鹿	

恵庭市西島松5遺跡

期	資料採取年月日	遺跡名	調査区名	層位	時期	種別	種名	出土部位	部位(通)一層	数量	重量(g)	備考	
15	06. 06. 30	W-5		II層	縄文~弥文	ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i> ♀	短尾	鹿	尻位(通)一層	1	0.30	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i> ♀	鹿骨片	鹿	尻位(通)一層	1	7.67	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i> ♂	鹿骨片	鹿	尻位(通)	2	1.55	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	鹿	尻位(通)	1	0.58	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	鹿	尻位(通)	2	1.82	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i> ♀	鹿子骨 ?	鹿	尻位(通)	1	0.20	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i> ♀	鹿子骨 ?	鹿	尻位(通)	3	0.72	
						哺乳類	<i>Mammalia non det.</i>	鹿骨片 ?	鹿	尻位(通) 9	1		他に鹿骨片有
						哺乳類	<i>Mammalia non det.</i>	鹿骨片 ?	鹿	尻位(通)	1	12.72	
						哺乳類	<i>Mammalia sp.</i>	鹿骨片 ?	鹿	尻位(通)	8	2.33	
						16	06. 07. 03	W-6		II層	縄文~弥文	ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	中鹿骨	11							11.88	
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	中鹿骨	3								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	中鹿骨	1								
イノシシ	<i>Sus scrofa leucometax</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1							3.17	
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	7							12.75	
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
哺乳類	<i>Mammalia sp.</i>	鹿骨片 ?	第2 or 5 層位	中鹿骨	1							0.19	
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1							0.68	
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1							1.71	
哺乳類	<i>Mammalia sp.</i>	鹿骨片 ?	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	2							2.19	
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i> ♀	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片 ?	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	50							21.31	
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	3								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	2								
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	4								
哺乳類	<i>Mammalia ?</i>	鹿骨片 ?	第2 or 5 層位	鹿骨片	1	0.05							
哺乳類	<i>Mammalia non det.</i>	鹿骨片 ?	第2 or 5 層位	鹿骨片	1								
哺乳類	<i>Mammalia sp.</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	鹿骨片	272	75.17	他に鹿骨片有						
17	06. 07. 11	W-6		II層	縄文~弥文	ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	鹿骨片一層	2	0.41		
						哺乳類	<i>Mammalia sp.</i>	鹿骨片	鹿骨片一層	1			
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	水鹿骨	1	1.18	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿子骨	第2 or 5 層位	水鹿骨	2	1.24	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	水鹿骨	4	2.43	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	水鹿骨	3		
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	水鹿骨	2	0.40	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	水鹿骨	5	5.49	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	水鹿骨	9		
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	水鹿骨	1	0.72	
						ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	水鹿骨	1	5.24	
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	水鹿骨	6	9.24							
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片 ?	第2 or 5 層位	水鹿骨	13	12.76							
ニホンゾウ	<i>Cervus nippon</i>	鹿骨片	第2 or 5 層位	水鹿骨	1	1.32							

東京都西島松5選録

No.	採集採取年月日	調査区名	調査区	種名	調査	採集方法	標本タイプ	標本数	重量(g)	備考
33	06. 07. 03	X-5	日置	和漢文~徳文	ニホンシカ Cervus nippon	中絶骨	部位不明	1	1.57	
				ニホンシカ Cervus nippon	中絶骨	部位不明	3	1.37		
				哺乳類 Mamalia sp.	中絶骨	Zoarctus?	2	0.96		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	17	6.59		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1			
34	06. 07. 12	X-5	日置	和漢文~徳文	哺乳類 Mamalia spp.	部位不明	部位不明	64	13.97	
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1	0.41		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	2	2.03		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1	0.54		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	17	3.06		
				哺乳類 Mamalia spp.	頭骨	頭骨	1			
				ニホンシカ Cervus nippon?	頭骨	頭骨	1			
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	2	1.03		
				哺乳類 Mamalia spp.	頭骨	頭骨	218	56.33	他に標本骨有	
				哺乳類 Mamalia spp.	頭骨	頭骨	2	0.69		
35	06. 07. 07	X-5	日置	和漢文~徳文	哺乳類 Mamalia sp.	部位不明	部位不明	13	2.02	
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1	0.14		
				哺乳類 Mamalia sp.	頭骨	頭骨	2	0.51		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1	0.39		
				哺乳類 Mamalia sp.	頭骨	頭骨	3	0.75		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	5	0.75		
				哺乳類 Mamalia sp.	頭骨	頭骨	1	0.39		
				ニホンシカ Cervus nippon?	頭骨	頭骨	10	4.31		
				哺乳類 Mamalia sp.	頭骨	頭骨	1	0.76		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	2	0.38		
				哺乳類 Mamalia sp.	頭骨	頭骨	1	0.38		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1	0.38		
				哺乳類 Mamalia sp.	頭骨	頭骨	1	0.38		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1	0.38		
				36	06. 07. 13	X-5	日置	和漢文~徳文	哺乳類 Mamalia sp. det.	部位不明
ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1					0.11		
哺乳類 Mamalia sp. det.	頭骨	頭骨	1					1.85		
ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1							
哺乳類 Mamalia sp. det.	頭骨	頭骨	1							
37	06. 07. 14	X-5	日置-4	和漢文~徳文	哺乳類 Mamalia sp. det.	部位不明	部位不明	1	1.07	
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	2	0.79		
				哺乳類 Mamalia sp. det.	頭骨	頭骨	1			
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1			
				哺乳類 Mamalia sp. det.	頭骨	頭骨	1			
38	06. 07. 17	X-5	日置-5	和漢文~徳文	哺乳類 Mamalia sp. det.	部位不明	部位不明	4	2.43	
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1	1.35		
				哺乳類 Mamalia sp. det.	頭骨	頭骨	1			
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	1			
				哺乳類 Mamalia sp. det.	頭骨	頭骨	1			
39	06. 07. 19	X-5	日置-2・へいト	和漢文~徳文	哺乳類 Mamalia sp. det.	部位不明	部位不明	4	0.76	他に標本骨有
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	2	0.83		
				哺乳類 Mamalia sp. det.	頭骨	頭骨	2	0.62		
				ニホンシカ Cervus nippon	頭骨	頭骨	2	0.62		
				哺乳類 Mamalia sp. det.	頭骨	頭骨	1	0.23		

東京都西島松5通跡

No.	資料採取年月日	調査区	調査区名	層位	調査	植物	出土部位	種名	数量	重量(g)	備考
39	06.06.19	Y-6	I層	I層-1・~I層ト II層-1・~II層ト III層-2・~III層ト	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	2	2.38		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	7	2.14			
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	1	0.68			
06.06.21	Y-3	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	1	0.32			
キツネ <i>Urocyon</i>					鹿角(鹿)	4	1.75	多少2片は破断片			
不明					鹿角(鹿)	3	0.57				
40	06.06.13	Y-3	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	19	3.88		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	1	0.58			
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	1	0.47			
41	06.06.25	Y-4	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	3	0.29		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	3	0.21			
	不明					鹿角(鹿)	19	3.63	同一?		
42	06.07.13	Y-4	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	1	0.56		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	1	0.85			
	不明					鹿角(鹿)	5	0.34			
43	06.07.04	Y-4	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	71	11.61		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	1	0.72			
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	1	0.49			
44	06.07.05	Y-4	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	2	0.75		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	2	1.74			
	不明					鹿角(鹿)	68	13.78			
45	06.07.14	Y-4	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	1	0.42		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	1	0.44			
	不明					鹿角(鹿)	1	0.87			
46	06.07.17	Y-4	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	1	0.64		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	2	1.58			
	不明					鹿角(鹿)	8	1.32			
47	06.07.17	Y-4	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	1	0.63		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	1	0.43			
	不明					鹿角(鹿)	1	0.13			
48	06.07.17	Y-4	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	13	0.95		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	1	0.35			
	不明					鹿角(鹿)	1	0.21			
49	06.07.04	Y-5	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	17	3.99		
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>					鹿角(鹿)	1	0.74			
	不明					鹿角(鹿)	2	0.54			
50	06.07.02	Y-5	II層	I層	結核文~横文	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	鹿角(鹿)	19	2.42	他に鹿角骨	
	不明					鹿角(鹿)	1	0.35			
	不明					鹿角(鹿)	1	0.35			

恵庭市西島松5遺跡

No.	土器採取位置	遺跡名	層位	時期	遺物	出土品名	形状	数量	重量(g)	備考	70-71号層
67	06. 06. 28	F-13	城土	縄文・弥文	サナ科魚鱗 不明	Salmoides non det. 不明	fr. fr.	1 1	0.01 0.06		
					サナ科魚鱗	Mamalia ?	fr.	44	0.99		
					サナ科魚鱗	Mamalia sp.	fr.	2	0.04		671
					サナ科魚鱗	Mamalia non det.	fr.	69	1.30		673
					サナ科魚鱗	Salmoides sp.	fr.	3	0.06		
					不明	不明	fr.	2			
					サナ科魚鱗	Salmoides non det.	fr.	1	0.03		
					不明	不明	fr.	3			
					不明	不明	fr.	5	0.07		
					不明	不明	fr.	29			681
					サナ科魚鱗	Salmoides non det.	fr.	3	0.01		
					サナ科魚鱗	Salmoides sp.	fr.	1	0.01		
					不明	不明	fr.	18	0.04		
					不明	不明	fr.	48	0.43		683
					不明	不明	fr.	12	0.06		
					サナ科魚鱗	Salmoides non det.	fr.	1	0.01		
					サナ科魚鱗	Salmoides ?	fr.	21	0.09		684
					不明	不明	fr.	54	2.33		
					不明	不明	fr.	1	0.16		
					不明	不明	fr.	1			
					不明	不明	fr.	1			
					不明	不明	fr.	2	0.09		
					不明	不明	fr.	2	0.02		
					不明	不明	fr.	7	0.03		
					不明	不明	fr.	25	0.10		685
					不明	不明	fr.	64	1.39		
					不明	不明	fr.	6	0.11		
					不明	不明	fr.	9	0.03		
					不明	不明	fr.	1	0.01		
					不明	不明	fr.	33	0.14		685
					不明	不明	fr.	1	0.01		
					不明	不明	fr.	1	0.01		
					不明	不明	fr.	3	0.01		
					不明	不明	fr.	20	0.07		
					不明	不明	fr.	54	1.77		686
					不明	不明	fr.	2			
					不明	不明	fr.	128	2.06		
					不明	不明	fr.	8	0.02		
					不明	不明	fr.	15	0.01		
					不明	不明	fr.	1	0.01		
					不明	不明	fr.	83	0.31		
					不明	不明	fr.	5	0.15		685
					不明	不明	fr.	5	0.06		691
					不明	不明	fr.	13	0.39		690
					不明	不明	fr.	1			
					不明	不明	fr.	1	0.04		617
					不明	不明	fr.	1			
					不明	不明	fr.	7	0.09		618
					不明	不明	fr.	2	0.03		619
					不明	不明	fr.	2	0.03		620
					不明	不明	fr.	101	0.15		621

豊後市西島松5遺跡

No.	資料群番号	遺物名	調査区名	層位	用途	材質	産地	加工状況	形状	数量	重量(g)	備考	7P-7Fノリ
80	06.06.29	P70	調査区5	状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	15	0.72		315
81	06.06.29	P83		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	29	0.91		317
82	06.06.29	P86		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	1	0.01	形状?	505
83	06.06.29	P87		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	1	0.01	形状?	305
84	06.06.11	P89		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	35	0.79		
							二ホンシカ	中層			0.14		
							二ホンシカ	中層			0.14		
							サナキ鳥類	中層			0.09		
							サナキ鳥類	中層			0.09		
							不明	形状不明	fr.	2	0.37	他に破片有	
							不明	形状不明	fr.	2	0.37	うち1片は中層①に	306
85	06.06.11	P89		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	2	0.37		
86	06.07.31	P101		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	2	0.07		
87	06.07.31	P101		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	2	0.07		
88	06.07.14	P112		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	2	0.37		
89	06.07.14	P119		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	2	0.25		
90	06.07.17	P148		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	1	1.22		
91	06.07.14	P150		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	51	0.61		
92	06.07.14	P150		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	1	0.01		
93	06.07.17	P203		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	2	0.18		
94	06.07.17	P203		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	3	0.61		
95	06.07.14	P150		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	53	0.08		
96	06.07.14	P150		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	15	0.34		
97	06.07.14	P203		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	1	0.04		
98	06.07.17	P203		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	35	5.46	他に破片有	
99	06.07.14	P150		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	1	0.35		
100	06.07.17	P203		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	13	1.09		
101	06.07.17	P203		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	19	2.07		
102	06.07.17	P203		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	1	0.36	他に破片有	613
103	06.06.41	P303		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	43	1.58		
104	06.07.17	P304		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	18	0.52		
105	06.07.17	P304		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	5	0.01		
106	06.07.18	P304		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	16	0.23		
107	06.07.19	P304		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	16	0.23		
108	06.06.25	P307		状況7中層①	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	2	0.21	他に破片有	638
109	06.06.03	H4		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	133	0.39	他に破片有	623
110	06.06.03	H4		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	13	0.63		647
111	06.06.23	H11		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	1	0.19		
112	06.06.23	H11		状況7上層内	破片	焼瓦	Manilla non det.	形状不明	fr.	35	12.71		

東海市西島松5遺跡

No.	発掘調査年度	調査区名	遺構	時期	遺構名	出土部位	品名	数量	重量(g)	備考
					ニホンジカ ニホンジカ イヌ科 ニホンジカ ニホンジカ 哺乳類	Cervus nippon Cervus nippon Canidae sp. Cervus nippon Cervus nippon Mammalia sp.				
102	08, 10, 09	P-221	礎土	縄文Y	哺乳類	部位不明	Fr.	1	1.70	
		P-14	礎土		哺乳類	部位不明	Fr.	1	0.42	
		P-14	礎土		哺乳類	部位不明	Fr.	1	0.37	
		P-14	礎土		哺乳類	部位不明	Fr.	1	0.92	
		P-14	礎土		哺乳類	部位不明	Fr.	5	0.25	
					哺乳類	部位不明	Fr.	0	0.32	軸に動物骨
					哺乳類	部位不明	Fr.	1	0.00	
					哺乳類	部位不明	Fr.	1	0.38	
					哺乳類	部位不明	Fr.	1	0.7	
					哺乳類	部位不明	Fr.	1	0.5	

6. 恵庭市西島松 5 遺跡出土動物遺存体(平成12年度)

高橋 理/千歳サケのふるさと館
太子夕佳/北海道大学大学院獣医学部

遺跡の概要

遺跡名	西島松 5 遺跡(にししまつ 5 いせき)
所在地	北海道恵庭市西島松545
調査原因	柏木川河川改修工事にともなう事前調査
発掘調査期間	平成12年 4月 8日～10月27日
発掘調査面積	8,485㎡
調査主体	(財)北海道埋蔵文化財センター
調査担当者	高橋 和樹・和泉田 毅・中山 昭大・末光 正卓・石井 淳平
時期	縄文時代早期～晩期、統縄文時代末期～擦文時代
検出遺構	竪穴住居、Tピット、焼土、柱穴、墓
出土遺物	土器・石器・鉄器(大刀・蕨手刀・刀子・鉄斧・鎌・釣針など)

はじめに

恵庭市の北3km、柏木川の左岸の標高25mの台地上に所在する。縄文時代から擦文時代の多くの遺構が検出されたが、特に調査地域の北西において83基にのぼる統縄文時代から擦文時代の墓塚が検出された。この多くの墓塚分布域に、墓塚の間を埋めるように多量の焼土がみつかり、中には焼けた動物遺存体が包含されていた。筆者は昨年度、この遺物を実見する機会を与えられた。石狩低地帯ではじめて統縄文末期のイノシシ *Sus scrofa leucomystax*を確認することができた。

今回はやはり昨年度調査時に、墓塚・焼土および包含層より検出された動物遺存体を分析することとなった。

筆者らに分析の機会を与えられた第2調査課 高橋 和樹氏・和泉田 毅氏およびスタッフの各氏に御礼申し上げます。

出土動物遺存体

出土した動物遺存体は表に示している。遺物はハンドピック法と土壤水洗・フローテーション法の双方によって回収された。すべて激しく火を受けている。

硬骨魚綱 Osteichthyes	鳥綱 Aves	哺乳綱 Mammalia
サケ目 Salmoniformes		食肉目 Carnivora
サケ科 Salmonidae		イヌ科 Canidae
コイ目 Cypriniformes		偶蹄目 Artiodactyla
コイ科 Cyprinidae		シカ科 Cervidae
		ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>
		イノシシ科 Suidae
		イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>

コメント

前記のように、遺物はハンドピック法と土壌水洗・フローテーション法によって回収された。表にあるように、2つの方法による遺物回収の成果は歴然としている。ハンドピック法ではサケ科やコイ科などの微細な魚類遺存体がまったく回収されない。土壌水洗(Water Sieving)やフローテーション法が採用されなければ、西島松5遺跡は縄文期のシカを処理する場である、という結論にいたったと推察される。同様な指摘は、かつて千歳市キウス4遺跡の分析において行ったことがある(高橋:2000)。

縄文期の遺跡では、同じ恵庭市ユカンボシE9遺跡のように、遺構によって微細な魚類に限られたり、大型のシカ遺存体のみが出土するなど「限定された場」としての性格を付与されていたと考えられる例がある(高橋:1993)。隣接する西島松9遺跡も、このようなコンテクストのなかでシカ処理の場と理解される(高橋:2002 in press)。したがって、特に悉皆サンプリングを期待できるフローテーション法の採用は、遺構・遺跡解釈にいたる重要な条件となる。

出土した動物遺存体の種類は多くはなく、サケ科魚類とニホンジカが主体を占める。ここに前年度と同様にイノシシが加わっている。これらの動物遺存体は、墓塚の人骨堆積土、焼土、竅穴住居(縄文時代中期)の遺構および台地西側の二つの沢と斜面、台地東側の斜面である。このうち焼土遺構は西側に集中しており、東側は斜面と沢に数基みられるにすぎない。前述のように、動物遺存体はすべて強く焼熱していることから、本来的な給源は焼土である。したがって、台地東側に集中する焼土が二次的に台地西側に集中する墓塚および西側斜面に動かされたと考えられる。

以上をどのように解釈できるだろうか。縄文期の遺跡・遺構が限定された場の性格をもっていたらしいことが、実はここからもうかがうことができるようだ。すなわち、台地東側は食資源の対象となった動物の骨を焼くという儀礼的な行為が行われ、それを包含した土で墓塚を埋めていったという一連の埋葬儀礼プロセスを想定することができるのではないだろうか。「焼く」という行為を行う台地東側、焼いた骨を混ぜながら埋葬セレモニーを行う台地西側の墓域という、この二つの場に付与された性格は厳密なものであったらしい(余った焼骨は沢=川に「送られた(?)」のかもかもしれない)。

埋葬儀礼に動物骨が重要な位置を占めていたことは、墓塚埋土中のイノシシ骨の存在で一層支持されよう。5基(Na.70・98・99・113・121)の墓塚からイノシシ骨が検出された。千歳市キウス4遺跡におけるイノシシ骨のあり方などから、食料対象としてのみならず、これが儀礼行為に密接に関わり続けたこともまた(従来のとおり)認められるところであろう。そして、そこにこそ縄文時代から擦文時代にいたるまで、本州より営々とイノシシが移入され続けた史的事実を生む原因があったのかもしれない。

縄文期の遺跡より出土する動物遺存体とその種構成における強い偏重性が、一つは当時の人間たちの埋葬儀礼に関わっていたのかもしれないという仮説を掲げつつ、今後の分析にあたるべきだろう。

引用文献

- 高橋 理 (1993) 「恵庭市ユカンボシE9遺跡出土動物遺存体」『ユカンボシE9遺跡 ユカンボシE3遺跡』恵庭市教育委員会 pp.127-130
- 高橋 理・太子夕佳 (2000) 「4 千歳市キウス4遺跡D・F・G地区出土動物遺存体」『千歳市キウス4遺跡(8) F・G地区』(財)北海道埋蔵文化財センター pp.481-501
- 高橋 理・太子夕佳 (2002) 「恵庭市西島松9遺跡出土動物遺存体」(in press)



イノシシ? 検側手根骨?



イノシシ 尺側手根骨



イノシシ 第2・5中手・中足骨



イノシシ 中節骨



イヌ科 中手・中足骨fr.



ウチムラサキ(?)



エゾワスレガイ(?)



サケ科魚類 歯fr.



サケ科魚類 椎骨fr.



サケ科魚類 鱗・棘など

図版2 西島松遺跡出土動物遺存体

西島松5遺跡出土動物骨体目録(平成12年) 土曜水曜、フロッピージョン生による調査報告

No.	採集年月日	遺物番号	調査区分名	層位	時期	調査項目				土曜水曜	備考		
						種別	部位	測定	骨質				
2	05.05.12	P-3	層上層		哺乳類	Mammalia	哺乳類	部分不明		1	0.01		土曜水曜
					サツ科	Sciuridae sp.		種骨	f. r.	1	0.01		
3	05.05.05	P-4	層底層上		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	8	1.80		土曜水曜
4	05.04.13	P-5	層底層上		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	1	0.52		土曜水曜
5	05.04.12	P-16	層上 部分		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	11	0.24		土曜水曜
					哺乳動物	Deiarchiyes		部位不明	f. r.	1	0.04		
6	05.04.12	P-16	層上 部分		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	150	7.21	他種所有者	土曜水曜
					ニホンジカ	Cervus nippon		部分不明	f. r.	3	0.18		
					ニホンジカ	Cervus nippon		部分不明	f. r.	3	0.18		
					サツ科	Sciuridae sp. det.		種骨	f. r.	5	0.07		
					サツ科	Sciuridae sp. det.		種骨	f. r.	4	0.02		
					哺乳動物	Deiarchiyes		種骨	f. r.	1	0.01		
					哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	1	0.08		土曜水曜
7	05.04.12	P-16	層上 部分		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	113	8.52		土曜水曜
					ニホンジカ	Cervus nippon		種骨	f. r.	2	0.09		
					サツ科	Sciuridae sp. det.		種骨	f. r.	2	0.10		土曜水曜
8	05.04.13	P-16	層上 部分		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	72	1.10		土曜水曜
					哺乳動物	Deiarchiyes ?		種骨	f. r.	1	0.01		
					サツ科	Sciuridae sp.		種骨	f. r.	1	0.01		
					サツ科	Sciuridae sp.		種骨	f. r.	1	0.01		
9	05.04.13	P-16	層上 部分		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	50	8.34		土曜水曜
					サツ科	Sciuridae sp.		種骨	f. r.	1	0.01		
					サツ科	Sciuridae sp.		種骨	f. r.	2	0.01		
10	05.04.18	P-16	層上		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	28	0.79		土曜水曜
11	05.04.06	P-20	層上層		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	3	0.14		土曜水曜
12	05.04.06	P-20	層上層		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	8	0.27		土曜水曜
13	05.07.05	P-21	層底層上		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	1	0.07		土曜水曜
					哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	1	0.07		
14	05.04.13	P-24	層上層		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	2	0.23		土曜水曜
15	05.04.23	P-24	層底層上 京層分		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	113	8.71	他種所有者D	土曜水曜
					哺乳動物	Deiarchiyes		種骨	f. r.	1	0.01		
					哺乳動物	Deiarchiyes ?		種骨	f. r.	5	0.03		
					サツ科	Sciuridae sp.		種骨	f. r.	3	0.04		
					サツ科	Sciuridae sp. det.		種骨	f. r.	3	0.01		
16	05.04.09	P-28	層底層上		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	3	0.42		土曜水曜
17	05.04.22	P-28	層上層		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	3	0.42		土曜水曜
18	05.04.22	P-28	層上層		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	3	0.41		土曜水曜
19	05.04.07	P-30	層上層		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	45	3.28		土曜水曜
20	05.04.28	P-30	層上層		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	64	8.81	他種所有者D	土曜水曜
					ニホンジカ	Cervus nippon		種骨	f. r.	1	0.26		
					ニホンジカ	Cervus nippon		2・5 同位 中絶骨	f. r.	1	0.26		
					サツ科	Sciuridae sp.		種骨	f. r.	2	0.01		
21	05.04.07	P-33	黒色土の層上		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	1	0.28		土曜水曜
					哺乳動物	Deiarchiyes		種骨	f. r.	1	0.28		
					ニホンジカ	Cervus nippon		種骨	f. r.	1	0.05		
					サツ科	Sciuridae sp.		種骨	f. r.	1	0.02		
22	05.04.07	P-33	層底層上		哺乳類	Mammalia		部位不明	f. r.	25	1.31		土曜水曜
					哺乳動物	Deiarchiyes ?		種骨	f. r.	1	0.01		

№	採取年月日	標本名	調査区名	標本	時期	種別	部位	保存体	目上部位	数量	重量(g)	備考	分析方法
23	05.04.29	P 97	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 中腸骨	f, f. 固定液	f, f.	5	0.13		土壌水洗
24	05.04.07	P 99	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨	f, f. 固定液	f, f.	1	0.01		土壌水洗
25	05.04.25	P 98	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨	f, f. 固定液	f, f.	4	0.22		土壌水洗
27	05.04.29	P 94	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 中腸骨?	f, f. 固定液?	f, f.	35	2.54		土壌水洗
28	05.04.18	P 95	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> サナ科 <i>Sitomidae</i> sp. サナ科 <i>Sitomidae</i> sp. det. 哺乳類 <i>Oreorchilus</i> 哺乳類 <i>Oreorchilus</i> ?	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 部分不明	f, f. 固定液 f, f. 固定液 f, f. 固定液	f, f. f, f. f, f. f, f.	70 1 10 1 1	1.91 (0.01) 0.01 0.01 0.13	植物骨質	土壌水洗
29	05.04.20	P 70	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨	f, f. 固定液	f, f.	3	0.84		土壌水洗
30	05.04.14	P 88	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨	f, f. 固定液?	f, f.	50	3.92		土壌水洗
31	05.04.14	P 89	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨	f, f. 固定液	f, f.	3	0.01		土壌水洗
32	05.04.21	P 96	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	27 1 1 1 1 1 1 1	0.78 0.08 0.05	植物骨質	土壌水洗
33	05.04.15	P 99	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨	f, f. 固定液	f, f.	7	0.58		土壌水洗
34	05.04.21	P 99	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨	f, f. 固定液	f, f.	8	0.35		土壌水洗
35	05.04.10	P 101	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	96 1 1 1 1 1 1 1	0.22 0.27 0.11 0.11 0.01 0.01	植物骨質	土壌水洗
38	05.04.24	P 101	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	47 2 2 2 2 2 2 2	0.87 (0.01) (0.01) 0.09	植物骨質	土壌水洗
37	05.04.29	P 101	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	2 2 2 2 2 2 2 2	0.01 (0.01) 0.01	植物骨質	土壌水洗
39	05.04.25	P 111	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	9 9 9 9 9 9 9 9	0.19 0.20 0.20 0.20 0.20 0.20 0.20 0.20	植物骨質	土壌水洗
41	05.07.11	P 112	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	22 22 22 22 22 22 22 22	0.20 0.20 0.20 0.20 0.20 0.20 0.20 0.20	植物骨質	土壌水洗
42	05.04.22	P 117	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	22 22 22 22 22 22 22 22	3.9 (0.01)	植物骨質	土壌水洗
43	05.04.22	P 117	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	4 4 4 4 4 4 4 4	0.58	植物骨質	土壌水洗
44	05.04.23	P 118	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	61 61 61 61 61 61 61 61	2.57 4.58 4.58 4.58	植物骨質	土壌水洗
45	05.04.20	P 118	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	75 75 75 75 75 75 75 75	1.18 1.18 1.18 1.18 1.18 1.18 1.18 1.18	植物骨質	土壌水洗
46	05.04.20	P 119	堀原区上	堀原区上		哺乳類 <i>Manalia</i> ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	部分不明 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f. f, f.	28 28 28 28 28 28 28 28	1.39 1.39 1.39 1.39 1.39 1.39 1.39 1.39	植物骨質	土壌水洗

表 5 埋蔵土動物学研究所 (平成12年度) ハンドピックによる埋蔵動物

No.	調査年月日	調査名	調査区名	層位	時期	動物遺存体			埋蔵土動物学研究所	種別	種名	種数	個数(個)	検出率
						種別	種名	個数						
65	06.16.28	P-133		埋土層	縄文前期	埋蔵土動物学研究所	2	2.55	総合					
66	06.16.28	P-133		埋土層	縄文前期	埋蔵土動物学研究所	2	0.63		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.14	
67	06.08.25	F-15		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	3.32		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.14	
68	06.08.19	A-20		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	3	1.95		埋蔵土動物学研究所	3	3	1.95	
69	06.10.04	B-15		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	10	5.24		埋蔵土動物学研究所	10	10	5.24	
70	06.10.11	B-15		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	4	2.53		埋蔵土動物学研究所	4	4	2.53	
71	06.09.29	B-22		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	4.84		埋蔵土動物学研究所	1	1	4.84	
72	06.09.25	C-15		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	8	4.05		埋蔵土動物学研究所	8	8	4.05	
73	06.09.25	D-21		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	3.21		埋蔵土動物学研究所	1	1	3.21	
74	06.08.19	E-21		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	2	0.54		埋蔵土動物学研究所	2	2	0.54	
75	06.18.19	F-21		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	0.87		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.87	
76	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	6	1.71		埋蔵土動物学研究所	6	6	1.71	
77	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	0.28		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.28	
78	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	5	0.67		埋蔵土動物学研究所	5	5	0.67	
79	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	0.64		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.64	
80	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	0.36		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.36	
81	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	0.96		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.96	
82	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	0.88		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.88	
83	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	1.46		埋蔵土動物学研究所	1	1	1.46	
84	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	3	5.7		埋蔵土動物学研究所	3	3	5.7	
85	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	2.23		埋蔵土動物学研究所	1	1	2.23	
86	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	3	2.18		埋蔵土動物学研究所	3	3	2.18	
87	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	5	2.05		埋蔵土動物学研究所	5	5	2.05	
88	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	9	1.84		埋蔵土動物学研究所	9	9	1.84	
89	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	5	1.84		埋蔵土動物学研究所	5	5	1.84	
90	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	2.47		埋蔵土動物学研究所	1	1	2.47	
91	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	1.68		埋蔵土動物学研究所	1	1	1.68	
92	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	4	1.64		埋蔵土動物学研究所	4	4	1.64	
93	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	1.99		埋蔵土動物学研究所	1	1	1.99	
94	06.07.25	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	0.01		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.01	
95	06.08.01	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	0.64		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.64	
96	06.08.01	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	1.5		埋蔵土動物学研究所	1	1	1.5	
97	06.08.01	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	7	1.3		埋蔵土動物学研究所	7	7	1.3	
98	06.08.01	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	0.71		埋蔵土動物学研究所	1	1	0.71	
99	06.08.01	X-12		埋土層	縄文中期	埋蔵土動物学研究所	1	1.25		埋蔵土動物学研究所	1	1	1.25	

No.	紀元年月日	遺構名	調査区名	層位	時期	遺引	植物遺存物	炭素年代	数量(個数)	備考	分析方法
84	05.08.07		Y-12	土層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.010	点検9584
						イヌ科 Canidae ?	大型骨 ?				
85	05.08.05	P-3		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	3	2.12	
						ニホンジロウ Cervus nippon	鹿骨			1.45	
86	05.08.12	P-3		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	2	1.85	併書
						ニホンジロウ Cervus nippon	鹿骨			6.05	
87	05.08.07	P-9		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	2.89	
						ニホンジロウ Cervus nippon ?	鹿骨			1.59	
88	05.08.25	P-13		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	8	4.40	
						ニホンジロウ Cervus nippon ?	鹿骨			1.64	
89	05.08.18	P-18		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	8	1.64	
						ニホンジロウ Cervus nippon	鹿骨			0.43	
100	05.08.01	P-19		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	2	0.17	
						ニホンジロウ Cervus nippon	鹿骨			1.49	
101	05.08.01	P-21		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	8	1.84	
						ニホンジロウ Cervus nippon	鹿骨			1.54	
102	05.08.31	P-22		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	5	3.29	
						ニホンジロウ Cervus nippon	鹿骨			0.42	併書
103	05.08.05	P-23		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	1.34	
						ニホンジロウ Cervus nippon	鹿骨			1.06	
104	05.05.31	P-27		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	5	3.04	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.64	
105	05.08.12	P-28		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	2	0.75	
						ニホンジロウ Cervus nippon	鹿骨			1.09	
106	05.08.01	P-33		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	3	1.69	
						ニホンジロウ Cervus nippon	鹿骨			1.08	
107	05.08.20	P-40		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	2	0.81	
						ニホンジロウ Cervus nippon	鹿骨			0.64	
108	05.08.12	P-41		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	21	4.74	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.59	
109	05.08.20	P-44		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.51	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.51	
110	05.08.12	P-45		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	3	0.34	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.56	
111	05.08.12	P-48		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.11	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.86	
112	05.08.12	P-51		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	5	4.10	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			1.21	
113	05.08.15	P-56		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	6	1.87	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.87	
114	05.08.15	P-64		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.70	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			2.14	
115	05.08.15	P-68		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	2	3.14	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax	鹿骨			0.26	
116	05.08.15	P-69		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	10	4.96	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax	鹿骨			1.14	
117	05.08.23	P-112		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.59	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.51	
118	05.08.28	P-113		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.51	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.51	
119	05.08.22	P-117		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.51	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.51	
120	05.08.23	P-119		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.51	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.51	
121	05.10.12	P-156		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.51	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax ?	鹿骨			0.51	
122	05.10.13	P-22		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.51	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax	鹿骨			0.51	
123	05.10.13	P-26		層上層		哺乳類 Mamalia	部位不明	f.f.	1	0.51	
						イノシシ Sus scrofa leucomystax	鹿骨			0.51	

No.	採取年月日	産地名	標記記号	標記	時期	種名	動物遺体			測定方法
							部位	出土部分	数量	
124	05.10.17	F-9	B-15	Ⅰ層		ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	鹿骨	1	1	0.42
125	05.10.06					哺乳類 <i>Numilia</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> イノシシ <i>Sus scrofa moussoni</i> ? 哺乳類 <i>Numilia</i> sp. 哺乳類 <i>Numilia</i> sp. 哺乳類 <i>Numilia</i> sp. 哺乳類 <i>Numilia</i> sp. 哺乳類 <i>Numilia</i> sp.	鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨	1 1 1 1 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	2.78 1.53 2.46 1.15 0.72 2.19 0.87 2.27
126	05.10.11		B-15	Ⅱ層		ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	鹿骨	24	15	15.15
127	05.08.30		C-15	Ⅱ層		ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ? 哺乳類 <i>Numilia</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ? 哺乳類 <i>Numilia</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ? 哺乳類 <i>Numilia</i>	鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨	2 4 11	2 4 11	0.46 3.80 2.54 7.07
128	05.10.04 05.10.06 05.10.07 05.10.07 05.10.05 05.10.09		D-14 C-17 G-21 H-21 H-21 H-21	Ⅱ層 Ⅱ層 Ⅱ層 Ⅱ層 Ⅱ層 Ⅱ層		哺乳類 <i>Numilia</i> 哺乳類 <i>Numilia</i> 哺乳類 <i>Numilia</i> 哺乳類 <i>Numilia</i> 哺乳類 <i>Numilia</i> 哺乳類 <i>Numilia</i>	鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨	4 4 27 1 10 25	4 4 27 1 10 25	1.29 1.85 10.2 1.10 5.85 05.33
129	05.10.09		H-21	Ⅱ層		ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ? イノシシ <i>Sus scrofa moussoni</i> 哺乳類 <i>Numilia</i> 哺乳類 <i>Numilia</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ? 哺乳類 <i>Numilia</i>	鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨	1 2 2 1 1 1 1 1 1	1 2 2 1 1 1 1 1 1	1.00 0.40 1.31
130	05.07.05		W-12	Ⅰ層		ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	鹿骨	1	1	1.44
131	05.08.24		Y-8	Ⅱ層-1		哺乳類 <i>Numilia</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ? 哺乳類 <i>Numilia</i>	鹿骨 鹿骨 鹿骨 鹿骨	21 2 2 3	21 2 2 3	7.12 0.31 0.31 1.55
132	05.08.24		Y-9	Ⅱ層-5		哺乳類 <i>Numilia</i>	鹿骨	1	1	1.44

7. 西島松5遺跡から出土した木材の樹種

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

西島松5遺跡では、縄文時代の住居跡、Tピット、焼土、柱穴状小ピット、縄文時代～統縄文時代の土壌、柱穴状小ピット、統縄文時代～擦文時代の土壌、擦文時代の周溝のある土壌墓などが検出されている。このうち、統縄文時代～擦文時代の土壌墓P3の竪底四隅に見られた小柱穴の下端部からは、杭状の木材が出土している。また、キトウシュナイに流れ込む沢の底直上からは、加工痕のある木材が出土している。

本今回の分析調査では、これらの木材の樹種同定を行い、様々な用途に用いられた木材の種類や周辺の古植生に関する資料を得る。

1. 試料

試料は、各遺構から出土した木材4点(試料番号1～4)である。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに表1に記した。

2. 方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を複製し、ガム・クロラール(泡水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。試料番号3は樹皮であり、種類の同定には至らなかった。その他の木材は、広葉樹2種類(ヤマグワ・トリネコ属)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・ヤマグワ(*Morus australis* Poir.)クワ科クワ属

環孔材で、孔部は1～5列、孔部外への移行は緩やかで、晩材部へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合して斜方面に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型、1～6細胞幅、1～50細胞高で、しばしば結晶を含む。

4. 考察

今回確認された樹種は、ヤマグワとトリネコ属であった。いずれも、現在北海道の川沿いの低地等に普通に見られる種類である。これまで周辺で行われた古植生に関する調査例(小野・五十嵐1991; 山田, 1996)などからも、これらの種類が本遺跡周辺に生育しており、現在と似た植生が見られたことが推定される。

トリネコ属は、比較的大径木になり、強度も高い。周辺地域では、住居構築材などにもよく利用さ

表1 樹種同定結果

番号	採取地点	層位	状況	樹種
1	P3	小柱穴	杭状のもの	ヤマグワ
2	Y-5	沢底直上	先端部に加工痕あり	ヤマグワ
3	Z-5	沢底直上	板状杭、加工痕あり	樹皮
4	Z-4	沢底直上	木材、加工痕あり	トリネコ属

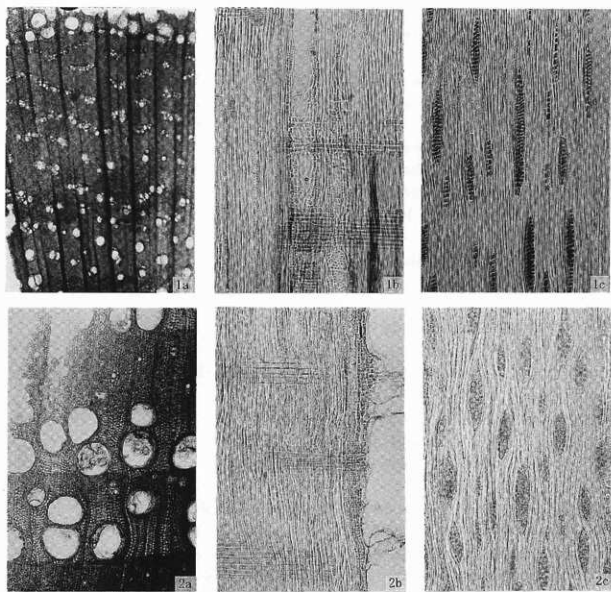
れており(三野, 1987, 1994)、最も一般的な木材の一つであったことが推定される。今回の木材について詳細は不明であるが、本遺跡周辺で入手できたトリネコ属を様々な用途に利用していたことがうかがえる。

一方、ヤマグワは、トリネコ属ほどの巨木にはならないが、強度や靱性が高い材質を有する。杭材などは、これまで各地で行われた調査で多くの種類が確認できることから(島地・伊東, 1988)、入手できる様々な木材が利用されていたことが推定される。そのため、今回のヤマグワについても、本遺跡周辺で入手できたヤマグワの木材を利用した可能性がある。アイヌの民族事例では、ヤマグワはカンジキに選択的に利用される有用材である。アイヌの木器には、統縄文時代～縄文時代以降進化するが受け継がれてきたものや、各時代に完成していたものが存在することが指摘されている(田口, 1994)。このことを考慮すれば、本遺跡においてもヤマグワがカンジキなどの用途に利用されていた可能性がある。

今後さらに調査例を重ね、用材の詳細を明らかにしたい。

引用文献

- 福岡イト子(1995)アイヌ植物誌。241p., 草風館。
- 三野紀雄(1987)炭化した木質遺物の樹種同定。北埋調報36「千歳市 ママチ遺跡Ⅲ(本文編)-3・2・8 真町泉沢大通改良工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書-」, p. 349-358, 財団法人北海道埋蔵文化財センター。
- 三野紀雄(1994)先史時代における木材の利用 - 縄文及びオホーツク文化期の住居や用具類の製作などに用いられる木材-。北海道開拓記念館研究年報, 22, p. 11-25。
- 小野有五・五十嵐八枝子(1991)北海道の自然史-氷期の森林を旅する-。219p., 北海道大学図書刊行会。
- 島地 謙・伊東隆夫編(1988)日本の遺跡出土木製品総監。296p., 雄山閣。
- 田口 尚(1994)アイヌの木器とその源流。季刊考古学, 47, p. 66-70, 雄山閣。
- 山田 悟郎(1996)美々 8遺跡低湿地部周辺の古植生について。(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第102集「美沢川流域の遺跡群XVII - 新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書-」, p. 25-40, 財団法人北海道埋蔵文化財センター。



1. ヤマグチ (試料番号1)
2. トネリコ属 (試料番号4)
a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μ m : a

200 μ m : b, c

図版 1 木材

8. 西島松5遺跡から出土した炭化植物種子

*吉崎昌一・**椿坂恭代

1) 遺跡と調査の概要

遺跡の名称：西島松5遺跡 (A-04-38)

遺跡の所在：北海道恵庭市西島松545

調査の機関：財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査担当者：高橋和樹、和泉田毅ほか

調査期間：平成12年(2000年)4月1日～平成13年3月31日

遺跡の立地：遺跡は恵庭市の西方、JR線恵み野駅から北西約800mのところのところに位置する。遺跡の東を柏木川、西を柏木川の支流であるキトウシュメンナイが流れ、この二つの小河川に挟まれた標高約25mの台地上に立地する。

遺跡の年代と遺構：縄文文化早期～擦文時代。ただし扱った資料は全て北大Ⅲ式土器(西暦6世紀後半?)に伴出した土壌から検出されたもの。遺構は縄文時代の堅穴住居跡、Tピット、焼土、柱穴、統縄文時代末から擦文時代の土壌墓などが検出されている。縄文時代後期末～晩期初頭の時期が主体で、次に多いのが北大式土器によって代表される時期である。

2) 扱った資料

分析資料として扱った炭化植物は、西暦6世紀後半と考えられている北大Ⅲ式土器に属する土壌墓に埋納されていた土器中の土壌と墓構築面の土壌から採取された。これをフローテーション法で処理後、第一次選別を経て炭化植物遺体のみが送付されてきた。これらの資料について、実体顕微鏡で観察を行った。検出された植物種子の出土表は第1表に示しておいた。なお、検出された資料は細片のため撮影は不可能であった。

3) 検出された種子

検出された植物種子は、墓境内に埋葬されていた北大Ⅲ式土器の内部土壌から検出されたニワトコ属SambucusL. 種子の破片が1片。墓構築直後とみられる土壌から検出された木本類の冬芽が1片検出されただけである。

4) 若干のコメント

筆者らの関与した遺跡においては、墓境内に副葬されていた土器中から明確に副葬されたと思われる植物遺体が検出された例はまだない。これは土器中に恣意的に植物または植物遺体を奉納する習慣がなかったからではないか。火災をうけた住居中の土器の中には、明らかに植物種子を格納した例が知られているのに、若干奇妙な感がなきにしもあらずである。しかし、骨格を伴わない動物の肉や液体を格納していたとするならば、話は別である。副葬された土器の中に何を入れたかについては、同位体分析など他の手段で確認する必要があるのかもしれない。

今回の資料分析を実施して、いくつか問題が生まれてきた。つまり、北大式土器で代表されるような仲間が、いわゆる統縄文文化に属するものなのか、擦文時代に属するものなのかについては、まだ議論があって決着が付いていないのではないか、と思う。この解釈は、我々栽培植物史を目指す者としても気になるところである。西島松5遺跡では、調査者によって墳墓中から229点という大量の鉄製品が検出されている(本文参照のこと)。この時期の北海道では、まだ鉄製品の製作がおこなわれていないから、これらの製品は本州からの輸入品と考えるべきなのであろう。もし、こうした推理が妥当であるならば、北海道の栽培植物の出現にもあるヒントが得られる可能性がある。

何故なら、北海道の栽培植物は擦文文化になって急速にその種類と量が増加し、本州東北部並みになるからである。この現象を前述の鉄製品の輸入量急増と絡めて考えることができないであろうか。つまり、縄文文化の末期にヒトの移動を伴いながら鉄製品や新しい栽培植物の品種が、北海道に大量に流入したという考え方である。石器類の利用の消滅や栽培植物の品種の急激な増加現象ならびに擦文文化の成立は、こうした仮説を考えると説明しやすい。大胆な推理が許されるならば、縄文文化末から擦文文化初頭にみられるという北大式土器で代表されるステージは、北海道古代史上の特殊な画期として別建てで認識可能なのではないだろうか。つまり、縄文文化と擦文文化の間の北大式土器によって代表される時期は、両文化から切り離して特殊な画期Transitional stage としての意味が与えられるのではないか。縄文文化からアイヌ文化までの栽培植物の変遷をたどってみると、こうした仮説に強く魅力を感じる。したがって、この段階の墓地以外の生活遺跡を至急調査し、栽培植物史上の空白を埋めるのが急務であるとする。考古学関係者に御教示を乞いたいと思う。

* 札幌国際大学

**札幌国際大学吉崎研究室考古植物研究会

第1表 西島松5選跡炭化種子出土表

資料番号	遺構名	土壌採取地点	遺構の性格	時期	重量 (g)	体積 (l)	浮遊重量 (g)	残渣 (g)	ニワコト属 (片)	冬芽 (短)
1	P 66	袋状ピット内土器の中の土壌	墓	北大式Ⅲ					1	
2	P 98	榊築面直上の土壌	墓	北大式Ⅲ						1
3	P 102	袋状ピット内土器の中の土壌	墓	北大式Ⅲ						ナシ：現生の種子混入
4	P 125	袋状ピット内土器の中の土壌	墓	北大式Ⅲ					1	ナシ：現生の種子混入
合計										

9. 西島松5遺跡出土須恵器の胎土について

奈良教育大学 三辻利一

古代、北海道では須恵器を製作した形跡はない。それにもかかわらず、道内各地の遺跡から須恵器の出土例は増加している。これらの須恵器はすべて、北海道以外の地から持ち込まれたものである。これらの生産地は何処かという問題は北海道の古代の人々が遺跡のどの地と交流をもっていたかを考える上に役立つ。このような視点から、道内の遺跡出土須恵器の蛍光X線分析のデータは集積されてきた。本報告でも、西島松5遺跡から出土した2点の須恵器の蛍光X線分析の結果について報告する。

分析値は表1にまとめられている。K、Ca、Fe、Rb、Sr、Naの6元素が選択的に分析されている。須恵器の素材は粘土である。粘土は岩石が風化して生成したものである。岩石は構成元素からみると、Os、Al、Na、K、Mg、Ca、Fe、Tiを主成分とする、その他の多くの微量元素を包含することは周知の事実である。同様に、粘土も上記の主成分元素のほかにも多くの微量元素を含有する。

土器(粘土)中ですべての主成分元素と多くの微量元素の含有量を分析することは容易なことではない。また、均質な溶液試料でない限り、測定可能なすべての元素を分析することも必要ではない。とくに、産地問題の研究では大量の試料の分析が必要である。この分析作業を遂行するためには、少数の元素にしぼることが必要である。どの元素を有効元素として選択するかは、実際に、全国各地の窯跡出土須恵器を分析し、比較してみなければわからない。筆者は20年を越える年月をかけて全国各地の窯跡出土須恵器を大量に分析した。その結果、K-Ca、Rb-Srの両分布図上で各地の窯跡出土須恵器は窠ごとにそれぞれまとまって分析し、かつ、地域ごとに両図での分布位置がずれることが見つけ出された。いいかえれば、K、Ca、Rb、Srが各地の須恵器の指紋を表すと考えられよう。そうすると、元素分析による産地推定とは、あらかじめ、生産地(窯跡)出土須恵器の指紋(K、Ca、Rb、Sr)を求めておき、遺跡出土須恵器の指紋を生産地に照合することに他ならない。当然、照合法も開発しておかなければならない。既に地元産か搬入品かを判断するための2群間判別分析法は開発されている。北海道の遺跡出土須恵器の場合は至近距離にある青森県五所川原市にある五所川原窯群の製品が地元産と考えてデータ解析は進められる。

以上のような考え方で、表1に示すように、K、Ca、Fe、Rb、Sr、Naの6元素が選択的に完全自動分析装置で分析された。データ解析にはK、Ca、Rb、Sr、の4元素を使用しているが、Fe、Naもこれら4元素のうちのいずれかに置き換わって使用される場合もある。

本報告では分析試料数も少ないこともあって、2群間判別分析法は使用せず、K-Ca、Rb-Srの両指紋図を使って、定性的に産地への照合を行った。

図1にその結果を示す。2点の試料は両分布図で近接して分布するのみならず、表1から、Fe、Naの含有量も類似する。同一生産地の製品である可能性が高い。では、その生産地は何処か。図1でも五所川原領域に対応しないことは明らかである。しかも、Fe量でも五所川原群への帰属条件、 $Fe > 3.0$ を満足しない。したがって、五所川原窯群の製品ではない。また、東北地方太平洋側の窯跡出土須恵器のなかに、図1で2点の試料が分布する領域に分布するものはない。K、Rb量がもっと少ないのである。このことから、No.1、2の試料が東北地方太平洋側の岩手、宮城、福島県下の窯の製品である可能性は少ない。残るは東北地方日本海側の生産地を考えなくてはならない。秋田城周辺の窯群の中に、図1で2点の試料が分布する領域に分布するものがある。ここでは、秋田城周辺窯群を有力な産地候補としてあげておく。秋田城周辺から、同時にこの遺跡へ持ち込まれた須恵器である

可能性が高い。

青森県内の遺跡からも五所川原窯群の製品ではない須恵器が相当出土している。これらの産地は東北地方日本海側の製品と推定される場合が多い。しかも、その多くは器形観察から、五所川原窯群が採業に入る前の古い須恵器であるといわれている。この点から、今回分析した試料も、古い須恵器である可能性は十分ある。

北海道、青森県内の遺跡出土須恵器の産地推定の結果を近い将来まとめる予定であるが、そのとき、上述した傾向がもう少し鮮明な形をとるであろう。

表1 須恵器の分析データ

	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	推定産地
No. 1	0.554	0.203	2.000	0.618	0.511	0.333	秋田城周辺
No. 2	0.513	0.264	1.810	0.578	0.609	0.419	秋田城周辺

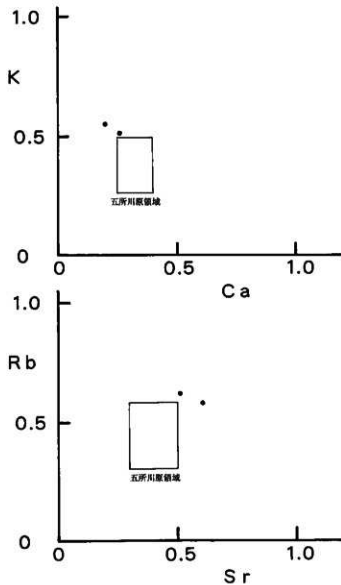


図1 両指数図

10. 西島松5遺跡 墓出土の非鉄金属の分析

1. はじめに

西島松5遺跡からは7～8世紀の墓塚が多数発見され、大刀、直刀、刀子、袋状鉄斧、鉄鎌、鑿子、釘、用途不明の金属製品などが副葬されていた。これらに混じって、墓塚の墳底から耳環と推測される数点の非鉄金属が検出されている。ここではP-23墳底の2地点(No. 2は2点、No. 3は6点)から検出された耳環と推測される8点の破片試料について主成分元素の判定と同一個体の可能性について検討を試みた。

2. 分析試料および分析方法

分析試料はP-23墳底の2地点(No. 2は2点、No. 3は6点)から検出された8点である。各試料については実体顕微鏡やHDビデオマイク装置を併用して観察し、実測図を作成した。出土状況等の詳細が不明なため、あえて復元的な実測は行っていない。いずれの試料も露出状態で遺構内に長期間置かれていたものであり、表面に多数の亀裂や剥落などの著しい劣化が認められる。これらは長さ1～2cm、径0.6cm程の湾曲のわずかに見られる細片となっており、取上げも困難な程に劣化していた(図1、図2参照)。そのため現場において7%のアセトン+バラロイドB72(アクリル樹脂)の混合溶液により仮強化されたものである。分析にあたっては、含浸されたバラロイドB72をアセトンで溶脱し、充分に乾燥させた。分析過程で試料が粉砕する危険性を考慮し、できる限り非破壊的分析を希望し、蛍光X線分析法を実施した。測定条件は電圧30.0kV、電流1.00mA、ライプタイム240.00secである。分析元素はAl, Si, P, Ca, Cr, Mn, Fe, Cu, Ga, As, Rh, Sn, Os, Pb, Thとした。

試料には分析のために、①～⑧の連続した分析番号を付した。

P-23 No. 2 ①、②、③、④、⑤、⑥ 総重量3.094g (B72処理後、微細なため⑥は実測せず)

P-23 No. 3 ⑦、⑧ 総重量1.689g (B72処理後)

3. 分析結果ならびに考察

P-23 No. 2、No. 3の①～⑧の分析結果については、一覧表、グラフ、分析チャートに示すとおりである。

非破壊的手法による蛍光X線分析では、遺物表面を覆っているサビや付着物の上からの分析となるため、外部から混入した微量金属も合わせて測定している。特にアルミニウムやケイ素などの土壌成分が混入することは避けられない。ここで得られた分析値は、地金本来の正確な組成を示すものではなく、試料自体も不均一であるので注意を要する。このことを念頭においた上で、数値上のみならず若干の考察を試みる。

分析結果によりNo. 2①、②、③、④およびNo. 3⑦、⑧の主成分は錫であり、いずれも10%以上の鉛を含むことが共通しており、錫合金と判定される。特にNo. 2①と④、No. 3⑦と⑧は主成分である錫が70%以上で、鉛が10%以上含まれるなど、結果が互いに類似しており、同じ種類の錫製品である。ただし、No. 2②、③では主成分である錫が50%前後で、10～22%程の鉛が含まれ、他に比してケイ素、鉄がやや多い。分析部位の違い、成分の溶出、土壌成分の影響とも考えられるが別個体の可能性も否定できない。また、No. 2⑤、⑥には錫が含まれず、ケイ素、鉄、カルシウムが多く、さらに微量のリチウム、カリウムが見られなど大きな違いが認められる。

以上から、試料のP-23 No. 2とP-23 No. 3は当初2個体の錫製耳環と推測されていたが、No. 2①、④とNo. 3⑦、⑧の別2個体がそれぞれ同一破片である可能性がある。また、No. 2②、③については

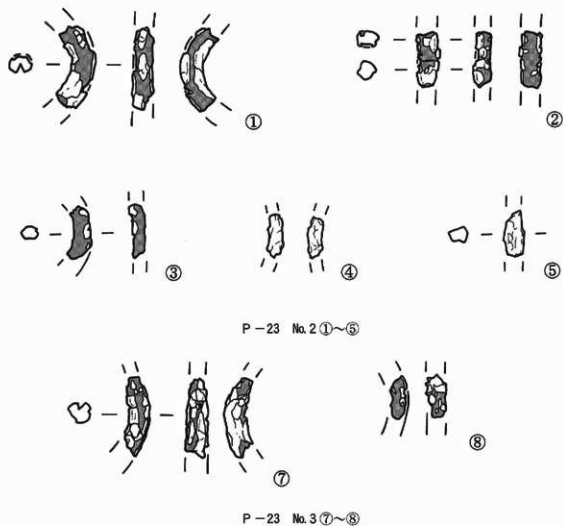


図1 P-23出土非鉄金属など
(実測例)

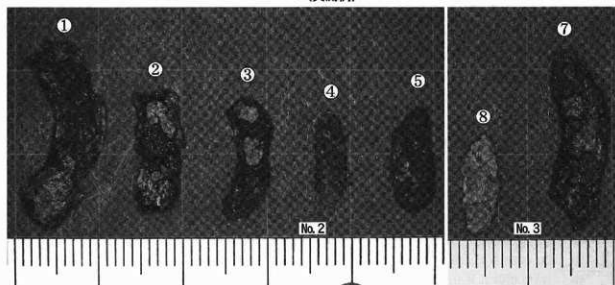


図2 P-23出土非鉄金属など
(デジタルHDマイクログラフ画像)

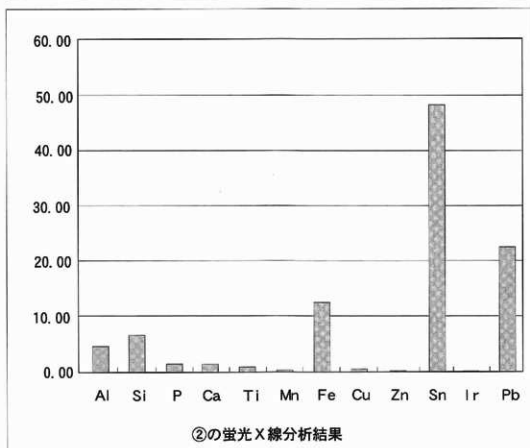
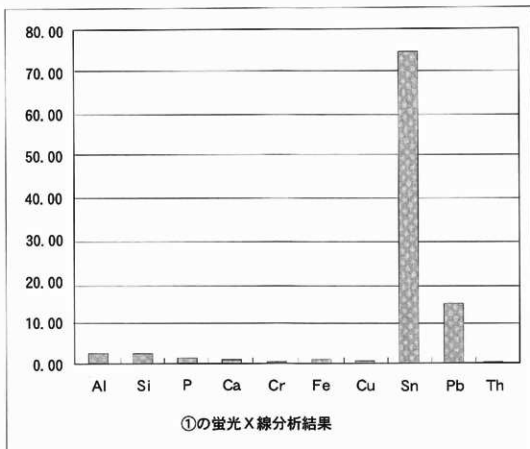
No. 2①、④と別の破片あるいは刀の鞘や把などの付属品とも考えられる。なお、No. 2⑤、⑥は鐃耳環ではなく、土壌あるいは生物排泄物と推測される成分であろう。したがって、3個体以上の鍍合金製品が存在した可能性が考えられる。今後は鞘部の測定部位を変え、繰返し測定するなど、さらに詳細な分析が必要であり、他遺跡出土試料との比較も重要な課題である。

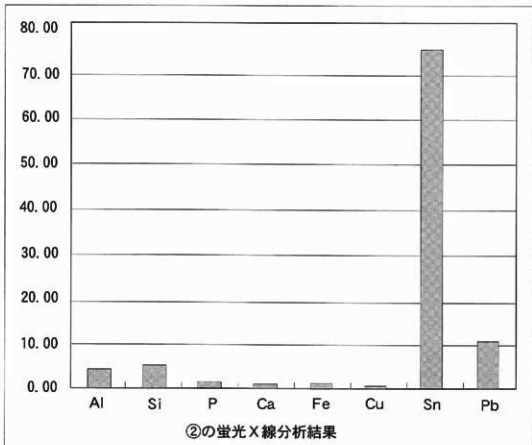
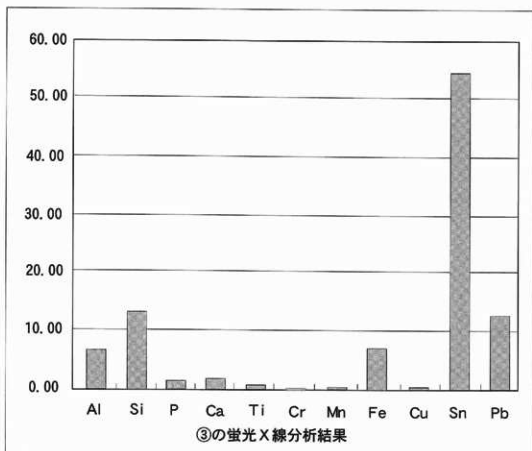
分析は北海道大学高等教育機能開発総合センター 小笠原正明教授、大学院工学研究科 加藤 晃一氏、工学部応用化学科 干谷洋平氏によるものであり、御協力、御教授に深く感謝いたします。

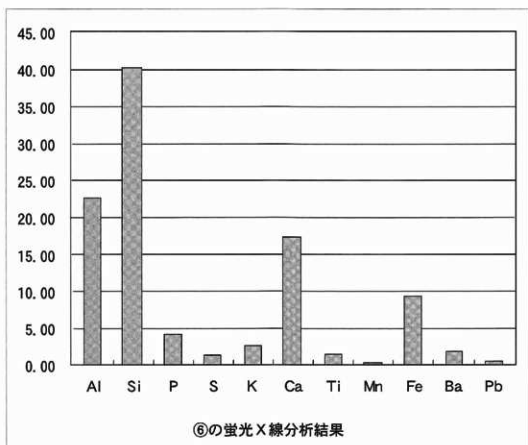
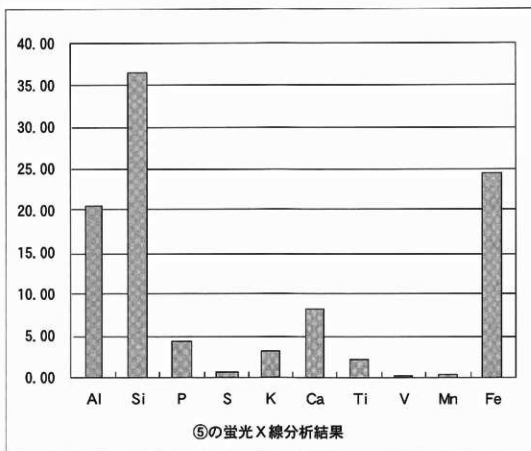
(第1調査部第1調査課 保存処理部門 山口 尚)

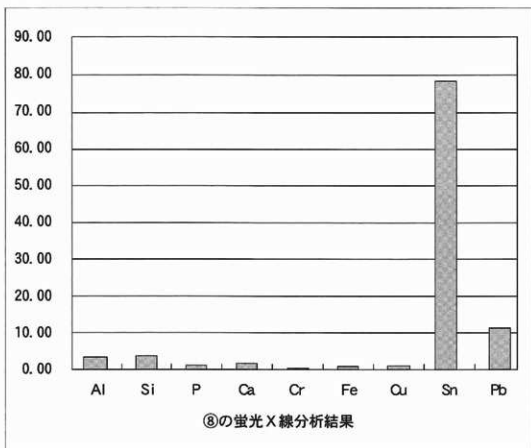
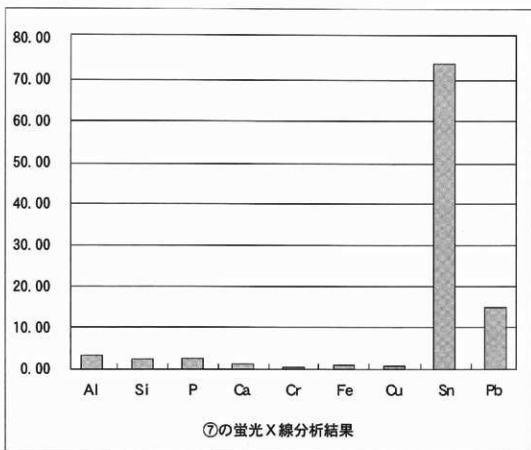
表1 スズの蛍光X線分析結果(wt%)

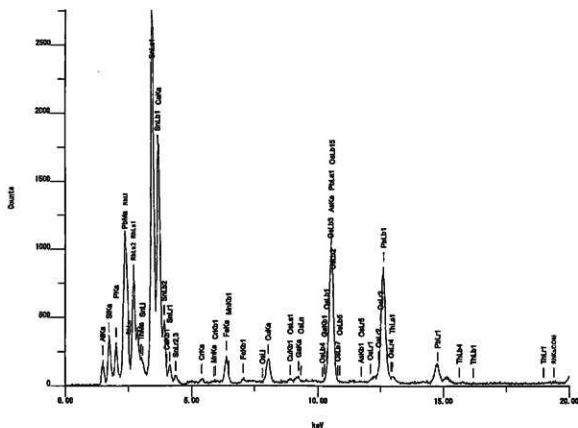
試料番号	Al	Si	P	S	K	Ca	Ti	V	Cr	Mn	Fe	Cu	Zn	Ga	Sn	Ba	Ir	Pb	Th
①	2.81	2.74	1.46			0.90			0.24		1.21	0.81			74.99			14.73	0.11
②	5.05	6.79	1.20			1.84	0.94			0.15	12.62	0.59	0.13		48.39			0.17	22.33
③	6.95	13.08	1.40			1.93	0.73		0.33	0.24	7.05	0.70			54.76				12.83
④	4.21	5.28	1.06			0.97					1.06	0.93			75.86				10.61
⑤	20.43	36.49	4.24	0.81	3.13	8.09	2.09	0.11		0.29	24.52								
⑥	22.60	40.09	4.16	1.19	2.47	17.16	1.11		0.06	0.14	9.20		0.07	0.02		1.62			0.12
⑦	3.18	2.30	2.37			0.95			0.18		0.89	0.80			73.55			0.07	15.06
⑧	3.11	3.74	1.04			1.55			0.22		0.75	0.80			77.72				11.07





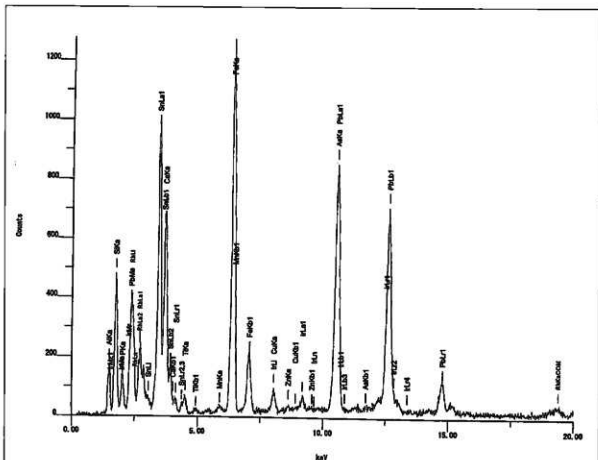






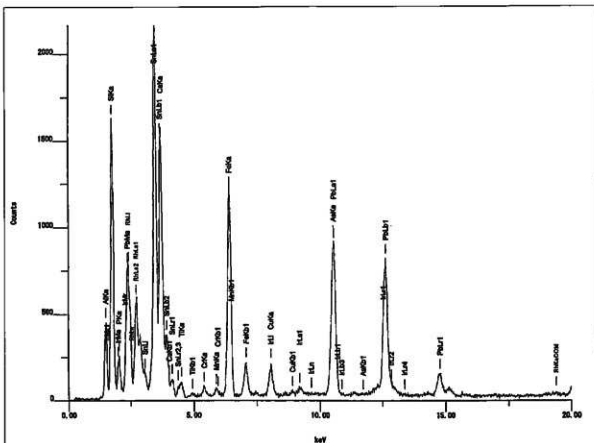
測定日時： 2002年 2月20日14時24分53秒
 測定条件： 電圧： 30.0kV 電流： 1.000mA 計測時間： 240.00sec パス： Vac
 分析元素： Al, Si, P, Ca, Cr, Mn, Fe, Cu, Ga, As, Sn, Os, Pb, Th

Num	元素 / 化学式	wt (%)	at/mole (%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13 Al	2.8103	10.2767	0.0030058	1677	0.0797
2	14 Si	2.7363	9.6130	0.0054678	3715	0.0376
3	15 P	1.4570	4.6412	0.0090658	3231	0.0260
4	20 Ca	0.8962	2.2063	0.0019521	1502	0.0447
5	24 Cr	0.2366	0.4490	0.0002641	472	0.0399
6	25 Mn	0.0047	0.0085	0.0000060	11	0.0362
7	26 Fe	1.2088	2.1356	0.0016104	3186	0.0328
8	29 Cu	0.8138	1.2635	0.0014737	3161	0.0261
9	31 Ga	nd				
10	33 As	nd				
11	50 Sn	74.9930	62.3430	0.1975399	74731	0.1289
12	76 Os	nd				
13	82 Pb	14.7310	7.0153	0.0649486	42533	0.0723
14	90 Th	0.1124	0.0478	0.0006244	281	0.1035



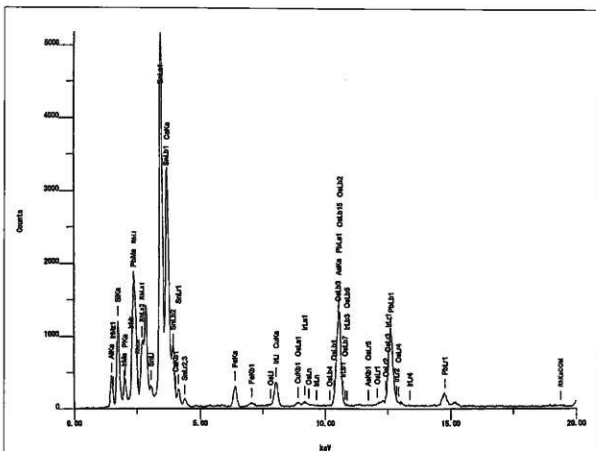
測定日時: 2002年 2月20日14時35分20秒
 測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 1.000mA フィルタ: 240.00sec パス: Vac
 分析元素: Al, Si, P, Ca, Ti, Mn, Fe, Cu, Zn, As, Rh, Sn, Ir, Pb

Num	元素/ 化学式	wt (%)	at/mole (%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13 Al	5.0493	14.5681	0.0031523	1759	0.0944
2	14 Si	6.7937	18.8307	0.0076534	5200	0.0460
3	15 P	1.1960	3.0059	0.0040013	1426	0.0373
4	20 Ca	1.6393	3.1840	0.0019611	1509	0.0563
5	22 Ti	0.9446	1.5352	0.0005988	816	0.0676
6	25 Mn	0.1534	0.2174	0.0001270	231	0.0382
7	26 Fe	12.6225	17.5952	0.0108552	21479	0.0352
8	29 Cu	0.5795	0.7099	0.0006095	1307	0.0311
9	30 Zn	0.1301	0.1550	0.0001509	321	0.0299
10	33 As	nd				
11	50 Sn	48.3919	31.7400	0.0694367	26268	0.1635
12	77 Ir	0.1653	0.0670	0.0007484	275	0.0854
13	82 Pb	22.3342	8.3917	0.0551118	36091	0.0906



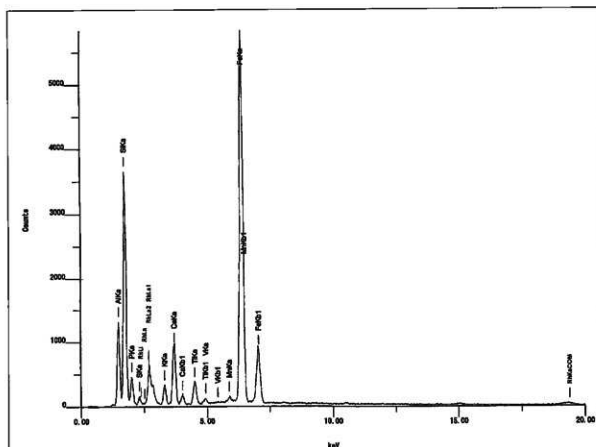
測定日時: 2002年 2月20日14時44分25秒
 測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 1.000mA サイクル: 240.00sec バス: Vac
 分析元素: Al, Si, P, Ca, Ti, Cr, Mn, Fe, Cu, As, Rh, Sn, Ir, Pb

Num	元素/ 化学式	wt. (%)	at. mole (%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13 Al	6.9515	17.1412	0.0079420	4432	0.0844
2	14 Si	13.0782	30.9812	0.0263805	17924	0.0420
3	15 P	1.3957	2.9979	0.0079073	2818	0.0322
4	20 Ca	1.9300	3.2038	0.0043819	3371	0.0485
5	22 Ti	0.7333	1.0186	0.0007991	1087	0.0548
6	24 Cr	0.3303	0.4227	0.0004263	761	0.0390
7	25 Mn	0.2371	0.2872	0.0003428	623	0.0358
8	26 Fe	7.0480	8.3966	0.0106320	21037	0.0328
9	29 Cu	0.6987	0.7315	0.0013533	2902	0.0276
10	33 As	nd				
11	50 Sn	54.7626	30.6979	0.1489530	56350	0.1410
12	77 Ir	nd				
13	82 Pb	12.8347	4.1215	0.0608344	39838	0.0760



測定日時： 2002年 2月20日14時52分27秒
 測定条件： 電圧：30.0kV 電流：1.000mA タイプ：A 240.00sec パス：Vac
 分析元素： Al, Si, P, Ca, Fe, Cu, As, Rh, Sn, Os, Ir, Pb

Num	元素/化学式	wt (%)	at/mole (%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13 Al	4.2067	13.8336	0.0080373	4465	0.2550
2	14 Si	5.2760	16.6682	0.0186032	12640	0.1216
3	15 P	1.0876	3.1157	0.0117100	4173	0.0857
4	20 Ca	0.9701	2.1477	0.0038960	2997	0.1385
5	26 Fe	1.0550	1.6762	0.0025055	4957	0.1052
6	29 Cu	0.9316	1.3009	0.0030118	6459	0.0835
7	33 As	nd	nd			
8	50 Sn	75.8636	56.7142	0.3679588	139201	0.3997
9	76 Os	nd	nd			
10	77 Ir	nd	nd			
11	82 Pb	10.6093	4.5435	0.0849568	55635	0.2273

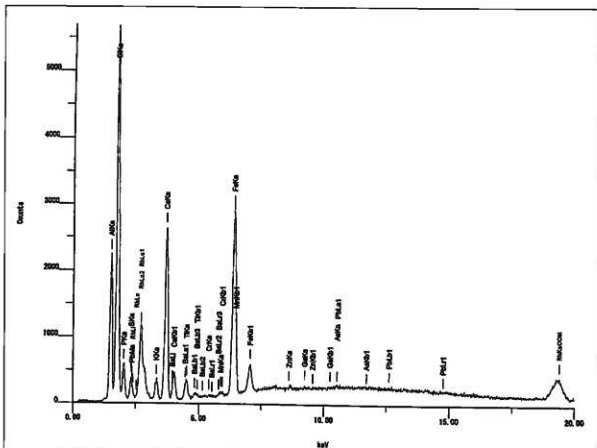


測定日時： 2002年 2月20日15時 0分36秒

測定条件： 電圧： 30.0kV 電流： 1.000mA ライトタイム： 240.00sec バス： Vac

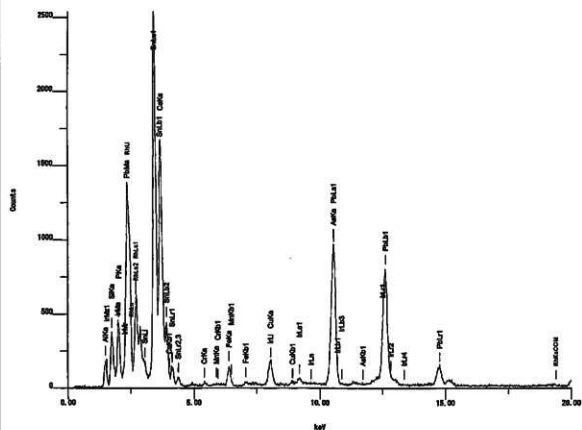
分析元素： Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Rh

Num	元素/ 化学式	wt (%)	at/mole (%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13 Al	20.4286	25.3694	0.0242516	13533	0.0913
2	14 Si	38.4948	43.5399	0.0595305	40448	0.0585
3	15 P	4.2440	4.5911	0.0150005	5346	0.0583
4	16 S	0.6051	0.6324	0.0007574	1252	0.0351
5	19 K	3.1341	2.6857	0.0070426	3928	0.0598
6	20 Ca	8.0864	6.7604	0.0182102	14010	0.0480
7	22 Ti	2.0908	1.4626	0.0037815	5145	0.0374
8	23 V	0.1056	0.0695	0.0001998	324	0.0316
9	25 Mn	0.2890	0.1763	0.0006164	1120	0.0273
10	26 Fe	24.5215	14.7127	0.0520768	103041	0.0262



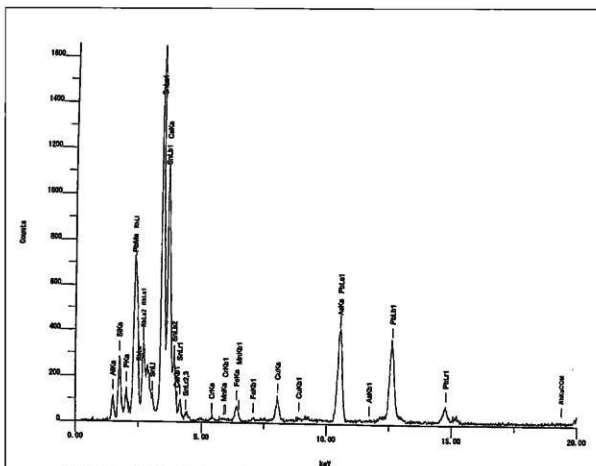
測定日時: 2002年 2月20日 15時16分27秒
 測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 1.00mA 分析時間: 240.00sec バス: Vac
 分析元素: Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Fe, Zn, Ga, As, Rh, Ba, Pb

Num	元素/ 化学式	wt (%)	at/mole (%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13 Al	22.5992	26.7374	0.0423565	23637	0.0733
2	14 Si	40.0855	45.5615	0.0947725	64393	0.0511
3	15 P	4.1557	4.2830	0.0201310	7174	0.0539
4	16 S	1.1858	1.1805	0.0220310	3356	0.0325
5	19 K	2.4865	2.0137	0.0073034	4073	0.0574
6	20 Ca	17.1550	13.5636	0.0497644	38287	0.0472
7	22 Ti	1.1104	0.7400	0.022622	3078	0.0493
8	24 Cr	0.0644	0.0396	0.001549	277	0.0298
9	25 Mn	0.1417	0.0823	0.0003722	676	0.0281
10	26 Fe	9.2019	5.2599	0.0250695	49604	0.0258
11	30 Zn	0.0710	0.0347	0.0002584	549	0.0222
12	31 Ga	0.0166	0.0076	0.0001394	135	0.0228
13	33 As	nd				
14	56 Ba	1.6225	0.3771	0.0066520	3061	0.1219
15	82 Pb	0.1237	0.0191	0.0011005	721	0.0576



測定日時： 2002年 2月20日15時 8分52秒
 測定条件： 電圧：30.0kV 電流：1.000mA 517 μ m: 240.00sec パス：Vac
 分析元素： Al, Si, P, Ca, Cr, Mn, Fe, Cu, As, Rh, Sn, Ir, Pb

Num	元素/化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13 Al	3.1766	11.2340	0.0032050	1789	0.0884
2	14 Si	2.9600	10.0564	0.0055478	3769	0.0419
3	15 P	2.3704	7.3025	0.0137750	4909	0.0325
4	20 Ca	0.9494	2.2604	0.0019271	1483	0.0502
5	24 Cr	0.1789	0.3283	0.0001884	336	0.0441
6	25 Mn	nd				
7	26 Fe	0.8966	1.5148	0.0011162	2209	0.0363
8	29 Cu	0.8030	1.2058	0.0013782	2956	0.0288
9	33 As	nd				
10	50 Sn	73.5451	59.1272	0.1803058	68211	0.1448
11	77 Ir	0.0658	0.0327	0.0004921	181	0.0874
12	82 Pb	15.0643	6.9379	0.0629010	41126	0.0812



測定日時： 2002年 2月20日15時23分44秒

測定条件： 電圧： 30.0kV 電流： 1.000mA 57° 計測： 240.00sec バス： Vac

分析元素： Al, Si, P, Ca, Cr, Mn, Fe, Cu, As, Rh, Sn, Pb

Num	元素/化学式	wt (%)	at/mole (%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13 Al	3.1093	10.8903	0.0018571	1036	0.1079
2	14 Si	3.7392	12.5702	0.0041756	2837	0.0508
3	15 P	1.0363	3.1591	0.0035870	1278	0.0353
4	20 Ca	1.5531	3.6586	0.0019591	1507	0.0584
5	24 Cr	0.2235	0.4068	0.0001376	246	0.0545
6	25 Mn	nd				
7	26 Fe	0.7505	1.2688	0.0005524	1093	0.0449
8	29 Cu	0.7998	1.1884	0.0008039	1724	0.0356
9	33 As	nd				
10	50 Sn	77.7151	61.8226	0.1185851	44862	0.1681
11	82 Pb	11.0732	5.0461	0.0275723	18056	0.0967

VII 成果と問題点

1. 遺構

はじめに

平成12年度西島松5遺跡の調査によって続縄文時代と埤文時代の墓が多数発見された。発見された遺構は、続縄文時代の土壇墓4基、埤文時代の土壇墓84基、周溝のある墓6基、そして円形状の土壇70基である。これらは調査区の北西側、柏木川の支流であるキトウシュメンナイ川に面する標高25.20m～23.40mの緩斜面上に分布し、小さな沢(沢1)周辺約3,500㎡の範囲に集中している。ただこの範囲の北と南側は未調査であり、墓域の全体は明らかになっていない。また調査地区は長い間畑地として使用されていたため、耕作により深く攪乱・削平を受け、遺構の上方部分が大きく破壊されていて遺構全体を把握できなかつたものも多い。このような制約を前提に、事実関係を整理し、その成果と、残された課題を示すこととする。ここでは埤文時代(北大Ⅲ式土器と埤文土器を伴う時期)の土壇墓と周溝のある墓を中心に整理・検討し、円形状の土壇についても若干触れることにする。なお平面形、長さ、方向は墳底面での計測値を用いている。

1. 構造 平面形、長軸方向、深さ、について整理し、覆土の推積状態についてもここで取り上げる。

平面形～土壇墓と周溝のある墓の主体部の平面形は、ほとんどが丸味のある長方形状であるが、なかには①長円形あるいは楕円形状のもの、②長方形状のもの、③細長い長方形状のもの、もある。①は沢1の南東側に見られ、③は沢1の南西側のみに見られる(図Ⅶ-1)。ところでP61とP87は他と異なる形状である。なおⅡ、Ⅲ層中で検出されたP1～P6(S-6周辺)の検出面での平面形は楕円形状である。他の掘り込みの深い土壇墓も、まず楕円形状に広く掘り、途中から長方形に形を整えていったのではないかと考えられる。

長軸方向～長軸方向はほぼ南東-北西方向であるが、N-55°-Wを境いに大きく二つのまとまりが見られる(図Ⅶ-2)。ところでP87とP115は南西-北東、P210とP61は南-北、P48とP119は東-西方向というように他とは異なる長軸方向である。

長軸長と短軸長～図Ⅶ-3は長軸長を横軸、短軸長を縦軸で表したものである。①X3・5・6の主体部は短軸長に対して長軸長が非常に長く、P119・150・210もこれに近い値を示している(平面形の③に対応する)。②P15は短軸長と長軸長にあまり差がない。また③P16・48・51・52・212・214・X3は長軸長、短軸長ともに他に比べ非常に短く、P23・203・211もこれに近い土壇墓である。①は沢1とその延長線の西側にのみ見られる。

深さ～遺構の上方部分はすべて攪乱させており、掘り込み面を検出することができなかつた。このためここでは沢地形やⅡ・Ⅲ層の残存状態などから判断して、墳底面や構築面からⅣ層上面付近までを深さとして計測した。これによると98cm～90cm(11基)、89cm～60cm(9基)39cm～30cm(7基)の深さのものが多く、逆に70cm付近、40cm付近、20cm以下のものが少なくなっている。このことから便宜的に次の三つの深さに分けて整理することにした。①72cm以上、②70cm～45cm、③40cm以下である。①は沢1の南東側に、②は沢1の北東側に、そして③は沢1周辺と南西側に、それぞれ多く分布している傾向がうかがえる(図Ⅶ-4)。

覆土～覆土は、①Ⅳ層を主体とする混合土、②黒(暗)褐色土を主体とする黒っぽい土、の二つに大別することができる。ともに埋め戻し土である。①は沢1の東～南東側に分布し、②は沢1周辺から西～南西方面に広く分布している(図Ⅶ-5)。なお覆土は乱雑に埋め戻しているのではなく、混合土、

黒(暗)褐色土、黄色土、灰色土などを丁寧に分けて埋め戻しており、土壌墓を掘る際にも掘り上げ土はきちんと分けられていた様子がうかがえる。

覆土を含めて「構造」から以下のようなまとまりが見られる。深さ①・②の土壌墓は沢1とその延長線の東側に分布し、覆土は大半が混合土である。深さ③の土壌墓は沢1周辺と西側に分布しており、覆土は混合土のものもあるが、多くは黒(暗)褐色土である。平面形の③と長軸長と短軸長の①は伸展葬と考えられるが、これらは周溝のある墓の主体部と沢1の西～南側のみ分布し、覆土は黒(暗)褐色土である。長軸長と短軸長の②は遺物の出土状況などから見て合葬墓と思われる。同③は小人の墓と思われるが、これらには明瞭なまとまりは見られない。

2. 付属構築物 ここでは袋状ピット、墳底の小ピット、木構痕、貼床について整理する。

袋状ピット～袋状ピットは66基の土壌墓に作られている。ただ上方が削平されているものもあり、この66基以外では作られていなかったかどうかは断定できない。沢1とその延長線の西側では周溝のある墓の主体部を含めてP101・117以外は検出されていない。このP101・117ははっきりと袋状ピットと言えるかどうかは断定できない。袋状ピットの位置は、大半が南東壁の中央部付近に作られているが、なかには東側コーナー付近(P73・76・99・100・101)や、西側コーナー付近(P85・96・117・130)にあるものもある。また高さは、30cm～40cm付近のものが多いが、墳底面付近に作られているもの(P86・93・96・98・101・117)もあり、平均は約29cmである。基本的に一土壌墓に一個であるが、P15(合葬墓)、P24(上下)、P131(追葬)のように二つあるものもある。袋状ピットには土器が1個体入れられている(Ⅶ-6の①)が、何も入れられていないものや穢が二個入れられているもの(Ⅶ-6の②)もある(図Ⅶ-6)。土器は小型の甕がほとんどであるが、なかには注口土器(P98)や片口土器(P16・85)のものもある。これらの土器はすべて口縁部を一部打ち欠き、その部分を上にして、斜めに入れられている。袋状ピットは平面形、深さ、長軸方向、覆土の違いにあまり関係なく、P101とP117以外は沢1とその延長線の東側の土壌墓に作られている。

墳底の小ピット～小ピットが検出されなかったのは29基の土壌墓であるが、なかには調査中黒褐色土のきわめて浅い小ピット状のものが確認されているものもあり、これらを含めると小ピットが検出されなかった土壌墓は17基である。小ピットは基本的に墳底の四隅付近にあるが、長軸方向の壁際中央部付近に一個ずつ、やや大きな小ピットを有するもの(④P11・12・19・20・21・73・125)もあり、P73では四隅にも小ピットが検出されており、両小ピットには時間差が認められた。沢1の西側ではP101とP179でも浅い小ピットが見られるが、これらはかなり形骸化したものである。このように小ピットは沢1とその延長線の東側に集中しており、平面形、深さ、長軸方向、覆土などにあまり関係しないようである。小ピットの位置には①墳底四隅の下場のライン上、②長軸方向の下場のライン上に二個ずつ並ぶもの、③下場のラインより5cm～10cmほど内側にあるものがある(図Ⅶ-7)。また覆土上層で小ピットのものと思われる円形状の空洞が検出されているものや四隅の壁が上方でオーバーハングしているものもある。P30・68・125のように小ピットの壁側が角柱状に掘り広げられているものもあり、P68のようにその小ピットが残っているもの、四角形状の痕跡が残っているものもある。小ピットは杭状で、直立しており、どのような構築物が想定されるか不明であるが、即上屋構造を考える前に、前述のあり様を十分に検討する必要があるだろう。P73では四隅の小ピットと長軸方向壁際に二個の小ピットが検出され時間差が認められたため、当初2個→4個へという新旧を想定したが、他の土壌墓(P19)に共存する土器では必ずしもそのように考えられないことがはっきりした。従って現時点では単純に新旧関係(P73では四隅の小ピットの方が新しいけれども)ではなく、性格の異なる構築物によるもの、と考えておく。

木樫痕～木樫の存在を確認したのは①墳底の壁際付近に細長い溝状の落ち込みが検出された、②土層断面で壁に沿うように細長い板状の層を検出した、③土層断面や壁際で裏込め土と考えられる粘土を検出した、④墳底から30cm～40cm上方までの壁面が垂直で、非常に丁寧に作られている、⑤壁の途中で段上になっている、ことなどからである。①にはP 1・4・9・12・15・16・17・20・21・39・73・93・94・96・97・102・103・117・120・125・126 ②にはP 4・6・11・12・17・84・101・103 ③にはP 8・11・20・21・29・75・80・83・93・94・102・145・203 ④にはP 2・3・5・7・11・14・29・30・33・66・70・75・76・89・98・121・127・129・143・145・146・203 ⑤にはP 30・66・75・96・98・143 がある。ただし①から⑤までの状況が完全なかたちで検出されているものは少なく、その一部が検出されているものが大半である。木樫痕の形状はほぼ長形状のものであるが、なかには楕円形状のもの(P 73・97・103)や組み合わせ式のもの(P 12・15・16・94・117)もある。木樫の高さの平均は約34cmである。墳底で検出された溝状の落ち込みから見て、先端は鋭角で、板状あるいは杭状のものである。木樫痕はほぼ墓域の全体で検出されており(図Ⅷ-8)、沢1とその延長線の東側では板状のもの、西側では杭状のもの、という違いが見られる。とくに周溝のある墓の主体部では杭状のもので、上方が開き気味で、お互いが重なり合うように深く打ち込まれている。なお、木樫の高さ(推定値)と袋状ピットの高さを比べるとほぼ同じ高さか、袋状ピットが高いところに作られているのが一般的であるが、なかには袋状ピットが低いもの(P 2・70・93・98・203)もある(図Ⅷ-11)。

貼床～①構築面を皿状に掘り、そこに土を入れて遺体面を平坦にしているもの、②構築面が軟弱のため薄く粘土を入れて遺体面を安定させているもの、を貼床としている。②にはP 21・85・131・203 がある。貼床を作っている土壌墓は沢1とその延長線の東側だけにある(図Ⅷ-9)。

付属構築物は、袋状ピット、墳底の小ピット、木樫、貼床とも沢1とその延長線の東側に集中している。ただし西側にあるP 101・117・179のように袋状ピットや墳底の小ピットを伴うものもあるが、明確にそれと判断できないほど形骸化している。ただ木樫痕のみははっきりと沢1の西側でも確認され、しかも杭状のものを深く打ち込んで作っている。

3. 副葬品 ここでは墳底および墳底直上付近出土の鉄製品と礫(置き石と呼称する)を副葬品としている。鉄製品は保存処理の結果により種類や数量に変更が生じると思われるが、ここでは調査時および取り上げ時点での種類、数量にもとづいている。

鉄製品～鉄製品には直刀、小刀、刀子、鉄鎌、鉄斧、鉄鎌、釣針、釘、鉄環、錘子などがあり、蕨手刀も二点出土している。これらの組み合わせは、①直刀(蕨手刀も含む)のみ、②小刀のみ、③刀子のみ、④鉄斧のみ、⑤鉄鎌のみ、⑥直刀+小刀+刀子+鉄斧、直刀+刀子+鉄斧、⑦直刀+刀子、⑧直刀+鉄斧、⑨小刀+刀子、⑩刀子+鉄斧+鉄鎌、⑪刀子+鉄斧、⑫刀子+鉄鎌、などがあり、一定していない。この組み合わせの中でも③が14基(P 3・7・19・21・22・28・84・89・111・117・121・129・145・207)④が10基(P 12・15・96・98・101・125・130・131・150・X 6)と圧倒的に多い。ちなみに①は2基(P 29・112)、②は1基(P 68)、④は3基(P 2・73・143)、⑤は1基(P 127)、⑥は1基(P 11)、⑦は1基(P 30)、⑧は1基(P 128)、⑨は1基(P 9)、⑩は1基(P 75)、⑪は1基(P 16)、⑫は2基(P 14、146)で、他に刀子+鉄製品(P 97)がある。鉄製品の置かれている位置は、遺体の横付近や頭部付近の壁側に多く、なかにはP 96・98のように直刀を南東壁際に突き立てているものもある。また出土状況などから見て、刀子や鉄斧、鉄鎌を突き立てていたのではないかと想定されるものもあり、刀子ではP 3、鉄斧ではP 2・30・33・128・143、鉄鎌ではP 14・127がある。また木樫外に鉄鎌、鉄斧、釣針などを入れているもの(P 28・101・143)もある。

鉄製品は52基の土壌墓に副葬されており(図Ⅷ-10)、一土壌墓に数種類、数点の鉄製品を副葬して

いるものも多い。これらは沢1とその延長線の東側に集中しているが西側の土墳墓や周溝のある墓の主体部にも副葬されている。P101・112の蕨手刀やX6の直刀+刀子というように種類、数は少ない。

置き石～置き石には①1個のもの、②2個のもの、③3個のものがある。①は11基(P3・70・76・86・94・96・103・117・120・145・150)②は29基(P4・6・7・11・14・15・17・24・28・29・30・39・51・83・84・97・98・121・126・127・128・129・130・131・139・145・146・203・207)、③は1基(P8)である。置き石のある土墳墓は41基で、2個のものが圧倒的に多い。そしてほとんどが頭部付近で頭部をはさむような位置にある。なお長軸方向壁際に小ピットが一個ずつある土墳墓6基のうち置き石のある土墳墓はP11の1基のみである。また置き石には自然礫を半割して入れられているもの、すり石やたたき石をそのまま利用しているものも見られる。置き石はP117・120・121・150(P117・120・150)は1個で、浅い土墳墓)以外は沢1とその延長線の東側に集中している(図Ⅷ-12)。

4. その他 ここでは「追葬」と覆土中の「一括土器」について整理する。

追葬～追葬は①墳底の小ピットが4個以上検出されたこと、②墳底面出土の礫が覆土中出土の礫と接合したこと、③土層断面で遺体層と思われる粘質土の層が検出されたこと、などにより確認された。①には6個のもの(P4・86・96・73)、8個のもの(P85・93)、10個のもの(P98)があり、②にはP98、③にはP76・83・97があり、1～3回の追葬が行なわれていた様子がうかがえる。なおP131には袋状ピットが2個あり、P15とは位置、検出状況も違うことから追葬の結果によるものと思われる。またP73は墳底の小ピット4個と長軸方向壁際に1個ずつ、計6個の小ピットが検出されており、検出状況から見て2個→4個へという追葬が想定される。追葬はP98のように土墳を掘り広げているものもあるが、多くが前と同じ大きさで、前の遺体面より少し上に新しい遺体面を作っている。追葬は沢1の南東側の深い土墳墓に集中している。

覆土中出土の一括土器～墳底より5cm～10cmほど上方で土器が一個体ほぼ横倒しの状態で出土している土墳墓が12基ある。その出土位置は、①南東壁側にあるもの(P2・4・33・39・129・150・212)、②南西壁側にあるもの(P23・89・97)、③北東壁側にあるもの(P102・132)がある。このうち袋状ピットが検出されていないのはP2・23・33・150・212で他には袋状ピットが作られている。しかしながらこれらの袋状ピットには土器が入られていない。当初これらは袋状ピットから落ちたものと考えていたが、袋状ピットの調査が進むにつれ、袋状ピット内の土器はしっかり固定されていることが明らかになった。従ってこれらの土器は袋状ピット内の土器ではなく、木椽上にのせられていたものと考えている。P150とP212は被葬者の頭付近に直接置かれていたものではないかと思われる。これらの一括土器は、墳口付近で破片の状態出土する土器とは違い、埋葬儀礼に伴うものという範囲には含まれるだろうが、恐らく袋状ピット内の土器と同じ用途が考えられる。

土墳墓と周溝のある墓の構造、付属構築物、副葬品、その他について整理してみた。これらからは沢1とその延長線を境いに東側と西側でかなりの違いが見られ、またやや共通する点も確認できた。以下にその違いと共通点を整理しておく。

- (1) 墳底面の大きさ、長軸長と短軸長の比から見て、東側の土墳墓は屈葬、西側では屈葬と伸展葬があり、周溝のある墓ではX7以外は伸展葬である。
- (2) 深さは、周溝のある墓の主体部を含めて西側のものはほぼ40cm以下の浅いもので、沢1周辺にも浅い土墳墓があり、東側の多くは深い土墳墓や、やや深い土墳墓である。
- (3) 覆土は、西側は黒(暗)褐色土の埋め戻し土、東側は混合土と黒(暗)褐色土の土墳墓があり、深いものは混合土、浅いものの中には黒(暗)褐色土のものもある。
- (4) 袋状ピットは、東側に集中し、西側ではP101・117のように形骸化したものしか見られてない。

- (5) 墳底の小ピットは、東側に集中し、西側ではP101・179のように形骸化したものしか見られない。
 (6) 追葬、貼床、置き石は東側にしか見られない。

ほぼ共通するものは、

- (7) 長軸方向はほぼ南東―北西方向であるが、その中でも二方向に大きなまとまりがある。
 (8) 木槨痕は共通して見られる。しかしながら材や作り方では、東側は板状で丁寧に作っているのに対して、西側のものは、とくに周溝のある墓の主体部では杭状のものをやや乱雑に、深く打ち込んでいる、という違いも見られる。

- (9) 副葬品の鉄製品は、双方に見られる。しかしながら東側の土墳墓では種類、数量が多く、一土墳墓に複数の鉄製品が副葬されているものが多い。P101・112・X6とは明瞭な違いが見られる。

ここで付属構築物と副葬品のあり方(組み合わせ)を整理しておく。ただしすべての土墳墓、周溝のある墓の主体部が完全なかたちで調査された訳ではないので、埋葬時の姿をそのまま示しているのではないことは言うまでもない。

(イ)袋状ピット+墳底の小ピット+鉄製品+置き石～P3・5・6・7・11・14・16・29・30・83・84・96・97・98・127・128・129・130・(131)・143・145・146・203・207

(ロ)袋状ピット+墳底の小ピット+鉄製品～P9・12・15・19・20・21・21・68・73・75・89・101・125

(ハ)袋状ピット+墳底の小ピット+置き石～P4・8・17・24・39・48・70・76・86・121・126

(ニ)袋状ピット+墳底の小ピット～(P1)・27・55・66・80・85・93・99・100・(102)・132

(ホ)墳底の小ピット+鉄製品+置き石～P28・94 (ヘ)墳底の小ピット+鉄製品～P2・33

(ト)墳底の小ピット+置き石～P51・139 (チ)袋状ピット+鉄製品+置き石～P117

(リ)袋状ピット+置き石～P103 (ヌ)墳底の小ピット～P152・179

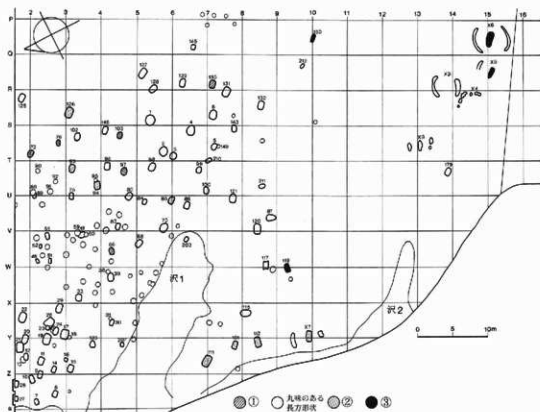
(ル)鉄製品+置き石～(P94)・150 (ワ)鉄製品～P111・112・X6

(フ)置き石～P120

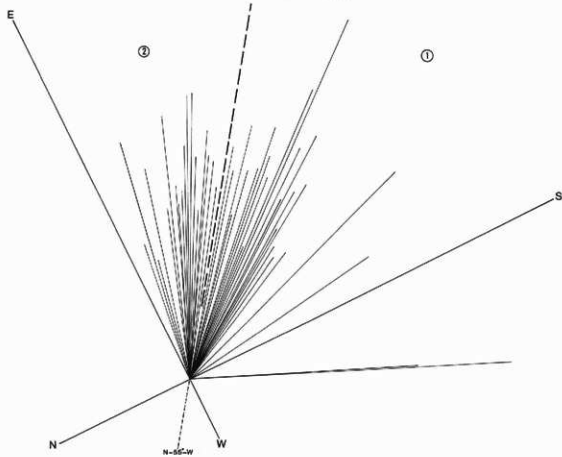
袋状ピット、墳底の小ピット、鉄製品、置き石を有する土墳墓は24基と最も多く、置き石がないものが12基、鉄製品がないものと副葬品を伴わない土墳墓がそれぞれ11基ずつである。また袋状ピットのみという土墳墓はなく、P10・23・26・61・87・115・210・211・214は付属構築物、副葬品を有していない。このうち沢1とその延長線の西側の土墳墓ではP101が(ロ)、P179が(ヌ)、P117が(チ)、P111・112・X6が(ワ)、P120が(フ)、P150が(ル)であるが、P101・117・109の袋状ピットや墳底の小ピットは形骸化したものであり、副葬品とくに鉄製品のみを有する土墳墓ということになる。

5. 構造、付属構築物、副葬品など個々のあり様を整理してみたが、以下にそれらを総合的に眺め、土墳墓の変遷を中心に検討することにする。

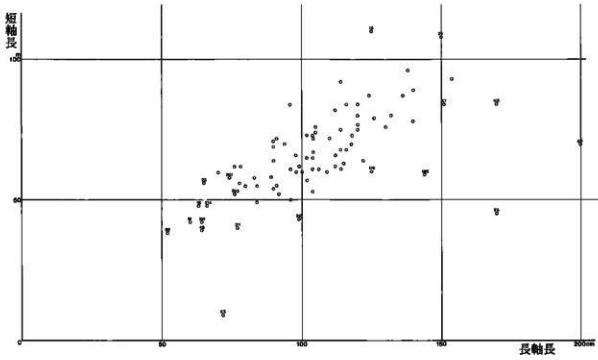
(1) 周溝のある墓を含めて濠文時代の土墳墓が90基検出されている。これらは沢1周辺一帯に作られており、同地域一帯が墓域として長期間利用されていたものと思われる。前述したように沢1とその延長線を境いに共通する点もあるが、相違する点が多く、これは共伴する土器(東側では北大Ⅲ式土器、西側では濠文土器とそれに併行する時期の土器)から見て、時間的な違いから生じたものと考えられる。即ち沢1とその延長線を境いに東側が北大Ⅲ式期、西側が濠文前期に該当するものと思われる。墓域は、東側から西側へ、そしてキトウシュメンナイ川寄りの土墳墓から周溝のある墓へ、という大きな変遷が考えられる。ところで重複する土墳墓はP20とP21のみで、また共伴する土器などの良好な接合資料がなく、北大Ⅲ式期の土墳墓のより細かな変遷をたどることがむづかしい。しかしながら大雑把に北大Ⅲ式期の土墳墓は深く、混合土の覆土が多く、濠文前期のものは浅く、黒(暗)褐色土の



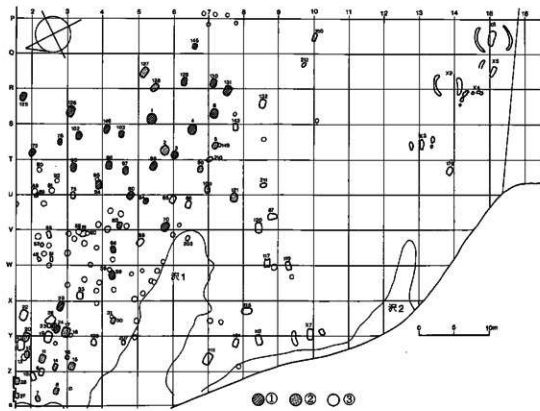
図Ⅷ-1 墳底の平面形



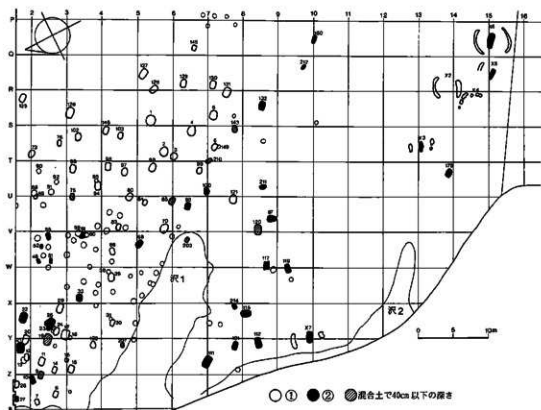
図Ⅷ-2 墳底面の長軸方向



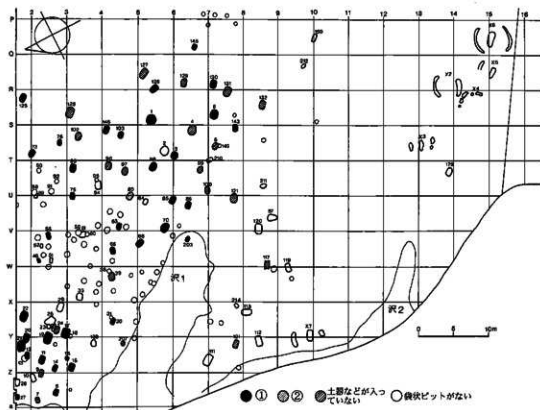
図III-3 長軸長と短軸長



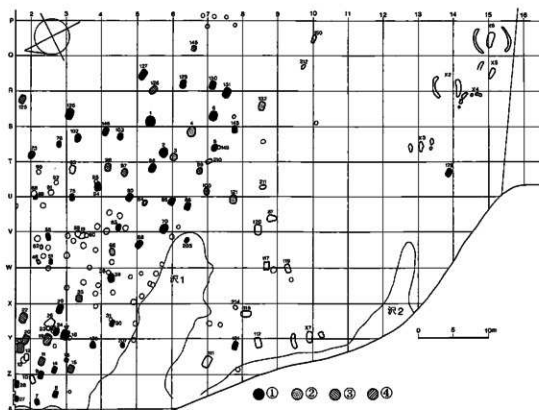
図III-4 深さ



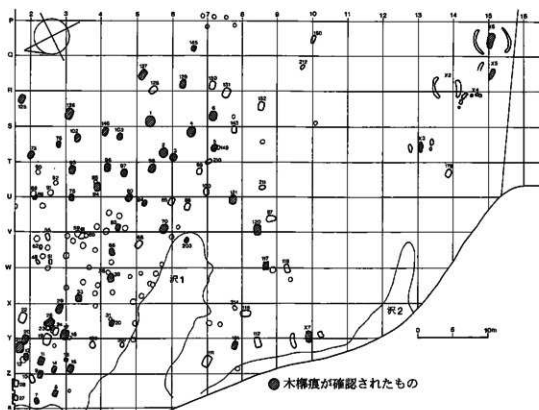
図Ⅴ-5 覆土



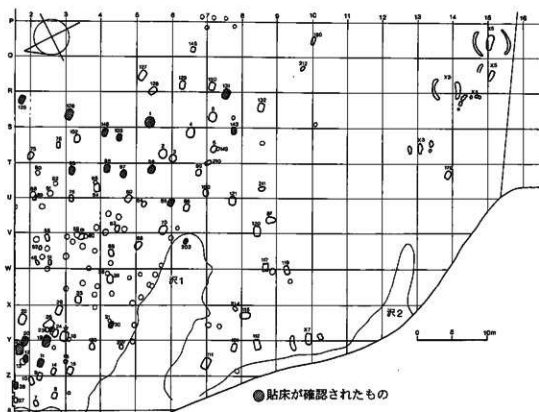
図Ⅴ-6 袋状ピット



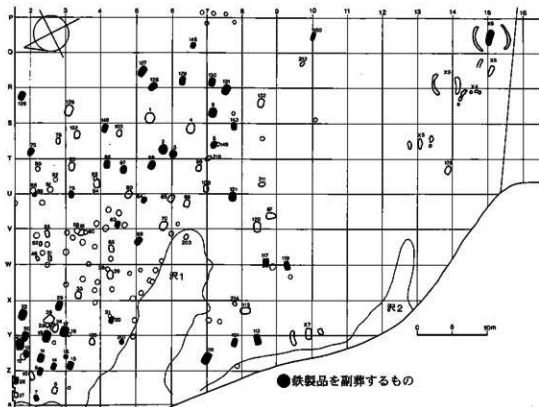
図Ⅶ-7 坑底の小ピット



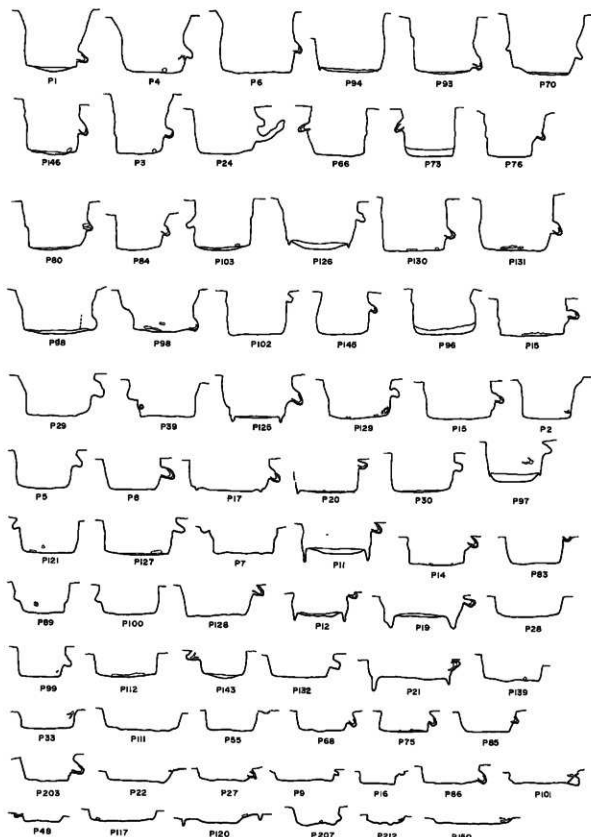
図Ⅶ-8 木樫痕



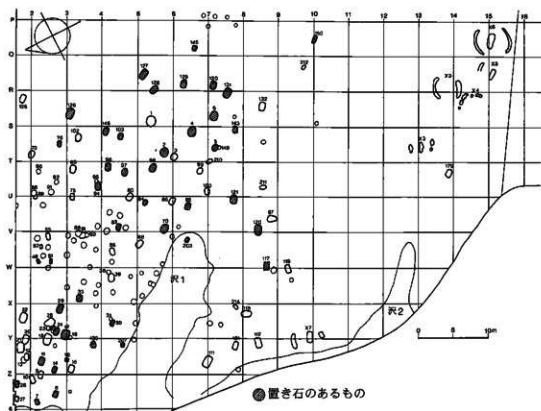
図Ⅷ-9 貼床



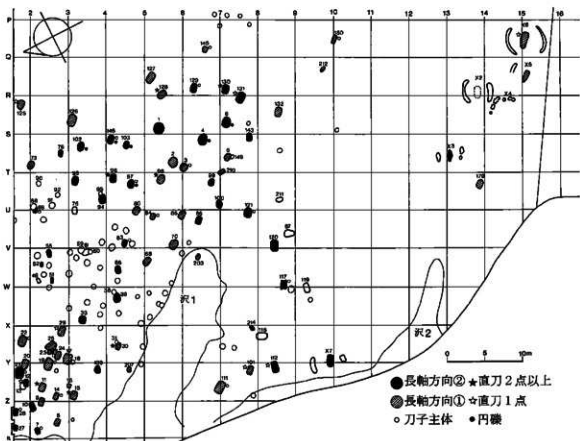
図Ⅷ-10 副葬品(鉄製品)



図Ⅷ-11 袋状ビットと木柵



図Ⅷ-12 副葬品(置き石)



図Ⅷ-13 長軸方向と副葬品

表Ⅷ-1 周溝のある墓(主体部)と土壌墓一覧

最大径の()は7層土層付近からの層名
形状ピットの()は土壌なし、層位は○

調査 番号	周溝の 形状	周溝の深さ		最大径	長短方向	周溝の 小ピットの 有無	形状 ピットの 有無	土 質			周溝の 形状	周溝の 層位	土 質	特 徴
		表層	底層					周溝部	周溝中	周溝底				
P-1	丸塚のある 長方形	0.96	0.32	1.18(1.00)	N-30°-W	無	有			土層片、礫	無	混合土	北大塚	
P-2	*	0.88	0.28	1.19(0.85)	N-45°-W	有	無	鉄屑(1)	一筋土層		*	*	*	*
P-3	*	0.84	0.35	1.18(0.80)	N-35°-W	*	有	刀子(1)、礫(1)	土層片	土層片、礫	有	*	*	*
P-4	*	1.01	0.60	1.19(1.00)	N-30°-W	*	(無)	礫(2)	土層1部体		*	*	*	透葬?
P-5	*	0.92	0.32	0.73(0.60)	N-34°-W	*	*	土層片、刀子(1)	鉄屑(1)、礫	土層片、礫	無	*	*	*
P-6	*	1.23	0.80	1.18(1.00)	N-40°-W	*	有	鉄屑品、礫(2)	鉄屑品、礫	土層片、礫	有	*	*	*
P-7	*	1.14	0.64	0.90(0.80)	N-30°-W	*	(無)	刀子(2)、礫(2)			*	*	*	*
P-8	*	0.90	0.64	0.98(0.90)	N-45°-W	*	有	礫(2)			*	*	*	墓込め土あり
P-9	*	1.05	0.60	0.19(0.10)	N-45°-W	*	(無)	小刀子(1)、刀子(2)			無	*	*	黒褐色土?
P-10	*	1.30	0.79	0.12(0.10)	N-30°-W	無	無				*	*	*	
P-11	*	1.30	0.79	0.03(0.05)	N-44°-W	有(2)	有	鉄刀、礫(2)、小刀子(2) 汗付品、鉄屑品			有	*	混合土	北大塚
P-12	*	0.95	0.60	0.47(0.47)	N-40°-W	*	*	刀子(1)、刀子(2)			無	*	*	組み合わせ式本塚
P-14	*	1.04	0.41	0.02(0.05)	N-50°-W	*	*	刀子(2)、鉄屑(1) 汗付品(2)			有	*	*	*
P-15	長方形	1.25	1.00	0.71(0.71)	N-35°-W	*	*	刀子(2)、小刀子(2) 汗付品(2)	土層片		無	*	*	古墳墓 組み合わせ式本塚
P-16	*	0.83	0.48	0.25(0.20)	N-35°-W	*	*	汗付品、鉄屑(1) 汗付品(1)、土層片、礫(1)			有	*	*	小人の墓 組み合わせ式本塚
P-17	丸塚のある 長方形	1.30	0.80	0.43(0.40)	N-50°-W	有	*	土層片、汗付 品(2)			*	*	混合土	北大塚
P-18	*	1.40	0.80	0.41(0.41)	N-45°-W	有(2)	*	刀子(2)			無	*	*	*
P-20	*	1.15	0.68	0.82(0.80)	N-44°-W	*	*	鉄屑品			*	*	*	墓込め土あり
P-21	*	1.50	1.00	0.38(0.30)	N-40°-W	*	*	刀子(1)、土層片	土層片		*	*	黒褐色土?	墓込め土あり
P-22	*	1.14	0.82	0.58(0.50)	N-45°-W	有	*	刀子(2)			*	*	*	
P-23	丸塚のある 正方形	0.85	0.50	0.14(0.14)	N-50°-W	無	無	一筋土層、瓦礫			*	*	黒褐色土	小人の墓?
P-24	丸塚のある 長方形	1.04	0.64	0.81(0.81)	N-40°-W	有	(無)	礫(2)	土層片、鉄屑品		有	*	混合土	北大塚
P-25	*	1.54	0.68	0.05(0.05)	N-15°-W	無	無				無	*	黒褐色土	
P-27	*	0.91	0.72	0.23(0.20)	N-40°-W	有	有				*	*	*	北大塚
P-28	*	1.18	0.70	0.40(0.40)	N-45°-W	*	無	刀子(2)、礫(2)	砂状		有	*	混合土	透葬あり
P-29	*	1.54	0.87	0.80(0.77)	N-50°-W	*	(無)	漢刀(1)、礫(2)	鉄屑品		*	*	*	北大塚
P-30	*	1.01	0.37	0.74(0.61)	N-30°-W	*	有	漢刀(2)、刀子(2) 鉄屑	鉄屑品		*	*	*	*
P-32	*	0.96	0.60	0.34(0.34)	N-42°-W	*	*	鉄屑(1)	一筋土層		無	*	黒褐色土	*
P-33	*	1.02	0.65	0.72(0.70)	N-40°-W	*	(無)	礫(2)	土層1部体	土層片、礫	有	*	混合土	*
P-40	*	0.84	0.30	0.15(0.10)	N-40°-W	*	有	礫(1)			*	*	黒褐色土	小人の墓?
P-51	*	0.80	0.42	0.17(0.17)	N-40°-W	*	無	礫(2)			*	*	*	小人の墓?
P-52	*	0.52	0.30	0.15(0.10)	N-55°-W	*	*				無	*	*	小人の墓?
P-53	*	0.81	0.35	0.10(0.10)	N-71°-W	*	有				*	*	*	小人の墓?
P-61	半 圓 形	1.16	0.68	0.90(0.80)	N-S	無	無				*	*	*	
P-64	横 河 形	0.95	0.50	0.95(0.80)	N-70°-W	有	有		土層片、石礫		有	混合土	北大塚	
P-68	丸塚のある 長方形	0.81	0.40	0.40(0.30)	N-45°-W	*	*	小刀子(1)	土層片、石礫、瓦		*	*	黒褐色土	*
P-72	*	0.80	0.35	1.15(1.00)	N-40°-W	*	*	礫(1)			有	*	混合土	透葬?
P-73	横 河 形	1.40	0.70	0.90(0.80)	N-40°-W	*	*	鉄屑(1)	刀子(1)、鉄屑品		無	*	*	透葬?
P-74	丸塚のある 長方形	0.80	0.50	0.38(0.30)	N-40°-W	*	*	刀子(1)、漢刀(1) 汗付品(1)、瓦(1)			*	*	*	墓込め土あり
P-76	横 河 形	0.81	0.50	0.90(0.80)	N-40°-W	*	*	礫(1)			有	*	*	透葬?
P-80	丸塚のある 長方形	0.84	0.41	0.81(0.81)	N-40°-W	*	有(無)				無	*	*	*
P-82	*	0.80	0.71	0.30(0.30)	N-45°-W	有	有	刀子(1)、礫(1) 鉄屑(1)			有	*	*	透葬?
P-84	*	0.83	0.38	0.89(0.80)	N-35°-W	*	*	刀子(1)、礫(1)			*	*	*	*
P-85	長 方 形	0.78	0.40	0.40(0.40)	N-30°-W	*	*		鉄屑品		無	*	*	透葬?

西島松 5 遺跡 平成12年度

遺跡 番号	堀成の 平面形	堀成の規模 長短	堀成 深	堀成 延長	掘削 方向	掘削 の 有無	掘削 の 有無	遺 物				土質	備 考	
								磁 器 類	土 中	埋 入 物	土 質			
P38	丸地のある 方形	1.84	0.86	0.28(0.30)	N-5°-W	*	*	磁(1)	土器片		有	*	黒褐色土	遺跡?
P37	半 円 形	1.22	0.79	0.18(0.18)	N-32°-W	無	無				無	*		
P35	丸地のある 方形	0.78	0.91	0.81(0.81)	N-42°-W	有	(前)	刀子(1)	土器1個体		*	黒褐色土	北大正	
P39	長 方 形	1.12	0.82	1.07(1.40)	N-42°-W	無	有				*	*	*	遺跡?
P34	*	1.22	0.84	1.16(1.16)	N-42°-W	*	無		鉄線(1), 釣針(1) 鉄製品, 磁器(1)		有	*	*	組み合わせ式本跡
P36	丸地のある 方形	1.14	0.88	0.86(0.86)	N-40°-W	有	(前)	磁刀(1) 刀子(1), 磁(1)	鉄線(1)		*	*	*	遺跡?
P37	半 円 形	1.00	0.75	0.82(0.82)	N-4°-W	*	(前)	刀子(1), 磁(1)	土器1個体 鉄線		*	*	*	遺跡?
P38	丸地のある 方形	1.15	0.82	0.84(0.84)	N-42°-W	*	有	磁刀(1), 小刀(1) 磁(1)	土器片(1), 磁(1)		*	*	*	遺跡?
P39	*	0.78	0.86	0.58(0.58)	N-5°-W	*	(前)		土器片, 石器	土器片磁器	無	*	*	*
P100	*	0.88	0.68	0.87(0.87)	N-42°-W	*	*				*	*	黒褐色土	*
P101	長 方 形	1.14	0.72	0.28(0.28)	N-32°-W	*	*	ワラビテ字(1) 刀子(1), 土器(1)	磁器, 鉄片 鉄製品		*	*	*	遺文
P102	丸地のある 方形	0.82	0.73	0.85(0.85)	N-4°-W	無	*		土器1個体 釣針, 鉄線		*	*	黒褐色土	北大正
P103	半 円 形	1.10	0.72	0.88(0.88)	N-4°-W	*	有		刀子(1), 磁(1)		有	*	*	*
P111	長 方 形	1.26	0.87	0.28(0.28)	N-32°-W	*	無	刀子(1)			無	*	*	遺文
P112	*	1.40	0.78	0.40(0.40)	N-7°-W	*	*	ワラビテ字(1) 石器(1), 土(1)			*	*	黒褐色土	*
P113	丸地のある 方形	0.70	0.84	0.14(0.14)	N-22°-E	*	*				*	*	*	*
P114	長 方 形	1.20	0.84	0.28(0.28)	N-7°-W	*	*	刀子(1)			*	黒褐色土	*	組み合わせ式本跡
P115	縦長(1)長 方形	1.20	0.84	0.22(0.22)	W-E	*	*	磁(1)			*	黒褐色土	*	遺文?
P120	丸地のある 方形	0.70	0.80	0.18(0.18)	N-42°-W	*	*	磁(1)	刀子(1), 釣針(1)		有	黒褐色土	北大正	
P121	*	2.84	0.75	0.64(0.64)	N-47°-W	有	(前)	磁(1), 刀子(1)	磁(1), 刀子(1)		*	*	*	北大正 遺跡?
P122	*	1.06	0.81	0.89(0.89)	N-37°-W	有	(前)	小刀(1), 刀子 鉄製品			無	*	*	*
P126	長 方 形	1.18	0.73	0.87(0.87)	N-4°-W	無	(前)	土器, 片磁(1)			有	*	*	*
P127	丸地のある 方形	1.20	0.78	0.64(0.64)	N-32°-W	有	*	鉄線(1), 磁(1)			*	*	*	*
P128	*	1.14	0.75	0.60(0.60)	N-6°-W	*	有	磁刀(1), 鉄片(1) 磁(1)			*	*	*	*
P129	*	1.24	0.72	0.71(0.71)	N-4°-W	*	(前)	刀子(1), 磁(1)	土器1個体		*	*	*	*
P130	縦 長 形	1.12	0.82	1.02(1.40)	N-42°-W	*	有	磁刀(1), 刀子(1) 磁(1)			*	*	*	*
P131	丸地のある 方形	1.18	0.84	1.05(1.05)	N-47°-W	無	*	磁刀(1), 小刀(1) 磁(1)			*	*	*	遺跡?
P132	*	1.24	0.82	0.44(0.44)	N-42°-W	有	(前)		土器1個体		無	*	黒褐色土	*
P133	*	1.25	0.74	0.54(0.45)	N-7°-W	*	無	磁(1)	磁(1)		有	*	*	*
P143	*	0.78	0.82	0.55(0.40)	N-4°-W	*	有	鉄片(1), 磁(1)	鉄線(1), 刀子(1) 土器片		*	*	黒褐色土	*
P145	*	0.80	0.80	0.83(0.82)	N-4°-W	*	*	刀子(1), 磁(1)			*	*	*	*
P146	*	0.80	0.54	1.02(1.40)	N-42°-W	*	*	刀子(1), 鉄線(1) 磁(1)	一握土器 石器		*	*	*	*
P150	縦長(1)長 方形	1.40	0.82	0.12(0.12)	N-30°-W	無	無	刀子(1), 磁(1)	土器片		*	黒褐色土	遺文?	
P176	丸地のある 長 方 形	0.79	0.75	0.10(0.10)	N-42°-W	有	*				無	黒褐色土	*	人骨遺存
P203	*	0.78	0.52	0.48(0.30)	N-42°-W	*	有		刀子(1), 磁(1)		有	*	*	北大正 小人の墓?
P207	*	0.74	0.38	0.34(0.18)	N-42°-W	*	(前)		刀子(1), 磁(1)		*	*	*	*
P210	縦長(1)長 方形	0.89	0.43	0.12(0.12)	N-E	無	無	つばみけナイフ			無	黒褐色土	遺文?	小人の墓?
P211	丸地のある 長 方 形	0.77	0.40	0.60(0.60)	N-E	*	*				*	黒褐色土	遺文?	小人の墓?
P212	*	0.84	0.42	0.18(0.18)	N-27°-W	*	*	棒			*	*	*	遺文 小人の墓?
P214	*	0.80	0.48	0.12(0.12)	W-E	*	*				*	*	*	遺文 小人の墓?
X2														遺文 残存のある墓
X3	長 方 形	1.09	0.88	0.28	N-47°-W	無	無				無	黒褐色土	残存のある墓の王中墓 小人の墓?	
X4														残存のある墓
X5	縦長(1)長 方形	1.23	0.83		N-32°-W	無	無				無	黒褐色土	残存のある墓の王中墓	
X6	*	2.08	0.84	0.14	N-38°-W	*	*	磁刀(1), 刀子(1)			*	*	*	*
X7	長 方 形	1.51	0.81	0.14	N-42°-W	*	*				*	黒褐色土	*	*

覆土である、ことを考慮すると、北大Ⅲ式期の土墳墓は沢1の南東側(混合土で、深い土墳墓)から北東側(混合土で、やや深い土墳墓)へ、そして沢1周辺(混合土で、浅い土墳墓→黒(暗)褐色土で、浅い土墳墓)から西側(黒褐色土で、浅い土墳墓)へ、というきわめて大まかな流れが考えられる。

(2) 図Ⅷ-13は長軸方向と鉄製品の組み合わせを图示したものである。この組み合わせを手懸りに土墳の変遷をもう少し検討してみることにする。長軸方向には二つの大きなまとまりがあることは前述したが、一応それらを①南南東グループ(図Ⅷ-13の●)、②南東東グループ(図Ⅷ-13の●)としておく。図からはこの二つのグループ中にいくつかのまとまりが見られる。②には(A)P96・76・102・146・103・97・95・93・(89)、(B)P130・131・143・6・4・1・129、(C)P12・10・7・27・28・21(北東側に広がる可能性がある)、①には(D)P98・2・3・85・70・68・84・80、(E)P11・19・23・26・24・17・15・8・9・20・21・29という小グループのまとまりが読み取れる。ところでこの小グループで二点以上の直刀が副葬されているのは②-(A)ではP96、②-(B)ではP130、①-(D)ではP98、①-(E)ではP11(P15は合葬墓と思われるので除外すると)、各小グループに一基ずつあり、また直刀が一点副葬されているのはP131・29・12・101・112・X6であるが、二点以上の鉄製品が副葬される土墳墓は沢1とその延長線の東側にのみ見られるものである。またこの小グループには刀子を副葬する土墳墓が1~3基(②-(A)はP97・146、②-(B)はP129、②-(C)はP7・21・27、①-(D)はP2・84、①-(E)はP129、そしてP111・117も刀子を副葬する)含まれている。鉄製品や土墳墓のまとまりから考えると、この小グループは家族墓と考えて良いのではないだろうか。とくに②-(A)はP96のまわりに土墳墓が作られているように、きわめて印象的な配置を見せている。ところでP4・6・97・102・103・146の覆土中からは、径5cm~8cm、表面ツルツルの安山岩の円礫が出土している。この円礫はかたち、大きさともに酷似するものである。そしてこの円礫は②-(A)と(B)のグループにしか見られない。P97・146には刀子が副葬されている。一般的に刀子が女性の副葬品とするならば、①-(A)と(B)は婚姻関係を有する親族グループと推測される。更に想像をたくましくするならばP96とP97、P130とP129、P98とP2、P11とP14、P12とP21、P101とP111、P112とP117は位置、長軸方向そして副葬品から夫婦の墓と考えることができないであろうか。ここでは各土墳墓間の関係をさらに細かく、具体的に検討することはできないが、前述の「大きな変遷」を重ね合わせると、②グループは(A)⇔(B)→(C)→沢頭周辺→P112・117→X7→X3→(X2)、①グループは(D)→(E)→(P30・207)→P102・111→X5→X6、という変遷が想定される。ただこれら小グループの他にもP125・128で二点以上の直刀が副葬されており、これらや他の土墳墓も含めてより具体的な再検討を要することは言うまでもない。一土墳墓数点の直刀から一土墳墓一直刀、さらに周溝のある墓へという変化は、一点とはいえそれまでとは違う兼手刀を所有できる被葬者、さらに小空間を占有できる被葬者は、多くの鉄製品を所有、副葬されているとはいえ、家族墓内に葬られる被葬者とは明らかにその立場、地位が変質していることを示している。

多くの鉄製品を副葬する家族の長を含めた家族墓(袋状ピット、墳底の小ピット、鉄製品や置き石を有し、屈葬という埋葬形態の、深く掘り込んだ土墳墓)から夫婦墓(兼手刀を一点副葬し、付属構築物などは形骸化した、屈葬という埋葬形態の、掘り込みの浅い土墳墓=P112とP117、P101とP111)へ、さらに周溝により小空間を墓域として区画、占有する首長(X7は小空間を意識しているが屈葬、X2~6は伸展葬、ともに杭状の木槨を作り、掘り込みの浅い主体部をもつ周溝のある墓)へ、という被葬者の集団内での位置、政治的な変質をこの「大きな変遷」に見ることができる。共存土器から家族墓は北大Ⅲ式期、夫婦墓、首長墓は接文前期に対応する。北海道における鉄製品はこれまで東北地方との関係から、交易によるもの、あるいは中央権力者からの下賜品という考え方が一般的であった。と

ころが多く鉄製品が出土した当遺跡の状況から考えると、これらにもう一つ、「何らかの戦利品」という考えを付け加えても良いのではなからうか。北大Ⅲ式期の副葬された多くの鉄製品は交易品や戦利品であり、P101・102・X6の鍔手刀や直刀は下賜品と考えておく。

6. 沢1の南東側と北東側の土壌墓にはさまれるように円形状の土壌が47基、P-7周辺にも同様の土壌が5基ままとって検出されている。時期を決定し得る遺物も出土せず、その用途・性格も含めてははっきりしなかったが、①土壌墓と重複しているものがあり、土壌墓に切られているもの(P12・18・31・149)や切っているもの(P38・61・88・95)もあり、②覆土は土壌墓と同じ混合土や黒(暗)褐色土とである、ことから土壌墓と併行する擦文時代の土壌として取り扱った。その用途・性格については、一定のまとまりをもつこと、土壌墓の時期に併行すること、を前提に考えると、③小人や土壌墓に葬られない人々の墓、④追葬時に遺存していた人骨などを改葬したもの、⑤その他の土壌、などが考えられる。土壌墓に小人のものが少ないことや当時鉄製品を副葬できる人々ばかりだったことは考えにくいこと、さらにP90・92墳底直上採取土壌の残存脂肪分析の結果などから見て、④の可能性も否定できないが、検出数から見て③の可能性が高い、と考えている。これに関連して沢1Ⅱ層上層出土の遺物集中(W-6周辺)との関係について若干触れておく。土壌墓、とくに深い土壌墓の覆土中と墳口付近からまとまった遺物が出土している。これらはその出土状況から見て、土壌墓で供献、埋葬儀礼を行っていたことを示している。それでは円形状の土壌(墓)に葬られた人々とそれに近い人々は埋葬儀礼は行われなかったのだろうか。恐らくそのような人々の共同の埋葬儀礼の場がこの沢1Ⅱ層上層の遺物集中地区だったのではないかと推測される。出土土器などの厳密な検討が必要であることは言うまでもないが、一つの可能性として指摘しておきたい。

7. 周溝のある墓の盛り土についても若干触れておく。周溝のある墓は墳底直上付近しか残存していなかったため、主体部の上の状況(盛り土)は、はっきりしない。擦文期の地表面が検出面から20cm~40cm上方とすると(沢地形周辺のⅡ層残存状態やP1~P6の覆土の推積状態から推測して)、土壌墓の木柵の高さが30cm~40cmであったとして、それらを考慮すると、主体部の木柵の高さは地表面からやや高くなる程度である。この上に埋め戻しの土や周溝の掘削土をのせたとしても、それ程高い盛り土であったとは考えにくい。また周溝のある墓は、小空間を区画することを目的とし(X7・3は小空間を意識し始めた時期のものであろう)、より高い墳丘を作る意識、目的は稀薄だったのではなからうか。次年度以降の調査結果や土量の検討などを踏えて、再検討が必要だろう。また所謂北海道式古墳との関係について判断する直接的な材料はなく、大きな課題としておく。

P3の墳底の小ピット出土の杭痕の放射性炭素年代分析や周溝のある墓周辺出土の須恵器片の編年などから、当墓域の形成時期は7世紀初頭前後から9世紀前後の約200年間が想定される。この間継続的に利用されていたのか、あるいは中断があったのかは明瞭ではないが、家族墓から首長墓へという過程で、鍔手刀を副葬するP101とP112の出現はきわめて重要な意味をもっていると思われる。家族墓から離れ、鍔手刀を一点副葬する行為は被葬者の社会的、政治的背景の変質を物語るっており、かつ所謂擦文土器を供伴する土壌墓の出現と重なることは、土壌墓の変化を含めて大きな転換点を示していると言えないだろうか。

西島松5遺跡という小範囲、しかも墓域全体が不明な時点で、なおかつ共伴土器や副葬品としての鉄製品の十分な吟味なしに、遺構のみで整理・検討してみた。調査者の思い込みが激しく、一面的で大雑把等々の批判は甘受するつもりである。それでもいろいろな事実が浮かび上がり、当時の人々の墓、あるいは死者に対する意識の変化とその背景を垣間見ることができたと考えている。今後ここで得られた資料をもとに、西島松5遺跡という小範囲にとどまらず、北海道の、そして日本全体で

の歴史的位置付けなどについて、大いに議論し、再検討する一資料となることを念願している。
(和泉田)

2. 遺物と遺構

1. 土器

遺構出土の主な遺物は北大Ⅲ式～按文前期の土壇墓に副葬されるⅦ群土器、縄文時代中期中葉の住居跡出土のⅢ群土器がある。包含層では調査区北西のキトウシュメンナイ川側の沢1から北大Ⅲ式土器が多く出土し、調査区南側では御殿山式を中心とした縄文時代後期後葉の土器が多く出土している。調査区南側で出土した土器は細かく割れたものが多く、出土点数に比べて復元可能な個体は非常に少ない。以下、時代毎に概説する。

縄文時代早期の土器は包含層から破片で出土しており、東銅路Ⅲ式～東銅路Ⅳ式にかけての時期のものが出土している。

縄文時代前期は前葉の縄文式、静内中野式に相当するものが包含層から出土している。胎土がもろく粉々に割れている破片が多かったため、復元個体はない。

縄文時代中期の土器は包含層の他に住居跡から出土した。住居跡から出土した土器のうち、時期のわかるものはH4、5、7で出土しており、天神山式が主体である。包含層からも天神山式が多く出土し、また一段階先行する萩ヶ岡1、2式も包含層からは多く出土していることから、中期前葉から後葉にかけての時期に集落が営まれたものと推測する。

縄文時代後期は前葉では余市式、白坂3式並行のもの、中葉では手稲、ホッケマ式に相当する破片、後葉では菅林式から御殿山式にかけての時期のものが出土している。御殿山式は包含層を中心に多量に出土したが、多くは細かく割れており、復元できた個体は少ない。

縄文時代晩期は晩期前葉の大洞BC式並行のものが出土している。後期後葉の御殿山式に後続するものと考えられ、遺跡は後期後葉から晩期前葉にかけて連続的に営まれたものと推測する。

続縄文時代の土器は後北C2D式が土壇から一括出土しているほか、包含層からも一定の量が出土している。

Ⅶ群土器は北大Ⅲ式が中心で、土壇墓や沢から良好な資料が出土した。土壇墓の袋状ピットからは特に残存状態のよいものが出土しているが、口縁部を欠くものや、胴部下半から底部のみが残存する個体が多く、意図的に口縁部から胴部上体を打ち欠いたものと考えられる。また、多くは煤や炭化物などが付着しており、火にかける調理に使用されたことが明らかである。しかし後述するように、土壇墓出土の土器は沢などの包含層から出土した土器と比較すると小型のものが多いため、日常的に使用されていた土器を副葬したものではなく、埋葬用として製作された小型の土器を埋納したものと推測する。つまり土器にみられる使用痕は埋葬に伴う儀礼的な行為によって形成されたもので、日常的な使用を示すものではないと考えられる。炭化物や煤が、割れ口に付着する資料が存在することからも、これらの使用痕が日常的な使用によるものではない可能性が高いといえるのではないだろうか。

2. 金属製品

金属製品は土壇墓に副葬品として埋納されていたもの他、土壇墓周辺の包含層から出土したものがあつ、合わせて256点出土した。今回報告した金属製品は遺構から出土したもののうち、(財)元興寺文化財研究所に保存処理作業を委託した約20点の遺物と、これらと同じ遺構から出土した金属製品で、直刀、藪手刀、小刀・刀子、鉄斧、鎌、鉄鏝などで、特に刀剣類は柄、刀装具類が残存するもの

が多い。また、布、樹皮、獣皮が付着するものも多い。

3. 土壌墓出土の北大Ⅲ式土器の大きさ

(1) はじめに

土壌墓から出土する北大Ⅲ式土器は小型のものが多く、特に袋状ビットから出土する土器は口径が15cm前後のきわめて小型のものが多く、一方、包含層から出土する北大Ⅲ式土器は口径が30cm前後のものが多い。本稿では「袋状ビット」「覆土」「包含層」から出土する北大Ⅲ式土器の容量の比較を行い、土壌墓から出土する土器の特殊性を指摘する。ただし、沢から出土した北大Ⅲ式土器は容量を計測可能な個体が少ないため、口径から容量を予測する回帰式を算出し、これに口径部破片の口径を代入して求めた値を分析に用いた。

(2) 口径から容量を予測する回帰式の作成

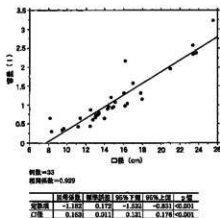
口径から容量を求める回帰式と回帰直線を図Ⅷ-14に示した。回帰式の作成に用いたデータは、遺構出土、包含層出土を問わず、容量を算出し得た全ての北大Ⅲ式土器である。回帰式は最小自乗法により算出した。理論的には定数項は0とするべきだが、定数項を0にとると回帰式全体の当てはまりが悪くなるのがわかったため、定数項を含めた回帰式を作成した。P値が1%以下であることから、回帰係数、定数項ともに有意であるといえる。

(3) 出土層位毎の容量の比較

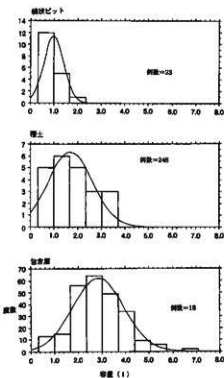
図Ⅷ-15は層位毎の容量のヒストグラムと、平均値を比較した分散分析表である。「袋状ビット」「覆土」「包含層」の順に容量が増加し、データの散らばりもこの順に大きくなる傾向が読みとれる。分散分析表からは、「袋状ビット」と「覆土」が5%、他は1%で棄却でき、一応、出土層位毎の土器の容量には有意な差があると判断する。

「袋状ビット」は土器の大きさが必然的に制約され、小さなばらつきを示す結果になったと考えられる。「覆土」では物理的な制約が少ないこと、袋状ビットから覆土内に転落した土器なども含まれることから「袋状ビット」よりも大きなばらつきを示す結果になったと考えられる。しかし、なお「包含層」よりばらつきが小さいことは土壌内に副葬する土器の大きさに一定のルールが存在したことを意味する。「包含層」では1リットル以下の小さな個体から7リットル近い大型の個体まで様々な容量のものが存在する。日常的に使用される土器は、用途に応じて様々な大きさに分化することが普通であり、「包含層」の容量分布は日常的に使用された土器のそれに近いと推測する。

以上から、墓壇内から出土する土器は大きさが限定され、特に袋状ビットから出土する土器はきわめて小型のものに限定されることから、儀礼用の特殊な土器であった可能性が高



図Ⅷ-14 口径から予測する土器の容量



図Ⅷ-15 層位別土器容量(推定)ヒストグラム

いと考える。

4. 北大Ⅲ式～縄文時代前期の土壌墓と土器の返還について

(1) はじめに

西島松5遺跡で出土した北大Ⅲ式期～縄文時代前期の土壌墓と土壌墓から出土した土器の返還について、土壌墓の形態的な返還をもとに推測し、それぞれの変化の過程を記述する。分析は以下の順序で行う。

- ① 土壌墓の形態的な特徴のうち、時間的な変化を反映すると考えられる特徴を抽出する。
- ② 出土遺物や土壌墓の形態から、先に分類した土壌墓の先後関係を推測する。
- ③ 土壌墓の返還段階毎に土器の特長を抽出し、土器の各属性がどのような時間的な変化をたどるかを記述する。
- ④ 最後に周辺遺跡も含めた当該期の墓制と土器の返還を示す。

(2) 土壌墓の分類

土壌墓は平面形、覆土の推積状況、長深比(長径/深さ)から3つに分類できる。(図Ⅶ-16)。

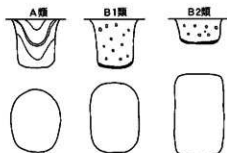
A類：平面形が楕円形で覆土の中央がくぼむもの。

B1類：平面形が隅丸長方形、覆土はバミスを含む均質なもので、長深比が2.5以下のもの。

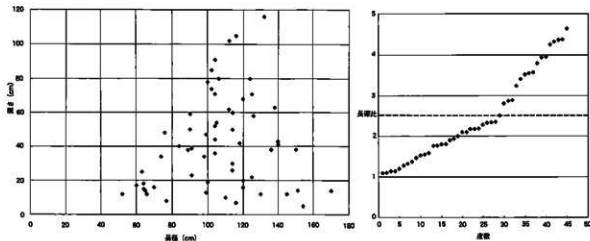
B2類：平面形が隅丸長方形、覆土はバミスを含む均質なもので、長深比が2.5以上のもの。B1類と比較し、墓壁が角張り、直径が長い。

図Ⅶ-17左のグラフは墓壁の直径と深さの散布図で、ここから直径と深さの関係は直線的な関係ではないことがわかる。これは異なる長深比をもつ墓壁群が存在する可能性を意味しており、図Ⅶ-17右のグラフが示すように、2.5あたりまでは直線的に増加した長深比がこれを境に屈曲し、角度を増して再び直線的に増加することがわかる。このことから長深比2.5を境に墓壁群が2つに分類できると推測でき、これによりB1類とB2類を分類した。

さらにB2類の中には縄文時代前期のものが含ま



図Ⅶ-16 土壌墓分類模式図



図Ⅶ-17 墓壁の規模及び形態的特徴

れており、これらは袋状ピットや四隅の柱穴状小ピットをもたず、また、出土する土器も擦文式の範疇でとらえられることから、他の北大Ⅲ式期の土壌とは区別し、B2-b類とした。それぞれの特徴はB2類の墓壇の特徴に加えて以下の特徴を持つ。

B2-a類：袋状ピットや柱穴状ピットをもつもの

B2-b類：袋状ピットや柱穴状ピットをもたず、擦文土器が供伴するもの

(3) 土壌墓の分布

分類毎の分布をみると、A類は調査区北東を中心に分布し、B1類はA類より南東に位置する一群と、B2-a類とほぼ重なる位置に分布する一群とに分かれる。B2-a類は調査区北西隅に分布し、さらに調査範囲を超えて北西側に広がりそうである。B2-b類は沢の南側に分布し、他の土壌墓とは沢を挟んで反対側に位置する。沢の南側には周溝のある墓が分布することから、擦文時代前期の墓壇は沢の南側に移動したものと考えられる。

(4) 土壌墓群の先後関係

土壌墓群のうち、B2-b類は擦文時代前期に位置づけられ、北大Ⅲ式期の他の土壌墓群より新しいことが判明している。B2-b類の墓壇形態の特徴をまとめる

① 浅いこと(長深比2.5以上)

② 直径が長いこと

③ 墓壇の角が角張り、長方形に近い形状をとること

などがあげられる。以上の特徴は周溝のある墓の主体部の特徴とも共通し、周溝のある墓では、主体部の深さが土壌墓よりさらに浅くなり(削平により主体部が消失したものが多い)、直径は拡大する。このような変化は縄文時代からの伝統を引く屈葬から擦文時代以降主流となる伸葬への変化ととらえることができる。一方、古い時期の土壌墓の特徴は石狩市ワッカオイ地点で検出された後北C2D式期の土壌墓に求めることができ

① 深いこと

② 直径が短いこと

③ 墓壇の角が丸く、隅丸長方形から楕円形に近い形状をとること

などがあげられる。

すなわち、墓壇の深さは深いものから浅いものへ、直径は短いものから長いものへ、形状は円形に近いものから楕円形、隅丸長方形を経て長方形へと変化するものと考えられる。

これを先述の土壌墓の分類に当てはめると、A類が最も古い特徴を持ち、以下、B1類→B2-a類→B2-b類の順に変遷すると考えられる。以下ではこの変遷案に沿って土壌墓出土の土器の変遷について記述する。

(5) 土器の属性の変化と土壌墓群との関係

図Ⅶ-19は上で仮定した土壌墓の変遷案に従って土器を並べたものである。これに基づき時間的な変化を示すと考えられる属性を抽出し、土器の変換過程について述べたい。

時間的な変化を示すと考えられる土器の属性は

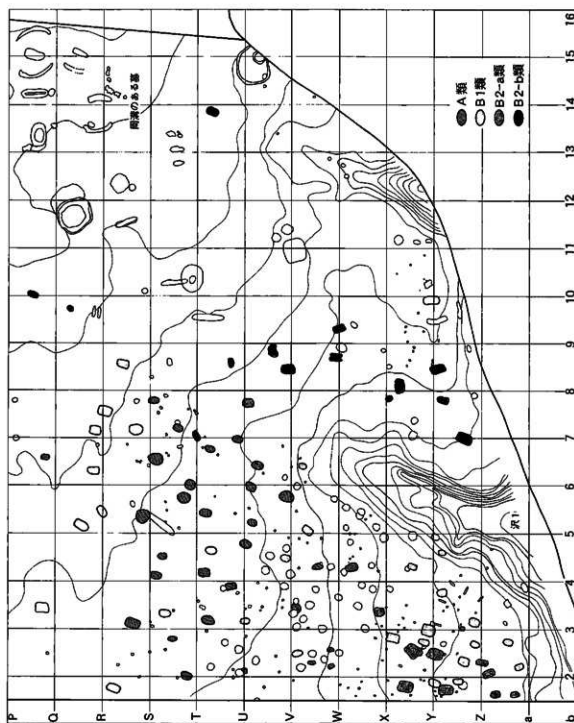
① 口縁端部の形状

② 胴部と頸部の境界

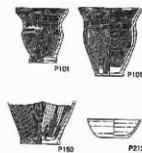
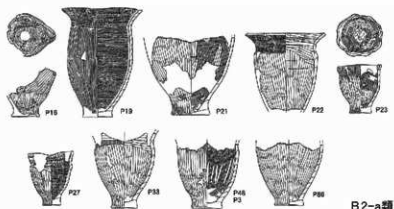
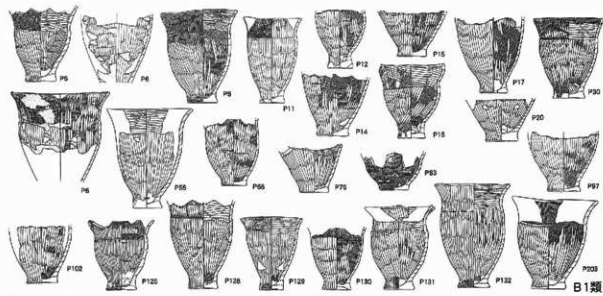
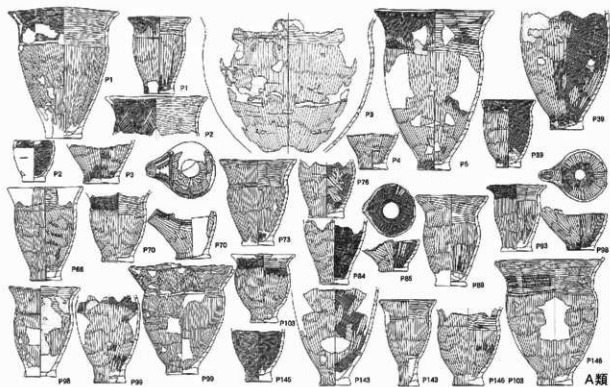
③ 底部の形状

④ ハケメの残存状態と、ミガキの密度

の4点で、予想されるそれぞれの属性の変化を図Ⅶ-20に示した。以下、各属性の変遷と土壌墓群と



図一18 北近江式期～埴文前期の土壌分布図



図Ⅷ-19 土壌基出土土器

の対応関係を示し、土壌墓出土の土器の変遷を考える。

口縁端部の形状は丸みをもつものと面取りを施すものに分けられ、A類出土の土器のほとんどは丸みをもつもので、B1類出土の土器では、丸みをもつものと面取りを施すものが混在し、B2-a類、B2-b類出土の土器では面取りを施すものが主体となることから、丸みをもつものから面取りを施すものに変遷すると考えられる。

また、蘭島遺跡B地点では口唇部を上方向につまみ上げる手法が用いられる土器(41-7 A炉址)が出土しており、いわゆる捺文式土器の口唇部に用いられることの多い手法であることから、より新しい時期の特徴であろう。

胴部と頸部の境界は、境界が不明瞭のもの、沈線や連続する刺突で区画するもの、段を有するものに分けられ、A類出土の土器は境界が不明瞭なものが主体、B1類出土の土器は境界が不明瞭なもの、沈線や連続する刺突で区画するもの、段を有するものが混在し、B2-a類、B2-b類出土の土器では段を有するものが主体を占める。したがって、胴部と頸部の境界が不明瞭なものから、段などで明瞭に区画するものに変遷すると考えられる。

B2-a類、B2-b類出土の土器ではハケメやミガキなどの調整も胴部と頸部では別々に行っているものが多く、成形・調整技法においても頸部と胴部の境界を意識しているといえる。

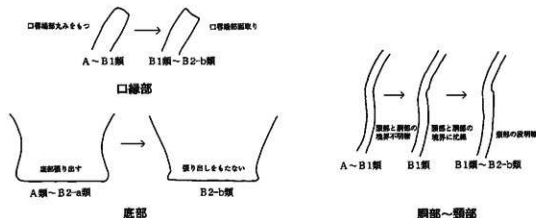
底部の形状は、底部外面が外へ張り出すものと、張り出しをもちたず底部から直線的に立ち上がるものに分けられる。北大Ⅲ式に位置づけられるA類～B2-a類出土の土器ではほとんど底部外面が外へ張り出すもので、いわゆる捺文式に位置づけられるB2-b類出土の土器では張り出しをもちたず底部から直線的に立ち上がるものが主体となることから、底部外面が外へ張り出すものは北大Ⅲ式、張り出しをもちたず底部から直線的に立ち上がるものは捺文式の特徴であると考えられる。

ハケメの残存状態と、ミガキの密度は漸移的に変化し、個体差も大きいことから段階的に記述することは難しいが、A類出土の土器ではハケメが内外面ミガキ消され、B1類出土の土器では内外面とも磨かれるものの内面ではハケメが残り、B2-a類出土の土器では内面のミガキの省略され、ハケメが5割以上残り、B2-b類出土の土器ではミガキが施されず、全面にハケメが残るものが多い傾向がある。

以上の属性毎の変遷をまとめて西島松5遺跡土壌墓出土の土器を以下の四段階に区分する。

1段階：口縁端部は丸みをもち、頸部と胴部の境界が不明瞭で、内外面ともよく磨かれハケメが残らないもの

2段階：口縁端部に面取りを施し、胴部と頸部の境界には沈線又は緩やかな段を有し、内外面とも全



図Ⅷ-20 各属性の変化と墓域群との関係

面的に磨かれるが、内面の一部にハケメが残るもの
3段階：口縁端部に面取りを施し、胴部と頸部の境界は明瞭な段を有し、内面のミガキが大幅に省略されハケメが残るもの

4段階：B2-b類出土の土器で石附編年0に相当するもの

以上の変遷段階は、縄文時代的な特徴をもつ土器が本州北部の土器との共通性を高め、擦文化する過程と理解したい。また、土器の変遷は、土壌墓の変遷段階とも矛盾しない結果となっており、前節で推測した土壌墓の変遷がおおむね正しいことの傍証になると考える。

(6) 北大Ⅲ式期～擦文前期の墓制と土器の変化

図Ⅷ-21は土壌墓の変遷案と土器の変遷案をまとめ、さらに周辺の同時期の遺跡を時間軸に沿って並べたものである。

B2-a類の土壌墓は、P19やP22などで擦文前期の土器が出土していることから、北大Ⅲ式期に収まらず、擦文前期の段階まで存続したと考えられる。すなわち、袋状ピットや柱穴状小ピットをもつ土壌墓は擦文前期まで存続し、その後B2-b類の土壌墓や周溝のある墓へと移り変わったものと考えられる。

(7) まとめ

以上、土壌墓の変遷と土壌墓から出土する土器の変遷を推測してきた。また、

- ① 西島松5遺跡の土壌墓と出土した土器は縄文時代的な要素を次第に減じ、徐々に擦文時代的な要素を増すという方向性で変化する
- ② 北大Ⅲ式期から擦文前期にかけて、土器と墓制の変化が必ずしも一致しないという現象を確認した。墓制や土器の変化が漸移的に推移すること、擦文化する時期にずれが生じることは、このような変化が北大Ⅲ式期～擦文前期における北海道の人間社会内部で進行したことを意味するものとする。

北大Ⅲ式期～擦文前期には、本州中央部に成立した律令国家が支配領域の拡大を図ろうとする一方で、列島の周辺部ではこれに対抗する動きも活発になる。西島松5遺跡でみられる墓制と土器の変遷は、北海道の人間集団が東北部の人間集団と連動し、こうした動きの中に加わっていく過程を示しているものと理解したい。

(石井淳平)

年代	土器型式	土壌墓の変遷	土器の変遷	該当遺跡
7世紀	北大Ⅲ式			ウサクマイA ユカンゴシB7 天内山 鹿島
		A類	1段階	
	北大Ⅲ式 [擦文早期]	B1類	2段階	
		B2-a類	3段階	
8世紀		B2-b類	4段階	ウサクマイA
	擦文前期	周溝のある墓 北海道式穴塚		

図Ⅷ-21 北大Ⅲ式土器及び土壌墓の変遷概念図

まとめ

平成12年度調査で発見された遺構は、住居跡9軒、周溝のある墓6基、土壇墓89基、土壇129基、Tピット8基、焼土56ヶ所、小ピット1,154個、その他に沢2ヶ所などである。このうち擦文時代の遺構は周溝のある墓6基、土壇墓84基、土壇70基、小ピット141個、統縄文時代の遺構は土壇墓4基、縄文時代の遺構は住居跡9軒、土壇墓1基、土壇41基、Tピット、焼土、小ピット1,013個、である。縄文時代の住居跡は同中期のもの7軒、後期のもの1軒、土壇では同中期のもの8基、後期のもの10基で、他の遺構は明確な時期を確定できなかった。

擦文時代～統縄文時代の遺構は調査区の北側、柏木川の支流キトウシユメンナイ川に面する沢1周辺に集中している。とくに北大Ⅲ式土器と擦文前期の土器を伴う土壇墓と周溝のある墓は沢1周辺から沢2にかけての一带に分布し、墓域を形成している。土壇墓は袋状ピット、壙底の小ピット、鉄製品や置き石の副葬品を有する所謂「ウサクマイ葬法」と呼称される北大Ⅲ式期の埋葬形態の要素を持つものである。しかしながら同時期の土壇墓にすべて上記の要素を構成している訳ではなく、そのいくつかを持つものが多々見られる。今回の調査では北大Ⅲ式期から擦文前期にかけての土壇墓から周溝のある墓へと移行する、その過程を明瞭に認識される好資料を提出しており、また鉄製品の多さも特徴すべきもので、今後の研究にとって貴重かつ重要な意味をもっていると言えるだろう。

縄文時代の遺構は、擦文時代の遺構周辺から南側に広く分布し、次年度以降の調査区に広がっている様である。

遺物は、出土総数276,706点で、この内訳は土器201,295点、石器など75,155点、鉄製品など260点である。土器は縄文時代早期から擦文時代までのものが出土しているが、中でも縄文時代中期、後期、擦文時代の土器が多く、中期では秋ヶ岡1・2式土器、後期では御殿山式土器、擦文時代では北大Ⅲ式土器の多さが目に付く。石器などでは石鏃、石槍、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、たたき石、石皿、砥石などが出土しているが、フレイク・チップや礫・礫片が約95%を占めている。定型的な石器では石鏃、石錐、スクレイパー、すり石、たたき石が多く、石材では剥片石器では黒曜石、礫石器では安山岩が多い。この他に土製品、石製品も出土しており、土製品では垂飾、耳環、石製品では垂飾、異形石器、石棒片などが出土している。またガラス玉や銅製耳環も出土している。鉄製品は直刀(釵手刀2点)、小刀、刀子、鉄鏃、鉄斧、鉄錐、釣針、鉄環、鐮子などが出土している。これらは包含層からも若干出土しているが、ほとんどが擦文時代の土壇墓や周溝のある墓に副葬されていたものである。

本報告書では、放射性炭素年代測定、残存脂肪分析、人骨および人歯の鑑定、出土動物遺存、木材の樹種同定、炭化植物種子同定、須恵器の胎土分析、銅製品の蛍光X線分析をそれぞれ株式会社地球科学、中野益男氏・柳ズコーシャ、乗安整而氏・松村博文氏、高橋理氏・太田夕佳氏、バリノ・サーヴェイ株式会社、吉崎昌一氏・椿坂恭代氏、三辻利一氏、小笠原正明氏に依頼し、その分析結果の報告をいただき、掲載することができた。放射性炭素年代測定では、P3の壙底の小ピット出土の杭片で1340±40という結果が得られ、残存脂肪分析では、P90・92の壙底直上の土壇からの残存脂肪酸などから「ヒトの骨のみを埋葬したことに関わる遺跡試料の脂肪やヒトの骨油と類似していること」が判明している。また遺存人骨と人歯では、P179の人骨について、残存する歯の分析により、壮年男性と推定され、被葬者の帰属集団はアイヌの系譜である可能性を示唆されている。なお「Ⅶ章の4」は平成13年度フローテーション処理によって得られた土壇墓壙底直上付近の土壇中検出人歯の鑑定結果である。動物遺存体同定ではニホンジカやヒグマ、またサケ科魚類も含まれていることが明らかとなっており、W-6周

辺(沢1Ⅱ層土層の遺物集中地区)で検出された焼土中の骨片から数点のイノシシが認められたという。イノシシを使う儀礼の存在した可能性を示唆している。なお「Ⅶ章の6」は平成13年度フローテーション処理された土壌中検出の動物遺存体資料の同定結果である。樹種同定では、P3の墳底の小ピットに残存していた枕片がヤマグワで、他遺跡でも枕材などに利用されているものである、としている。炭化植物種子同定では、袋状ピット内土壌からニワトコ属種子の破片が1点検出されている。この1点だけでは土器内に植物性のものが入れられていたかどうかは判断しがたいが、多量の鉄製品の出土は、栽培植物品種の大量流入と機を一としたものであり「縄文文化末から擦文文化初頭にみられるという北大式土器で代表されるステージは、北海道古代史上の特殊な画期として別建てで認識可能なのではないだろうか」という見解は示唆に富む、貴重な提言と受けとめておきたい。また須恵器の胎土分析では、「秋田城周辺から、同時にこの遺跡へ持ち込まれた須恵器である可能性が高い。」という結果が得られており、当遺跡周辺を生活基盤としていた人々の社会的、政治的背景を考えるうえで重要な意味を示しているであろう。銅製品の蛍光X線分析では、北方地方との関係を暗示する結果がうかがえるという御教示を得、東北地方のみならず、他地域との交流の広さを物語る貴重な分析結果と言えるだろう。なお鉄製品に関連する種々の分析・鑑定結果は次回刊行の報告書に掲載予定である。それらを含めて改めて当遺跡の性格、歴史的な位置付けなどについて検討していきたい。

さて、「成果と問題点」や他の箇所では調査者間にやや相異なる見解が見られるかも知れない。たとえば、沢1におけるⅦ群土器の出土状態に対するその性格などについて、また「成果と問題点」の項での土壌墓の類型や変遷についてである。これらは遺構のみによるものと土器を主体とする検討方法の相異や調査者それぞれの遺跡・遺物に対する認識の違いなどにより生じたものであり、現時点では調査者各自の見解を尊重し、そのまま掲載することとした。調査は次年度以降も継続されることであり、今後資料の蓄積により、これらの相違点を再検討し、議論を深めていきたいと考えている。

最後に鉄製品の保存処理について記しておく。平成12年度調査で256点もの鉄製品が出土した。当センターでの保存処理能力を越えた状態となり、また複雑かつ貴重な鉄製品も含まれていることから、一部(11遺構20点)を保存処理専門機関に委託した。これらの保存処理には約2ヵ年を要するため、本報告書では委託分の保存処理前の写真、実測と当センターでの保存処理終了分の写真、実測およびX線写真を掲載するにとどまった。大半は現在保存処理中であり、平成14年度中にそれを終え、報告書の刊行を予定している。

平成12年度調査では、北大Ⅲ式期の土壌墓や周溝のある墓の発見、多量の鉄製品の出土、また縄文時代の遺構・遺物など、予想を超える発見は、調査者の力量をはるかに超えるものであった。発掘調査や整理期間において、同僚諸氏、多くの専門研究者の方々に多大の御指導、御助力をいただいた。このような方々からの報告書となったことはきわめて遺憾なことであり、諸事情があったとはいえ担当者の方々の力量不足故であり、深く反省し、お詫びする次第である。西島松5遺跡の発掘調査は今後も続く予定である。資料の蓄積をもとに議論と検討を重ね、擦文時代などの時代区分を含めて、政治的、社会的、文化的背景を探り、当時の人々の生活、意識、そして他地方との関係等々について認識をより深めていただきたい、と願っている。

(和泉田)

引用・参考文献

- 阿部義平 1999 『蝦夷と倭人』シリーズ 日本のなかの考古学 青木書店
- 石狩町教育委員会 1975 『wakkaoi』石狩・八幡町遺跡ワッカオイ地点緊急発掘調査報告書
- ” 1976 『wakkaoi II』
- 石附喜三男 1986 『アイヌ文化の源流』みやま書房
- ウサクマイ遺跡研究会編 1975 『鳥糞舞』雄山閣
- 宇部則保 1988 「丹後平古墳群」『月刊文化財』昭和63年2月号
- 恵庭市教育委員会 1974 『上島松遺跡』
- ” 1966 『恵庭遺跡』
- 江別市教育委員会 1981 『元江別遺跡群』
- ” 1982 『萩ヶ岡遺跡』江別市文化財調査報告書IV
- 小樽市教育委員会 1991 『蘭島餅屋沢遺跡』
- ” 1992 『蘭島遺跡D地点』
- 大沼忠春 1989 「北海道の文化」『古代史復元』9 講談社
- 河野広道 1934 「北海道の古墳様墳墓に就いて」『考古学雑誌』24-2
- 後藤寿一 1932 「古墳の発掘について」『蝦夷往来』第8号
- 後藤寿一・曾根原武保 1934 「胆振國千歳郡恵庭村の遺跡について」『考古学雑誌』24-2
- 曾根原武保・天野哲也 1992 「曾根原武保ノート」『北海道考古学』28輯
- 田才雅彦 1992 「統縄文時代後北期から擦文時代初頭の土墳墓について」櫻井清彦先生古稀記念論文集『二十一世紀への考古学』雄山閣
- 千歳市教育委員会 1979 「ウサクマイ遺跡群とその周辺における考古学的調査」千歳市文化財調査報告書IV
- 辻 秀人 1996 「蝦夷と呼ばれた社会—東北北部社会の形成と交流—」『古代王権と交流』(1) 古代蝦夷の世界と交流
- 七飯町教育委員会 2000 『国立療養所萬遺跡』
- 日本考古学協会編 1994 『北日本の考古学—南と北の地域性』吉川弘文館
- 日本考古学協会1999年度鋼路大会実行委員会 1999 『シンポジウム 海峡と北の考古学—文化の接点を探る—』
- 野村 崇 2000 「北海道式古墳」『大塚初重先生頌寿記念考古学論文集』東京堂出版
- 八戸市教育委員会 1991 『丹後平古墳』八戸市埋蔵文化財調査報告書第44集
- 藤本英夫 1971 『北の墓』学生社
- 北海道考古学協会 1998 『1998年度研究大会(江別)要旨集 公開シンポジウム 北海道式古墳の系譜—擦文文化の墓制をめぐる—』
- 北海道文化財保護協会 1971 『柏木川』
- 森 秀之 1996 「擦文・オホーツク文化期の出土刀剣に関する覚書(1)—枝幸町目梨泊遺跡の資料によせて—」『紋別市立郷土博物館報告』第9号
- ” 1997 「擦文・オホーツク文化期の出土刀剣に関する覚書(2)—枝幸町目梨泊遺跡の資料によせて—」『紋別市立郷土博物館報告』第10号
- 八木光則編集 1993 『蕨手刀集成』文化財資料集 第1集
- 八木光則 1996 「蕨手刀の変遷と性格」坂詰秀一先生遷厩記念論文集『考古学の諸相』

- 横山英介 1998 「擦文時代の開始年代修正について」『考古学ジャーナル』292
" 1990 『擦文文化』 ニュー・サイエンス社
- 余市町教育委員会 1971 『天内山』
- ワッカオイ調査団 1977 『wakkaoiⅢ』
- 北海道埋蔵文化財センター 1993 『ユカンボシE5遺跡』北埋調報81
" 1998 『ユカンボシC15遺跡(1)』北埋調報128
" 1999 『ユカンボシE7遺跡』北埋調報132
" 2001 『ユカンボシC15遺跡(4)』北埋調報159

財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第178集

恵庭市西島松5遺跡

— 柏木川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

第2分冊

- V 縄文時代の遺構と遺物
- VI 包含層出土の遺物
- VII 自然科学的手法による分析結果
- VIII 成果と問題点
まとめ

平成14年8月9日発行

編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌085番地1

TEL (011) 386-3231

印刷 興國印刷株式会社

